

平成23年度

大妻女子大学人間関係学部

人間関係学科

人間福祉学科

F D 活動報告書



大妻女子大学人間関係学部 F D 委員会

平成23年度

大妻女子大学人間関係学部

人間関係学科

人間福祉学科

FD活動報告書

大妻女子大学人間関係学部FD委員会

平成 23 年度 FD 活動報告書の刊行にあたって

平成 23 年度の人間関係学部 FD 活動報告書をお届けします。人間関係学部は平成 15 年から本格的に FD 活動に取り組み、平成 23 年度で 8 年目になります。これまでに蓄積した活動である「FD 研修会活動」「授業内容についての検討」「学生による授業評価」「オフィスアワー」「各教員の FD 活動」をもとに、さらに新しい工夫を加えた活動成果を報告します。

今年度も様々な活動に取り組みましたが、特に印象的だったものは全教員が参加した FD 研修会です。FD 活動に取り組んだ当初から行われてきた「教員相互の授業参観」は、時間調整等が困難であるとの理由により、期待していた程の成果が上がらないことが判明したため中断し、平成 22 年度からは特定の科目を担当している複数の教員が発表し、学部の教員全員で検討する形式に変えました。昨年度の「人間関係総論」に続き、今年度は「基礎ゼミ」を担当している教員から 6 名が選ばれ、伊藤朋恭学長代行と栗原裕副学長の出席のもと、小谷敏 FD 委員会委員長の司会進行により発表と討議を行いました。この時の参加者の熱意には期待以上のものがあり、本学部における FD 活動の将来に明るい希望があることを強く感じました。この FD 研修会を原動力に、学部全体が良い方向に向かっていることを実感しました。

折しも、平成 24 年 3 月 26 日付けで、中央教育審議会大学分科会大学教育部会が「予測困難な時代において生涯学び続け、主体的に考える力を育成する大学へ（審議まとめ）」を発表しました。この中には大学の責務として「生涯学び続け、どんな環境でも『答えのない問題』に最善解を導くことができる能力を育むこと」が大学教育の目標であると明記されています。大妻女子大学ではさらに「関係的自立」を身につけることをうたっており、人間関係学部には学部創設以来の「共生」というミッションもあります。平成 24 年 4 月 24 日には大妻女子大学の 3 つのポリシーが改定され、私たちが FD 活動で目指す方向はかなり明らかになって参りました。改めて教育活動を振り返ると改善すべき点がいくつも指摘されます。

さらに、大妻女子大学は今年の 4 月に新たに荻上紘一学長を迎えました。「大学は私塾の集まりではなく、大学が責任をもって組織的に教育する場である」と学長も明言しております。FD 活動とは「教員が授業内容・方法を改善し向上させるための組織的取組」と言われております。平成 26 年には 2 回目の第三者評価を受ける予定です。年を増すごとに教育内容を充実させ、来年度は今回の報告書に書かれている内容よりもさらに良い報告ができるよう、教職員の総力をあげて努力したいと思います。

人間関係学部長 町田章一

目 次

平成 23 年度 FD 活動報告書の刊行にあたって (町田)

I	平成 23 年度人間関係学部 FD 活動について (小谷 敏)	1
II-1	授業に関するアンケート (前期・後期) (古田 雅明)	6
II-2	授業アンケートへの回答	62
	(1) 前期授業アンケート結果への教員の主な回答 (小谷 敏)	62
	(2) 後期授業アンケート結果への教員の主な回答 (小谷 敏)	67
	(3) まとめ	72
III	学科専攻による平成 23 年度 FD 活動に関する取り組み	73
1	人間関係学科	73
	(1) 社会学専攻 (小谷 敏)	73
	(2) 社会・臨床心理学専攻 (古田 雅明)	76
2	人間福祉学科 (小川 浩)	83
	(1) 人間福祉学専攻 (藏野 ともみ)	86
	(2) 介護福祉学専攻 (是枝 祥子)	94
IV	保護者懇談会 (藏野 ともみ)	99
V	オフィスアワー (藏野 ともみ)	104
VI	クラス指導 (藏野 ともみ)	109
VII	平成 23 年度 FD 研修会報告 (荒井 芳廣)	117
VIII	人間関係学部 FD 活動の課題 (小谷 敏)	137
資 料	141

I 平成23年度人間関係学部FD活動について

1. 人間関係学部FD活動の取り組み

人間関係学部では、全学共通フォーマットによる授業アンケートとともに、学部FD研修会、保護者懇談会の実施とその後のアンケート、オフィスアワー、学外FD関連セミナーへの参加を学部のFD活動として位置づけている。また個々の教員のFD活動の情報を集め、公開することにも心を砕いている。前年度からの継続性を重視し、かつ毎年あらたな基軸を打ち出すことを念頭に活動が続けている。

1) 学部FD研修会の実施

平成23年度のFD研修会報告は、平成23年12月9日（金）の教授会終了後、午後5時より、人間関係学部棟3階7348教室で行われた。今年度のテーマは昨年に引き続き、「人間関係学部は諸年次教育にどう取り組んでいるか」。昨年は1年次の必修科目である「人間関係総論」をとりあげたが、今年はやはり、すべての専攻で1年次の必修科目として設置されている「基礎セミナー」を取り上げて、各専攻の担当者がそれぞれの現状を説明し、あわせて改善点について検討した。

2) 学生による授業評価（前期・後期各1回）

学生による授業評価を本学部では全学共通フォーマットに基づき、卒論ゼミと学外実習を除くすべての科目を対象に前期後期、各1度ずつ実施している。各教員はアンケート結果を受け取った後、改善策を報告することになっている。アンケート結果の全体的データと教員が呈示した改善策とは、FD報告書と学部HPで公開されている。また、アンケート結果への回答に対する対応がなされていないとの批判を受け、平成24年度のFD報告書においては、教員の回答の分析も行い、教育環境の改善への提言に役立てたいと思っている。

3) 保護者懇談会の実施とアンケート

学生の大学での生活の実態を保護者の方々に知っていただき、かつ様々な要望をくみ上げていくことを目標として、平成14年度から多摩祭に際して、保護者懇談会を実施している。平成23年度も例年通り、学部全体の懇談会を実施した後、学科ごとに分かれ模擬授業、そして4つの専攻に分かれ、懇談会を実施した。本年度についてみると、折からの厳しい就職状況を受けて例年以上に保護者からの質問が就職の問題に集中していた感がある。

4) オフィスアワーの設定

平成16年度よりFD活動の一環として、全教員が各研究室でアポイントメントをとることなく学業や学生生活の全般について自由に質問することのできるオフィスアワーを実施している。各教員は最低週一こまのオフィスアワーの時間を設けることが義務付けられている。オフィスアワーの時間は、一覧表にして学生に対して示されている。本学部の教員と学生たちとの関係は極めて密接であり、頻繁に研究室を訪れているが、必ずしもオフィスアワーは活用されているとはいえず、その存在と意義の周知を徹底する必要をFD委員の多くは感じている。

5) 学部内及び全学各種委員会との連携

FD委員会単独ではFD活動を行えないため、各種委員会との連携に意識的に取り組んでいる。FD活動の学部HPへの掲載に当たっては広報委員会に、そして保護者懇談会の実施に当たっては学生委員会に「糸車通信」発行の協力を仰いでいる。そして授業アンケートに対する回答を生かして、本学部の教育環境を改善していくためには、教務委員会や学生委員会とのさらなる連携が図られなければならない。

6) 各学科・専攻によるFD活動の学部内情報共有化への取り組み

FD活動は個々の教員の努力によるところが大きい。また学科専攻ごとに独自の取り組みも行われている。様々な取り組みの情報を共有化する努力がはられるべきであろう。そのためにFD報告書において一つの章を設けている。

7) クラス指導による学生への学習支援の取り組み

本学の特徴としてクラス指導主任の制度がある。学生たち、とくに1年生にとってクラスの存在は、高校時代との連続性を感じさせ、好感をもって受け容れられている。しかし、3年生になると卒論ゼミが始まり、そちらの方が学生たちにとって学生生活の重要な単位となってくる。とくに上級学年においてクラス制度を空洞化させない工夫が求められている。

8) 今後の課題

本学部においては、創設当初から公開授業を行っていた。しかし、教員が多忙で他の教員の授業を聴講することが困難な状況があり、近年は実施されていない。しかし授業公開はFD活動の重要な柱となりうるものであり、再開するとすればどのような形が望ましいのかが検討されなければならない。以前はなされていた多摩3学部でのFD委員会の連携の復活も重要な課題といえる。

そして、いま人間関係学部の教員たちを悩ませているのが、心理的な、あるいは発達上の問題を抱えた学生の増加である。そうした学生たちにどのように対処していくのか。それがFD研修会を含めた平成24年度人間関係学部の重要なテーマたりうると考えている。

2. 人間関係学部FD委員会の議事

第1回委員会 日時 平成23年4月27日(水) 12時20分～30分 場所 委員会はずべて人間関係学部棟4階会議室で行われた。

議事 年間のスケジュールの確認。教授会開催日の昼休みに開くことを決定。

第2回委員会 日時 平成23年5月13日(金) 12時20分～50分

議事

- (1) 授業アンケート実施期間の確認。
- (2) 例年2度行っている全学FD講演会を今年は震災の影響で1回とする大妻女子大学ファカルティディベロップメント委員会の決定が小谷委員長より伝達された。
- (3) 「関係的自立を」を実現するための組織的取り組みについて、人間関係学部内部で具体化していく必要がある旨の報告が、蔵野委員よりなされた。

第3回委員会 日時 平成23年6月10日(金) 12時20分～35分

議事

- (1) 教員に配布される授業アンケートの実施要項と学生に告知する張り紙の原案がしめされ、承認された。
- (2) 本年度の人間関係学部FD研修会を12月9日、人間関係学部教授会終了後に開催することが決まった。

第4回委員会 日時 平成23年7月8日(金) 12時20分～40分

議事

- (1) 12月9日に行われる人間関係学部FD研修会のテーマが「基礎セミナーⅠ・Ⅱ」に決まった。なお蔵野前委員長から発言があり、前年度は「人間関係総論」は学部の基幹科目であるところから学院の中核的な理念である「関係的自立」がどのように授業において主題化されているのかを一つの主題としたが、本年度においてはむしろ「初年次教育」という観点から議論していくことが望ましいのではないかという指摘がなされた。
- (2) 非常勤の先生(社会学)より、ご自身のアンケートへの回答の公開を拒否する旨の申出があり、承認された。

第5回委員会 日時 平成23年9月16日(金) 12時20分～50分

議事

- (1) 平成23年度人間関係学部FD研修会、企画案について。「基礎セミナー」の担当者に報告をしてもらう。時間は15分ずつ。社会学と臨床・心理は専攻から各2名ずつ。福祉は学科から2名を出す(学科として一体の内容で行っているため)。
- (2) 授業アンケートの改善策の回答期限は、10月15日とすることとなった。

第6回委員会 日時 平成23年9月30日(金) 12時20分～55分

議事

- (1) 平成23年度人間関係学部FD研修会、企画案について。前回委員会での審議に基づき修正された企画案を検討し、これを14日の教授会にかけることが了承された。
- (2) 全学FD研修会の講師の推薦について。町田学部長より、大学の質保証等について詳しい東海大学観光学部長、松本亮三氏が推薦され、了承された。
- (3) 授業アンケート結果に対する回答で、教務的なクレームに類するものについては、とりあえず専攻レベルで対応することになった。

第7回委員会 日時 平成23年10月14日(金) 12時20分～55分

議事

- (1) 平成23年度後期授業アンケートについて、本学部で実施されているすべての科目を対象とすることが決定された。また学生や教員への配布文書も同時に提示され、承認された。あわせて実施の日時も決定した。
- (2) 「関係的自立」の再定義について。蔵野委員より、栗原副学長の「関係的自立」の再

定義を図った文書が配布された。それをどのようにカリキュラムポリシー等に反映するかについての意見が交わされた。

第8回委員会 日時 平成23年11月11日（金） 12時20分～55分

議事

- (1) 授業アンケートの教員の回答の検討 各専攻ごとに授業アンケートでの主に教務に関わる問題についての検討を行ったが、特設委員会としてのとりあげるべき事柄はみつからなかった。後期も含めて授業アンケートで出された問題については、可能な限り5月の非常勤講師懇談会において取り上げる方向が確認された。
- (2) FD委員会当日の役割分担と進行について確認した。案内状の配布先についても確認した。

第9回委員会 日時 平成23年12月9日（金） 12時20分～55分

議事

- (1) FD研修会実施当日の役割分担を確認した。
- (2) 平成23年度FD報告書の作成について。小谷が執筆分担の試案を提出することが確認された。

第10回委員会 日時 平成24年1月20日（金） 12時20分～55分

議事

- (1) 研修会の反省。12月9日に開かれたFD研修会の反省として次のような意見が述べられた。
 - ・外部からの評価も高く研修会はおおむね成功であった。
 - ・先生方からの要望のなかで、発表を聴くだけでなくグループに分かれて討議するような構成の方がよかったという声があった。
 - ・成績評価の標準化が求められているところから来年はそうした内容についての研修でもよいのではないか。
- (2) 平成23年度FD報告書について。平成23年度FD報告書の目次と執筆分担が確認された。

第11回人間関係学部FD委員会議事録 日時 平成24年2月17日 午前9時から9時40分

議事

- (1) 23年度FD報告書執筆状況の確認。3月末日までに完成した原稿を人間FDのメーリングリストに送信することが確認された。
- (2) 平成24年度FD委員会への引き継ぎ事項が確認された。
- (3) 家政学部より提案の授業評価アンケート質問項目の変更についての提案がなされたが、変更をするばあいには個別学部の提案を受けてという形ではなく、全学FD委員会の下にワーキンググループにおいて、そこで検討されるべきであるという意見が小谷より示され、了解された。

第12回委員会 平成24年 3月 8日（木） 午後 0時20分から午後 0時40分

議事 小谷より平成23年度FD報告書最終章「IX 人間関係学部FD活動の課題」のドラフトが示され、それをもとに次年度の課題が話し合われた。

Ⅱ－１ 授業に関するアンケート（前期・後期）

1. はじめに

学部授業の充実化を目的に、本学部では平成16年度から、専任教員および非常勤講師が担当する授業について「学生による授業評価」（以下、授業アンケート）を実施している。特に、専任教員は全担当科目（卒業論文とゼミナールは原則として除く）の授業アンケートを2カ年に渡って実施するため、毎年度、担当科目の2分の1以上の授業アンケートを実施している。

調査後、授業科目別集計を各担当教員にフィードバックし、授業評価の結果について意見と改善策等（①今回のアンケート結果を受けて、どのようにご自身の授業を改善されますか、②施設・教室の設備や受講者数、教育条件などについて改善すべき点があればご指摘ください、③受講生への要望があればお書きください）について回答を求め、それらは本報告書並びにホームページにて公開している。ただし、各専任教員・非常勤講師は、書面により、アンケートの実施および評価結果ならびに意見・改善策等の掲載等を拒否することができる。

2. 調査目的

授業に関するアンケートは、教員の学生に対する教育サービスの質と量の向上を図るとともに、よりよい教授法のあり方を考える基礎資料を得るための組織的活動である。

3. 調査概要

（1）実施時期および手続き

前期は、平成23年7月4日（月）～7月16日（土）の2週間に実施し、後期は平成23年12月1日（木）～12月21日（水）の3週間に実施した。また、授業アンケートの実施にあたり、例年同様、書面およびホームページ等を用いて、学生と各教員への周知と調査への協力を依頼した。また、学生が率直に記入し提出しやすいように、回収と提出は授業参加学生の有志に依頼する形式を取っている。そして、授業内容や授業方法の改善を図るために実施するものであり、調査結果は統計的に処理され、個人が特定されるものではないこと、さらに成績に影響することは全くないことを書面と口頭により、繰り返し説明してから実施している。

（2）調査対象と回答率

前期の調査は総科目数192科目中の183科目で実施した。調査対象者は、調査実施科目の履修者9,762名であった。調査への回答者数は7,528名であり、回答率は77.12%であった。なお、有効回答数は7,312件であり、無効回答が216件あった。

後期の調査は、総科目数208科目中の186科目で実施した。調査対象は、調査実施科目の履修者8,879名であった。調査への回答者数は6,027名であり、回答率は67.88%であった。なお、有効回答数は5,828件であり、無効回答が199件あった。

(3) 調査項目

授業アンケートにおける調査項目は、以下の5カテゴリ、21項目あり、「そう思う」、「ややそう思う」、「どちらともいえない」、「あまりそう思わない」、「そう思わない」の5段階評定によって回答を求める形式であった。その他、自由記入欄を設けた。本調査のアンケート用紙を次ページ以降に示した。

調査カテゴリと項目

- ① 教員の授業の進め方について（7項目）
- ② 授業の内容について（6項目）
- ③ 学生自身の授業への取り組みについて（5項目）
- ④ 総合的な印象（1項目）
- ⑤ 自由設定欄＝学部独自：担当教員がその場で設定する質問＝（2項目）

自由記述欄

- ① 良かったと思う点
- ② 改善した方が良くと思う点
- ③ その他の意見や要望など

(4) 授業アンケート結果の活用ならびに情報公開と情報保護

- ① 各教員の担当科目ごとの調査結果（授業科目別集計）は、年度内に各教員に個別に通知する。
- ② 教員は、授業アンケートの結果に対して、意見や改善策等をFD委員会に提出する。
- ③ ②の意見や改善策等は、FD報告書ならびに学部ホームページ上に掲載し、一般公開する。
ただし、各教員は、書面により掲載等を拒否することができる。
- ④ 調査データの処理は外部業者に委託し、集計結果の分析およびデータ保管は、FD委員会の責任において行った。また、自由回答欄の内容は、FD委員会の責任において、学生の筆跡の特定ができないようにタイピングし直した文章を各授業担当教員に配布した。なお、教員への配布物は、各教員が自己責任において管理・廃棄等を行うこととした。

大妻女子大学 「授業に関するアンケート」

このアンケートは、授業内容や授業方法の改善を図るためのものです。無記名回答ですので、あなたの成績に影響することはまったくありません。率直に回答してください。また、裏面の[自由記入欄]にはあなたの意見や要望・希望、感想を書いてください。

1. 科目名・教員名

科目名

教員名

【注意】

1. HBの黒鉛筆のみ可。

2. 折り曲げ厳禁。

※右例のようなマークは、読みとることができません。(悪い例)



2. 所属学科 (学科専攻・学年・組にマークしてください)

	被服学科 ㉞	社会情報学科 ㉟	社会生活情報学専攻 ㊀	学 年	組
学	食物学科 食物学専攻 ㉠		社会環境情報学専攻 ㉡		
	管理栄養士専攻 ㉢		社会情報処理学専攻 ㉣		
	児童学科 児童学専攻 ㉤	人間関係学科 社会学専攻 ㉦	社会心理学専攻 ㉧	①	(A)
部	児童教育専攻 ㉨	人間福祉学科 人間福祉学専攻 ㉩	介護福祉学専攻 ㉪	②	(B)
	ライフデザイン学科 ㉫	比較文化学科 1年生 ㉬	アジア文化コース ㉭	③	(C)
	日本文学科 ㉮	ヨーロッパ文化コース ㉯		④	(D)
	英文学科 ㉰				(E)
	コミュニケーション文化学科 ㉱				(F)
短期大学部	家政科 家政専攻 ㉲	国文科 ㉳			
	生活総合ビジネス専攻 ㉴	英文科 ㉵			
	食物栄養専攻 ㉶				

3. 次の質問に対してあなたがどう思うか該当する数字の○にマークしてください

① 先生のこの授業の進め方について

	5 そう思う	4 やや そう思う	3 どちらとも いえない	2 あまりそう 思わない	1 そう 思わない
1 先生の話し方は明瞭で聞き取りやすかった	⑤	④	③	②	①
2 教材資料提示(板書、プリント、パワーポイント・ビデオ等)は授業の理解に役立った	⑤	④	③	②	①
3 私語等の授業を妨げる行為に対して先生は適切な措置をした ※(授業が静かなので注意を受けなかった場合は、5「そう思う」をマーク)	⑤	④	③	②	①
4 授業は学生の理解度を考慮しながら進められた	⑤	④	③	②	①
5 質問や意見を引き出し、学生の積極的な参加を促した	⑤	④	③	②	①
6 先生の学生に対する接し方は公平だった	⑤	④	③	②	①
7 授業は先生の十分な準備と熱意をもって行われた	⑤	④	③	②	①

② この授業の内容について

8 授業は、学習の目標がはっきり示された	⑤	④	③	②	①
9 授業の構成は体系的で把握しやすくまとまっていた	⑤	④	③	②	①
10 授業の内容は興味深いものだった	⑤	④	③	②	①
11 授業の内容はよく理解できるものであった	⑤	④	③	②	①
12 授業は自分の将来にとって意味があると思う	⑤	④	③	②	①
13 授業科目の選択や学習時に、「授業内容」(シラバス)は役立った	⑤	④	③	②	①

③ あなたのこの授業への取り組みについて

14 この授業にはつねに出席した	⑤	④	③	②	①
15 この授業のために予習または復習を欠かさなかった	⑤	④	③	②	①
16 授業中は私語をせず、携帯電話を切り、真剣に授業を受けた	⑤	④	③	②	①
17 授業中質問したり、考えを述べたりして、積極的に参加した	⑤	④	③	②	①
18 この授業によって、未知の分野だったことへ関心が広がった	⑤	④	③	②	①

④ 総合的な印象

19 総合的に見て、この授業を受けて良かったと思う	⑤	④	③	②	①
---------------------------	---	---	---	---	---

⑤ 自由設定欄 (学部独自:ex担当教員がその場で設定する質問)

20	⑤	④	③	②	①
21	⑤	④	③	②	①

自由記入欄は裏面にあります

K6641T 110kg

【自由記入欄】

①良かったと思う点

②改善した方が良くと思う点

③その他の意見や要望など

ご協力ありがとうございました

4. 調査結果の分析

以下に、人間関係学部全体のアンケート集計結果の概要について報告する。具体的には、はじめに「授業の総合的な印象」に関する評価平均値（5点満点）について、今年度の結果と過年度を比較しながら分析する。ついで、「教員の授業の進め方」、「授業の内容」、「学生自身の授業への取り組み」の各項目について、今年度の結果と過年度を比較しながら分析する。

（1）「授業の総合的な印象」の評価

前期授業アンケートにおける学生による「授業の総合的な印象」の評価平均値（5点満点）は4.22であり、後期は4.29であった。後期の方が前期よりも0.07ポイント評価平均値が高かった。前期後期共に4.2点を超えており、「総合的な印象」が非常に高い評価を得ていることが示されている。

過年度と比較すると、2009年度前期の評価平均値は4.20、2010年度前期は4.19であり、2011年度前期の評価平均値は4.22と過去2年間よりも高くなっていた。後期についても、2009年度後期の評価平均値が4.14、2010年度後期が4.27であったのに対し、2011年度後期の評価平均値は4.29と過去2年間よりも高くなっていた。

本学部におけるこれまでの継続的なFD活動の成果が、上述の「総合的な印象」の評価平均値の上昇に示されているといえるだろう。

（2）「教員の授業の進め方」の評価

前期授業アンケートにおける学生による「教員の授業の進め方」の7項目の評価平均値（5点満点）は4.17であり、後期は4.25であった。後期の方が前期よりも0.08ポイント評価平均値が高かった。前期後期共に4.15点を超えており、「教員の授業の進め方」が非常に高い評価を得ていることが示されている。

過年度と比較すると、2009年度前期の評価平均値は4.15、2010年度前期は4.17であり、2011年度前期の評価平均値は2010年度と同じ値であった。後期については、2009年度後期の評価平均値が4.18、2010年度後期が4.23であったのに対し、2011年度後期の評価平均値は4.25と過去2年間よりも高くなっていた。

「教員の授業の進め方」を構成する7項目の中で、今年度最も評価平均点が高かった項目は、前期後期ともに「授業は先生の十分な準備と熱意をもって行われた」であった。前期が4.37、後期が4.42となっており、いずれも非常に評価が高かったといえる。なお、この「授業は先生の十分な準備と熱意をもって行われた」は、過去2年間においても毎年、最も評価平均点が高い項目となっていた。

以上のことから、本学部の各教員の担当授業に対して取り組む姿勢や熱意が学生にしっかりと伝わり、しかも高く評価されていることが理解できるだろう。

一方、今年度最も評価平均点が低かった項目は、前期後期共に「質問や意見を引き出し、学生の積極的な参加を促した」であり、前期が3.86、後期が4.03であった。大講義室での授業などでは、対応が難しい項目ではあるが、後期の方が0.17ポイント高くなっており、前期の評価結果を

受けて各教員が後期に授業改善をしていることが伺われる。

その他の項目についても今年度の結果を見ると、「先生の話し方は明瞭で聞き取りやすかった」が前期4.27、後期4.38であった。また「教材資料提示は授業の理解に役立った」が前期4.24、後期4.28であった。その他、「私語等の授業を妨げる行為に対して先生は適切な措置をした」が前期4.13、後期4.22、「授業は学生の理解度を考慮しながら進められた」が前期3.95、後期4.07、「先生の学生に対する接し方は公平だった」が前期4.34、後期4.38となった。いずれの項目も後期の方が前期よりも評価平均点が高くなっていた。

前期の授業アンケート結果を受け、各教員が後期に授業を改善していることが示されているといえよう。

(3) 「授業の内容」の評価

前期授業アンケートにおける学生による「授業の内容」の6項目の評価平均値（5点満点）は4.04であり、後期は4.11であった。後期の方が前期よりも0.07ポイント評価平均値が高かった。前期後期共に4点を超えており、「授業の内容」が高い評価を得ていることが示されている。

過年度と比較すると、2009年度前期の評価平均値は3.92、2010年度前期は4.00であり、2011年度前期の評価平均値は過去2年間よりも高かった。後期についても、2009年度後期の評価平均値は4.01、2010年度後期は4.09であり、2011年度後期の評価平均値の方が過去2年間よりも高くなっていた。

「授業の内容」を構成する6項目の中で今年度最も評価平均点が高かった項目は、前期後期ともに「授業は、学習の目標がはっきり示された」であり、前期が4.22、後期が4.26であった。なお、この「授業は、学習の目標がはっきり示された」は、過去2年間においても毎年、最も評価平均点が高い項目となっていた（4.12～4.26）。

一方、今年度最も評価平均点が低かった項目は、前期後期共に「授業科目の選択や学習時に、「授業内容」（シラバス）は役立った」であり、前期が3.72、後期が3.79であった。なお、この項目は、過去2年間においても毎年、最も評価平均点が低い項目となっていた（3.55～3.77）。このように今年度、最も評価平均点が高かった項目、最も低かった項目のいずれも過去2年間よりは評価平均点が高くなっていた。

その他の項目についても今年度の結果を見ると、「授業の構成は体系的で把握しやすくまとまっていた」が前期4.10、後期4.19であった。また「授業の内容は興味深いものだった」が前期4.09、後期4.17であった。その他、「授業の内容はよく理解できるものであった」が前期3.99、後期4.07、「授業は自分の将来にとって意味があると思う」が前期4.15、後期4.18となった。いずれの項目も後期の方が前期よりも評価平均点が高くなっていた。

以上のことから、シラバスの活用については今後も引き続き工夫していく必要性が示されていると考えられるが、授業内容については概ね高評価を得ており、学生のニーズに合った授業内容が展開されていると評価できよう。

(4) 「学生自身の授業への取り組み」の評価

前期授業アンケートにおける学生による「学生自身の授業への取り組み」の5項目の評価平均値(5点満点)は3.71であり、後期は3.77であった。後期の方が前期よりも0.06ポイント評価平均値が高かった。前期後期共に4点以下であり、「学生自身の授業への取り組み」に課題が多いことが示されている。

過年度と比較すると、2009年度前期の評価平均値は3.70、2010年度前期は3.71であり、2011年度前期の評価平均値は2010年前期と同じ値であった。後期については、2009年度後期の評価平均値は3.71、2010年度後期は3.76であり、2011年度後期の評価平均値の方が過去2年間よりも若干高くなっていた。

「学生自身の授業への取り組み」を構成する5項目の中で今年度最も評価平均点が高かった項目は、前期後期ともに「この授業にはつねに出席した」であり、前期が4.46、後期が4.39であった。なお、この項目は、過去2年間においても毎年、最も評価平均点が高かった(4.37~4.46)。

一方、今年度最も評価平均点が低かった項目は、前期後期共に「この授業のために予習または復習を欠かさなかった」であり、前期が3.00、後期が3.08であった。なお、この項目は、過去2年間においても毎年、最も評価平均点が低い項目となっていた(3.00~3.11)。このように今年度、最も評価平均点が高かった項目、最も低かった項目のいずれも過去2年間とほぼ同じ評価平均点であった。

その他の項目についても今年度の結果を見ると、「授業中は私語をせず、携帯電話を切り、真剣に授業を受けた」が前期3.88、後期3.96であった。また「授業中質問したり、考えを述べたりして、積極的に参加した」が前期3.24、後期3.35、「この授業によって、未知の分野だったことへ関心が広がった」が前期3.99、後期4.07となった。いずれの項目も後期の方が前期よりも評価平均点が高くなっていた。

この結果からすると、後期の方が前期よりも学生の授業への取り組み姿勢が積極的に変化したと読み取ることも可能である。しかし、後期は学生の出席率と本授業アンケートの回収率も下がっていることを鑑みると、授業に対して積極的な姿勢の学生が後期のアンケートに回答した、という調査対象の偏りを反映している可能性も否定できない。

以上のことから、学生は授業への出席率は高く維持されているものの、授業外の自習に課題が多く、ここ数年、その学習姿勢に殆ど変化が認められないとまとめることができる。学生の授業への取り組み姿勢をいかに改善していくかは、今後も引き続きFD上の大きな課題と言えるだろう。

5. 授業アンケート調査結果の活用

今年度も、授業アンケート調査結果を今後の授業改善に活用することを目的とし、調査後に、授業科目別集計を各担当教員にフィードバックし、授業評価の結果について意見と改善策等(①今回のアンケート結果を受けて、どのようにご自身の授業を改善されますか、②施設・教室の設備や受講者数、教育条件などについて改善すべき点があればご指摘ください、③受講生への要望があればお書きください)について自由記述による回答を求めた。この自由記述データの分析結果については、次項において報告する。

2011年度前期 授業に関するアンケート集計結果(全体)

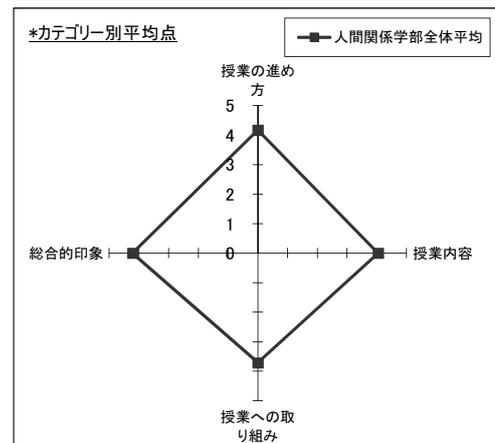
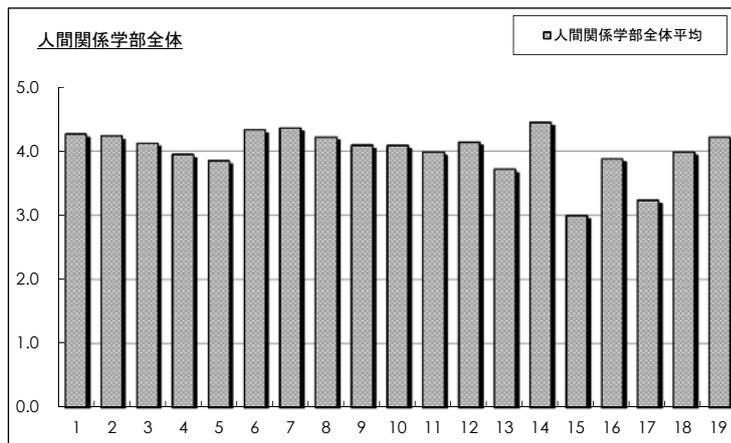
大妻女子大学

人間関係学部全体

履修者数	9,762
回答者数	7,528

I. 先生のこの授業の進め方について							当カテゴリー平均点		4.17	
No.	設問文	平均点	回答率(%)					有効回答	無効回答	標準偏差
			5	4	3	2	1			
1	先生の話し方は明瞭で聞き取りやすかった	4.27	52.2	30.3	11.6	4.6	1.4	7523	5	0.94
2	教材資料提示(板書、プリント、パワーポイント・ビデオ等)は授業の理解に役立った	4.24	49.2	32.4	13.2	3.9	1.3	7502	26	0.92
3	私語等の授業を妨げる行為に対して先生は適切な措置をした ※授業が静かなので注意を受けなかった場合は、5をマーク	4.13	45.4	30.7	17.1	5.0	1.8	7520	8	0.99
4	授業は学生の理解度を考慮しながら進められた	3.95	37.2	32.1	21.6	6.8	2.4	7514	14	1.03
5	質問や意見を引き出し、学生の積極的な参加を促した	3.86	35.4	28.8	25.0	8.1	2.8	7503	25	1.08
6	先生の学生に対する接し方は公平だった	4.34	54.3	29.5	13.1	2.1	1.0	7498	30	0.86
7	授業は先生の十分な準備と熱意をもって行われた	4.37	54.3	31.6	11.3	2.0	0.7	7490	38	0.82
II. この授業の内容について							当カテゴリー平均点		4.04	
No.	設問文	平均点	回答率(%)					有効回答	無効回答	標準偏差
			5	4	3	2	1			
8	授業は、学習の目標がはっきり示された	4.22	48.0	32.4	14.6	3.8	1.3	7517	11	0.92
9	授業の構成は体系的で把握しやすくとまっていた	4.10	43.2	32.6	17.0	5.1	2.1	7514	14	0.99
10	授業の内容は興味深いものだった	4.09	44.0	31.3	16.8	5.7	2.2	7511	17	1.01
11	授業の内容はよく理解できるものであった	3.99	38.9	33.0	18.8	6.6	2.6	7495	33	1.04
12	授業は自分の将来にとって意味があると思う	4.15	46.3	30.7	16.2	4.9	1.9	7503	25	0.99
13	授業科目の選択や学習時に、「授業内容」(シラバス)は役立った	3.72	28.6	29.3	31.3	7.5	3.4	7488	40	1.06
III. あなたのこの授業への取り組みについて							当カテゴリー平均点		3.71	
No.	設問文	平均点	回答率(%)					有効回答	無効回答	標準偏差
			5	4	3	2	1			
14	この授業にはつねに出席した	4.46	61.9	25.4	9.7	2.4	0.6	7507	21	0.81
15	この授業のために予習または復習を欠かさなかった	3.00	12.6	20.2	35.2	18.4	13.6	7487	41	1.20
16	授業中は私語をせず、携帯電話を切り、真剣に授業を受けた	3.88	32.3	34.2	24.8	7.1	1.6	7491	37	0.99
17	授業中質問したり、考えを述べたりして、積極的に参加した	3.24	18.7	22.3	32.7	16.2	10.0	7496	32	1.22
18	この授業によって、未知の分野だったことへ関心が広がった	3.99	38.1	33.1	20.9	5.5	2.4	7476	52	1.01
IV. 総合的な印象							当カテゴリー平均点		4.22	
No.	設問文	平均点	回答率(%)					有効回答	無効回答	標準偏差
			5	4	3	2	1			
19	*総合的に見て、この授業を受けて良かったと思う	4.22	50.3	29.3	14.6	3.7	2.1	7312	216	0.97

Q1-Q19の学部全体平均値	4.01
Q1-Q19の学部全体平均値-2σ	3.23



2011年度後期 授業に関するアンケート集計結果(全体)

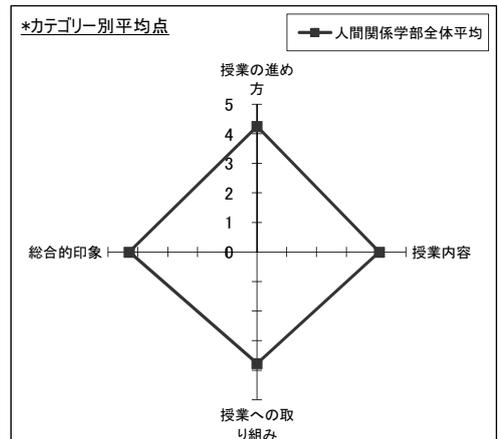
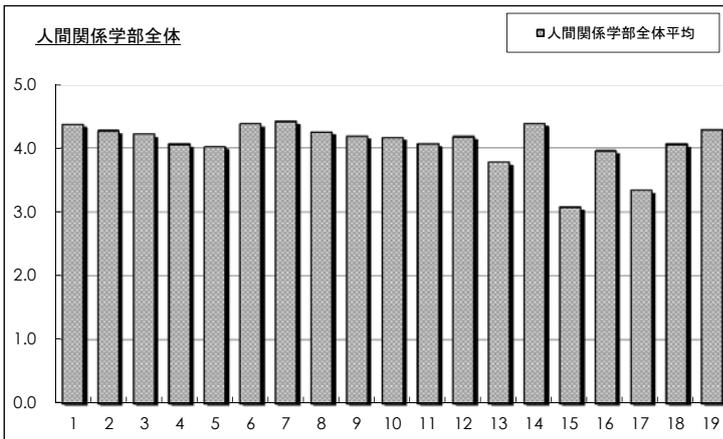
大妻女子大学

人間関係学部全体

履修者数	8,879
回答者数	6,027

I. 先生のこの授業の進め方について							当カテゴリー平均点		4.25	
No.	設問文	平均点	回答率(%)					有効回答	無効回答	標準偏差
			5	4	3	2	1			
1	先生の話し方は明瞭で聞き取りやすかった	4.38	56.5	29.8	9.6	3.2	0.9	6019	8	0.85
2	教材資料提示(板書、プリント、パワーポイント・ビデオ等)は授業の理解に役立った	4.28	50.1	33.0	12.5	3.2	1.2	6004	23	0.89
3	私語等の授業を妨げる行為に対して先生は適切な措置をした ※授業が静かなので注意を受けなかった場合は、5をマーク	4.22	48.5	31.4	15.1	3.7	1.3	6009	18	0.92
4	授業は学生の理解度を考慮しながら進められた	4.07	40.4	34.0	18.9	5.2	1.5	6012	15	0.96
5	質問や意見を引き出し、学生の積極的な参加を促した	4.03	40.4	30.9	21.5	5.4	1.8	6002	25	1.00
6	先生の学生に対する接し方は公平だった	4.38	56.4	29.3	11.3	2.2	0.8	6003	24	0.83
7	授業は先生の十分な準備と熱意をもって行われた	4.42	56.9	30.9	9.8	1.6	0.7	5990	37	0.78
II. この授業の内容について							当カテゴリー平均点		4.11	
No.	設問文	平均点	回答率(%)					有効回答	無効回答	標準偏差
			5	4	3	2	1			
8	授業は、学習の目標がはっきり示された	4.26	49.3	32.6	13.8	3.3	1.0	6009	18	0.89
9	授業の構成は体系的で把握しやすくてまとまっていた	4.19	45.4	34.6	14.9	3.9	1.2	6006	21	0.91
10	授業の内容は興味深いものだった	4.17	45.8	32.9	15.3	4.6	1.4	6009	18	0.95
11	授業の内容はよく理解できるものであった	4.07	39.7	35.9	17.7	5.3	1.4	6003	24	0.95
12	授業は自分の将来にとって意味があると思う	4.18	47.2	31.1	16.2	4.2	1.3	6002	25	0.94
13	授業科目の選択や学習時に、「授業内容」(シラバス)は役立った	3.79	31.0	28.9	30.6	6.8	2.7	5986	41	1.04
III. あなたのこの授業への取り組みについて							当カテゴリー平均点		3.77	
No.	設問文	平均点	回答率(%)					有効回答	無効回答	標準偏差
			5	4	3	2	1			
14	この授業にはつねに出席した	4.39	57.3	28.0	11.4	2.8	0.5	6007	20	0.83
15	この授業のために予習または復習を欠かさなかった	3.08	15.1	20.4	35.0	16.3	13.2	5998	29	1.22
16	授業中は私語をせず、携帯電話を切り、真剣に授業を受けた	3.96	35.6	33.7	23.6	5.8	1.4	5996	31	0.97
17	授業中質問したり、考えを述べたりして、積極的に参加した	3.35	21.5	23.2	32.4	14.0	8.8	5999	28	1.21
18	この授業によって、未知の分野だったことへ関心が広がった	4.07	40.2	34.4	19.2	4.5	1.7	5986	41	0.96
IV. 総合的な印象							当カテゴリー平均点		4.29	
No.	設問文	平均点	回答率(%)					有効回答	無効回答	標準偏差
			5	4	3	2	1			
19	*総合的に見て、この授業を受けて良かったと思う	4.29	52.4	29.9	13.5	3.2	1.1	5828	199	0.89

Q1-Q19の学部全体平均値	4.08
Q1-Q19の学部全体平均値-2σ	3.37



2011年度前期 授業に関するアンケート集計結果(マーク所属学科別)

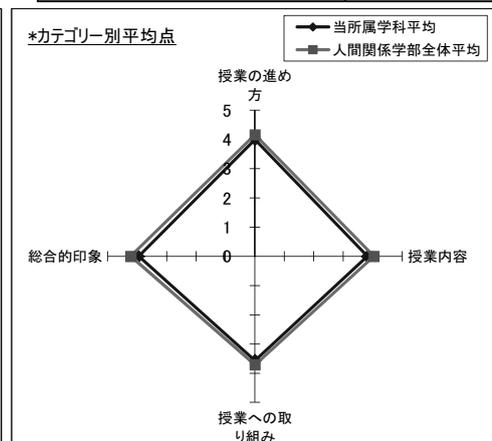
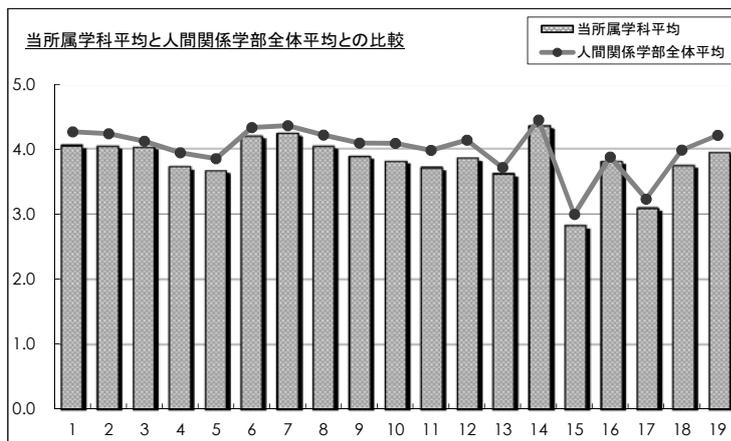
大妻女子大学

所属学科	人間関係学科 社会学専攻
------	--------------

履修者数	—
回答者数	1,554

I. 先生のこの授業の進め方について							当カテゴリ平均点		4.00	
No.	設問文	平均点	回答率(%)					有効回答	無効回答	標準偏差
			5	4	3	2	1			
1	先生の話し方は明瞭で聞き取りやすかった	4.06	41.4	34.8	14.3	7.3	2.3	1554	0	1.02
2	教材資料提示(板書、プリント、パワーポイント・ビデオ等)は授業の理解に役立った	4.04	38.4	36.9	16.9	5.9	1.9	1553	1	0.98
3	私語等の授業を妨げる行為に対して先生は適切な措置をした ※授業が静かなので注意を受けなかった場合は、5をマーク	4.03	40.8	32.6	17.7	6.4	2.5	1554	0	1.03
4	授業は学生の理解度を考慮しながら進められた	3.73	27.7	33.6	26.2	9.2	3.4	1551	3	1.07
5	質問や意見を引き出し、学生の積極的な参加を促した	3.67	27.0	30.0	29.1	10.5	3.4	1548	6	1.09
6	先生の学生に対する接し方は公平だった	4.20	46.3	33.1	16.3	2.8	1.5	1548	6	0.91
7	授業は先生の十分な準備と熱意をもって行われた	4.24	46.4	36.1	14.0	2.5	1.0	1546	8	0.86
II. この授業の内容について							当カテゴリ平均点		3.82	
No.	設問文	平均点	回答率(%)					有効回答	無効回答	標準偏差
			5	4	3	2	1			
8	授業は、学習の目標がはっきり示された	4.04	38.3	35.9	18.9	5.0	1.8	1552	2	0.97
9	授業の構成は体系的で把握しやすくとまっていた	3.89	33.7	34.5	21.7	7.4	2.7	1551	3	1.04
10	授業の内容は興味深いものだった	3.82	32.9	32.5	21.7	9.7	3.3	1550	4	1.09
11	授業の内容はよく理解できるものであった	3.72	26.9	35.4	24.2	9.7	3.8	1546	8	1.08
12	授業は自分の将来にとって意味があると思う	3.86	33.3	33.6	21.9	8.1	3.1	1548	6	1.07
13	授業科目の選択や学習時に、「授業内容」(シラバス)は役立った	3.62	22.6	33.6	31.5	7.9	4.4	1543	11	1.05
III. あなたのこの授業への取り組みについて							当カテゴリ平均点		3.57	
No.	設問文	平均点	回答率(%)					有効回答	無効回答	標準偏差
			5	4	3	2	1			
14	この授業にはつねに出席した	4.36	56.3	28.2	11.5	2.7	1.2	1550	4	0.88
15	この授業のために予習または復習を欠かさなかった	2.83	9.3	17.4	36.6	20.3	16.5	1548	6	1.17
16	授業中は私語をせず、携帯電話を切り、真剣に授業を受けた	3.81	29.4	35.2	24.7	8.0	2.7	1545	9	1.03
17	授業中質問したり、考えを述べたりして、積極的に参加した	3.09	14.7	21.5	34.5	17.2	12.2	1547	7	1.20
18	この授業によって、未知の分野だったことへ関心が広がった	3.75	28.9	33.8	24.6	8.8	4.0	1542	12	1.09
IV. 総合的な印象							当カテゴリ平均点		3.95	
No.	設問文	平均点	回答率(%)					有効回答	無効回答	標準偏差
			5	4	3	2	1			
19	*総合的に見て、この授業を受けて良かったと思う	3.95	37.4	32.8	20.3	6.4	3.1	1495	59	1.05

Q1-Q19の当区分平均値	3.83
Q1-Q19の学部全体平均値	4.01
Q1-Q19の学部全体平均値-2σ	3.23



2011年度後期 授業に関するアンケート集計結果(マーク所属学科別)

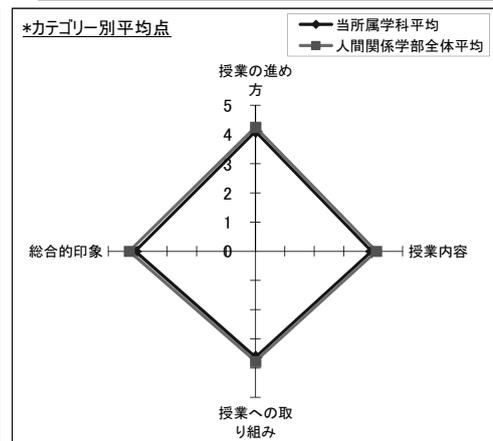
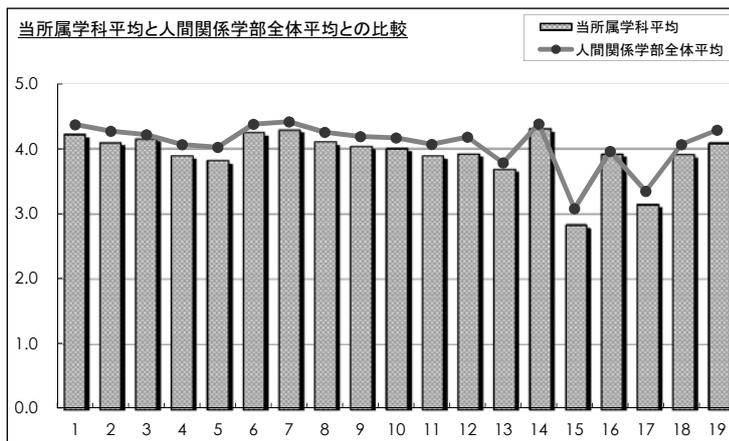
大妻女子大学

所属学科	人間関係学科 社会学専攻
------	--------------

履修者数	—
回答者数	1,153

I. 先生のこの授業の進め方について							当カテゴリー平均点		4.11	
No.	設問文	平均点	回答率(%)					有効回答	無効回答	標準偏差
			5	4	3	2	1			
1	先生の話し方は明瞭で聞き取りやすかった	4.22	46.9	35.6	11.7	4.4	1.4	1149	4	0.92
2	教材資料提示(板書、プリント、パワーポイント・ビデオ等)は授業の理解に役立った	4.10	39.8	37.2	17.6	3.9	1.4	1147	6	0.92
3	私語等の授業を妨げる行為に対して先生は適切な措置をした ※授業が静かなので注意を受けなかった場合は、5をマーク	4.16	44.3	34.0	16.5	3.6	1.6	1144	9	0.93
4	授業は学生の理解度を考慮しながら進められた	3.90	31.4	37.2	23.2	6.4	1.8	1147	6	0.98
5	質問や意見を引き出し、学生の積極的な参加を促した	3.82	31.8	31.4	27.2	6.6	3.1	1144	9	1.05
6	先生の学生に対する接し方は公平だった	4.25	47.8	34.5	14.0	2.7	1.0	1146	7	0.87
7	授業は先生の十分な準備と熱意をもって行われた	4.29	48.3	37.4	11.0	2.2	1.1	1143	10	0.83
II. この授業の内容について							当カテゴリー平均点		3.95	
No.	設問文	平均点	回答率(%)					有効回答	無効回答	標準偏差
			5	4	3	2	1			
8	授業は、学習の目標がはっきり示された	4.11	40.7	36.1	18.0	3.7	1.5	1149	4	0.92
9	授業の構成は体系的で把握しやすくとまっていた	4.04	35.4	40.9	17.9	4.4	1.5	1148	5	0.92
10	授業の内容は興味深いものだった	4.01	36.6	37.4	18.5	5.8	1.7	1146	7	0.97
11	授業の内容はよく理解できるものであった	3.90	29.5	40.6	21.8	6.1	2.0	1144	9	0.96
12	授業は自分の将来にとって意味があると思う	3.93	34.0	35.6	22.0	6.0	2.4	1144	9	1.00
13	授業科目の選択や学習時に、「授業内容」(シラバス)は役立った	3.70	24.5	32.0	34.2	7.2	2.1	1143	10	0.99
III. あなたのこの授業への取り組みについて							当カテゴリー平均点		3.63	
No.	設問文	平均点	回答率(%)					有効回答	無効回答	標準偏差
			5	4	3	2	1			
14	この授業にはつねに出席した	4.31	52.0	31.6	13.0	2.5	0.9	1147	6	0.86
15	この授業のために予習または復習を欠かさなかった	2.83	9.7	17.3	37.9	17.0	18.1	1145	8	1.20
16	授業中は私語をせず、携帯電話を切り、真剣に授業を受けた	3.92	32.2	36.9	23.5	5.8	1.6	1145	8	0.96
17	授業中質問したり、考えを述べたりして、積極的に参加した	3.15	15.4	22.8	34.6	16.0	11.3	1146	7	1.20
18	この授業によって、未知の分野だったことへ関心が広がった	3.92	32.8	36.7	22.1	6.1	2.3	1141	12	1.00
IV. 総合的な印象							当カテゴリー平均点		4.09	
No.	設問文	平均点	回答率(%)					有効回答	無効回答	標準偏差
			5	4	3	2	1			
19	*総合的に見て、この授業を受けて良かったと思う	4.09	42.2	33.0	18.7	4.1	2.0	1116	37	0.97

Q1-Q19の当区分平均値	3.93
Q1-Q19の学部全体平均値	4.08
Q1-Q19の学部全体平均値-2σ	3.37



2011年度前期 授業に関するアンケート集計結果(マーク所属学科別)

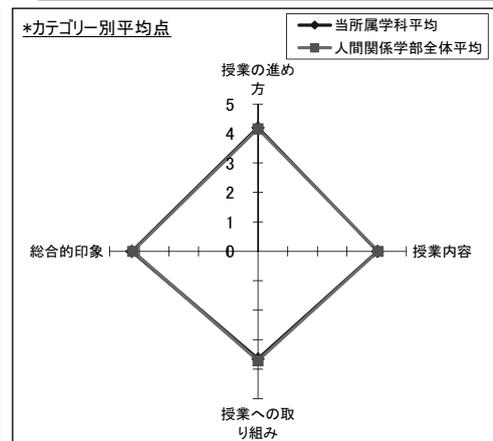
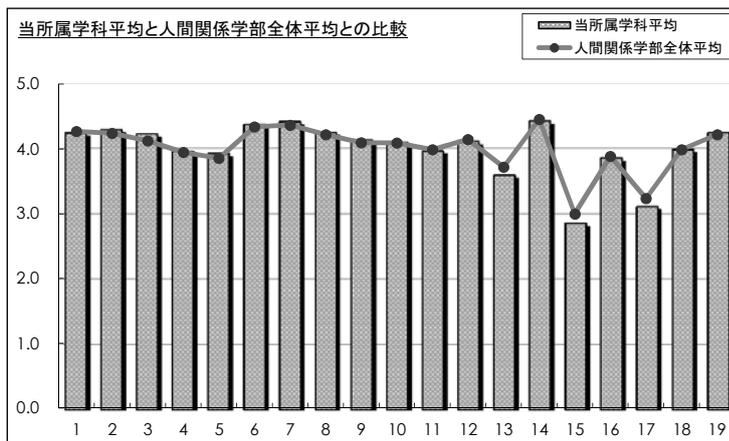
大妻女子大学

所属学科	人間関係学科 社会心理学専攻
------	----------------

履修者数	—
回答者数	1,619

I. 先生のこの授業の進め方について							当カテゴリー平均点		4.21	
No.	設問文	平均点	回答率(%)					有効回答	無効回答	標準偏差
			5	4	3	2	1			
1	先生の話し方は明瞭で聞き取りやすかった	4.24	50.6	30.9	12.0	5.3	1.2	1618	1	0.94
2	教材資料提示(板書、プリント、パワーポイント・ビデオ等)は授業の理解に役立った	4.30	52.0	31.4	12.0	3.5	1.2	1613	6	0.89
3	私語等の授業を妨げる行為に対して先生は適切な措置をした ※授業が静かなので注意を受けなかった場合は、5をマーク	4.22	48.5	31.8	14.5	4.1	1.1	1618	1	0.92
4	授業は学生の理解度を考慮しながら進められた	3.96	37.2	33.0	20.3	7.9	1.6	1617	2	1.02
5	質問や意見を引き出し、学生の積極的な参加を促した	3.92	37.9	29.6	21.9	8.2	2.4	1613	6	1.07
6	先生の学生に対する接し方は公平だった	4.38	57.3	27.6	11.5	2.4	1.1	1615	4	0.86
7	授業は先生の十分な準備と熱意をもって行われた	4.41	56.2	31.8	9.7	1.4	0.8	1614	5	0.79
II. この授業の内容について							当カテゴリー平均点		4.03	
No.	設問文	平均点	回答率(%)					有効回答	無効回答	標準偏差
			5	4	3	2	1			
8	授業は、学習の目標がはっきり示された	4.25	49.1	33.1	12.9	3.5	1.4	1618	1	0.91
9	授業の構成は体系的で把握しやすくとまっていた	4.14	46.0	30.6	16.3	5.3	1.9	1617	2	0.99
10	授業の内容は興味深いものだった	4.10	44.4	30.9	17.3	5.6	1.9	1617	2	1.00
11	授業の内容はよく理解できるものであった	3.97	37.2	35.1	17.7	7.6	2.5	1613	6	1.04
12	授業は自分の将来にとって意味があると思う	4.11	44.7	31.1	16.6	5.8	1.8	1614	5	1.00
13	授業科目の選択や学習時に、「授業内容」(シラバス)は役立った	3.60	24.0	28.6	34.9	8.4	4.2	1613	6	1.07
III. あなたのこの授業への取り組みについて							当カテゴリー平均点		3.65	
No.	設問文	平均点	回答率(%)					有効回答	無効回答	標準偏差
			5	4	3	2	1			
14	この授業にはつねに出席した	4.43	60.3	26.1	10.1	2.9	0.6	1617	2	0.83
15	この授業のために予習または復習を欠かさなかった	2.86	9.9	18.9	34.1	21.2	15.9	1610	9	1.19
16	授業中は私語をせず、携帯電話を切り、真剣に授業を受けた	3.86	31.4	35.1	23.2	8.6	1.7	1613	6	1.01
17	授業中質問したり、考えを述べたりして、積極的に参加した	3.11	14.9	24.2	29.7	19.8	11.4	1616	3	1.22
18	この授業によって、未知の分野だったことへ関心が広がった	3.99	37.0	35.1	20.5	4.9	2.5	1616	3	1.00
IV. 総合的な印象							当カテゴリー平均点		4.25	
No.	設問文	平均点	回答率(%)					有効回答	無効回答	標準偏差
			5	4	3	2	1			
19	*総合的に見て、この授業を受けて良かったと思う	4.25	50.8	30.6	13.4	3.3	1.8	1584	35	0.94

Q1-Q19の当区分平均値	4.01
Q1-Q19の学部全体平均値	4.01
Q1-Q19の学部全体平均値-2σ	3.23



2011年度後期 授業に関するアンケート集計結果(マーク所属学科別)

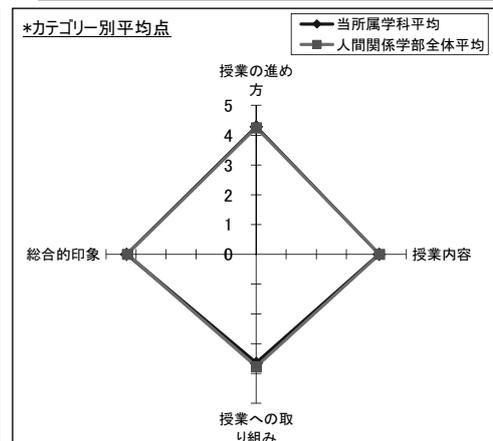
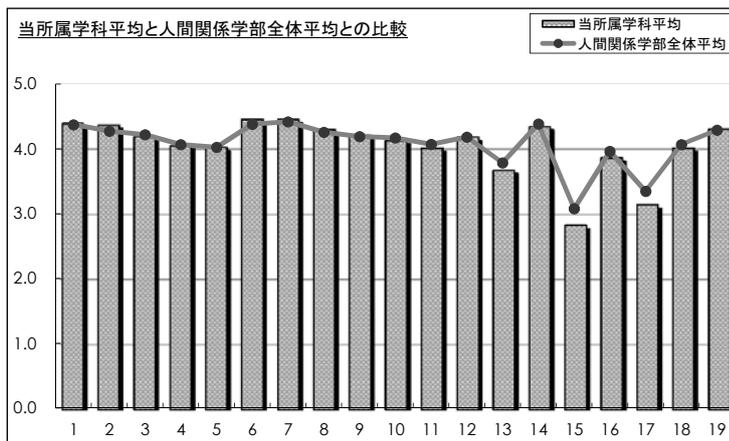
大妻女子大学

所属学科	人間関係学科 社会心理学専攻
------	----------------

履修者数	—
回答者数	1,609

I. 先生のこの授業の進め方について							当カテゴリ平均点		4.29	
No.	設問文	平均点	回答率(%)					有効回答	無効回答	標準偏差
			5	4	3	2	1			
1	先生の話し方は明瞭で聞き取りやすかった	4.40	56.1	32.3	7.7	3.0	0.8	1609	0	0.82
2	教材資料提示(板書、プリント、パワーポイント・ビデオ等)は授業の理解に役立った	4.38	54.2	33.7	8.4	2.7	1.0	1608	1	0.83
3	私語等の授業を妨げる行為に対して先生は適切な措置をした ※授業が静かなので注意を受けなかった場合は、5をマーク	4.21	46.9	33.3	14.9	3.5	1.4	1608	1	0.92
4	授業は学生の理解度を考慮しながら進められた	4.06	39.2	36.8	16.7	5.8	1.6	1609	0	0.96
5	質問や意見を引き出し、学生の積極的な参加を促した	4.03	38.6	35.2	19.0	5.4	1.8	1608	1	0.98
6	先生の学生に対する接し方は公平だった	4.46	60.4	28.9	7.9	1.9	0.9	1604	5	0.79
7	授業は先生の十分な準備と熱意をもって行われた	4.46	58.3	32.2	7.6	1.1	0.7	1604	5	0.75
II. この授業の内容について							当カテゴリ平均点		4.09	
No.	設問文	平均点	回答率(%)					有効回答	無効回答	標準偏差
			5	4	3	2	1			
8	授業は、学習の目標がはっきり示された	4.31	50.3	35.1	10.6	3.2	0.9	1606	3	0.85
9	授業の構成は体系的で把握しやすくとまっていた	4.22	46.2	36.3	12.0	4.1	1.4	1606	3	0.91
10	授業の内容は興味深いものだった	4.14	44.2	34.9	13.6	5.4	1.9	1607	2	0.97
11	授業の内容はよく理解できるものであった	4.02	36.2	39.1	16.9	6.4	1.4	1607	2	0.95
12	授業は自分の将来にとって意味があると思う	4.19	45.1	35.4	14.1	3.9	1.4	1606	3	0.91
13	授業科目の選択や学習時に、「授業内容」(シラバス)は役立った	3.69	26.9	30.3	30.8	8.5	3.5	1606	3	1.06
III. あなたのこの授業への取り組みについて							当カテゴリ平均点		3.65	
No.	設問文	平均点	回答率(%)					有効回答	無効回答	標準偏差
			5	4	3	2	1			
14	この授業にはつねに出席した	4.35	55.9	28.6	10.6	4.5	0.4	1606	3	0.87
15	この授業のために予習または復習を欠かさなかった	2.83	10.4	17.4	34.0	21.6	16.6	1605	4	1.20
16	授業中は私語をせず、携帯電話を切り、真剣に授業を受けた	3.87	32.1	34.6	23.6	7.7	1.9	1602	7	1.01
17	授業中質問したり、考えを述べたりして、積極的に参加した	3.15	16.6	23.4	30.2	18.5	11.3	1604	5	1.23
18	この授業によって、未知の分野だったことへ関心が広がった	4.02	36.5	38.2	17.9	5.6	1.7	1601	8	0.96
IV. 総合的な印象							当カテゴリ平均点		4.31	
No.	設問文	平均点	回答率(%)					有効回答	無効回答	標準偏差
			5	4	3	2	1			
19	*総合的に見て、この授業を受けて良かったと思う	4.31	51.5	33.4	11.1	3.3	0.8	1568	41	0.86

Q1-Q19の当区分平均値	4.06
Q1-Q19の学部全体平均値	4.08
Q1-Q19の学部全体平均値-2σ	3.37



2011年度前期 授業に関するアンケート集計結果(マーク所属学科別)

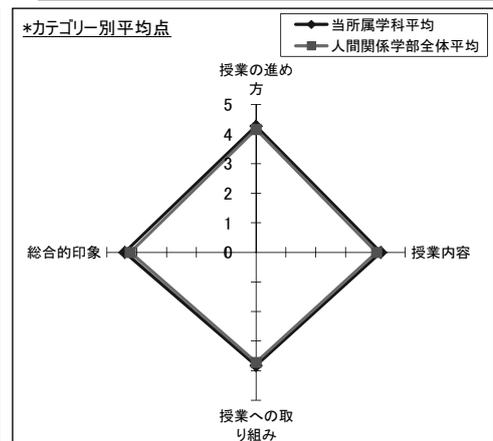
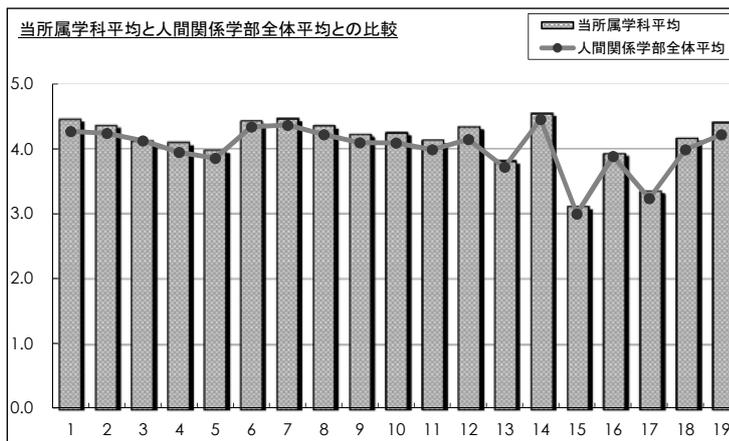
大妻女子大学

所属学科	人間福祉学科 人間福祉学専攻
------	----------------

履修者数	—
回答者数	1,912

I. 先生のこの授業の進め方について							当カテゴリ平均点		4.27	
No.	設問文	平均点	回答率(%)					有効回答	無効回答	標準偏差
			5	4	3	2	1			
1	先生の話し方は明瞭で聞き取りやすかった	4.45	62.7	25.1	8.4	2.6	1.2	1910	2	0.85
2	教材資料提示(板書、プリント、パワーポイント・ビデオ等)は授業の理解に役立った	4.36	56.2	28.8	11.1	3.1	0.8	1908	4	0.86
3	私語等の授業を妨げる行為に対して先生は適切な措置をした ※授業が静かなので注意を受けなかった場合は、5をマーク	4.12	46.9	27.4	18.7	5.2	1.8	1911	1	1.01
4	授業は学生の理解度を考慮しながら進められた	4.10	45.3	28.8	18.5	5.2	2.1	1908	4	1.02
5	質問や意見を引き出し、学生の積極的な参加を促した	3.98	42.3	26.1	21.6	7.1	2.9	1909	3	1.09
6	先生の学生に対する接し方は公平だった	4.43	59.2	27.1	11.4	1.6	0.7	1905	7	0.81
7	授業は先生の十分な準備と熱意をもって行われた	4.46	60.7	27.4	9.6	1.7	0.5	1902	10	0.78
II. この授業の内容について							当カテゴリ平均点		4.19	
No.	設問文	平均点	回答率(%)					有効回答	無効回答	標準偏差
			5	4	3	2	1			
8	授業は、学習の目標がはっきり示された	4.35	56.1	28.1	12.0	2.9	0.9	1908	4	0.87
9	授業の構成は体系的で把握しやすくとまっていた	4.22	49.3	31.0	14.3	3.6	1.8	1909	3	0.94
10	授業の内容は興味深いものだった	4.25	51.9	28.4	14.1	3.8	1.8	1907	5	0.95
11	授業の内容はよく理解できるものであった	4.13	46.6	29.5	16.7	4.8	2.4	1909	3	1.01
12	授業は自分の将来にとって意味があると思う	4.34	56.3	27.1	12.5	2.9	1.2	1907	5	0.89
13	授業科目の選択や学習時に、「授業内容」(シラバス)は役立った	3.81	33.1	26.3	32.4	5.0	3.1	1905	7	1.05
III. あなたのこの授業への取り組みについて							当カテゴリ平均点		3.82	
No.	設問文	平均点	回答率(%)					有効回答	無効回答	標準偏差
			5	4	3	2	1			
14	この授業にはつねに出席した	4.55	69.2	19.7	8.4	2.2	0.6	1906	6	0.78
15	この授業のために予習または復習を欠かさなかった	3.12	17.0	22.1	30.0	17.5	13.4	1904	8	1.26
16	授業中は私語をせず、携帯電話を切り、真剣に授業を受けた	3.93	34.3	33.2	25.0	6.2	1.2	1905	7	0.97
17	授業中質問したり、考えを述べたりして、積極的に参加した	3.35	23.7	21.1	31.3	14.7	9.2	1904	8	1.25
18	この授業によって、未知の分野だったことへ関心が広がった	4.17	46.5	30.8	17.0	4.0	1.6	1902	10	0.96
IV. 総合的な印象							当カテゴリ平均点		4.41	
No.	設問文	平均点	回答率(%)					有効回答	無効回答	標準偏差
			5	4	3	2	1			
19	*総合的に見て、この授業を受けて良かったと思う	4.41	60.2	25.0	11.4	1.9	1.4	1861	51	0.87

Q1-Q19の当区分平均値	4.13
Q1-Q19の学部全体平均値	4.01
Q1-Q19の学部全体平均値-2σ	3.23



2011年度後期 授業に関するアンケート集計結果(マーク所属学科別)

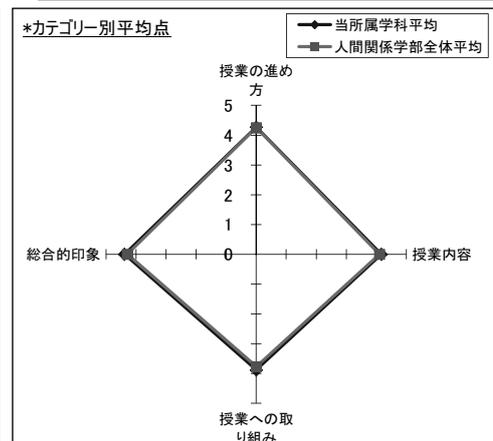
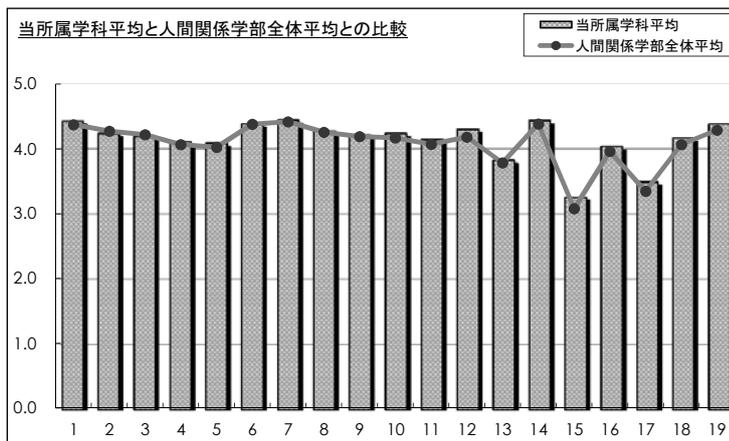
大妻女子大学

所属学科	人間福祉学科 人間福祉学専攻
------	----------------

履修者数	—
回答者数	1,581

I. 先生のこの授業の進め方について							当カテゴリ平均点		4.27	
No.	設問文	平均点	回答率(%)					有効回答	無効回答	標準偏差
			5	4	3	2	1			
1	先生の話し方は明瞭で聞き取りやすかった	4.43	61.9	24.7	9.1	3.1	1.2	1581	0	0.87
2	教材資料提示(板書、プリント、パワーポイント・ビデオ等)は授業の理解に役立った	4.24	50.5	30.7	13.2	3.9	1.8	1573	8	0.95
3	私語等の授業を妨げる行為に対して先生は適切な措置をした ※授業が静かなので注意を受けなかった場合は、5をマーク	4.20	50.1	27.4	16.5	4.4	1.6	1577	4	0.97
4	授業は学生の理解度を考慮しながら進められた	4.12	45.4	29.4	18.5	4.8	1.8	1576	5	0.99
5	質問や意見を引き出し、学生の積極的な参加を促した	4.09	45.8	26.2	21.4	4.7	1.8	1571	10	1.01
6	先生の学生に対する接し方は公平だった	4.39	58.1	27.0	11.5	2.5	0.9	1575	6	0.85
7	授業は先生の十分な準備と熱意をもって行われた	4.45	60.4	27.0	10.2	1.8	0.6	1572	9	0.80
II. この授業の内容について							当カテゴリ平均点		4.17	
No.	設問文	平均点	回答率(%)					有効回答	無効回答	標準偏差
			5	4	3	2	1			
8	授業は、学習の目標がはっきり示された	4.29	53.5	28.0	13.7	3.4	1.5	1576	5	0.93
9	授業の構成は体系的で把握しやすくとまっていた	4.21	49.0	30.1	15.4	3.7	1.7	1575	6	0.95
10	授業の内容は興味深いものだった	4.25	51.0	29.0	15.0	3.7	1.3	1578	3	0.93
11	授業の内容はよく理解できるものであった	4.15	45.5	30.9	17.8	4.1	1.6	1575	6	0.96
12	授業は自分の将来にとって意味があると思う	4.31	55.0	26.3	14.3	3.1	1.3	1576	5	0.92
13	授業科目の選択や学習時に、「授業内容」(シラバス)は役立った	3.83	34.8	25.7	30.8	5.5	3.2	1569	12	1.07
III. あなたのこの授業への取り組みについて							当カテゴリ平均点		3.88	
No.	設問文	平均点	回答率(%)					有効回答	無効回答	標準偏差
			5	4	3	2	1			
14	この授業にはつねに出席した	4.44	61.7	24.2	10.8	2.7	0.6	1577	4	0.83
15	この授業のために予習または復習を欠かさなかった	3.27	20.6	21.3	33.1	14.1	10.9	1570	11	1.24
16	授業中は私語をせず、携帯電話を切り、真剣に授業を受けた	4.04	39.3	32.2	22.9	4.7	1.0	1576	5	0.95
17	授業中質問したり、考えを述べたりして、積極的に参加した	3.49	27.0	22.1	31.7	11.8	7.4	1572	9	1.21
18	この授業によって、未知の分野だったことへ関心が広がった	4.17	46.9	29.9	18.4	3.1	1.7	1571	10	0.95
IV. 総合的な印象							当カテゴリ平均点		4.39	
No.	設問文	平均点	回答率(%)					有効回答	無効回答	標準偏差
			5	4	3	2	1			
19	*総合的に見て、この授業を受けて良かったと思う	4.39	60.1	23.6	12.6	2.2	1.4	1527	54	0.89

Q1-Q19の当区分平均値	4.14
Q1-Q19の学部全体平均値	4.08
Q1-Q19の学部全体平均値-2σ	3.37



2011年度前期 授業に関するアンケート集計結果(マーク所属学科別)

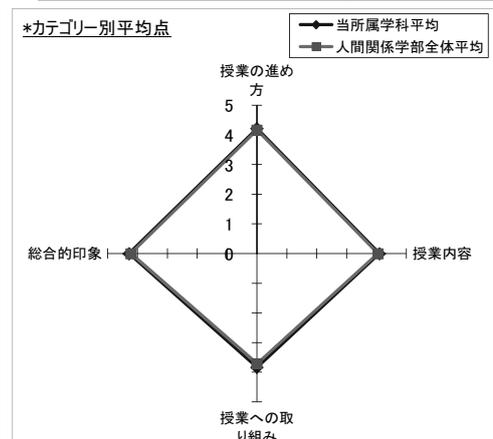
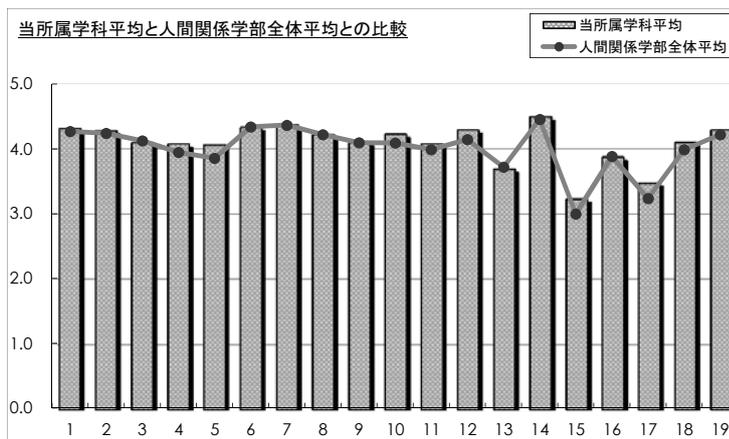
大妻女子大学

所属学科	人間福祉学科 介護福祉学専攻
------	----------------

履修者数	—
回答者数	735

I. 先生のこの授業の進め方について							当カテゴリー平均点		4.22	
No.	設問文	平均点	回答率(%)					有効回答	無効回答	標準偏差
			5	4	3	2	1			
1	先生の話し方は明瞭で聞き取りやすかった	4.32	52.1	32.7	10.7	3.8	0.7	735	0	0.86
2	教材資料提示(板書、プリント、パワーポイント・ビデオ等)は授業の理解に役立った	4.28	46.9	37.2	13.2	2.2	0.4	733	2	0.80
3	私語等の授業を妨げる行為に対して先生は適切な措置をした ※授業が静かなので注意を受けなかった場合は、5をマーク	4.10	43.5	30.3	20.2	4.4	1.6	733	2	0.98
4	授業は学生の理解度を考慮しながら進められた	4.08	40.9	33.9	19.5	3.5	2.2	734	1	0.97
5	質問や意見を引き出し、学生の積極的な参加を促した	4.07	40.8	32.4	21.2	4.4	1.2	731	4	0.95
6	先生の学生に対する接し方は公平だった	4.33	51.1	34.2	12.3	1.9	0.5	732	3	0.81
7	授業は先生の十分な準備と熱意をもって行われた	4.38	52.7	34.6	10.8	1.5	0.4	729	6	0.77
II. この授業の内容について							当カテゴリー平均点		4.10	
No.	設問文	平均点	回答率(%)					有効回答	無効回答	標準偏差
			5	4	3	2	1			
8	授業は、学習の目標がはっきり示された	4.22	46.5	33.7	15.9	3.0	0.8	735	0	0.88
9	授業の構成は体系的で把握しやすくとまっていた	4.10	40.5	36.6	17.3	3.7	1.9	734	1	0.94
10	授業の内容は興味深いものだった	4.23	47.8	33.2	14.8	3.0	1.2	735	0	0.90
11	授業の内容はよく理解できるものであった	4.08	41.7	33.2	18.6	4.8	1.8	733	2	0.97
12	授業は自分の将来にとって意味があると思う	4.29	52.9	28.2	15.5	2.3	1.1	734	1	0.89
13	授業科目の選択や学習時に、「授業内容」(シラバス)は役立った	3.69	30.8	24.2	31.1	11.0	2.9	730	5	1.11
III. あなたのこの授業への取り組みについて							当カテゴリー平均点		3.84	
No.	設問文	平均点	回答率(%)					有効回答	無効回答	標準偏差
			5	4	3	2	1			
14	この授業にはつねに出席した	4.49	62.4	26.6	9.3	1.6	0.1	734	1	0.74
15	この授業のために予習または復習を欠かさなかった	3.23	14.1	23.9	39.5	16.3	6.3	732	3	1.08
16	授業中は私語をせず、携帯電話を切り、真剣に授業を受けた	3.88	29.2	37.2	27.5	4.8	1.4	732	3	0.93
17	授業中質問したり、考えを述べたりして、積極的に参加した	3.48	22.0	26.9	33.2	12.7	5.2	732	3	1.12
18	この授業によって、未知の分野だったことへ関心が広がった	4.11	42.4	30.6	22.8	3.5	0.7	733	2	0.92
IV. 総合的な印象							当カテゴリー平均点		4.29	
No.	設問文	平均点	回答率(%)					有効回答	無効回答	標準偏差
			5	4	3	2	1			
19	*総合的に見て、この授業を受けて良かったと思う	4.29	51.8	30.1	14.3	2.5	1.3	714	21	0.89

Q1-Q19の当区分平均値	4.09
Q1-Q19の学部全体平均値	4.01
Q1-Q19の学部全体平均値-2σ	3.23



2011年度後期 授業に関するアンケート集計結果(マーク所属学科別)

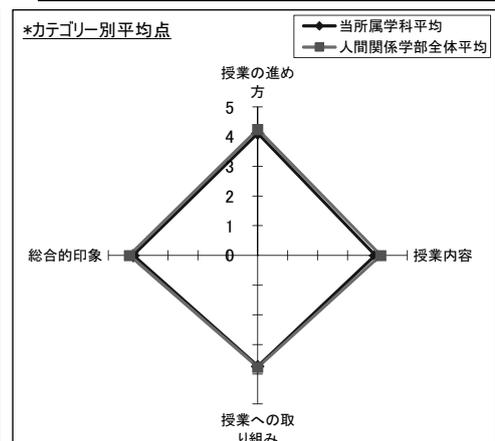
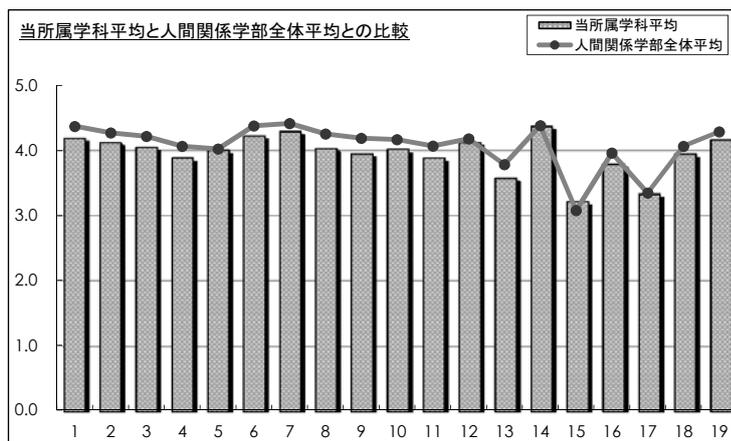
大妻女子大学

所属学科	人間福祉学科 介護福祉学専攻
------	----------------

履修者数	—
回答者数	540

I. 先生のこの授業の進め方について							当カテゴリー平均点		4.11	
No.	設問文	平均点	回答率(%)					有効回答	無効回答	標準偏差
			5	4	3	2	1			
1	先生の話し方は明瞭で聞き取りやすかった	4.19	48.5	30.0	14.6	6.1	0.7	540	0	0.95
2	教材資料提示(板書、プリント、パワーポイント・ビデオ等)は授業の理解に役立った	4.12	43.8	32.5	17.4	4.8	1.5	539	1	0.96
3	私語等の授業を妨げる行為に対して先生は適切な措置をした ※授業が静かなので注意を受けなかった場合は、5をマーク	4.05	40.9	32.6	19.1	5.6	1.9	540	0	0.99
4	授業は学生の理解度を考慮しながら進められた	3.89	32.4	34.4	24.4	7.4	1.3	540	0	0.99
5	質問や意見を引き出し、学生の積極的な参加を促した	4.01	36.9	34.3	22.1	5.9	0.7	539	1	0.95
6	先生の学生に対する接し方は公平だった	4.23	49.1	29.6	16.9	3.9	0.6	540	0	0.90
7	授業は先生の十分な準備と熱意をもって行われた	4.30	51.0	31.1	14.9	2.4	0.6	537	3	0.85
II. この授業の内容について							当カテゴリー平均点		3.93	
No.	設問文	平均点	回答率(%)					有効回答	無効回答	標準偏差
			5	4	3	2	1			
8	授業は、学習の目標がはっきり示された	4.03	39.7	31.9	21.3	5.9	1.1	539	1	0.97
9	授業の構成は体系的で把握しやすくとまっていた	3.96	35.6	34.3	21.7	7.6	0.9	540	0	0.98
10	授業の内容は興味深いものだった	4.02	40.7	30.9	19.8	6.5	2.0	540	0	1.02
11	授業の内容はよく理解できるものであった	3.89	33.7	34.1	21.1	9.6	1.5	540	0	1.03
12	授業は自分の将来にとって意味があると思う	4.13	46.8	27.3	18.6	6.3	0.9	538	2	0.99
13	授業科目の選択や学習時に、「授業内容」(シラバス)は役立った	3.58	26.6	22.7	36.7	10.1	3.9	537	3	1.10
III. あなたのこの授業への取り組みについて							当カテゴリー平均点		3.74	
No.	設問文	平均点	回答率(%)					有効回答	無効回答	標準偏差
			5	4	3	2	1			
14	この授業にはつねに出席した	4.37	54.4	30.6	13.0	1.9	0.2	540	0	0.79
15	この授業のために予習または復習を欠かさなかった	3.22	10.0	28.9	40.6	14.4	6.1	540	0	1.02
16	授業中は私語をせず、携帯電話を切り、真剣に授業を受けた	3.80	24.9	35.7	34.2	4.5	0.7	538	2	0.89
17	授業中質問したり、考えを述べたりして、積極的に参加した	3.34	15.0	26.1	41.5	12.6	4.8	540	0	1.03
18	この授業によって、未知の分野だったことへ関心が広がった	3.95	34.4	34.0	24.9	5.6	1.1	538	2	0.96
IV. 総合的な印象							当カテゴリー平均点		4.17	
No.	設問文	平均点	回答率(%)					有効回答	無効回答	標準偏差
			5	4	3	2	1			
19	*総合的に見て、この授業を受けて良かったと思う	4.17	46.3	30.3	17.6	5.2	0.6	518	22	0.93

Q1-Q19の当区分平均値	3.96
Q1-Q19の学部全体平均値	4.08
Q1-Q19の学部全体平均値-2σ	3.37



2011年度前期 授業に関するアンケート集計結果(クラスサイズ別)

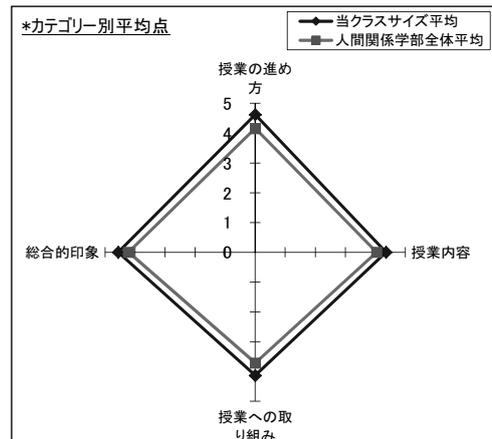
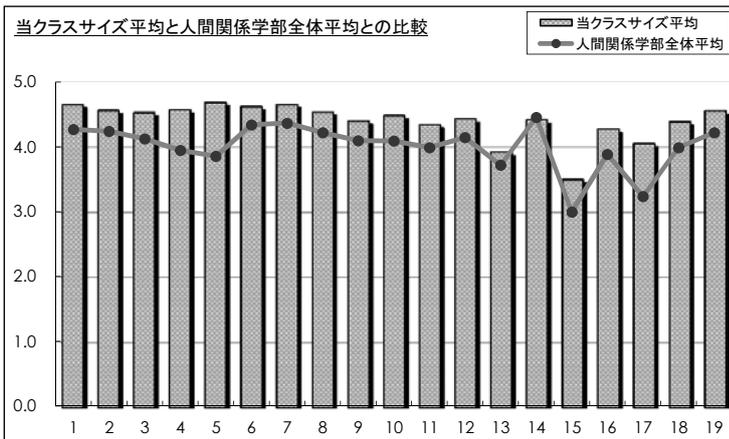
大妻女子大学

クラスサイズ	1~15名
--------	-------

履修者数	263
回答者数	221

I. 先生のこの授業の進め方について							当カテゴリー平均点		4.62	
No.	設問文	平均点	回答率(%)					有効回答	無効回答	標準偏差
			5	4	3	2	1			
1	先生の話し方は明瞭で聞き取りやすかった	4.66	74.7	18.1	5.4	1.8	0.0	221	0	0.67
2	教材資料提示(板書、プリント、パワーポイント・ビデオ等)は授業の理解に役立った	4.57	65.2	27.6	6.8	0.0	0.5	221	0	0.66
3	私語等の授業を妨げる行為に対して先生は適切な措置をした ※授業が静かなので注意を受けなかった場合は、5をマーク	4.54	65.2	24.0	10.4	0.5	0.0	221	0	0.70
4	授業は学生の理解度を考慮しながら進められた	4.58	66.5	25.8	6.8	0.9	0.0	221	0	0.66
5	質問や意見を引き出し、学生の積極的な参加を促した	4.69	74.2	21.3	4.1	0.5	0.0	221	0	0.57
6	先生の学生に対する接し方は公平だった	4.63	70.9	21.8	6.4	0.9	0.0	220	1	0.65
7	授業は先生の十分な準備と熱意をもって行われた	4.66	72.3	22.3	4.5	0.9	0.0	220	1	0.61
II. この授業の内容について							当カテゴリー平均点		4.36	
No.	設問文	平均点	回答率(%)					有効回答	無効回答	標準偏差
			5	4	3	2	1			
8	授業は、学習の目標がはっきり示された	4.54	65.6	26.2	5.0	3.2	0.0	221	0	0.73
9	授業の構成は体系的で把握しやすくとまっていた	4.41	56.6	31.7	8.6	2.3	0.9	221	0	0.81
10	授業の内容は興味深いものだった	4.49	62.4	26.7	9.0	1.4	0.5	221	0	0.75
11	授業の内容はよく理解できるものであった	4.35	52.0	33.5	11.8	2.7	0.0	221	0	0.79
12	授業は自分の将来にとって意味があると思う	4.44	60.0	25.5	12.7	1.8	0.0	220	1	0.78
13	授業科目の選択や学習時に、「授業内容」(シラバス)は役立った	3.93	40.3	22.6	28.5	6.8	1.8	221	0	1.06
III. あなたのこの授業への取り組みについて							当カテゴリー平均点		4.13	
No.	設問文	平均点	回答率(%)					有効回答	無効回答	標準偏差
			5	4	3	2	1			
14	この授業にはつねに出席した	4.43	62.0	22.6	12.2	2.3	0.9	221	0	0.86
15	この授業のために予習または復習を欠かさなかった	3.51	24.4	28.5	26.7	14.0	6.3	221	0	1.19
16	授業中は私語をせず、携帯電話を切り、真剣に授業を受けた	4.28	48.4	33.9	15.4	1.8	0.5	221	0	0.82
17	授業中質問したり、考えを述べたりして、積極的に参加した	4.06	38.5	38.0	16.7	5.0	1.8	221	0	0.96
18	この授業によって、未知の分野だったことへ関心が広がった	4.39	55.7	31.2	10.4	2.3	0.5	221	0	0.80
IV. 総合的な印象							当カテゴリー平均点		4.56	
No.	設問文	平均点	回答率(%)					有効回答	無効回答	標準偏差
			5	4	3	2	1			
19	*総合的に見て、この授業を受けて良かったと思う	4.56	67.9	23.3	6.0	2.8	0.0	215	6	0.73

Q1-Q19の当区分平均値	4.41
Q1-Q19の学部全体平均値	4.01
Q1-Q19の学部全体平均値-2σ	3.23



2011年度後期 授業に関するアンケート集計結果(クラスサイズ別)

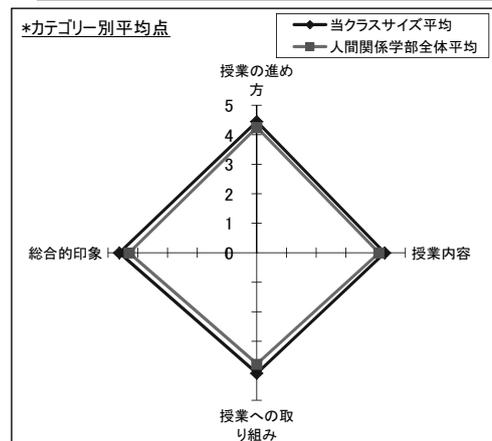
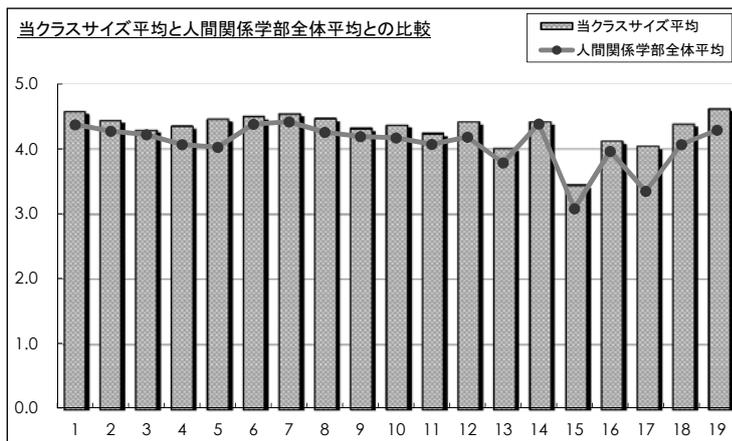
大妻女子大学

クラスサイズ	1~15名
--------	-------

履修者数	223
回答者数	162

I. 先生のこの授業の進め方について							当カテゴリー平均点		4.46	
No.	設問文	平均点	回答率(%)					有効回答	無効回答	標準偏差
			5	4	3	2	1			
1	先生の話し方は明瞭で聞き取りやすかった	4.58	72.0	18.0	6.8	1.9	1.2	161	1	0.80
2	教材資料提示(板書、プリント、パワーポイント・ビデオ等)は授業の理解に役立った	4.44	59.4	28.8	10.0	0.6	1.3	160	2	0.80
3	私語等の授業を妨げる行為に対して先生は適切な措置をした ※授業が静かなので注意を受けなかった場合は、5をマーク	4.30	58.4	22.4	12.4	4.3	2.5	161	1	1.01
4	授業は学生の理解度を考慮しながら進められた	4.35	60.9	23.0	9.3	4.3	2.5	161	1	0.99
5	質問や意見を引き出し、学生の積極的な参加を促した	4.47	64.0	25.5	5.6	3.1	1.9	161	1	0.88
6	先生の学生に対する接し方は公平だった	4.50	67.1	21.1	7.5	3.7	0.6	161	1	0.84
7	授業は先生の十分な準備と熱意をもって行われた	4.54	66.3	26.3	5.0	0.6	1.9	160	2	0.78
II. この授業の内容について							当カテゴリー平均点		4.31	
No.	設問文	平均点	回答率(%)					有効回答	無効回答	標準偏差
			5	4	3	2	1			
8	授業は、学習の目標がはっきり示された	4.47	62.1	28.6	5.6	1.9	1.9	161	1	0.84
9	授業の構成は体系的で把握しやすくてまとまっていた	4.32	50.9	36.6	8.1	2.5	1.9	161	1	0.87
10	授業の内容は興味深いものだった	4.37	57.8	29.8	5.6	5.6	1.2	161	1	0.91
11	授業の内容はよく理解できるものであった	4.24	50.9	31.1	11.2	5.0	1.9	161	1	0.97
12	授業は自分の将来にとって意味があると思う	4.42	61.5	26.1	7.5	3.1	1.9	161	1	0.90
13	授業科目の選択や学習時に、「授業内容」(シラバス)は役立った	4.01	44.1	26.1	19.9	6.8	3.1	161	1	1.10
III. あなたのこの授業への取り組みについて							当カテゴリー平均点		4.09	
No.	設問文	平均点	回答率(%)					有効回答	無効回答	標準偏差
			5	4	3	2	1			
14	この授業にはつねに出席した	4.42	57.8	32.3	5.6	3.1	1.2	161	1	0.83
15	この授業のために予習または復習を欠かさなかった	3.45	22.5	26.3	31.9	12.5	6.9	160	2	1.17
16	授業中は私語をせず、携帯電話を切り、真剣に授業を受けた	4.12	42.9	32.9	19.9	2.5	1.9	161	1	0.94
17	授業中質問したり、考えを述べたりして、積極的に参加した	4.04	40.0	33.8	18.8	5.6	1.9	160	2	0.99
18	この授業によって、未知の分野だったことへ関心が広がった	4.39	59.6	24.2	11.8	3.7	0.6	161	1	0.88
IV. 総合的な印象							当カテゴリー平均点		4.62	
No.	設問文	平均点	回答率(%)					有効回答	無効回答	標準偏差
			5	4	3	2	1			
19	*総合的に見て、この授業を受けて良かったと思う	4.62	75.6	15.4	5.8	1.9	1.3	156	6	0.79

Q1-Q19の当区分平均値	4.32
Q1-Q19の学部全体平均値	4.08
Q1-Q19の学部全体平均値-2σ	3.37



2011年度前期 授業に関するアンケート集計結果(クラスサイズ別)

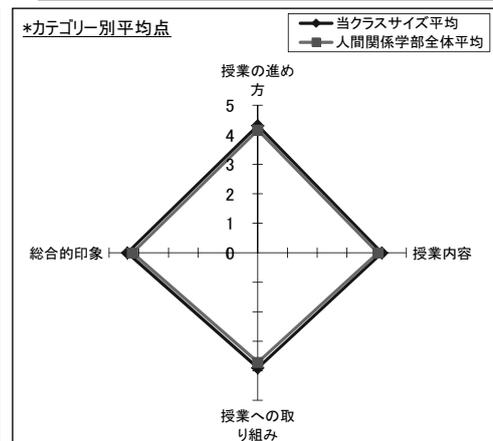
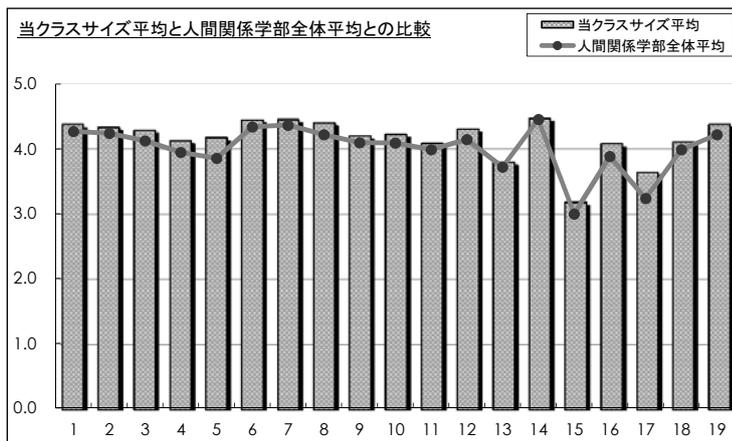
大妻女子大学

クラスサイズ	16~49名
--------	--------

履修者数	1,513
回答者数	1,257

I. 先生のこの授業の進め方について							当カテゴリー平均点		4.32	
No.	設問文	平均点	回答率(%)					有効回答	無効回答	標準偏差
			5	4	3	2	1			
1	先生の話し方は明瞭で聞き取りやすかった	4.38	57.6	28.8	8.8	3.7	1.0	1257	0	0.87
2	教材資料提示(板書、プリント、パワーポイント・ビデオ等)は授業の理解に役立った	4.34	53.0	32.6	10.9	2.3	1.3	1241	16	0.86
3	私語等の授業を妨げる行為に対して先生は適切な措置をした ※授業が静かなので注意を受けなかった場合は、5をマーク	4.29	52.9	27.9	15.2	3.3	0.6	1256	1	0.88
4	授業は学生の理解度を考慮しながら進められた	4.14	46.0	32.5	13.3	5.7	2.5	1255	2	1.01
5	質問や意見を引き出し、学生の積極的な参加を促した	4.18	47.2	29.8	17.9	4.0	1.2	1253	4	0.94
6	先生の学生に対する接し方は公平だった	4.45	61.5	26.4	8.7	2.5	0.9	1256	1	0.82
7	授業は先生の十分な準備と熱意をもって行われた	4.46	59.7	29.6	8.2	2.1	0.5	1255	2	0.77
II. この授業の内容について							当カテゴリー平均点		4.18	
No.	設問文	平均点	回答率(%)					有効回答	無効回答	標準偏差
			5	4	3	2	1			
8	授業は、学習の目標がはっきり示された	4.41	58.0	29.1	9.2	2.8	0.9	1257	0	0.84
9	授業の構成は体系的で把握しやすくとまっていた	4.21	48.4	32.4	12.4	4.7	2.0	1255	2	0.97
10	授業の内容は興味深いものだった	4.23	51.8	27.8	13.9	4.9	1.6	1255	2	0.97
11	授業の内容はよく理解できるものであった	4.09	44.1	32.7	14.1	6.6	2.5	1249	8	1.03
12	授業は自分の将来にとって意味があると思う	4.31	55.6	27.2	11.8	3.7	1.8	1256	1	0.94
13	授業科目の選択や学習時に、「授業内容」(シラバス)は役立った	3.81	33.3	28.1	28.6	6.4	3.7	1253	4	1.08
III. あなたのこの授業への取り組みについて							当カテゴリー平均点		3.90	
No.	設問文	平均点	回答率(%)					有効回答	無効回答	標準偏差
			5	4	3	2	1			
14	この授業にはつねに出席した	4.48	63.8	23.6	9.5	2.7	0.4	1255	2	0.81
15	この授業のために予習または復習を欠かさなかった	3.19	15.8	23.0	35.0	16.5	9.7	1238	19	1.18
16	授業中は私語をせず、携帯電話を切り、真剣に授業を受けた	4.09	40.9	34.3	18.2	5.7	0.9	1246	11	0.94
17	授業中質問したり、考えを述べたりして、積極的に参加した	3.65	28.3	29.9	24.9	12.6	4.3	1248	9	1.14
18	この授業によって、未知の分野だったことへ関心が広がった	4.11	44.3	31.4	17.0	5.9	1.4	1246	11	0.98
IV. 総合的な印象							当カテゴリー平均点		4.39	
No.	設問文	平均点	回答率(%)					有効回答	無効回答	標準偏差
			5	4	3	2	1			
19	*総合的に見て、この授業を受けて良かったと思う	4.39	58.5	27.3	10.1	3.0	1.1	1218	39	0.87

Q1-Q19の当区分平均値	4.17
Q1-Q19の学部全体平均値	4.01
Q1-Q19の学部全体平均値-2σ	3.23



2011年度後期 授業に関するアンケート集計結果(クラスサイズ別)

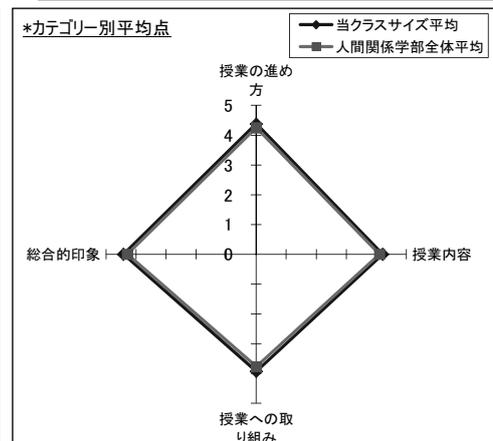
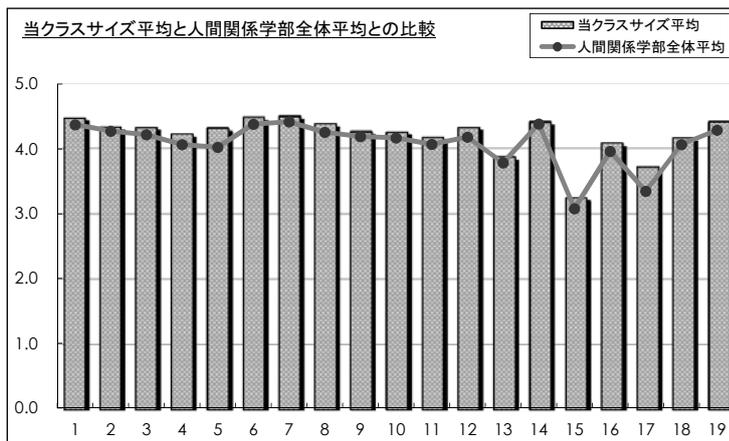
大妻女子大学

クラスサイズ 16~49名

履修者数	2,109
回答者数	1,541

I. 先生のこの授業の進め方について							当カテゴリ平均点		4.38	
No.	設問文	平均点	回答率(%)					有効回答	無効回答	標準偏差
			5	4	3	2	1			
1	先生の話し方は明瞭で聞き取りやすかった	4.47	61.8	27.5	7.6	2.6	0.5	1539	2	0.79
2	教材資料提示(板書、プリント、パワーポイント・ビデオ等)は授業の理解に役立った	4.33	52.9	31.4	12.6	2.2	0.9	1528	13	0.84
3	私語等の授業を妨げる行為に対して先生は適切な措置をした ※授業が静かなので注意を受けなかった場合は、5をマーク	4.33	53.2	29.9	14.3	2.1	0.5	1532	9	0.83
4	授業は学生の理解度を考慮しながら進められた	4.23	48.0	33.0	13.8	4.2	1.0	1536	5	0.91
5	質問や意見を引き出し、学生の積極的な参加を促した	4.32	53.1	29.8	14.1	2.3	0.7	1533	8	0.85
6	先生の学生に対する接し方は公平だった	4.48	62.4	26.8	8.1	2.2	0.5	1531	10	0.78
7	授業は先生の十分な準備と熱意をもって行われた	4.50	62.0	28.3	8.3	1.3	0.2	1527	14	0.72
II. この授業の内容について							当カテゴリ平均点		4.22	
No.	設問文	平均点	回答率(%)					有効回答	無効回答	標準偏差
			5	4	3	2	1			
8	授業は、学習の目標がはっきり示された	4.39	56.7	29.3	10.2	3.2	0.5	1535	6	0.83
9	授業の構成は体系的で把握しやすくとまっていた	4.26	49.8	32.1	13.5	3.8	0.8	1535	6	0.89
10	授業の内容は興味深いものだった	4.26	50.2	31.5	13.3	4.1	0.9	1536	5	0.90
11	授業の内容はよく理解できるものであった	4.18	45.7	33.4	14.9	5.2	0.8	1533	8	0.92
12	授業は自分の将来にとって意味があると思う	4.33	54.3	29.2	12.3	3.5	0.7	1534	7	0.87
13	授業科目の選択や学習時に、「授業内容」(シラバス)は役立った	3.88	34.9	29.0	27.7	5.7	2.7	1526	15	1.04
III. あなたのこの授業への取り組みについて							当カテゴリ平均点		3.93	
No.	設問文	平均点	回答率(%)					有効回答	無効回答	標準偏差
			5	4	3	2	1			
14	この授業にはつねに出席した	4.41	58.8	27.4	10.3	3.2	0.3	1537	4	0.82
15	この授業のために予習または復習を欠かさなかった	3.25	18.3	23.6	33.7	14.1	10.3	1528	13	1.21
16	授業中は私語をせず、携帯電話を切り、真剣に授業を受けた	4.09	41.2	32.8	20.2	4.9	0.9	1533	8	0.94
17	授業中質問したり、考えを述べたりして、積極的に参加した	3.72	29.7	29.7	27.4	9.9	3.4	1531	10	1.09
18	この授業によって、未知の分野だったことへ関心が広がった	4.17	44.5	33.8	16.7	4.1	0.8	1529	12	0.91
IV. 総合的な印象							当カテゴリ平均点		4.42	
No.	設問文	平均点	回答率(%)					有効回答	無効回答	標準偏差
			5	4	3	2	1			
19	*総合的に見て、この授業を受けて良かったと思う	4.42	59.4	27.0	10.4	2.6	0.5	1484	57	0.82

Q1-Q19の当区分平均値	4.21
Q1-Q19の学部全体平均値	4.08
Q1-Q19の学部全体平均値-2σ	3.37



2011年度前期 授業に関するアンケート集計結果(クラスサイズ別)

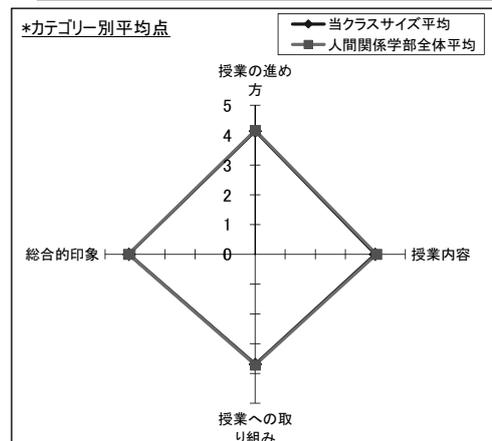
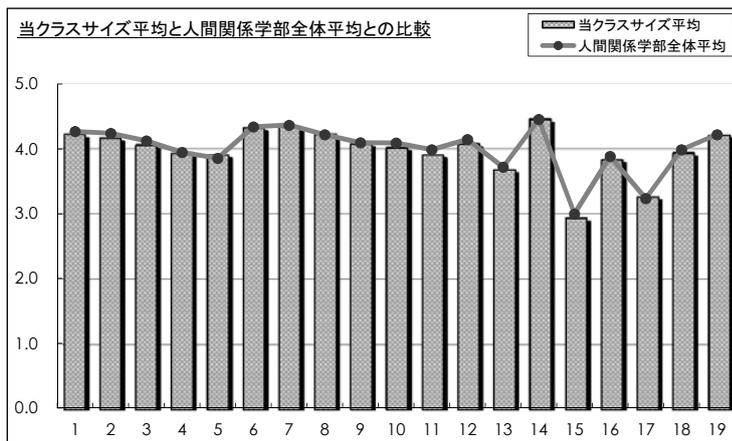
大妻女子大学

クラスサイズ	50~100名
--------	---------

履修者数	2,426
回答者数	1,895

I. 先生のこの授業の進め方について							当カテゴリー平均点		4.14	
No.	設問文	平均点	回答率(%)					有効回答	無効回答	標準偏差
			5	4	3	2	1			
1	先生の話し方は明瞭で聞き取りやすかった	4.22	50.1	31.2	11.6	5.3	1.8	1894	1	0.97
2	教材資料提示(板書、プリント、パワーポイント・ビデオ等)は授業の理解に役立った	4.17	46.4	32.1	15.0	4.6	1.8	1893	2	0.97
3	私語等の授業を妨げる行為に対して先生は適切な措置をした ※授業が静かなので注意を受けなかった場合は、5をマーク	4.06	43.0	31.0	17.6	6.2	2.2	1895	0	1.02
4	授業は学生の理解度を考慮しながら進められた	3.93	37.2	32.1	20.7	7.1	2.9	1892	3	1.06
5	質問や意見を引き出し、学生の積極的な参加を促した	3.91	34.6	32.8	24.1	6.5	2.1	1890	5	1.01
6	先生の学生に対する接し方は公平だった	4.33	54.1	29.7	12.5	2.3	1.4	1890	5	0.88
7	授業は先生の十分な準備と熱意をもって行われた	4.34	52.5	33.0	11.8	1.6	1.1	1889	6	0.83
II. この授業の内容について							当カテゴリー平均点		4.00	
No.	設問文	平均点	回答率(%)					有効回答	無効回答	標準偏差
			5	4	3	2	1			
8	授業は、学習の目標がはっきり示された	4.22	47.0	33.4	15.6	2.8	1.2	1894	1	0.89
9	授業の構成は体系的で把握しやすくとまっていた	4.08	42.1	32.8	17.9	4.9	2.2	1894	1	1.00
10	授業の内容は興味深いものだった	4.02	39.6	33.2	19.2	5.7	2.3	1891	4	1.01
11	授業の内容はよく理解できるものであった	3.91	34.7	34.5	20.8	6.8	3.2	1889	6	1.05
12	授業は自分の将来にとって意味があると思う	4.08	42.4	32.2	18.1	5.4	1.9	1890	5	0.99
13	授業科目の選択や学習時に、「授業内容」(シラバス)は役立った	3.69	26.6	29.9	32.7	7.0	3.8	1883	12	1.06
III. あなたのこの授業への取り組みについて							当カテゴリー平均点		3.69	
No.	設問文	平均点	回答率(%)					有効回答	無効回答	標準偏差
			5	4	3	2	1			
14	この授業にはつねに出席した	4.46	61.6	26.3	9.4	2.1	0.7	1889	6	0.80
15	この授業のために予習または復習を欠かさなかった	2.94	11.6	18.2	37.0	18.7	14.5	1888	7	1.19
16	授業中は私語をせず、携帯電話を切り、真剣に授業を受けた	3.83	30.0	34.7	25.9	7.2	2.2	1886	9	1.01
17	授業中質問したり、考えを述べたりして、積極的に参加した	3.26	17.7	22.4	36.4	15.6	7.8	1888	7	1.15
18	この授業によって、未知の分野だったことへ関心が広がった	3.94	34.6	34.6	23.2	5.0	2.5	1886	9	1.00
IV. 総合的な印象							当カテゴリー平均点		4.21	
No.	設問文	平均点	回答率(%)					有効回答	無効回答	標準偏差
			5	4	3	2	1			
19	*総合的に見て、この授業を受けて良かったと思う	4.21	48.1	31.9	14.9	3.2	1.8	1841	54	0.94

Q1-Q19の当区分平均値	3.98
Q1-Q19の学部全体平均値	4.01
Q1-Q19の学部全体平均値-2σ	3.23



2011年度後期 授業に関するアンケート集計結果(クラスサイズ別)

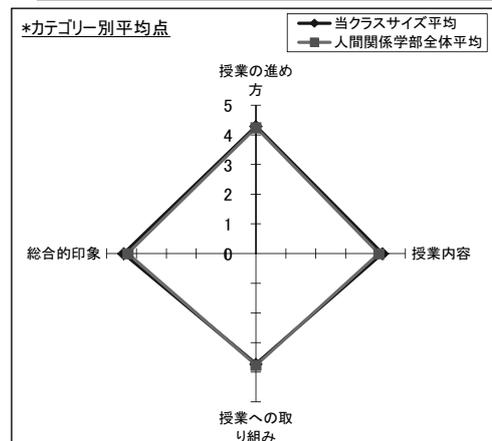
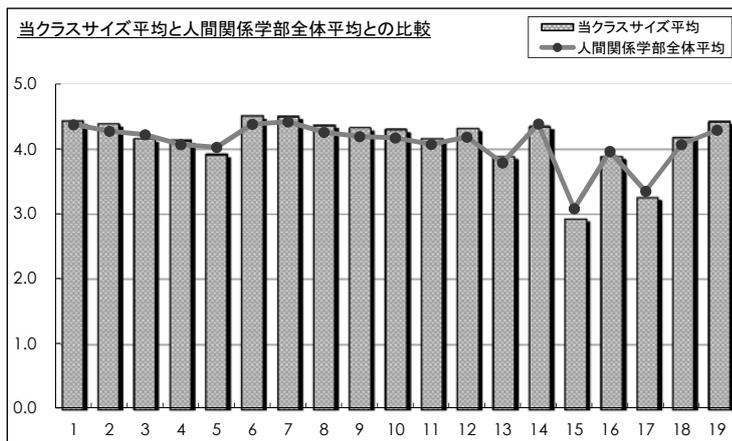
大妻女子大学

クラスサイズ 50~100名

履修者数	1,674
回答者数	1,157

I. 先生のこの授業の進め方について							当カテゴリ平均点		4.30	
No.	設問文	平均点	回答率(%)					有効回答	無効回答	標準偏差
			5	4	3	2	1			
1	先生の話し方は明瞭で聞き取りやすかった	4.44	58.3	30.9	7.8	2.4	0.6	1155	2	0.79
2	教材資料提示(板書、プリント、パワーポイント・ビデオ等)は授業の理解に役立った	4.39	54.6	33.6	9.0	2.2	0.6	1154	3	0.79
3	私語等の授業を妨げる行為に対して先生は適切な措置をした ※授業が静かなので注意を受けなかった場合は、5をマーク	4.17	45.9	30.8	17.9	4.4	0.9	1154	3	0.93
4	授業は学生の理解度を考慮しながら進められた	4.14	43.4	34.1	16.8	4.6	1.1	1154	3	0.93
5	質問や意見を引き出し、学生の積極的な参加を促した	3.93	36.7	30.0	25.0	5.9	2.4	1150	7	1.03
6	先生の学生に対する接し方は公平だった	4.52	63.5	26.6	8.4	1.0	0.5	1154	3	0.73
7	授業は先生の十分な準備と熱意をもって行われた	4.51	61.6	30.0	6.5	1.2	0.6	1152	5	0.73
II. この授業の内容について							当カテゴリ平均点		4.24	
No.	設問文	平均点	回答率(%)					有効回答	無効回答	標準偏差
			5	4	3	2	1			
8	授業は、学習の目標がはっきり示された	4.38	53.9	33.4	10.1	1.7	0.9	1153	4	0.80
9	授業の構成は体系的で把握しやすくとまっていた	4.34	52.4	33.6	10.4	2.5	1.1	1153	4	0.85
10	授業の内容は興味深いものだった	4.31	52.2	31.7	12.1	3.0	1.0	1153	4	0.87
11	授業の内容はよく理解できるものであった	4.17	42.8	37.6	14.6	3.8	1.1	1154	3	0.89
12	授業は自分の将来にとって意味があると思う	4.33	53.2	30.9	12.2	2.6	1.0	1152	5	0.86
13	授業科目の選択や学習時に、「授業内容」(シラバス)は役立った	3.90	34.8	30.1	27.0	6.4	1.7	1151	6	1.01
III. あなたのこの授業への取り組みについて							当カテゴリ平均点		3.73	
No.	設問文	平均点	回答率(%)					有効回答	無効回答	標準偏差
			5	4	3	2	1			
14	この授業にはつねに出席した	4.35	55.1	30.6	9.8	3.6	0.9	1152	5	0.87
15	この授業のために予習または復習を欠かさなかった	2.94	14.2	16.8	34.3	17.8	16.9	1152	5	1.26
16	授業中は私語をせず、携帯電話を切り、真剣に授業を受けた	3.90	34.8	32.4	22.9	7.8	2.1	1151	6	1.03
17	授業中質問したり、考えを述べたりして、積極的に参加した	3.26	21.2	21.7	30.4	15.4	11.3	1151	6	1.27
18	この授業によって、未知の分野だったことへ関心が広がった	4.18	44.4	35.4	15.8	3.1	1.3	1151	6	0.90
IV. 総合的な印象							当カテゴリ平均点		4.43	
No.	設問文	平均点	回答率(%)					有効回答	無効回答	標準偏差
			5	4	3	2	1			
19	*総合的に見て、この授業を受けて良かったと思う	4.43	57.4	30.6	10.0	1.7	0.4	1121	36	0.77

Q1-Q19の当区分平均値	4.14
Q1-Q19の学部全体平均値	4.08
Q1-Q19の学部全体平均値-2σ	3.37



2011年度前期 授業に関するアンケート集計結果(クラスサイズ別)

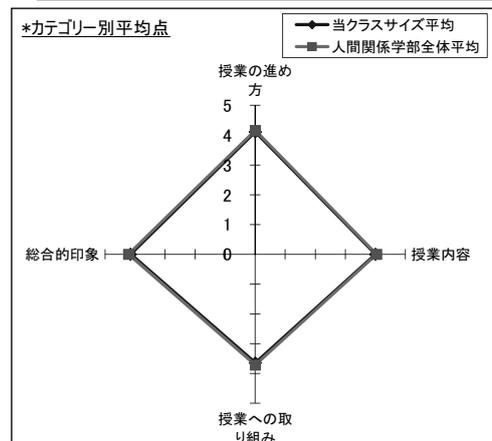
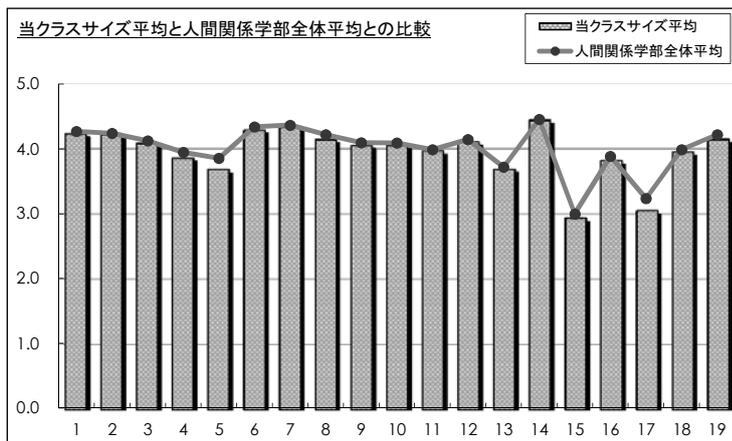
大妻女子大学

クラスサイズ	101名以上
--------	--------

履修者数	5,560
回答者数	4,155

I. 先生のこの授業の進め方について							当カテゴリー平均点		4.11	
No.	設問文	平均点	回答率(%)					有効回答	無効回答	標準偏差
			5	4	3	2	1			
1	先生の話し方は明瞭で聞き取りやすかった	4.24	50.3	31.0	12.7	4.6	1.4	4151	4	0.94
2	教材資料提示(板書、プリント、パワーポイント・ビデオ等)は授業の理解に役立った	4.23	48.4	32.7	13.5	4.3	1.1	4147	8	0.91
3	私語等の授業を妨げる行為に対して先生は適切な措置をした ※授業が静かなので注意を受けなかった場合は、5をマーク	4.09	43.2	31.7	17.8	5.3	2.1	4148	7	1.00
4	授業は学生の理解度を考慮しながら進められた	3.87	33.0	32.2	25.3	7.2	2.2	4146	9	1.03
5	質問や意見を引き出し、学生の積極的な参加を促した	3.69	30.1	27.0	28.7	10.4	3.8	4139	16	1.12
6	先生の学生に対する接し方は公平だった	4.30	51.3	30.7	15.1	2.1	0.9	4132	23	0.86
7	授業は先生の十分な準備と熱意をもって行われた	4.34	52.6	32.1	12.4	2.2	0.7	4126	29	0.83
II. この授業の内容について							当カテゴリー平均点		4.01	
No.	設問文	平均点	回答率(%)					有効回答	無効回答	標準偏差
			5	4	3	2	1			
8	授業は、学習の目標がはっきり示された	4.15	44.5	33.2	16.2	4.5	1.5	4145	10	0.95
9	授業の構成は体系的で把握しやすくとまっていた	4.06	41.4	32.6	18.5	5.4	2.1	4144	11	1.00
10	授業の内容は興味深いものだった	4.06	42.7	31.7	17.0	6.1	2.4	4144	11	1.03
11	授業の内容はよく理解できるものであった	3.97	38.4	32.4	19.7	6.8	2.6	4136	19	1.04
12	授業は自分の将来にとって意味があると思う	4.11	44.6	31.3	16.8	5.2	2.1	4137	18	1.00
13	授業科目の選択や学習時に、「授業内容」(シラバス)は役立った	3.70	27.4	29.7	31.7	8.0	3.3	4131	24	1.06
III. あなたのこの授業への取り組みについて							当カテゴリー平均点		3.65	
No.	設問文	平均点	回答率(%)					有効回答	無効回答	標準偏差
			5	4	3	2	1			
14	この授業にはつねに出席した	4.45	61.5	25.7	9.7	2.5	0.6	4142	13	0.82
15	この授業のために予習または復習を欠かさなかった	2.94	11.5	19.7	34.9	19.0	14.8	4140	15	1.20
16	授業中は私語をせず、携帯電話を切り、真剣に授業を受けた	3.83	29.8	34.0	26.8	7.8	1.7	4138	17	1.00
17	授業中質問したり、考えを述べたりして、積極的に参加した	3.05	15.3	19.2	34.2	18.2	13.1	4139	16	1.23
18	この授業によって、未知の分野だったことへ関心が広がった	3.96	36.9	33.1	21.6	5.7	2.7	4123	32	1.03
IV. 総合的な印象							当カテゴリー平均点		4.15	
No.	設問文	平均点	回答率(%)					有効回答	無効回答	標準偏差
			5	4	3	2	1			
19	*総合的に見て、この授業を受けて良かったと思う	4.15	47.9	29.0	16.3	4.3	2.6	4038	117	1.01

Q1-Q19の当区分平均値	3.96
Q1-Q19の学部全体平均値	4.01
Q1-Q19の学部全体平均値-2σ	3.23



2011年度後期 授業に関するアンケート集計結果(クラスサイズ別)

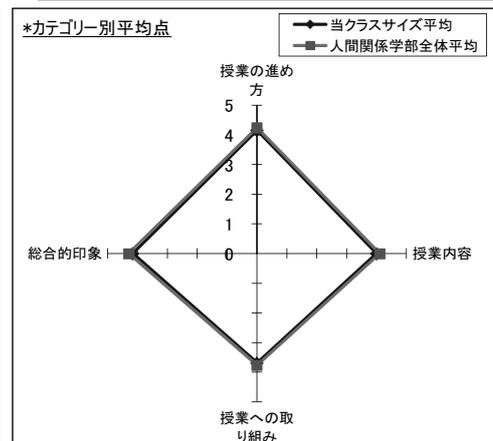
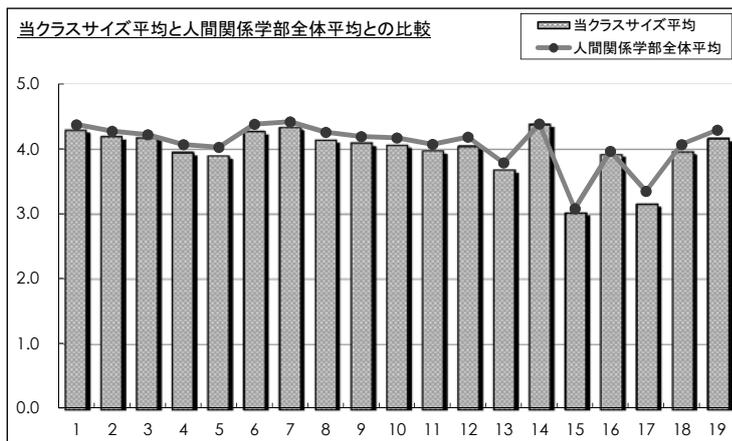
大妻女子大学

クラスサイズ	101名以上
--------	--------

履修者数	4,873
回答者数	3,167

I. 先生のこの授業の進め方について							当カテゴリー平均点		4.16	
No.	設問文	平均点	回答率(%)					有効回答	無効回答	標準偏差
			5	4	3	2	1			
1	先生の話し方は明瞭で聞き取りやすかった	4.30	52.4	31.1	11.4	3.9	1.2	3164	3	0.90
2	教材資料提示(板書、プリント、パワーポイント・ビデオ等)は授業の理解に役立った	4.20	46.6	33.8	13.9	4.2	1.6	3162	5	0.94
3	私語等の授業を妨げる行為に対して先生は適切な措置をした ※授業が静かなので注意を受けなかった場合は、5をマーク	4.18	46.6	32.8	14.5	4.3	1.7	3162	5	0.95
4	授業は学生の理解度を考慮しながら進められた	3.95	34.6	35.1	22.6	5.9	1.8	3161	6	0.98
5	質問や意見を引き出し、学生の積極的な参加を促した	3.90	34.3	32.0	24.6	6.9	2.1	3158	9	1.02
6	先生の学生に対する接し方は公平だった	4.28	50.3	31.8	14.2	2.7	1.0	3157	10	0.88
7	授業は先生の十分な準備と熱意をもって行われた	4.34	52.3	32.8	12.1	2.0	0.8	3151	16	0.83
II. この授業の内容について							当カテゴリー平均点		4.00	
No.	設問文	平均点	回答率(%)					有効回答	無効回答	標準偏差
			5	4	3	2	1			
8	授業は、学習の目標がはっきり示された	4.14	43.4	34.1	17.3	3.9	1.3	3160	7	0.93
9	授業の構成は体系的で把握しやすくとまっていた	4.10	40.5	36.1	17.5	4.4	1.5	3157	10	0.94
10	授業の内容は興味深いものだった	4.07	40.7	34.2	17.9	5.3	1.9	3159	8	0.98
11	授業の内容はよく理解できるものであった	3.97	35.0	36.8	20.4	6.0	1.7	3155	12	0.97
12	授業は自分の将来にとって意味があると思う	4.05	40.7	32.3	20.0	5.3	1.7	3155	12	0.99
13	授業科目の選択や学習時に、「授業内容」(シラバス)は役立った	3.69	27.0	28.5	33.9	7.5	3.1	3148	19	1.05
III. あなたのこの授業への取り組みについて							当カテゴリー平均点		3.69	
No.	設問文	平均点	回答率(%)					有効回答	無効回答	標準偏差
			5	4	3	2	1			
14	この授業にはつねに出席した	4.39	57.4	27.1	12.8	2.3	0.4	3157	10	0.83
15	この授業のために予習または復習を欠かさなかった	3.03	13.5	19.8	36.0	17.0	13.6	3158	9	1.21
16	授業中は私語をせず、携帯電話を切り、真剣に授業を受けた	3.92	32.8	34.7	25.6	5.6	1.3	3151	16	0.96
17	授業中質問したり、考えを述べたりして、積極的に参加した	3.16	16.8	20.1	36.3	15.9	10.9	3157	10	1.20
18	この授業によって、未知の分野だったことへ関心が広がった	3.96	35.5	34.9	22.0	5.2	2.3	3145	22	0.99
IV. 総合的な印象							当カテゴリー平均点		4.16	
No.	設問文	平均点	回答率(%)					有効回答	無効回答	標準偏差
			5	4	3	2	1			
19	*総合的に見て、この授業を受けて良かったと思う	4.16	46.0	31.8	16.6	4.0	1.6	3067	100	0.95

Q1-Q19の当区分平均値	3.99
Q1-Q19の学部全体平均値	4.08
Q1-Q19の学部全体平均値-2σ	3.37



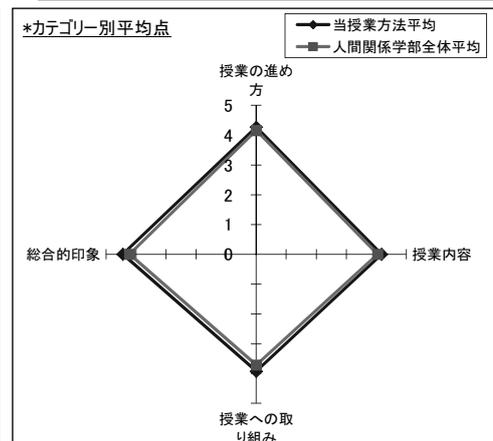
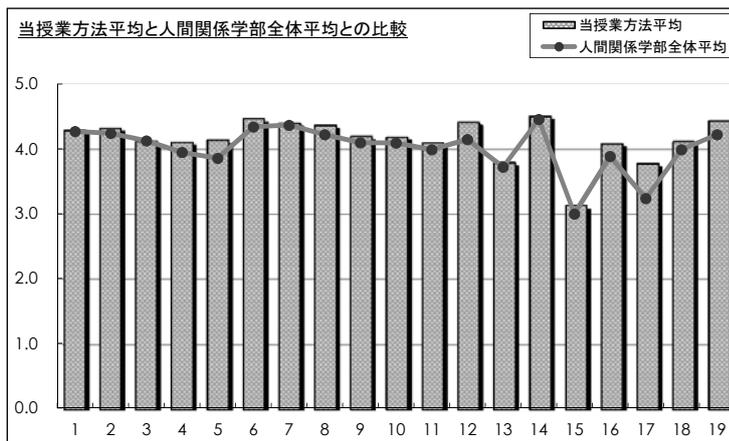
2011年度前期 授業に関するアンケート集計結果(授業方法別)

大妻女子大学

授業方法	演習	履修者数	1,197
		回答者数	1,031

I. 先生のこの授業の進め方について							当カテゴリー平均点		4.27	
No.	設問文	平均点	回答率(%)					有効回答	無効回答	標準偏差
			5	4	3	2	1			
1	先生の話し方は明瞭で聞き取りやすかった	4.29	54.3	29.1	9.9	5.0	1.6	1031	0	0.95
2	教材資料提示(板書、プリント、パワーポイント・ビデオ等)は授業の理解に役立った	4.33	53.0	32.1	11.1	2.8	1.1	1029	2	0.86
3	私語等の授業を妨げる行為に対して先生は適切な措置をした ※授業が静かなので注意を受けなかった場合は、5をマーク	4.13	46.0	28.7	18.9	5.0	1.4	1031	0	0.98
4	授業は学生の理解度を考慮しながら進められた	4.12	46.0	31.7	13.2	6.2	2.9	1030	1	1.04
5	質問や意見を引き出し、学生の積極的な参加を促した	4.14	45.6	30.4	18.5	3.8	1.8	1027	4	0.96
6	先生の学生に対する接し方は公平だった	4.47	62.0	27.0	8.1	2.0	0.9	1029	2	0.80
7	授業は先生の十分な準備と熱意をもって行われた	4.41	56.6	31.6	8.3	2.7	0.8	1027	4	0.82
II. この授業の内容について							当カテゴリー平均点		4.18	
No.	設問文	平均点	回答率(%)					有効回答	無効回答	標準偏差
			5	4	3	2	1			
8	授業は、学習の目標がはっきり示された	4.37	56.3	30.3	8.9	3.5	1.1	1031	0	0.87
9	授業の構成は体系的で把握しやすくとまっていた	4.20	48.1	32.6	12.9	4.1	2.3	1031	0	0.97
10	授業の内容は興味深いものだった	4.19	48.2	30.8	14.5	4.7	1.7	1031	0	0.97
11	授業の内容はよく理解できるものであった	4.10	42.4	35.9	14.1	4.7	2.8	1025	6	1.00
12	授業は自分の将来にとって意味があると思う	4.42	60.9	25.6	9.4	2.6	1.5	1030	1	0.87
13	授業科目の選択や学習時に、「授業内容」(シラバス)は役立った	3.80	31.4	29.2	30.5	5.8	3.1	1024	7	1.05
III. あなたのこの授業への取り組みについて							当カテゴリー平均点		3.93	
No.	設問文	平均点	回答率(%)					有効回答	無効回答	標準偏差
			5	4	3	2	1			
14	この授業にはつねに出席した	4.51	66.7	20.9	9.6	2.4	0.4	1030	1	0.80
15	この授業のために予習または復習を欠かさなかった	3.13	16.0	20.8	36.0	14.8	12.4	1027	4	1.21
16	授業中は私語をせず、携帯電話を切り、真剣に授業を受けた	4.09	40.7	34.4	19.1	4.8	1.0	1026	5	0.93
17	授業中質問したり、考えを述べたりして、積極的に参加した	3.78	31.7	30.1	26.4	8.5	3.4	1028	3	1.09
18	この授業によって、未知の分野だったことへ関心が広がった	4.12	43.1	33.1	17.6	4.8	1.4	1027	4	0.95
IV. 総合的な印象							当カテゴリー平均点		4.44	
No.	設問文	平均点	回答率(%)					有効回答	無効回答	標準偏差
			5	4	3	2	1			
19	*総合的に見て、この授業を受けて良かったと思う	4.44	61.4	26.3	8.6	2.7	1.0	991	40	0.84

Q1-Q19の当区分平均値	4.16
Q1-Q19の学部全体平均値	4.01
Q1-Q19の学部全体平均値-2σ	3.23



2011年度後期 授業に関するアンケート集計結果(授業方法別)

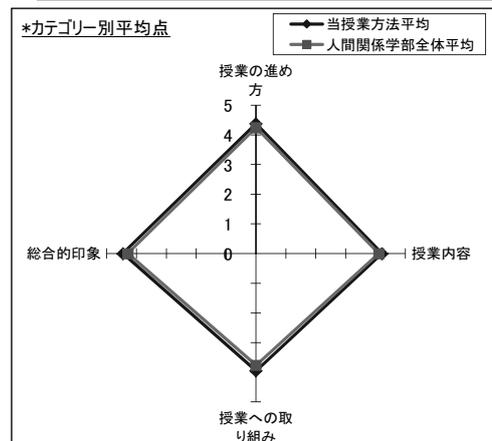
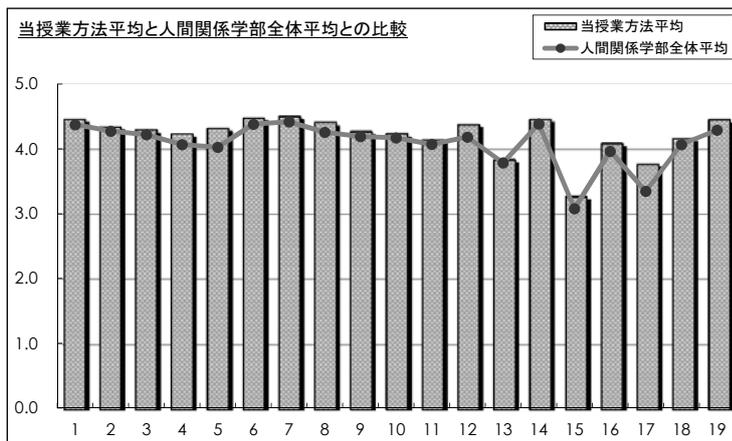
大妻女子大学

授業方法	演習
------	----

履修者数	1,474
回答者数	1,159

I. 先生のこの授業の進め方について							当カテゴリ平均点		4.38	
No.	設問文	平均点	回答率(%)					有効回答	無効回答	標準偏差
			5	4	3	2	1			
1	先生の話し方は明瞭で聞き取りやすかった	4.47	61.2	28.5	7.2	2.5	0.7	1156	3	0.79
2	教材資料提示(板書、プリント、パワーポイント・ビデオ等)は授業の理解に役立った	4.35	53.0	32.7	11.7	1.5	1.1	1155	4	0.83
3	私語等の授業を妨げる行為に対して先生は適切な措置をした ※授業が静かなので注意を受けなかった場合は、5をマーク	4.30	52.4	28.8	15.9	2.3	0.6	1155	4	0.86
4	授業は学生の理解度を考慮しながら進められた	4.24	49.4	32.5	11.9	4.8	1.4	1156	3	0.94
5	質問や意見を引き出し、学生の積極的な参加を促した	4.33	53.9	28.7	14.5	1.9	1.0	1152	7	0.86
6	先生の学生に対する接し方は公平だった	4.49	62.9	26.8	7.3	2.2	0.8	1152	7	0.79
7	授業は先生の十分な準備と熱意をもって行われた	4.51	61.9	29.3	7.0	1.4	0.4	1152	7	0.73
II. この授業の内容について							当カテゴリ平均点		4.22	
No.	設問文	平均点	回答率(%)					有効回答	無効回答	標準偏差
			5	4	3	2	1			
8	授業は、学習の目標がはっきり示された	4.42	58.8	28.4	9.2	2.6	1.0	1154	5	0.84
9	授業の構成は体系的で把握しやすくとまっていた	4.28	49.4	34.1	12.5	2.8	1.2	1154	5	0.87
10	授業の内容は興味深いものだった	4.24	48.1	33.8	13.3	3.9	1.0	1154	5	0.89
11	授業の内容はよく理解できるものであった	4.15	43.7	34.6	15.8	4.6	1.3	1155	4	0.93
12	授業は自分の将来にとって意味があると思う	4.39	57.2	28.6	10.5	2.9	0.8	1155	4	0.85
13	授業科目の選択や学習時に、「授業内容」(シラバス)は役立った	3.85	32.8	29.8	29.2	5.7	2.5	1152	7	1.03
III. あなたのこの授業への取り組みについて							当カテゴリ平均点		3.96	
No.	設問文	平均点	回答率(%)					有効回答	無効回答	標準偏差
			5	4	3	2	1			
14	この授業にはつねに出席した	4.46	63.2	23.8	9.5	3.3	0.3	1153	6	0.82
15	この授業のために予習または復習を欠かさなかった	3.28	17.7	25.2	34.1	13.7	9.4	1153	6	1.18
16	授業中は私語をせず、携帯電話を切り、真剣に授業を受けた	4.10	40.7	34.0	20.1	4.4	0.7	1152	7	0.92
17	授業中質問したり、考えを述べたりして、積極的に参加した	3.78	30.9	30.6	26.6	8.9	3.0	1152	7	1.07
18	この授業によって、未知の分野だったことへ関心が広がった	4.17	44.2	34.2	16.7	4.4	0.5	1150	9	0.90
IV. 総合的な印象							当カテゴリ平均点		4.46	
No.	設問文	平均点	回答率(%)					有効回答	無効回答	標準偏差
			5	4	3	2	1			
19	*総合的に見て、この授業を受けて良かったと思う	4.46	61.1	26.3	10.1	2.3	0.2	1117	42	0.78

Q1-Q19の当区分平均値	4.22
Q1-Q19の学部全体平均値	4.08
Q1-Q19の学部全体平均値-2σ	3.37



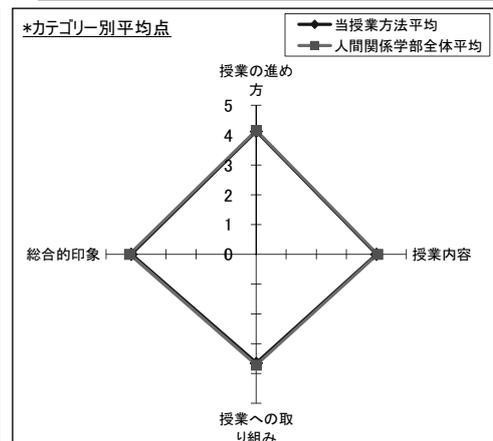
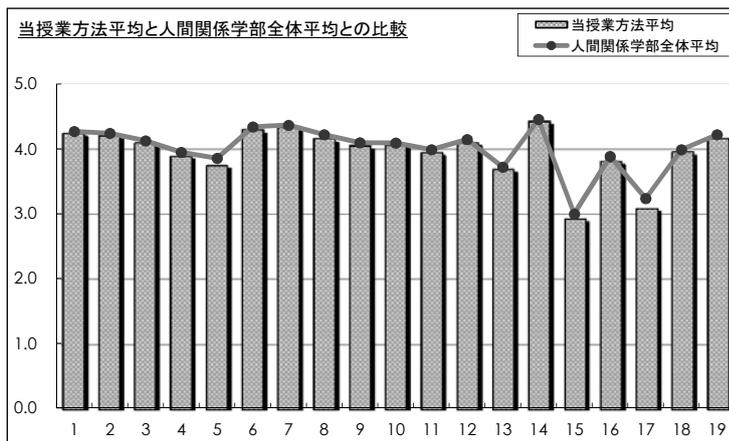
2011年度前期 授業に関するアンケート集計結果(授業方法別)

大妻女子大学

授業方法	講義	履修者数	7,862
		回答者数	5,901

I. 先生のこの授業の進め方について		当カテゴリ平均点					4.12			
No.	設問文	平均点	回答率(%)					有効回答	無効回答	標準偏差
			5	4	3	2	1			
1	先生の話し方は明瞭で聞き取りやすかった	4.25	50.4	31.5	12.0	4.5	1.5	5896	5	0.94
2	教材資料提示(板書、プリント、パワーポイント・ビデオ等)は授業の理解に役立った	4.22	47.4	33.5	13.5	4.4	1.2	5891	10	0.92
3	私語等の授業を妨げる行為に対して先生は適切な措置をした ※授業が静かなので注意を受けなかった場合は、5をマーク	4.10	43.8	31.5	17.3	5.4	2.0	5894	7	1.00
4	授業は学生の理解度を考慮しながら進められた	3.90	34.2	32.9	23.6	6.9	2.3	5888	13	1.03
5	質問や意見を引き出し、学生の積極的な参加を促した	3.76	31.2	29.0	27.2	9.3	3.2	5882	19	1.09
6	先生の学生に対する接し方は公平だった	4.30	51.7	30.9	14.3	2.2	1.0	5873	28	0.86
7	授業は先生の十分な準備と熱意をもって行われた	4.34	52.8	32.4	12.1	2.0	0.7	5867	34	0.82
II. この授業の内容について		当カテゴリ平均点					4.00			
No.	設問文	平均点	回答率(%)					有効回答	無効回答	標準偏差
			5	4	3	2	1			
8	授業は、学習の目標がはっきり示された	4.17	45.0	33.4	16.1	4.1	1.4	5890	11	0.93
9	授業の構成は体系的で把握しやすくとまっていた	4.05	40.9	33.3	18.2	5.4	2.2	5888	13	1.00
10	授業の内容は興味深いものだった	4.07	42.5	32.1	17.1	5.9	2.3	5886	15	1.02
11	授業の内容はよく理解できるものであった	3.95	37.2	33.3	19.8	6.9	2.7	5877	24	1.05
12	授業は自分の将来にとって意味があると思う	4.10	43.6	32.0	17.1	5.2	2.0	5879	22	0.99
13	授業科目の選択や学習時に、「授業内容」(シラバス)は役立った	3.69	27.1	29.8	31.6	7.9	3.5	5870	31	1.06
III. あなたのこの授業への取り組みについて		当カテゴリ平均点					3.65			
No.	設問文	平均点	回答率(%)					有効回答	無効回答	標準偏差
			5	4	3	2	1			
14	この授業にはつねに出席した	4.43	60.2	26.5	10.0	2.6	0.7	5882	19	0.82
15	この授業のために予習または復習を欠かさなかった	2.94	11.2	19.5	35.1	19.8	14.3	5879	22	1.19
16	授業中は私語をせず、携帯電話を切り、真剣に授業を受けた	3.82	29.2	34.8	26.6	7.7	1.8	5876	25	1.00
17	授業中質問したり、考えを述べたりして、積極的に参加した	3.09	14.9	20.7	34.8	18.1	11.6	5880	21	1.20
18	この授業によって、未知の分野だったことへ関心が広がった	3.96	36.6	33.7	21.5	5.7	2.5	5863	38	1.02
IV. 総合的な印象		当カテゴリ平均点					4.16			
No.	設問文	平均点	回答率(%)					有効回答	無効回答	標準偏差
			5	4	3	2	1			
19	*総合的に見て、この授業を受けて良かったと思う	4.16	47.5	30.0	16.1	4.1	2.3	5738	163	0.99

Q1-Q19の当区分平均値	3.96
Q1-Q19の学部全体平均値	4.01
Q1-Q19の学部全体平均値-2σ	3.23



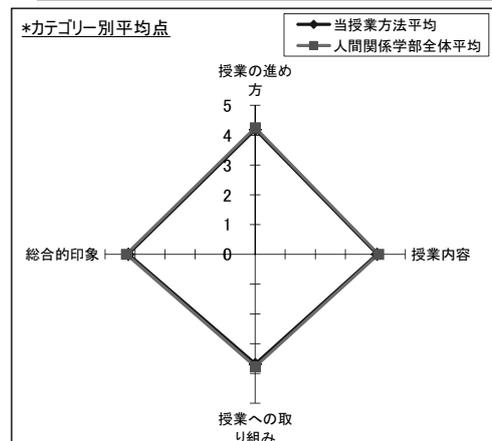
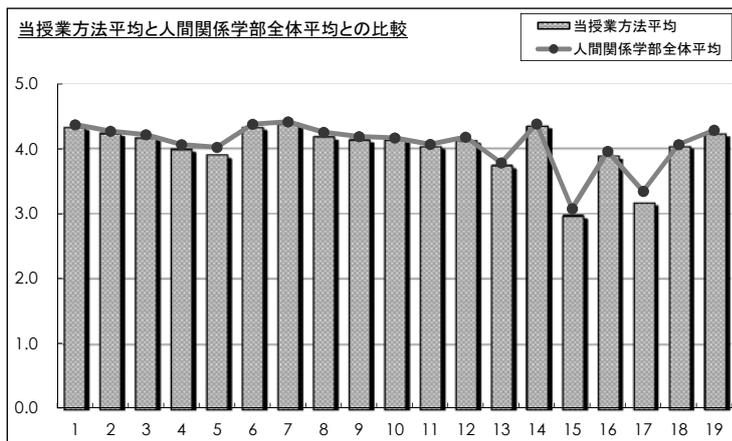
2011年度後期 授業に関するアンケート集計結果(授業方法別)

大妻女子大学

授業方法	講義	履修者数	6,677
		回答者数	4,374

I. 先生のこの授業の進め方について							当カテゴリ平均点		4.19	
No.	設問文	平均点	回答率(%)					有効回答	無効回答	標準偏差
			5	4	3	2	1			
1	先生の話し方は明瞭で聞き取りやすかった	4.33	53.9	30.9	10.5	3.6	1.0	4369	5	0.88
2	教材資料提示(板書、プリント、パワーポイント・ビデオ等)は授業の理解に役立った	4.24	48.1	34.2	12.6	3.9	1.3	4366	8	0.90
3	私語等の授業を妨げる行為に対して先生は適切な措置をした ※授業が静かなので注意を受けなかった場合は、5をマーク	4.17	46.0	32.4	15.6	4.4	1.6	4364	10	0.95
4	授業は学生の理解度を考慮しながら進められた	3.99	36.3	34.8	21.8	5.6	1.5	4364	10	0.97
5	質問や意見を引き出し、学生の積極的な参加を促した	3.90	34.9	31.6	24.6	6.8	2.2	4359	15	1.02
6	先生の学生に対する接し方は公平だった	4.33	53.3	30.5	13.1	2.3	0.8	4360	14	0.85
7	授業は先生の十分な準備と熱意をもって行われた	4.38	54.7	31.7	11.1	1.8	0.7	4348	26	0.81
II. この授業の内容について							当カテゴリ平均点		4.06	
No.	設問文	平均点	回答率(%)					有効回答	無効回答	標準偏差
			5	4	3	2	1			
8	授業は、学習の目標がはっきり示された	4.19	45.1	34.3	15.9	3.6	1.1	4364	10	0.91
9	授業の構成は体系的で把握しやすくとまっていた	4.14	42.7	35.5	16.2	4.4	1.2	4361	13	0.93
10	授業の内容は興味深いものだった	4.14	44.5	33.0	16.2	4.7	1.6	4363	11	0.96
11	授業の内容はよく理解できるものであった	4.04	37.4	37.0	18.7	5.4	1.4	4357	17	0.95
12	授業は自分の将来にとって意味があると思う	4.12	44.1	31.9	17.8	4.7	1.5	4358	16	0.96
13	授業科目の選択や学習時に、「授業内容」(シラバス)は役立った	3.74	29.2	28.8	31.9	7.4	2.8	4347	27	1.04
III. あなたのこの授業への取り組みについて							当カテゴリ平均点		3.68	
No.	設問文	平均点	回答率(%)					有効回答	無効回答	標準偏差
			5	4	3	2	1			
14	この授業にはつねに出席した	4.35	54.8	29.5	12.3	2.8	0.6	4361	13	0.84
15	この授業のために予習または復習を欠かさなかった	2.97	12.8	18.8	36.0	17.5	14.8	4360	14	1.21
16	授業中は私語をせず、携帯電話を切り、真剣に授業を受けた	3.89	32.1	34.3	25.5	6.4	1.6	4354	20	0.98
17	授業中質問したり、考えを述べたりして、積極的に参加した	3.17	17.0	21.1	35.1	15.8	10.9	4358	16	1.21
18	この授業によって、未知の分野だったことへ関心が広がった	4.03	38.3	35.0	20.3	4.4	2.0	4346	28	0.97
IV. 総合的な印象							当カテゴリ平均点		4.23	
No.	設問文	平均点	回答率(%)					有効回答	無効回答	標準偏差
			5	4	3	2	1			
19	*総合的に見て、この授業を受けて良かったと思う	4.23	48.9	31.1	15.0	3.5	1.4	4238	136	0.92

Q1-Q19の当区分平均値	4.02
Q1-Q19の学部全体平均値	4.08
Q1-Q19の学部全体平均値-2σ	3.37



2011年度前期 授業に関するアンケート集計結果(授業方法別)

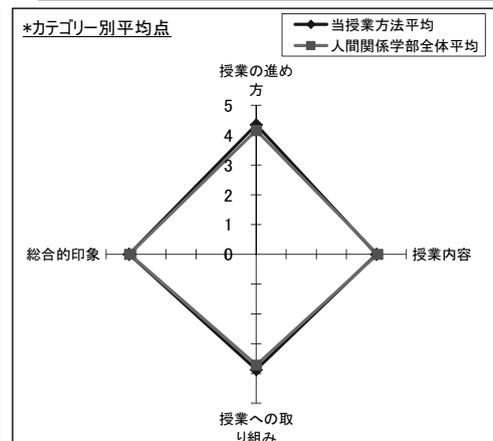
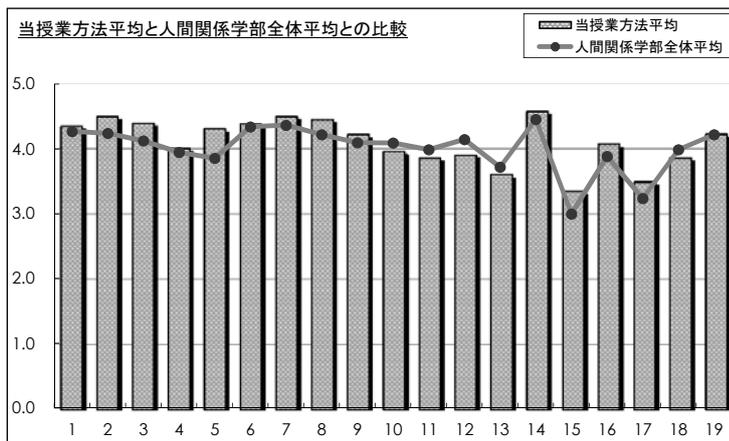
大妻女子大学

授業方法	講義・演習
------	-------

履修者数	416
回答者数	383

I. 先生のこの授業の進め方について							当カテゴリ平均点		4.35	
No.	設問文	平均点	回答率(%)					有効回答	無効回答	標準偏差
			5	4	3	2	1			
1	先生の話し方は明瞭で聞き取りやすかった	4.35	58.7	23.5	12.5	4.7	0.5	383	0	0.91
2	教材資料提示(板書、プリント、パワーポイント・ビデオ等)は授業の理解に役立った	4.50	64.5	23.5	10.2	1.3	0.5	383	0	0.77
3	私語等の授業を妨げる行為に対して先生は適切な措置をした ※授業が静かなので注意を受けなかった場合は、5をマーク	4.40	56.1	29.2	13.1	1.3	0.3	383	0	0.78
4	授業は学生の理解度を考慮しながら進められた	4.01	43.1	27.2	19.6	8.4	1.8	383	0	1.06
5	質問や意見を引き出し、学生の積極的な参加を促した	4.31	52.6	29.1	15.2	2.9	0.3	382	1	0.85
6	先生の学生に対する接し方は公平だった	4.39	59.3	25.6	11.2	2.3	1.6	383	0	0.89
7	授業は先生の十分な準備と熱意をもって行われた	4.50	61.1	28.2	10.4	0.3	0.0	383	0	0.69
II. この授業の内容について							当カテゴリ平均点		4.01	
No.	設問文	平均点	回答率(%)					有効回答	無効回答	標準偏差
			5	4	3	2	1			
8	授業は、学習の目標がはっきり示された	4.45	58.7	29.5	10.4	1.0	0.3	383	0	0.74
9	授業の構成は体系的で把握しやすくとまっていた	4.22	49.6	29.8	14.9	4.7	1.0	383	0	0.94
10	授業の内容は興味深いものだった	3.96	38.6	30.0	22.2	7.3	1.8	383	0	1.03
11	授業の内容はよく理解できるものであった	3.87	35.2	30.3	21.9	11.0	1.6	383	0	1.07
12	授業は自分の将来にとって意味があると思う	3.91	36.6	30.3	23.5	7.3	2.3	383	0	1.05
13	授業科目の選択や学習時に、「授業内容」(シラバス)は役立った	3.61	25.1	26.4	36.8	8.1	3.7	383	0	1.06
III. あなたのこの授業への取り組みについて							当カテゴリ平均点		3.87	
No.	設問文	平均点	回答率(%)					有効回答	無効回答	標準偏差
			5	4	3	2	1			
14	この授業にはつねに出席した	4.58	67.9	24.0	6.5	1.3	0.3	383	0	0.70
15	この授業のために予習または復習を欠かさなかった	3.35	14.4	31.1	36.3	12.0	6.3	383	0	1.07
16	授業中は私語をせず、携帯電話を切り、真剣に授業を受けた	4.08	40.7	33.4	19.1	6.3	0.5	383	0	0.94
17	授業中質問したり、考えを述べたりして、積極的に参加した	3.49	23.6	28.6	26.8	15.5	5.5	381	2	1.17
18	この授業によって、未知の分野だったことへ関心が広がった	3.87	33.5	33.0	23.3	7.1	3.1	382	1	1.06
IV. 総合的な印象							当カテゴリ平均点		4.23	
No.	設問文	平均点	回答率(%)					有効回答	無効回答	標準偏差
			5	4	3	2	1			
19	*総合的に見て、この授業を受けて良かったと思う	4.23	48.2	32.6	14.7	3.2	1.3	380	3	0.91

Q1-Q19の当区分平均値	4.11
Q1-Q19の学部全体平均値	4.01
Q1-Q19の学部全体平均値-2σ	3.23



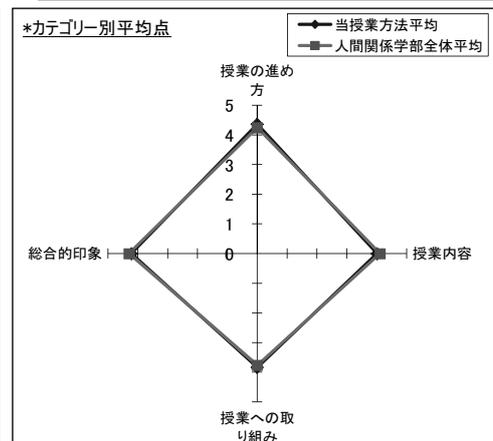
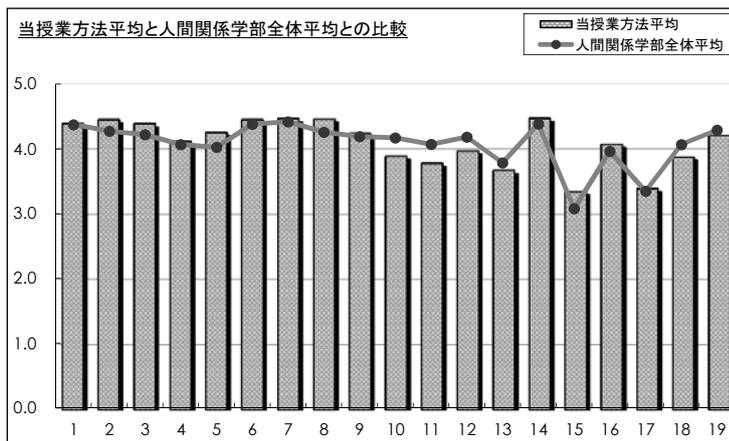
2011年度後期 授業に関するアンケート集計結果(授業方法別)

大妻女子大学

授業方法	講義・演習	履修者数	310
		回答者数	244

I. 先生のこの授業の進め方について							当カテゴリ平均点		4.37	
No.	設問文	平均点	回答率(%)					有効回答	無効回答	標準偏差
			5	4	3	2	1			
1	先生の話し方は明瞭で聞き取りやすかった	4.40	55.7	32.0	9.4	2.0	0.8	244	0	0.81
2	教材資料提示(板書、プリント、パワーポイント・ビデオ等)は授業の理解に役立った	4.46	59.7	28.8	9.5	1.6	0.4	243	1	0.77
3	私語等の授業を妨げる行為に対して先生は適切な措置をした ※授業が静かなので注意を受けなかった場合は、5をマーク	4.39	54.9	32.8	9.4	2.5	0.4	244	0	0.79
4	授業は学生の理解度を考慮しながら進められた	4.12	41.0	38.9	13.5	4.5	2.0	244	0	0.95
5	質問や意見を引き出し、学生の積極的な参加を促した	4.26	46.5	38.3	11.1	2.9	1.2	243	1	0.86
6	先生の学生に対する接し方は公平だった	4.46	60.1	29.6	7.0	2.5	0.8	243	1	0.80
7	授業は先生の十分な準備と熱意をもって行われた	4.47	56.6	36.0	5.8	1.2	0.4	242	2	0.70
II. この授業の内容について							当カテゴリ平均点		4.01	
No.	設問文	平均点	回答率(%)					有効回答	無効回答	標準偏差
			5	4	3	2	1			
8	授業は、学習の目標がはっきり示された	4.47	57.2	34.6	6.6	1.2	0.4	243	1	0.71
9	授業の構成は体系的で把握しやすくとまっていた	4.24	47.3	36.6	11.1	2.9	2.1	243	1	0.91
10	授業の内容は興味深いものだった	3.90	32.1	39.5	16.9	9.5	2.1	243	1	1.02
11	授業の内容はよく理解できるものであった	3.79	28.0	39.1	18.9	11.9	2.1	243	1	1.05
12	授業は自分の将来にとって意味があると思う	3.98	34.9	38.6	18.3	6.2	2.1	241	3	0.99
13	授業科目の選択や学習時に、「授業内容」(シラバス)は役立った	3.68	25.1	32.9	30.5	7.8	3.7	243	1	1.05
III. あなたのこの授業への取り組みについて							当カテゴリ平均点		3.84	
No.	設問文	平均点	回答率(%)					有効回答	無効回答	標準偏差
			5	4	3	2	1			
14	この授業にはつねに出席した	4.48	63.4	24.3	9.9	2.1	0.4	243	1	0.79
15	この授業のために予習または復習を欠かさなかった	3.35	14.8	32.1	31.7	16.5	4.9	243	1	1.07
16	授業中は私語をせず、携帯電話を切り、真剣に授業を受けた	4.08	37.8	38.6	18.3	4.6	0.8	241	3	0.90
17	授業中質問したり、考えを述べたりして、積極的に参加した	3.40	18.5	30.0	30.0	15.6	5.8	243	1	1.13
18	この授業によって、未知の分野だったことへ関心が広がった	3.88	30.9	39.5	19.3	7.8	2.5	243	1	1.01
IV. 総合的な印象							当カテゴリ平均点		4.21	
No.	設問文	平均点	回答率(%)					有効回答	無効回答	標準偏差
			5	4	3	2	1			
19	*総合的に見て、この授業を受けて良かったと思う	4.21	44.9	38.5	11.5	3.4	1.7	234	10	0.90

Q1-Q19の当区分平均値	4.11
Q1-Q19の学部全体平均値	4.08
Q1-Q19の学部全体平均値-2σ	3.37



2011年度前期 授業に関するアンケート集計結果(授業方法別)

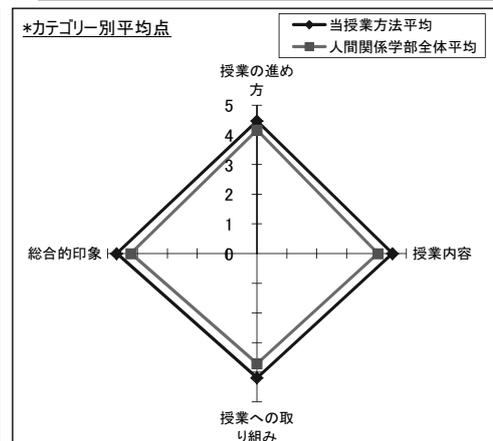
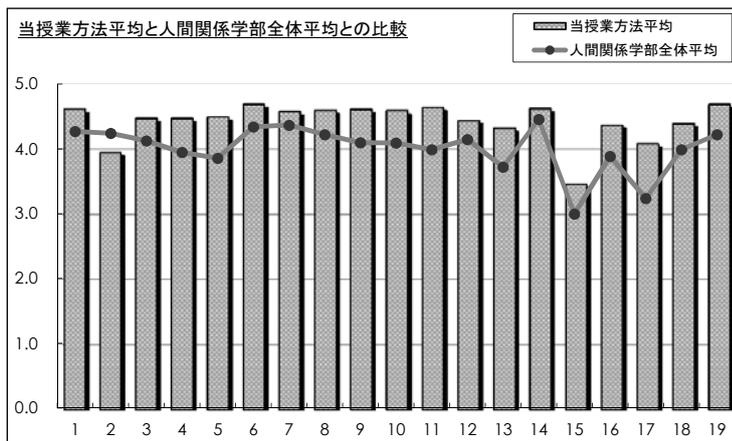
大妻女子大学

授業方法	実技
------	----

履修者数	254
回答者数	189

I. 先生のこの授業の進め方について							当カテゴリ平均点		4.47	
No.	設問文	平均点	回答率(%)					有効回答	無効回答	標準偏差
			5	4	3	2	1			
1	先生の話し方は明瞭で聞き取りやすかった	4.62	76.7	14.3	4.8	2.6	1.6	189	0	0.83
2	教材資料提示(板書、プリント、パワーポイント・ビデオ等)は授業の理解に役立った	3.95	48.0	17.1	25.1	1.7	8.0	175	14	1.24
3	私語等の授業を妨げる行為に対して先生は適切な措置をした ※授業が静かなので注意を受けなかった場合は、5をマーク	4.48	66.0	20.7	9.6	2.7	1.1	188	1	0.86
4	授業は学生の理解度を考慮しながら進められた	4.48	68.3	18.0	9.0	3.2	1.6	189	0	0.90
5	質問や意見を引き出し、学生の積極的な参加を促した	4.50	71.3	12.8	11.7	3.2	1.1	188	1	0.90
6	先生の学生に対する接し方は公平だった	4.69	81.0	10.1	7.4	0.5	1.1	189	0	0.72
7	授業は先生の十分な準備と熱意をもって行われた	4.58	73.5	15.9	7.4	1.6	1.6	189	0	0.83
II. この授業の内容について							当カテゴリ平均点		4.54	
No.	設問文	平均点	回答率(%)					有効回答	無効回答	標準偏差
			5	4	3	2	1			
8	授業は、学習の目標がはっきり示された	4.60	70.9	20.6	6.9	0.5	1.1	189	0	0.73
9	授業の構成は体系的で把握しやすくとまっていた	4.62	73.4	17.6	7.4	0.5	1.1	188	1	0.74
10	授業の内容は興味深いものだった	4.59	75.4	12.8	9.1	1.1	1.6	187	2	0.83
11	授業の内容はよく理解できるものであった	4.65	75.8	15.6	7.0	0.5	1.1	186	3	0.73
12	授業は自分の将来にとって意味があると思う	4.44	66.8	17.1	11.2	3.2	1.6	187	2	0.93
13	授業科目の選択や学習時に、「授業内容」(シラバス)は役立った	4.33	59.4	19.8	17.1	1.6	2.1	187	2	0.96
III. あなたのこの授業への取り組みについて							当カテゴリ平均点		4.19	
No.	設問文	平均点	回答率(%)					有効回答	無効回答	標準偏差
			5	4	3	2	1			
14	この授業にはつねに出席した	4.63	72.9	19.7	5.9	0.5	1.1	188	1	0.72
15	この授業のために予習または復習を欠かさなかった	3.47	35.6	11.5	32.2	5.2	15.5	174	15	1.42
16	授業中は私語をせず、携帯電話を切り、真剣に授業を受けた	4.37	63.7	18.1	13.2	1.6	3.3	182	7	1.00
17	授業中質問したり、考えを述べたりして、積極的に参加した	4.09	53.6	18.0	18.0	4.4	6.0	183	6	1.20
18	この授業によって、未知の分野だったことへ関心が広がった	4.40	65.2	15.5	15.5	1.7	2.2	181	8	0.96
IV. 総合的な印象							当カテゴリ平均点		4.69	
No.	設問文	平均点	回答率(%)					有効回答	無効回答	標準偏差
			5	4	3	2	1			
19	*総合的に見て、この授業を受けて良かったと思う	4.69	78.3	15.6	4.4	0.6	1.1	180	9	0.69

Q1-Q19の当区分平均値	4.44
Q1-Q19の学部全体平均値	4.01
Q1-Q19の学部全体平均値-2σ	3.23



2011年度後期 授業に関するアンケート集計結果(授業方法別)

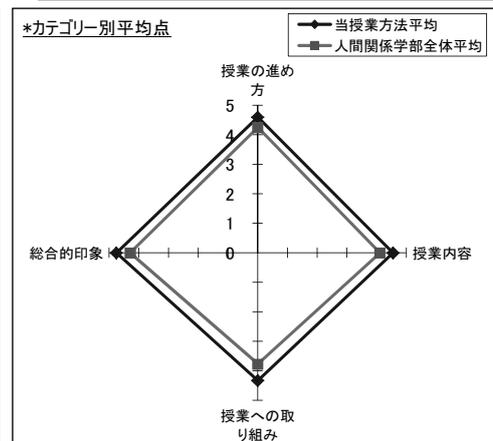
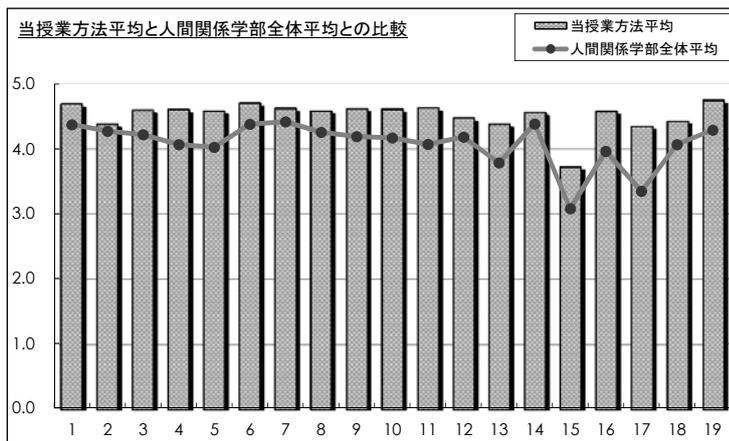
大妻女子大学

授業方法	実技
------	----

履修者数	384
回答者数	223

I. 先生のこの授業の進め方について							当カテゴリ平均点		4.60	
No.	設問文	平均点	回答率(%)					有効回答	無効回答	標準偏差
			5	4	3	2	1			
1	先生の話し方は明瞭で聞き取りやすかった	4.70	78.0	14.8	5.8	1.3	0.0	223	0	0.64
2	教材資料提示(板書、プリント、パワーポイント・ビデオ等)は授業の理解に役立った	4.38	62.0	17.8	18.3	0.5	1.4	213	10	0.90
3	私語等の授業を妨げる行為に対して先生は適切な措置をした ※授業が静かなので注意を受けなかった場合は、5をマーク	4.60	68.5	24.2	6.4	0.5	0.5	219	4	0.67
4	授業は学生の理解度を考慮しながら進められた	4.61	69.7	23.1	5.9	0.9	0.5	221	2	0.68
5	質問や意見を引き出し、学生の積極的な参加を促した	4.59	69.2	21.3	9.0	0.0	0.5	221	2	0.69
6	先生の学生に対する接し方は公平だった	4.71	76.5	18.6	4.1	0.9	0.0	221	2	0.59
7	授業は先生の十分な準備と熱意をもって行われた	4.63	72.4	20.4	5.9	0.5	0.9	221	2	0.70
II. この授業の内容について							当カテゴリ平均点		4.56	
No.	設問文	平均点	回答率(%)					有効回答	無効回答	標準偏差
			5	4	3	2	1			
8	授業は、学習の目標がはっきり示された	4.59	69.7	22.6	5.4	1.8	0.5	221	2	0.72
9	授業の構成は体系的で把握しやすくとまっていた	4.62	71.9	20.4	6.3	0.9	0.5	221	2	0.69
10	授業の内容は興味深いものだった	4.62	71.6	19.4	8.1	0.9	0.0	222	1	0.67
11	授業の内容はよく理解できるものであった	4.64	73.3	19.0	6.3	0.9	0.5	221	2	0.68
12	授業は自分の将来にとって意味があると思う	4.48	65.6	19.0	13.6	1.4	0.5	221	2	0.81
13	授業科目の選択や学習時に、「授業内容」(シラバス)は役立った	4.38	60.4	22.1	14.3	1.8	1.4	217	6	0.90
III. あなたのこの授業への取り組みについて							当カテゴリ平均点		4.33	
No.	設問文	平均点	回答率(%)					有効回答	無効回答	標準偏差
			5	4	3	2	1			
14	この授業にはつねに出席した	4.57	65.5	26.9	6.3	1.3	0.0	223	0	0.67
15	この授業のために予習または復習を欠かさなかった	3.73	44.2	14.4	23.7	5.6	12.1	215	8	1.39
16	授業中は私語をせず、携帯電話を切り、真剣に授業を受けた	4.58	72.5	16.2	9.0	1.4	0.9	222	1	0.78
17	授業中質問したり、考えを述べたりして、積極的に参加した	4.35	61.2	18.3	16.4	2.7	1.4	219	4	0.94
18	この授業によって、未知の分野だったことへ関心が広がった	4.43	64.1	19.5	12.7	2.7	0.9	220	3	0.88
IV. 総合的な印象							当カテゴリ平均点		4.75	
No.	設問文	平均点	回答率(%)					有効回答	無効回答	標準偏差
			5	4	3	2	1			
19	*総合的に見て、この授業を受けて良かったと思う	4.75	79.2	17.0	3.8	0.0	0.0	212	11	0.51

Q1-Q19の当区分平均値	4.53
Q1-Q19の学部全体平均値	4.08
Q1-Q19の学部全体平均値-2σ	3.37



2011年度前期 授業に関するアンケート集計結果(授業方法別)

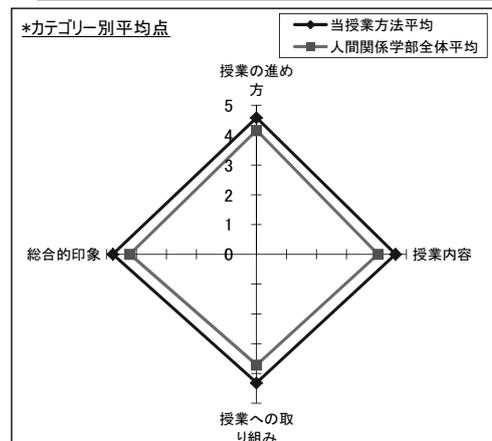
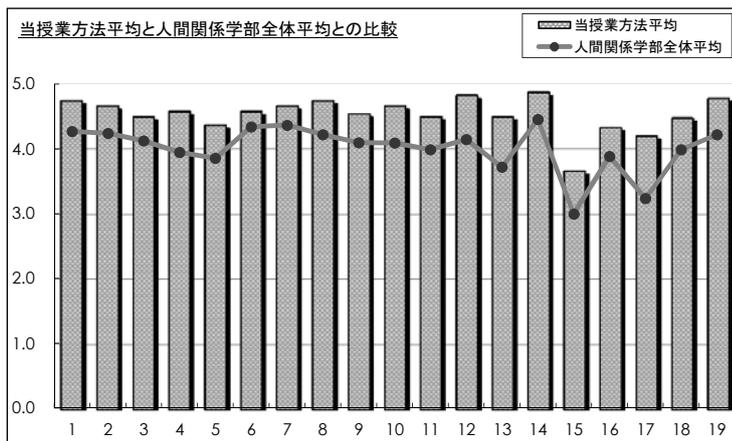
大妻女子大学

授業方法	実習
------	----

履修者数	33
回答者数	24

I. 先生のこの授業の進め方について							当カテゴリ平均点		4.59	
No.	設問文	平均点	回答率(%)					有効回答	無効回答	標準偏差
			5	4	3	2	1			
1	先生の話し方は明瞭で聞き取りやすかった	4.75	83.3	8.3	8.3	0.0	0.0	24	0	0.61
2	教材資料提示(板書、プリント、パワーポイント・ビデオ等)は授業の理解に役立った	4.67	75.0	16.7	8.3	0.0	0.0	24	0	0.64
3	私語等の授業を妨げる行為に対して先生は適切な措置をした ※授業が静かなので注意を受けなかった場合は、5をマーク	4.50	66.7	16.7	16.7	0.0	0.0	24	0	0.78
4	授業は学生の理解度を考慮しながら進められた	4.58	66.7	25.0	8.3	0.0	0.0	24	0	0.65
5	質問や意見を引き出し、学生の積極的な参加を促した	4.38	58.3	20.8	20.8	0.0	0.0	24	0	0.82
6	先生の学生に対する接し方は公平だった	4.58	75.0	8.3	16.7	0.0	0.0	24	0	0.78
7	授業は先生の十分な準備と熱意をもって行われた	4.67	70.8	25.0	4.2	0.0	0.0	24	0	0.56
II. この授業の内容について							当カテゴリ平均点		4.63	
No.	設問文	平均点	回答率(%)					有効回答	無効回答	標準偏差
			5	4	3	2	1			
8	授業は、学習の目標がはっきり示された	4.75	79.2	16.7	4.2	0.0	0.0	24	0	0.53
9	授業の構成は体系的で把握しやすくとまっていた	4.54	66.7	20.8	12.5	0.0	0.0	24	0	0.72
10	授業の内容は興味深いものだった	4.67	75.0	16.7	8.3	0.0	0.0	24	0	0.64
11	授業の内容はよく理解できるものであった	4.50	58.3	33.3	8.3	0.0	0.0	24	0	0.66
12	授業は自分の将来にとって意味があると思う	4.83	83.3	16.7	0.0	0.0	0.0	24	0	0.38
13	授業科目の選択や学習時に、「授業内容」(シラバス)は役立った	4.50	66.7	16.7	16.7	0.0	0.0	24	0	0.78
III. あなたのこの授業への取り組みについて							当カテゴリ平均点		4.31	
No.	設問文	平均点	回答率(%)					有効回答	無効回答	標準偏差
			5	4	3	2	1			
14	この授業にはつねに出席した	4.88	87.5	12.5	0.0	0.0	0.0	24	0	0.34
15	この授業のために予習または復習を欠かさなかった	3.67	29.2	33.3	20.8	8.3	8.3	24	0	1.24
16	授業中は私語をせず、携帯電話を切り、真剣に授業を受けた	4.33	58.3	25.0	8.3	8.3	0.0	24	0	0.96
17	授業中質問したり、考えを述べたりして、積極的に参加した	4.21	50.0	29.2	12.5	8.3	0.0	24	0	0.98
18	この授業によって、未知の分野だったことへ関心が広がった	4.48	60.9	26.1	13.0	0.0	0.0	23	1	0.73
IV. 総合的な印象							当カテゴリ平均点		4.78	
No.	設問文	平均点	回答率(%)					有効回答	無効回答	標準偏差
			5	4	3	2	1			
19	*総合的に見て、この授業を受けて良かったと思う	4.78	78.3	21.7	0.0	0.0	0.0	23	1	0.42

Q1-Q19の当区分平均値	4.54
Q1-Q19の学部全体平均値	4.01
Q1-Q19の学部全体平均値-2σ	3.23



2011年度後期 授業に関するアンケート集計結果(授業方法別)

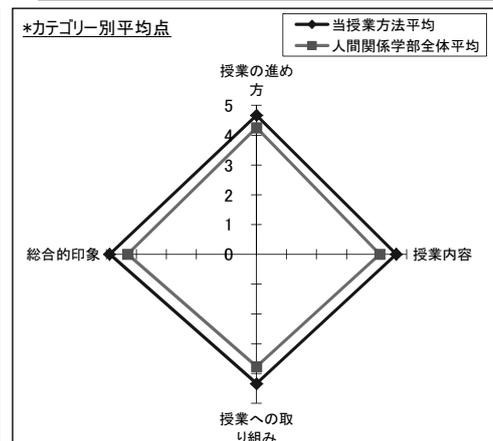
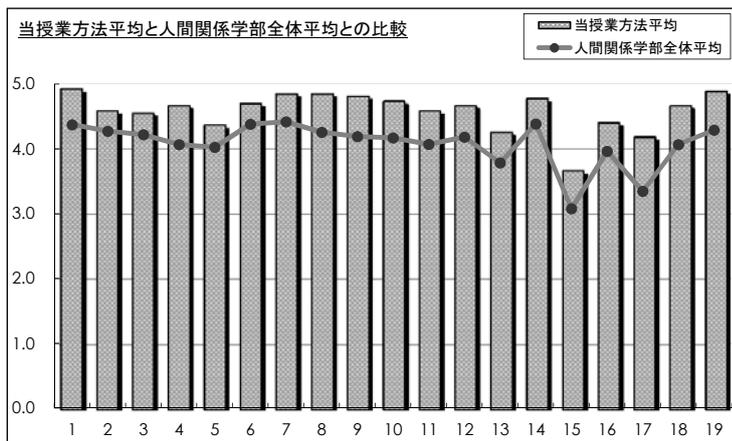
大妻女子大学

授業方法	講義・実習
------	-------

履修者数	34
回答者数	27

I. 先生のこの授業の進め方について							当カテゴリー平均点		4.67	
No.	設問文	平均点	回答率(%)					有効回答	無効回答	標準偏差
			5	4	3	2	1			
1	先生の話し方は明瞭で聞き取りやすかった	4.93	92.6	7.4	0.0	0.0	0.0	27	0	0.27
2	教材資料提示(板書、プリント、パワーポイント・ビデオ等)は授業の理解に役立った	4.59	70.4	18.5	11.1	0.0	0.0	27	0	0.69
3	私語等の授業を妨げる行為に対して先生は適切な措置をした ※授業が静かなので注意を受けなかった場合は、5をマーク	4.56	66.7	22.2	11.1	0.0	0.0	27	0	0.70
4	授業は学生の理解度を考慮しながら進められた	4.67	70.4	25.9	3.7	0.0	0.0	27	0	0.55
5	質問や意見を引き出し、学生の積極的な参加を促した	4.37	59.3	22.2	14.8	3.7	0.0	27	0	0.88
6	先生の学生に対する接し方は公平だった	4.70	77.8	14.8	7.4	0.0	0.0	27	0	0.61
7	授業は先生の十分な準備と熱意をもって行われた	4.85	85.2	14.8	0.0	0.0	0.0	27	0	0.36
II. この授業の内容について							当カテゴリー平均点		4.65	
No.	設問文	平均点	回答率(%)					有効回答	無効回答	標準偏差
			5	4	3	2	1			
8	授業は、学習の目標がはっきり示された	4.85	88.9	7.4	3.7	0.0	0.0	27	0	0.46
9	授業の構成は体系的で把握しやすくとまっていた	4.81	85.2	11.1	3.7	0.0	0.0	27	0	0.48
10	授業の内容は興味深いものだった	4.74	74.1	25.9	0.0	0.0	0.0	27	0	0.45
11	授業の内容はよく理解できるものであった	4.59	66.7	25.9	7.4	0.0	0.0	27	0	0.64
12	授業は自分の将来にとって意味があると思う	4.67	66.7	33.3	0.0	0.0	0.0	27	0	0.48
13	授業科目の選択や学習時に、「授業内容」(シラバス)は役立った	4.26	59.3	14.8	22.2	0.0	3.7	27	0	1.06
III. あなたのこの授業への取り組みについて							当カテゴリー平均点		4.34	
No.	設問文	平均点	回答率(%)					有効回答	無効回答	標準偏差
			5	4	3	2	1			
14	この授業にはつねに出席した	4.78	88.9	3.7	3.7	3.7	0.0	27	0	0.70
15	この授業のために予習または復習を欠かさなかった	3.67	48.1	7.4	18.5	14.8	11.1	27	0	1.49
16	授業中は私語をせず、携帯電話を切り、真剣に授業を受けた	4.41	59.3	22.2	18.5	0.0	0.0	27	0	0.80
17	授業中質問したり、考えを述べたりして、積極的に参加した	4.19	55.6	25.9	3.7	11.1	3.7	27	0	1.18
18	この授業によって、未知の分野だったことへ関心が広がった	4.67	70.4	25.9	3.7	0.0	0.0	27	0	0.55
IV. 総合的な印象							当カテゴリー平均点		4.89	
No.	設問文	平均点	回答率(%)					有効回答	無効回答	標準偏差
			5	4	3	2	1			
19	*総合的に見て、この授業を受けて良かったと思う	4.89	88.9	11.1	0.0	0.0	0.0	27	0	0.32

Q1-Q19の当区分平均値	4.59
Q1-Q19の学部全体平均値	4.08
Q1-Q19の学部全体平均値-2σ	3.37



2011年度前期 授業に関するアンケート集計結果(アンケート職名別)

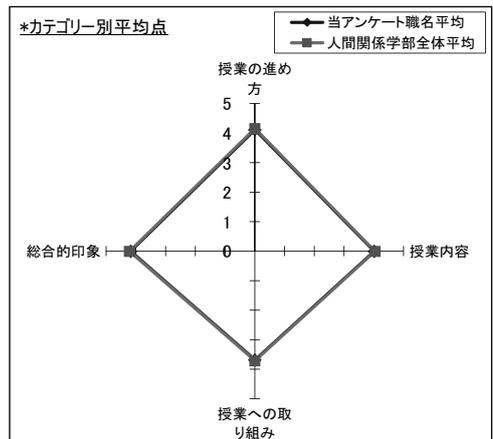
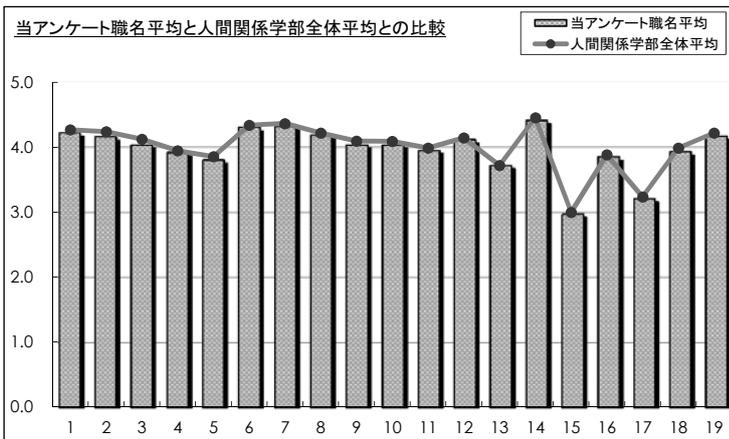
大妻女子大学

アンケート職名	3.兼任
---------	------

履修者数	4,248
回答者数	3,136

I. 先生のこの授業の進め方について							当カテゴリー平均点		4.12	
No.	設問文	平均点	回答率(%)					有効回答	無効回答	標準偏差
			5	4	3	2	1			
1	先生の話し方は明瞭で聞き取りやすかった	4.22	50.9	30.0	11.9	5.1	2.2	3136	0	0.99
2	教材資料提示(板書、プリント、パワーポイント・ビデオ等)は授業の理解に役立った	4.16	46.7	31.5	15.0	5.0	1.8	3120	16	0.98
3	私語等の授業を妨げる行為に対して先生は適切な措置をした ※授業が静かなので注意を受けなかった場合は、5をマーク	4.05	43.0	29.9	18.3	6.4	2.5	3133	3	1.04
4	授業は学生の理解度を考慮しながら進められた	3.93	36.8	32.0	21.1	7.2	2.8	3132	4	1.06
5	質問や意見を引き出し、学生の積極的な参加を促した	3.81	33.1	29.1	26.7	8.2	2.9	3129	7	1.07
6	先生の学生に対する接し方は公平だった	4.31	53.2	29.7	13.4	2.3	1.2	3125	11	0.88
7	授業は先生の十分な準備と熱意をもって行われた	4.33	53.4	30.9	11.8	2.8	1.1	3124	12	0.87
II. この授業の内容について							当カテゴリー平均点		4.01	
No.	設問文	平均点	回答率(%)					有効回答	無効回答	標準偏差
			5	4	3	2	1			
8	授業は、学習の目標がはっきり示された	4.19	47.7	31.3	15.1	4.5	1.4	3134	2	0.95
9	授業の構成は体系的で把握しやすくとまっていた	4.04	42.5	31.3	17.2	6.3	2.8	3131	5	1.05
10	授業の内容は興味深いものだった	4.05	42.9	30.9	16.8	6.6	2.8	3130	6	1.05
11	授業の内容はよく理解できるものであった	3.96	39.1	31.9	18.4	7.2	3.5	3123	13	1.08
12	授業は自分の将来にとって意味があると思う	4.12	45.1	31.7	15.6	5.3	2.3	3127	9	1.01
13	授業科目の選択や学習時に、「授業内容」(シラバス)は役立った	3.73	29.1	29.9	29.7	7.0	4.2	3124	12	1.08
III. あなたのこの授業への取り組みについて							当カテゴリー平均点		3.68	
No.	設問文	平均点	回答率(%)					有効回答	無効回答	標準偏差
			5	4	3	2	1			
14	この授業にはつねに出席した	4.42	59.7	26.6	10.4	2.7	0.8	3129	7	0.84
15	この授業のために予習または復習を欠かさなかった	2.98	12.9	19.0	35.7	17.8	14.7	3115	21	1.21
16	授業中は私語をせず、携帯電話を切り、真剣に授業を受けた	3.86	32.5	32.8	25.1	7.6	2.0	3119	17	1.02
17	授業中質問したり、考えを述べたりして、積極的に参加した	3.22	18.3	22.6	32.4	16.0	10.7	3123	13	1.22
18	この授業によって、未知の分野だったことへ関心が広がった	3.94	36.2	33.0	21.4	6.7	2.6	3105	31	1.04
IV. 総合的な印象							当カテゴリー平均点		4.18	
No.	設問文	平均点	回答率(%)					有効回答	無効回答	標準偏差
			5	4	3	2	1			
19	*総合的に見て、この授業を受けて良かったと思う	4.18	49.1	29.1	14.5	4.9	2.4	3053	83	1.01

Q1-Q19の当区分平均値	3.97
Q1-Q19の学部全体平均値	4.01
Q1-Q19の学部全体平均値-2σ	3.23



2011年度後期 授業に関するアンケート集計結果(アンケート職名別)

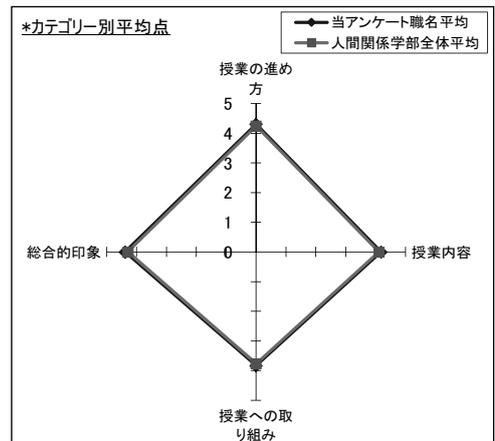
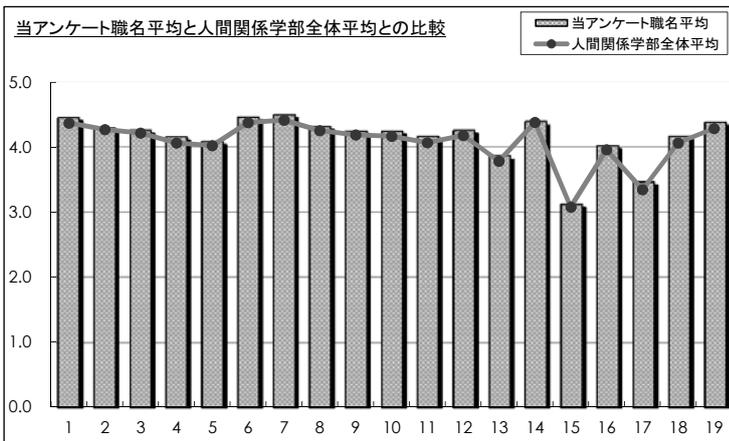
大妻女子大学

アンケート職名 3.兼任

履修者数	3,845
回答者数	2,511

I. 先生のこの授業の進め方について							当カテゴリ平均点		4.32	
No.	設問文	平均点	回答率(%)					有効回答	無効回答	標準偏差
			5	4	3	2	1			
1	先生の話し方は明瞭で聞き取りやすかった	4.45	63.1	23.8	8.9	3.4	0.8	2505	6	0.85
2	教材資料提示(板書、プリント、パワーポイント・ビデオ等)は授業の理解に役立った	4.29	52.1	30.8	12.1	3.7	1.3	2492	19	0.91
3	私語等の授業を妨げる行為に対して先生は適切な措置をした ※授業が静かなので注意を受けなかった場合は、5をマーク	4.26	51.5	29.2	14.3	3.9	1.1	2499	12	0.92
4	授業は学生の理解度を考慮しながら進められた	4.16	45.5	31.9	16.6	4.6	1.3	2503	8	0.95
5	質問や意見を引き出し、学生の積極的な参加を促した	4.09	44.0	28.9	20.4	5.3	1.4	2497	14	0.99
6	先生の学生に対する接し方は公平だった	4.47	61.9	26.0	9.7	1.8	0.6	2497	14	0.79
7	授業は先生の十分な準備と熱意をもって行われた	4.50	62.9	26.6	8.3	1.5	0.6	2492	19	0.76
II. この授業の内容について							当カテゴリ平均点		4.19	
No.	設問文	平均点	回答率(%)					有効回答	無効回答	標準偏差
			5	4	3	2	1			
8	授業は、学習の目標がはっきり示された	4.31	52.7	31.0	12.0	3.6	0.7	2500	11	0.87
9	授業の構成は体系的で把握しやすくとまっていた	4.25	49.6	31.7	13.6	4.2	1.0	2498	13	0.91
10	授業の内容は興味深いものだった	4.25	51.4	29.1	14.0	4.1	1.3	2502	9	0.94
11	授業の内容はよく理解できるものであった	4.17	45.5	33.2	15.1	5.2	1.0	2499	12	0.94
12	授業は自分の将来にとって意味があると思う	4.26	50.7	30.2	14.4	3.8	0.9	2498	13	0.90
13	授業科目の選択や学習時に、「授業内容」(シラバス)は役立った	3.87	35.2	27.7	28.7	5.8	2.6	2485	26	1.04
III. あなたのこの授業への取り組みについて							当カテゴリ平均点		3.84	
No.	設問文	平均点	回答率(%)					有効回答	無効回答	標準偏差
			5	4	3	2	1			
14	この授業にはつねに出席した	4.39	56.9	29.7	9.8	3.0	0.6	2500	11	0.83
15	この授業のために予習または復習を欠かさなかった	3.13	18.6	18.4	33.6	15.8	13.6	2491	20	1.27
16	授業中は私語をせず、携帯電話を切り、真剣に授業を受けた	4.02	39.7	31.3	21.9	5.6	1.5	2494	17	0.99
17	授業中質問したり、考えを述べたりして、積極的に参加した	3.47	26.2	23.3	29.9	12.4	8.1	2493	18	1.23
18	この授業によって、未知の分野だったことへ関心が広がった	4.17	45.8	32.4	16.4	4.0	1.4	2491	20	0.94
IV. 総合的な印象							当カテゴリ平均点		4.39	
No.	設問文	平均点	回答率(%)					有効回答	無効回答	標準偏差
			5	4	3	2	1			
19	*総合的に見て、この授業を受けて良かったと思う	4.39	58.0	27.0	11.4	2.7	0.8	2420	91	0.85

Q1-Q19の当区分平均値	4.15
Q1-Q19の学部全体平均値	4.08
Q1-Q19の学部全体平均値-2σ	3.37



2011年度前期 授業に関するアンケート集計結果(アンケート職名別)

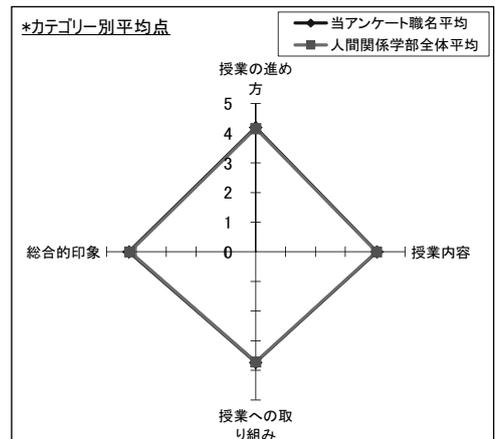
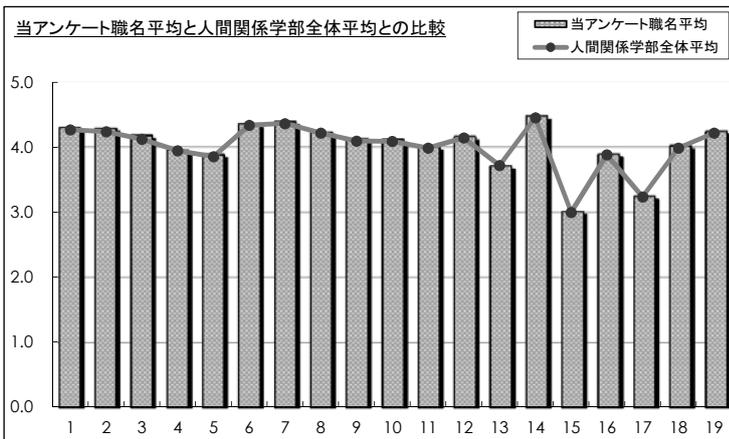
大妻女子大学

アンケート職名 1.専任

履修者数	5,514
回答者数	4,392

I. 先生のこの授業の進め方について							当カテゴリー平均点		4.20	
No.	設問文	平均点	回答率(%)					有効回答	無効回答	標準偏差
			5	4	3	2	1			
1	先生の話し方は明瞭で聞き取りやすかった	4.31	53.1	30.5	11.4	4.2	0.9	4387	5	0.89
2	教材資料提示(板書、プリント、パワーポイント・ビデオ等)は授業の理解に役立った	4.30	50.9	33.0	12.0	3.2	0.9	4382	10	0.87
3	私語等の授業を妨げる行為に対して先生は適切な措置をした ※授業が静かなので注意を受けなかった場合は、5をマーク	4.19	47.1	31.2	16.3	4.1	1.3	4387	5	0.94
4	授業は学生の理解度を考慮しながら進められた	3.97	37.5	32.1	21.9	6.4	2.0	4382	10	1.02
5	質問や意見を引き出し、学生の積極的な参加を促した	3.89	37.0	28.5	23.8	8.0	2.7	4374	18	1.08
6	先生の学生に対する接し方は公平だった	4.36	55.1	29.3	12.9	2.0	0.8	4373	19	0.84
7	授業は先生の十分な準備と熱意をもって行われた	4.40	55.0	32.2	10.9	1.4	0.5	4366	26	0.78
II. この授業の内容について							当カテゴリー平均点		4.07	
No.	設問文	平均点	回答率(%)					有効回答	無効回答	標準偏差
			5	4	3	2	1			
8	授業は、学習の目標がはっきり示された	4.24	48.3	33.1	14.2	3.2	1.2	4383	9	0.90
9	授業の構成は体系的で把握しやすくとまっていた	4.13	43.7	33.5	17.0	4.2	1.6	4383	9	0.95
10	授業の内容は興味深いものだった	4.13	44.9	31.5	16.8	5.0	1.8	4381	11	0.98
11	授業の内容はよく理解できるものであった	4.01	38.7	33.9	19.1	6.3	2.0	4372	20	1.01
12	授業は自分の将来にとって意味があると思う	4.17	47.2	29.9	16.6	4.6	1.6	4376	16	0.97
13	授業科目の選択や学習時に、「授業内容」(シラバス)は役立った	3.72	28.1	28.8	32.4	7.8	2.8	4364	28	1.05
III. あなたのこの授業への取り組みについて							当カテゴリー平均点		3.74	
No.	設問文	平均点	回答率(%)					有効回答	無効回答	標準偏差
			5	4	3	2	1			
14	この授業にはつねに出席した	4.48	63.5	24.6	9.2	2.3	0.5	4378	14	0.79
15	この授業のために予習または復習を欠かさなかった	3.01	12.5	21.0	34.9	18.8	12.9	4372	20	1.19
16	授業中は私語をせず、携帯電話を切り、真剣に授業を受けた	3.90	32.1	35.2	24.6	6.7	1.3	4372	20	0.97
17	授業中質問したり、考えを述べたりして、積極的に参加した	3.25	19.1	22.1	32.9	16.4	9.5	4373	19	1.21
18	この授業によって、未知の分野だったことへ関心が広がった	4.03	39.4	33.2	20.5	4.6	2.2	4371	21	0.99
IV. 総合的な印象							当カテゴリー平均点		4.25	
No.	設問文	平均点	回答率(%)					有効回答	無効回答	標準偏差
			5	4	3	2	1			
19	*総合的に見て、この授業を受けて良かったと思う	4.25	51.2	29.4	14.7	2.9	1.8	4259	133	0.94

Q1-Q19の当区分平均値	4.04
Q1-Q19の学部全体平均値	4.01
Q1-Q19の学部全体平均値-2σ	3.23



2011年度後期 授業に関するアンケート集計結果(アンケート職名別)

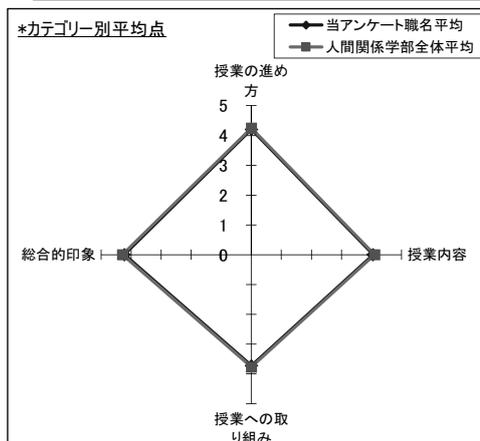
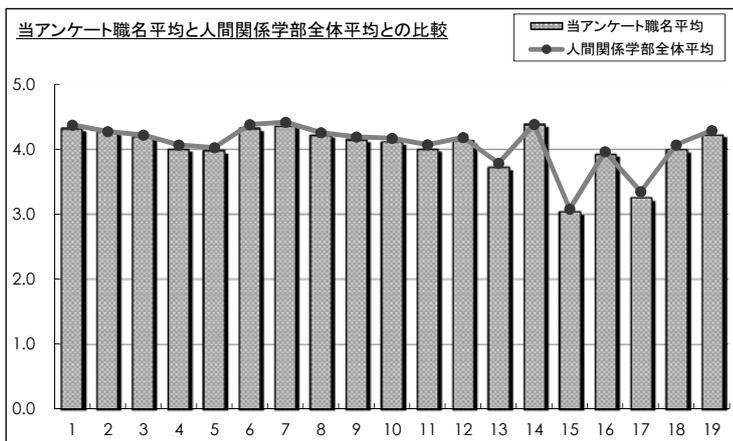
大妻女子大学

アンケート職名	1.専任
---------	------

履修者数	5,034
回答者数	3,516

I. 先生のこの授業の進め方について							当カテゴリー平均点		4.21	
No.	設問文	平均点	回答率(%)					有効回答	無効回答	標準偏差
			5	4	3	2	1			
1	先生の話し方は明瞭で聞き取りやすかった	4.32	51.7	34.0	10.1	3.1	1.0	3514	2	0.85
2	教材資料提示(板書、プリント、パワーポイント・ビデオ等)は授業の理解に役立った	4.27	48.7	34.6	12.8	2.8	1.1	3512	4	0.87
3	私語等の授業を妨げる行為に対して先生は適切な措置をした ※授業が静かなので注意を受けなかった場合は、5をマーク	4.19	46.4	33.0	15.6	3.6	1.4	3510	6	0.92
4	授業は学生の理解度を考慮しながら進められた	4.00	36.8	35.5	20.5	5.6	1.6	3509	7	0.97
5	質問や意見を引き出し、学生の積極的な参加を促した	3.98	37.8	32.4	22.3	5.5	2.1	3505	11	1.01
6	先生の学生に対する接し方は公平だった	4.32	52.4	31.6	12.5	2.5	0.9	3506	10	0.85
7	授業は先生の十分な準備と熱意をもって行われた	4.36	52.7	34.0	10.9	1.7	0.7	3498	18	0.80
II. この授業の内容について							当カテゴリー平均点		4.06	
No.	設問文	平均点	回答率(%)					有効回答	無効回答	標準偏差
			5	4	3	2	1			
8	授業は、学習の目標がはっきり示された	4.22	46.9	33.7	15.1	3.0	1.3	3509	7	0.90
9	授業の構成は体系的で把握しやすくとまっていた	4.15	42.5	36.7	15.8	3.6	1.4	3508	8	0.91
10	授業の内容は興味深いものだった	4.11	41.8	35.6	16.1	4.9	1.5	3507	9	0.95
11	授業の内容はよく理解できるものであった	4.00	35.6	37.9	19.5	5.5	1.6	3504	12	0.96
12	授業は自分の将来にとって意味があると思う	4.13	44.6	31.7	17.5	4.6	1.6	3504	12	0.97
13	授業科目の選択や学習時に、「授業内容」(シラバス)は役立った	3.72	28.0	29.7	32.0	7.5	2.8	3501	15	1.04
III. あなたのこの授業への取り組みについて							当カテゴリー平均点		3.72	
No.	設問文	平均点	回答率(%)					有効回答	無効回答	標準偏差
			5	4	3	2	1			
14	この授業にはつねに出席した	4.38	57.6	26.7	12.5	2.7	0.5	3507	9	0.84
15	この授業のために予習または復習を欠かさなかった	3.04	12.6	21.8	36.0	16.7	12.9	3507	9	1.19
16	授業中は私語をせず、携帯電話を切り、真剣に授業を受けた	3.93	32.7	35.5	24.8	5.9	1.2	3502	14	0.96
17	授業中質問したり、考えを述べたりして、積極的に参加した	3.26	18.2	23.2	34.2	15.1	9.3	3506	10	1.19
18	この授業によって、未知の分野だったことへ関心が広がった	4.00	36.2	35.9	21.2	4.8	1.9	3495	21	0.97
IV. 総合的な印象							当カテゴリー平均点		4.23	
No.	設問文	平均点	回答率(%)					有効回答	無効回答	標準偏差
			5	4	3	2	1			
19	*総合的に見て、この授業を受けて良かったと思う	4.23	48.4	32.0	14.9	3.5	1.3	3408	108	0.91

Q1-Q19の当区分平均値	4.03
Q1-Q19の学部全体平均値	4.08
Q1-Q19の学部全体平均値-2σ	3.37



2011年度前期 授業に関するアンケート集計結果(年齢別)

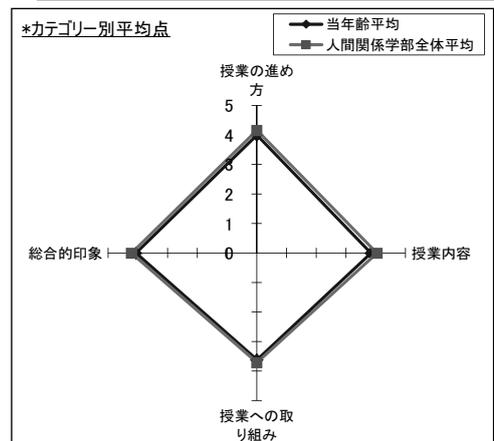
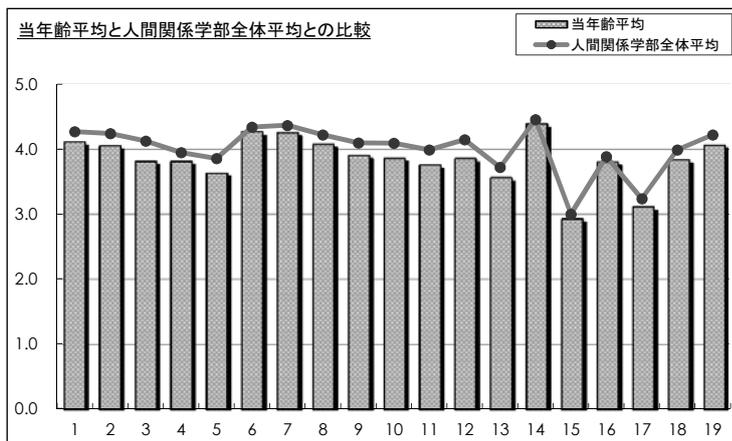
大妻女子大学

年齢	35歳以下
----	-------

履修者数	771
回答者数	594

I. 先生のこの授業の進め方について							当カテゴリー平均点		4.00	
No.	設問文	平均点	回答率(%)					有効回答	無効回答	標準偏差
			5	4	3	2	1			
1	先生の話し方は明瞭で聞き取りやすかった	4.11	45.6	31.8	13.3	6.7	2.5	594	0	1.04
2	教材資料提示(板書、プリント、パワーポイント・ビデオ等)は授業の理解に役立った	4.06	39.7	35.0	17.8	5.9	1.5	594	0	0.97
3	私語等の授業を妨げる行為に対して先生は適切な措置をした ※授業が静かなので注意を受けなかった場合は、5をマーク	3.82	34.7	30.6	21.4	8.6	4.7	594	0	1.14
4	授業は学生の理解度を考慮しながら進められた	3.82	30.9	33.7	23.9	9.3	2.2	593	1	1.04
5	質問や意見を引き出し、学生の積極的な参加を促した	3.64	28.2	27.3	28.8	11.8	3.9	593	1	1.12
6	先生の学生に対する接し方は公平だった	4.27	48.1	34.7	14.3	1.7	1.2	593	1	0.85
7	授業は先生の十分な準備と熱意をもって行われた	4.26	49.2	32.8	14.2	2.9	1.0	592	2	0.88
II. この授業の内容について							当カテゴリー平均点		3.84	
No.	設問文	平均点	回答率(%)					有効回答	無効回答	標準偏差
			5	4	3	2	1			
8	授業は、学習の目標がはっきり示された	4.08	41.2	32.8	20.0	4.7	1.2	594	0	0.95
9	授業の構成は体系的で把握しやすくとまっていた	3.91	35.4	33.2	20.7	8.1	2.5	593	1	1.05
10	授業の内容は興味深いものだった	3.87	36.0	30.1	22.3	8.1	3.5	592	2	1.10
11	授業の内容はよく理解できるものであった	3.76	32.0	31.8	21.0	10.7	4.6	591	3	1.15
12	授業は自分の将来にとって意味があると思う	3.86	35.2	30.8	22.2	8.3	3.6	591	3	1.10
13	授業科目の選択や学習時に、「授業内容」(シラバス)は役立った	3.57	24.4	28.4	31.6	10.5	5.1	591	3	1.12
III. あなたのこの授業への取り組みについて							当カテゴリー平均点		3.62	
No.	設問文	平均点	回答率(%)					有効回答	無効回答	標準偏差
			5	4	3	2	1			
14	この授業にはつねに出席した	4.39	58.9	26.7	10.2	3.2	1.0	591	3	0.87
15	この授業のために予習または復習を欠かさなかった	2.93	10.6	21.5	34.1	17.9	15.9	592	2	1.21
16	授業中は私語をせず、携帯電話を切り、真剣に授業を受けた	3.81	29.2	35.1	25.7	7.1	2.9	592	2	1.03
17	授業中質問したり、考えを述べたりして、積極的に参加した	3.12	14.2	23.5	33.8	17.3	11.2	591	3	1.19
18	この授業によって、未知の分野だったことへ関心が広がった	3.84	31.7	34.8	22.4	7.8	3.2	589	5	1.06
IV. 総合的な印象							当カテゴリー平均点		4.07	
No.	設問文	平均点	回答率(%)					有効回答	無効回答	標準偏差
			5	4	3	2	1			
19	*総合的に見て、この授業を受けて良かったと思う	4.07	43.0	30.9	19.0	4.1	2.9	579	15	1.02

Q1-Q19の当区分平均値	3.85
Q1-Q19の学部全体平均値	4.01
Q1-Q19の学部全体平均値-2σ	3.23



2011年度後期 授業に関するアンケート集計結果(年齢別)

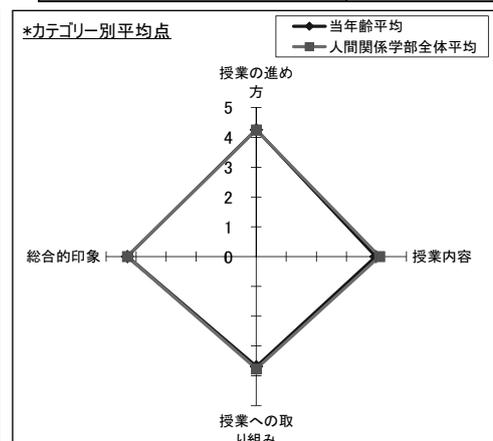
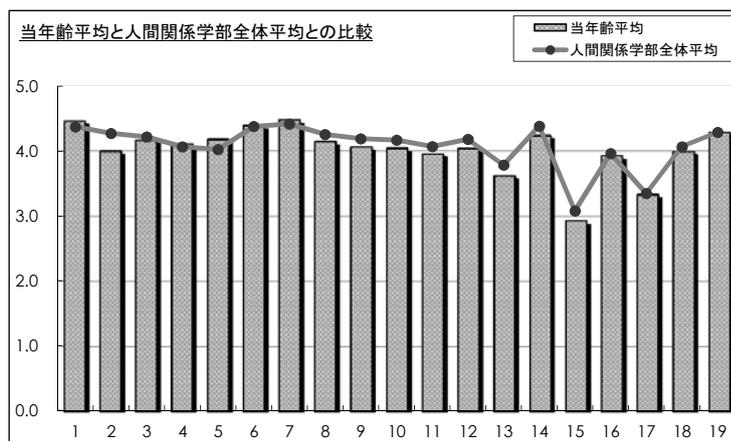
大妻女子大学

年齢	35歳以下
----	-------

履修者数	528
回答者数	385

I. 先生のこの授業の進め方について							当カテゴリー平均点		4.26	
No.	設問文	平均点	回答率(%)					有効回答	無効回答	標準偏差
			5	4	3	2	1			
1	先生の話し方は明瞭で聞き取りやすかった	4.46	62.2	26.3	7.8	2.9	0.8	384	1	0.82
2	教材資料提示(板書、プリント、パワーポイント・ビデオ等)は授業の理解に役立った	4.00	43.2	27.9	18.8	6.3	3.9	384	1	1.11
3	私語等の授業を妨げる行為に対して先生は適切な措置をした ※授業が静かなので注意を受けなかった場合は、5をマーク	4.17	45.3	33.8	15.2	4.5	1.3	382	3	0.93
4	授業は学生の理解度を考慮しながら進められた	4.11	42.4	35.9	14.3	5.2	2.1	384	1	0.98
5	質問や意見を引き出し、学生の積極的な参加を促した	4.19	44.6	35.0	15.9	3.1	1.3	383	2	0.90
6	先生の学生に対する接し方は公平だった	4.39	56.3	30.5	10.2	2.6	0.5	384	1	0.81
7	授業は先生の十分な準備と熱意をもって行われた	4.48	60.3	31.1	6.0	1.8	0.8	383	2	0.76
II. この授業の内容について							当カテゴリー平均点		3.98	
No.	設問文	平均点	回答率(%)					有効回答	無効回答	標準偏差
			5	4	3	2	1			
8	授業は、学習の目標がはっきり示された	4.15	44.5	34.1	14.3	6.0	1.0	384	1	0.95
9	授業の構成は体系的で把握しやすくとまっていた	4.07	40.1	35.7	16.4	6.3	1.6	384	1	0.98
10	授業の内容は興味深いものだった	4.05	40.5	33.4	18.8	5.2	2.1	383	2	0.99
11	授業の内容はよく理解できるものであった	3.96	35.9	35.7	18.8	8.1	1.6	384	1	1.01
12	授業は自分の将来にとって意味があると思う	4.05	39.3	35.2	18.5	4.9	2.1	384	1	0.98
13	授業科目の選択や学習時に、「授業内容」(シラバス)は役立った	3.62	27.7	26.6	30.3	11.2	4.2	383	2	1.13
III. あなたのこの授業への取り組みについて							当カテゴリー平均点		3.69	
No.	設問文	平均点	回答率(%)					有効回答	無効回答	標準偏差
			5	4	3	2	1			
14	この授業にはつねに出席した	4.24	48.2	34.4	12.8	3.1	1.6	384	1	0.90
15	この授業のために予習または復習を欠かさなかった	2.93	12.1	19.7	34.9	16.0	17.3	381	4	1.24
16	授業中は私語をせず、携帯電話を切り、真剣に授業を受けた	3.93	33.1	35.9	24.0	4.7	2.3	384	1	0.98
17	授業中質問したり、考えを述べたりして、積極的に参加した	3.34	17.8	28.5	32.5	12.0	9.2	382	3	1.17
18	この授業によって、未知の分野だったことへ関心が広がった	4.00	38.8	32.3	21.3	5.0	2.6	381	4	1.02
IV. 総合的な印象							当カテゴリー平均点		4.29	
No.	設問文	平均点	回答率(%)					有効回答	無効回答	標準偏差
			5	4	3	2	1			
19	*総合的に見て、この授業を受けて良かったと思う	4.29	53.8	27.2	15.6	1.6	1.9	372	13	0.92

Q1-Q19の当区分平均値	4.02
Q1-Q19の学部全体平均値	4.08
Q1-Q19の学部全体平均値-2σ	3.37



2011年度前期 授業に関するアンケート集計結果(年齢別)

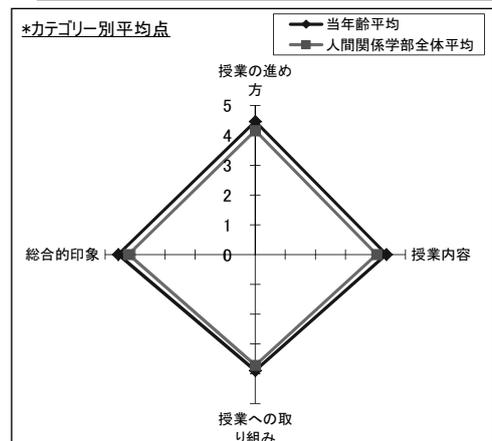
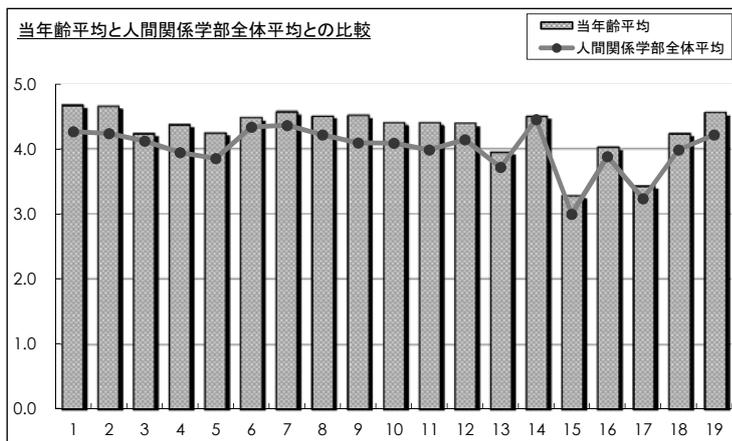
大妻女子大学

年齢	36～40歳
----	--------

履修者数	994
回答者数	784

I. 先生のこの授業の進め方について							当カテゴリー平均点		4.47	
No.	設問文	平均点	回答率(%)					有効回答	無効回答	標準偏差
			5	4	3	2	1			
1	先生の話し方は明瞭で聞き取りやすかった	4.67	71.9	24.2	3.3	0.4	0.1	784	0	0.57
2	教材資料提示(板書、プリント、パワーポイント・ビデオ等)は授業の理解に役立った	4.66	71.6	23.2	4.8	0.3	0.1	784	0	0.59
3	私語等の授業を妨げる行為に対して先生は適切な措置をした ※授業が静かなので注意を受けなかった場合は、5をマーク	4.24	48.8	31.8	15.5	2.7	1.3	783	1	0.90
4	授業は学生の理解度を考慮しながら進められた	4.37	51.7	35.9	11.0	1.0	0.4	782	2	0.75
5	質問や意見を引き出し、学生の積極的な参加を促した	4.25	47.0	34.5	16.0	1.9	0.6	783	1	0.84
6	先生の学生に対する接し方は公平だった	4.48	62.4	27.1	7.9	1.5	1.0	782	2	0.79
7	授業は先生の十分な準備と熱意をもって行われた	4.57	64.3	28.9	6.3	0.5	0.0	782	2	0.63
II. この授業の内容について							当カテゴリー平均点		4.37	
No.	設問文	平均点	回答率(%)					有効回答	無効回答	標準偏差
			5	4	3	2	1			
8	授業は、学習の目標がはっきり示された	4.51	60.7	30.5	8.0	0.6	0.1	784	0	0.68
9	授業の構成は体系的で把握しやすくとまっていた	4.52	61.9	28.9	8.3	0.8	0.1	783	1	0.69
10	授業の内容は興味深いものだった	4.41	56.8	30.0	11.2	1.7	0.4	784	0	0.78
11	授業の内容はよく理解できるものであった	4.41	53.8	34.6	10.2	1.1	0.3	784	0	0.74
12	授業は自分の将来にとって意味があると思う	4.39	54.4	32.4	11.4	1.7	0.1	783	1	0.76
13	授業科目の選択や学習時に、「授業内容」(シラバス)は役立った	3.96	35.4	30.6	29.4	3.6	1.0	782	2	0.94
III. あなたのこの授業への取り組みについて							当カテゴリー平均点		3.90	
No.	設問文	平均点	回答率(%)					有効回答	無効回答	標準偏差
			5	4	3	2	1			
14	この授業にはつねに出席した	4.51	62.8	27.4	7.7	1.9	0.3	784	0	0.74
15	この授業のために予習または復習を欠かさなかった	3.28	18.0	24.0	34.8	14.8	8.4	784	0	1.17
16	授業中は私語をせず、携帯電話を切り、真剣に授業を受けた	4.03	36.4	36.2	22.0	4.5	0.9	782	2	0.92
17	授業中質問したり、考えを述べたりして、積極的に参加した	3.43	22.7	24.9	32.8	12.1	7.4	783	1	1.18
18	この授業によって、未知の分野だったことへ関心が広がった	4.24	46.1	35.9	14.7	2.3	1.0	777	7	0.86
IV. 総合的な印象							当カテゴリー平均点		4.56	
No.	設問文	平均点	回答率(%)					有効回答	無効回答	標準偏差
			5	4	3	2	1			
19	*総合的に見て、この授業を受けて良かったと思う	4.56	64.3	28.8	5.9	0.9	0.1	764	20	0.66

Q1-Q19の当区分平均値	4.29
Q1-Q19の学部全体平均値	4.01
Q1-Q19の学部全体平均値-2σ	3.23



2011年度後期 授業に関するアンケート集計結果(年齢別)

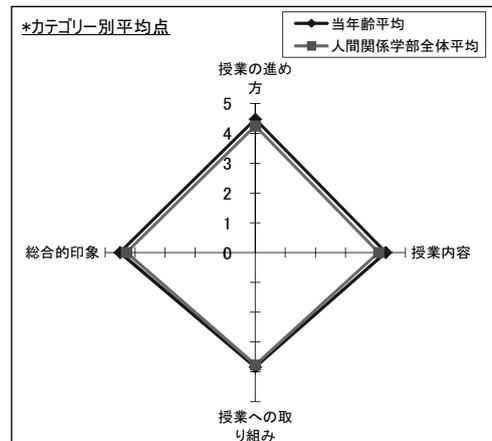
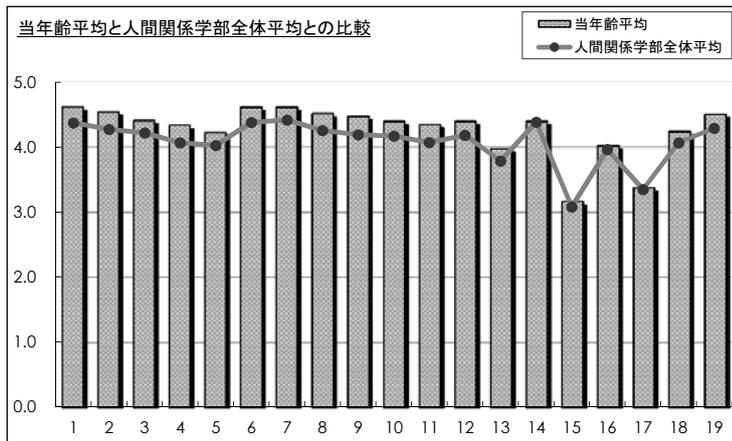
大妻女子大学

年齢	36～40歳
----	--------

履修者数	1,174
回答者数	860

I. 先生のこの授業の進め方について							当カテゴリー平均点		4.48	
No.	設問文	平均点	回答率(%)					有効回答	無効回答	標準偏差
			5	4	3	2	1			
1	先生の話し方は明瞭で聞き取りやすかった	4.62	68.7	26.3	3.6	0.9	0.5	860	0	0.65
2	教材資料提示(板書、プリント、パワーポイント・ビデオ等)は授業の理解に役立った	4.54	62.3	30.8	5.9	0.6	0.3	859	1	0.67
3	私語等の授業を妨げる行為に対して先生は適切な措置をした ※授業が静かなので注意を受けなかった場合は、5をマーク	4.42	58.3	28.6	10.0	2.7	0.5	860	0	0.81
4	授業は学生の理解度を考慮しながら進められた	4.33	52.0	33.1	12.0	2.2	0.7	860	0	0.82
5	質問や意見を引き出し、学生の積極的な参加を促した	4.23	49.1	29.7	16.5	4.0	0.7	859	1	0.91
6	先生の学生に対する接し方は公平だった	4.62	69.5	24.7	4.3	1.2	0.3	858	2	0.66
7	授業は先生の十分な準備と熱意をもって行われた	4.62	68.0	26.6	4.7	0.5	0.2	854	6	0.62
II. この授業の内容について							当カテゴリー平均点		4.35	
No.	設問文	平均点	回答率(%)					有効回答	無効回答	標準偏差
			5	4	3	2	1			
8	授業は、学習の目標がはっきり示された	4.52	61.4	30.7	6.4	1.2	0.3	858	2	0.70
9	授業の構成は体系的で把握しやすくとまっていた	4.47	59.1	31.7	7.2	1.5	0.5	859	1	0.74
10	授業の内容は興味深いものだった	4.40	57.2	30.2	9.1	2.8	0.8	859	1	0.83
11	授業の内容はよく理解できるものであった	4.35	52.0	35.0	9.3	3.2	0.5	857	3	0.81
12	授業は自分の将来にとって意味があると思う	4.40	55.2	32.6	9.7	2.0	0.5	858	2	0.78
13	授業科目の選択や学習時に、「授業内容」(シラバス)は役立った	3.98	38.2	29.6	26.2	3.6	2.3	858	2	1.00
III. あなたのこの授業への取り組みについて							当カテゴリー平均点		3.84	
No.	設問文	平均点	回答率(%)					有効回答	無効回答	標準偏差
			5	4	3	2	1			
14	この授業にはつねに出席した	4.40	57.5	29.7	8.9	3.5	0.5	858	2	0.83
15	この授業のために予習または復習を欠かさなかった	3.17	16.2	24.0	31.5	16.8	11.5	858	2	1.22
16	授業中は私語をせず、携帯電話を切り、真剣に授業を受けた	4.02	38.1	35.6	18.0	6.9	1.4	854	6	0.98
17	授業中質問したり、考えを述べたりして、積極的に参加した	3.38	23.2	24.5	28.9	13.9	9.6	858	2	1.25
18	この授業によって、未知の分野だったことへ関心が広がった	4.24	47.4	35.6	12.4	3.4	1.3	857	3	0.89
IV. 総合的な印象							当カテゴリー平均点		4.51	
No.	設問文	平均点	回答率(%)					有効回答	無効回答	標準偏差
			5	4	3	2	1			
19	*総合的に見て、この授業を受けて良かったと思う	4.51	62.5	28.4	7.3	1.2	0.6	837	23	0.73

Q1-Q19の当区分平均値	4.27
Q1-Q19の学部全体平均値	4.08
Q1-Q19の学部全体平均値-2σ	3.37



2011年度前期 授業に関するアンケート集計結果(年齢別)

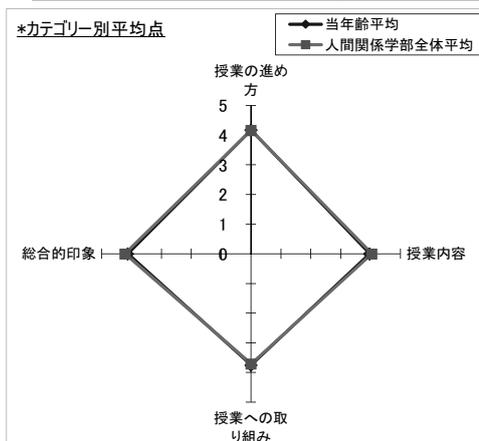
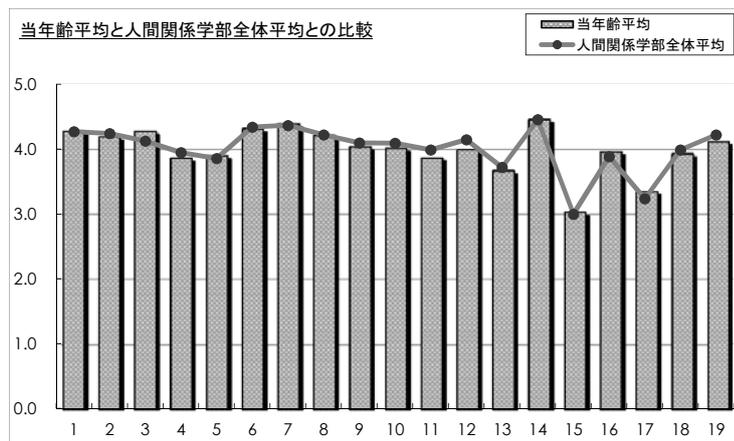
大妻女子大学

年齢	41～45歳
----	--------

履修者数	1,187
回答者数	922

I. 先生のこの授業の進め方について							当カテゴリー平均点		4.18	
No.	設問文	平均点	回答率(%)					有効回答	無効回答	標準偏差
			5	4	3	2	1			
1	先生の話し方は明瞭で聞き取りやすかった	4.29	55.2	26.8	11.3	4.8	2.0	922	0	0.98
2	教材資料提示(板書、プリント、パワーポイント・ビデオ等)は授業の理解に役立った	4.19	47.7	31.4	15.0	4.4	1.5	909	13	0.95
3	私語等の授業を妨げる行為に対して先生は適切な措置をした ※授業が静かなので注意を受けなかった場合は、5をマーク	4.28	54.8	25.1	14.9	3.9	1.3	921	1	0.94
4	授業は学生の理解度を考慮しながら進められた	3.87	36.1	29.1	23.8	7.8	3.2	920	2	1.09
5	質問や意見を引き出し、学生の積極的な参加を促した	3.91	38.0	27.5	24.8	7.2	2.5	918	4	1.07
6	先生の学生に対する接し方は公平だった	4.32	54.5	28.5	13.2	2.6	1.3	920	2	0.89
7	授業は先生の十分な準備と熱意をもって行われた	4.40	58.0	28.0	10.7	2.4	1.0	918	4	0.85
II. この授業の内容について							当カテゴリー平均点		3.97	
No.	設問文	平均点	回答率(%)					有効回答	無効回答	標準偏差
			5	4	3	2	1			
8	授業は、学習の目標がはっきり示された	4.22	50.2	29.3	14.2	4.8	1.5	921	1	0.96
9	授業の構成は体系的で把握しやすくとまっていた	4.04	42.9	30.2	17.9	6.0	2.9	920	2	1.05
10	授業の内容は興味深いものだった	4.03	43.7	28.2	17.8	7.7	2.6	920	2	1.08
11	授業の内容はよく理解できるものであった	3.88	37.3	30.5	18.3	10.6	3.4	918	4	1.13
12	授業は自分の将来にとって意味があると思う	4.00	41.4	29.9	18.5	7.3	2.9	920	2	1.07
13	授業科目の選択や学習時に、「授業内容」(シラバス)は役立った	3.68	28.9	26.5	32.1	8.4	4.1	920	2	1.10
III. あなたのこの授業への取り組みについて							当カテゴリー平均点		3.75	
No.	設問文	平均点	回答率(%)					有効回答	無効回答	標準偏差
			5	4	3	2	1			
14	この授業にはつねに出席した	4.47	62.3	25.4	9.8	1.8	0.7	920	2	0.80
15	この授業のために予習または復習を欠かさなかった	3.04	12.1	22.5	35.0	18.0	12.5	907	15	1.18
16	授業中は私語をせず、携帯電話を切り、真剣に授業を受けた	3.97	36.5	34.0	20.9	6.7	1.9	914	8	1.00
17	授業中質問したり、考えを述べたりして、積極的に参加した	3.35	20.4	25.1	31.7	15.3	7.5	914	8	1.18
18	この授業によって、未知の分野だったことへ関心が広がった	3.94	37.4	32.7	19.6	7.0	3.3	910	12	1.07
IV. 総合的な印象							当カテゴリー平均点		4.12	
No.	設問文	平均点	回答率(%)					有効回答	無効回答	標準偏差
			5	4	3	2	1			
19	*総合的に見て、この授業を受けて良かったと思う	4.12	47.0	28.4	16.8	5.6	2.2	895	27	1.02

Q1-Q19の当区分平均値	4.00
Q1-Q19の学部全体平均値	4.01
Q1-Q19の学部全体平均値-2σ	3.23



2011年度後期 授業に関するアンケート集計結果(年齢別)

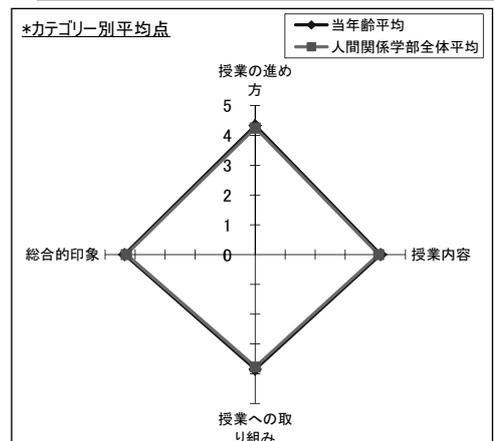
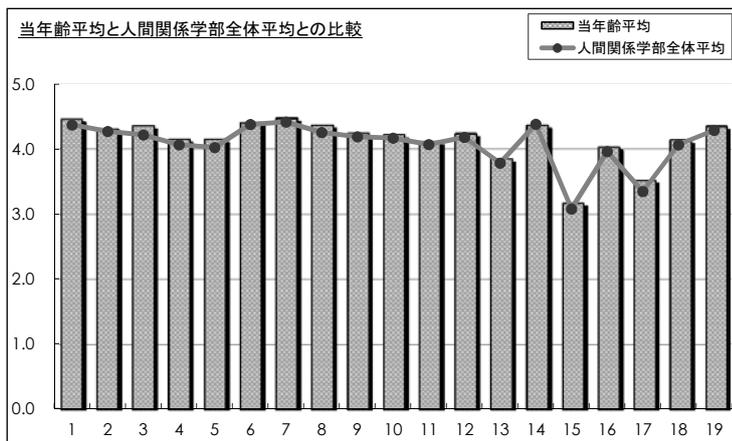
大妻女子大学

年齢	41～45歳
----	--------

履修者数	1,706
回答者数	1,169

I. 先生のこの授業の進め方について							当カテゴリー平均点		4.34	
No.	設問文	平均点	回答率(%)					有効回答	無効回答	標準偏差
			5	4	3	2	1			
1	先生の話し方は明瞭で聞き取りやすかった	4.47	61.0	27.9	7.9	3.0	0.2	1167	2	0.78
2	教材資料提示(板書、プリント、パワーポイント・ビデオ等)は授業の理解に役立った	4.32	51.8	32.6	11.5	3.7	0.4	1155	14	0.85
3	私語等の授業を妨げる行為に対して先生は適切な措置をした ※授業が静かなので注意を受けなかった場合は、5をマーク	4.36	54.9	29.6	12.7	2.6	0.3	1163	6	0.82
4	授業は学生の理解度を考慮しながら進められた	4.16	43.3	35.1	16.1	4.9	0.6	1163	6	0.91
5	質問や意見を引き出し、学生の積極的な参加を促した	4.16	44.9	32.2	18.6	3.1	1.3	1163	6	0.92
6	先生の学生に対する接し方は公平だった	4.41	58.1	28.0	10.8	2.8	0.3	1163	6	0.81
7	授業は先生の十分な準備と熱意をもって行われた	4.48	60.9	28.6	8.5	1.6	0.3	1163	6	0.75
II. この授業の内容について							当カテゴリー平均点		4.18	
No.	設問文	平均点	回答率(%)					有効回答	無効回答	標準偏差
			5	4	3	2	1			
8	授業は、学習の目標がはっきり示された	4.38	53.9	32.9	10.6	2.2	0.4	1164	5	0.79
9	授業の構成は体系的で把握しやすくとまっていた	4.25	48.5	33.5	13.3	4.0	0.7	1162	7	0.88
10	授業の内容は興味深いものだった	4.22	48.5	31.9	13.7	4.9	0.9	1165	4	0.92
11	授業の内容はよく理解できるものであった	4.12	42.3	35.0	15.9	5.6	1.2	1163	6	0.95
12	授業は自分の将来にとって意味があると思う	4.24	50.5	30.1	13.8	4.6	1.0	1161	8	0.93
13	授業科目の選択や学習時に、「授業内容」(シラバス)は役立った	3.86	34.1	28.3	28.7	6.9	2.0	1155	14	1.03
III. あなたのこの授業への取り組みについて							当カテゴリー平均点		3.85	
No.	設問文	平均点	回答率(%)					有効回答	無効回答	標準偏差
			5	4	3	2	1			
14	この授業にはつねに出席した	4.37	55.3	30.5	10.9	2.9	0.4	1165	4	0.82
15	この授業のために予習または復習を欠かさなかった	3.18	17.3	21.1	35.0	15.1	11.4	1156	13	1.22
16	授業中は私語をせず、携帯電話を切り、真剣に授業を受けた	4.03	39.5	32.4	21.4	5.2	1.6	1161	8	0.98
17	授業中質問したり、考えを述べたりして、積極的に参加した	3.52	26.3	24.6	30.6	12.0	6.5	1158	11	1.19
18	この授業によって、未知の分野だったことへ関心が広がった	4.14	42.8	34.5	17.8	4.1	0.9	1159	10	0.91
IV. 総合的な印象							当カテゴリー平均点		4.36	
No.	設問文	平均点	回答率(%)					有効回答	無効回答	標準偏差
			5	4	3	2	1			
19	*総合的に見て、この授業を受けて良かったと思う	4.36	55.8	28.6	11.7	3.5	0.5	1130	39	0.86

Q1-Q19の当区分平均値	4.16
Q1-Q19の学部全体平均値	4.08
Q1-Q19の学部全体平均値-2σ	3.37



2011年度前期 授業に関するアンケート集計結果(年齢別)

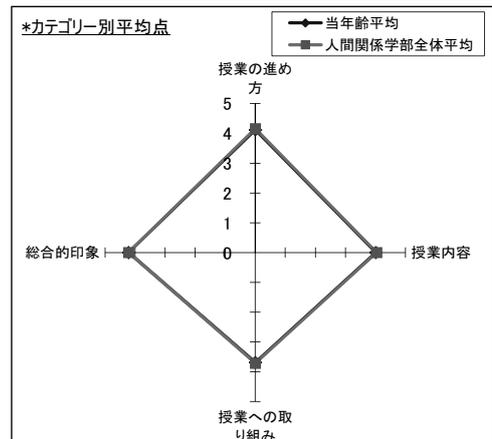
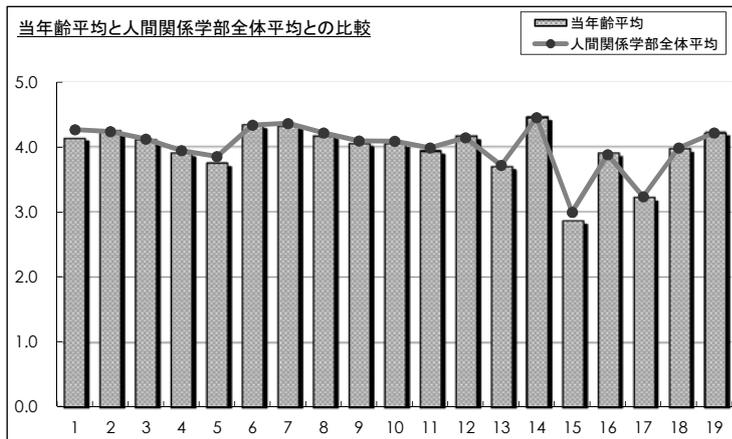
大妻女子大学

年齢	46～50歳
----	--------

履修者数	2,354
回答者数	1,851

I. 先生のこの授業の進め方について							当カテゴリー平均点		4.12	
No.	設問文	平均点	回答率(%)					有効回答	無効回答	標準偏差
			5	4	3	2	1			
1	先生の話し方は明瞭で聞き取りやすかった	4.14	45.9	32.0	13.6	6.8	1.7	1849	2	1.00
2	教材資料提示(板書、プリント、パワーポイント・ビデオ等)は授業の理解に役立った	4.25	48.4	34.2	12.7	3.6	1.1	1847	4	0.89
3	私語等の授業を妨げる行為に対して先生は適切な措置をした ※授業が静かなので注意を受けなかった場合は、5をマーク	4.11	42.9	32.6	18.6	4.6	1.2	1850	1	0.95
4	授業は学生の理解度を考慮しながら進められた	3.91	35.3	33.5	20.5	7.8	2.9	1848	3	1.06
5	質問や意見を引き出し、学生の積極的な参加を促した	3.75	31.5	28.8	26.5	9.9	3.3	1843	8	1.10
6	先生の学生に対する接し方は公平だった	4.34	54.2	29.2	13.3	2.4	0.8	1846	5	0.86
7	授業は先生の十分な準備と熱意をもって行われた	4.33	51.3	34.2	11.1	2.6	0.8	1843	8	0.83
II. この授業の内容について							当カテゴリー平均点		4.01	
No.	設問文	平均点	回答率(%)					有効回答	無効回答	標準偏差
			5	4	3	2	1			
8	授業は、学習の目標がはっきり示された	4.17	46.6	32.4	14.5	4.9	1.6	1849	2	0.96
9	授業の構成は体系的で把握しやすくとまっていた	4.06	40.9	33.9	17.5	5.5	2.3	1849	2	1.00
10	授業の内容は興味深いものだった	4.05	41.5	32.9	17.1	6.1	2.3	1849	2	1.02
11	授業の内容はよく理解できるものであった	3.94	36.0	34.6	19.6	6.6	3.3	1844	7	1.05
12	授業は自分の将来にとって意味があると思う	4.17	48.0	29.7	15.4	4.8	2.2	1847	4	1.00
13	授業科目の選択や学習時に、「授業内容」(シラバス)は役立った	3.70	26.8	30.6	31.8	7.4	3.4	1841	10	1.05
III. あなたのこの授業への取り組みについて							当カテゴリー平均点		3.69	
No.	設問文	平均点	回答率(%)					有効回答	無効回答	標準偏差
			5	4	3	2	1			
14	この授業にはつねに出席した	4.46	62.1	25.6	8.9	2.7	0.6	1849	2	0.82
15	この授業のために予習または復習を欠かさなかった	2.87	11.5	17.2	34.2	20.8	16.3	1841	10	1.21
16	授業中は私語をせず、携帯電話を切り、真剣に授業を受けた	3.90	33.1	33.9	24.6	7.2	1.3	1845	6	0.99
17	授業中質問したり、考えを述べたりして、積極的に参加した	3.23	19.5	22.3	31.0	15.6	11.6	1846	5	1.25
18	この授業によって、未知の分野だったことへ関心が広がった	3.97	37.3	32.7	22.4	5.2	2.4	1846	5	1.01
IV. 総合的な印象							当カテゴリー平均点		4.22	
No.	設問文	平均点	回答率(%)					有効回答	無効回答	標準偏差
			5	4	3	2	1			
19	*総合的に見て、この授業を受けて良かったと思う	4.22	50.8	28.8	14.2	3.8	2.3	1796	55	0.98

Q1-Q19の当区分平均値	3.98
Q1-Q19の学部全体平均値	4.01
Q1-Q19の学部全体平均値-2σ	3.23



2011年度後期 授業に関するアンケート集計結果(年齢別)

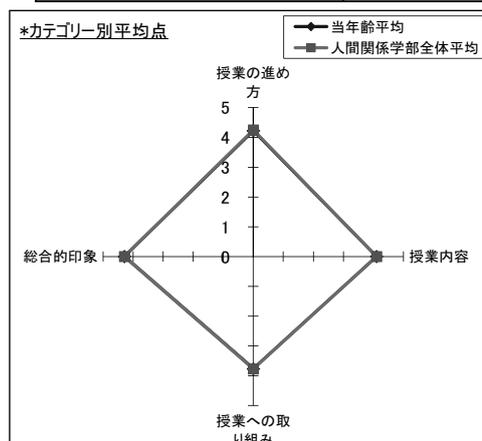
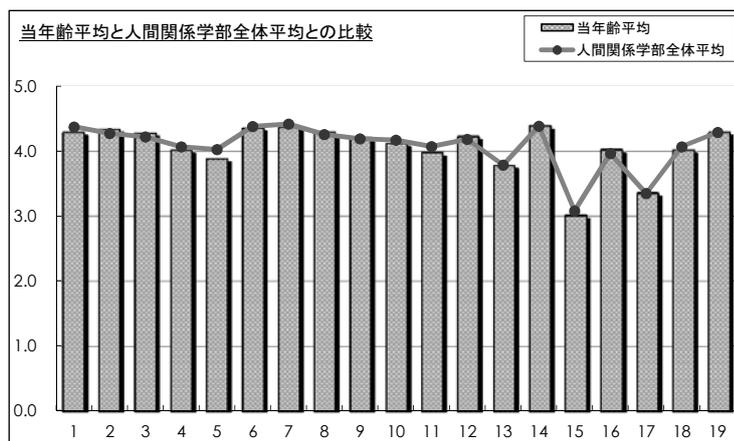
大妻女子大学

年齢	46～50歳
----	--------

履修者数	1,551
回答者数	1,073

I. 先生のこの授業の進め方について							当カテゴリー平均点		4.22	
No.	設問文	平均点	回答率(%)					有効回答	無効回答	標準偏差
			5	4	3	2	1			
1	先生の話し方は明瞭で聞き取りやすかった	4.30	51.2	33.2	11.0	3.3	1.3	1071	2	0.88
2	教材資料提示(板書、プリント、パワーポイント・ビデオ等)は授業の理解に役立った	4.34	52.6	33.0	12.0	1.3	1.2	1071	2	0.83
3	私語等の授業を妨げる行為に対して先生は適切な措置をした ※授業が静かなので注意を受けなかった場合は、5をマーク	4.29	49.5	33.0	14.8	2.1	0.7	1070	3	0.84
4	授業は学生の理解度を考慮しながら進められた	4.02	39.0	34.0	19.2	6.0	1.9	1070	3	0.99
5	質問や意見を引き出し、学生の積極的な参加を促した	3.89	34.6	31.3	24.8	6.8	2.4	1067	6	1.04
6	先生の学生に対する接し方は公平だった	4.36	54.3	31.3	11.6	1.8	1.0	1067	6	0.83
7	授業は先生の十分な準備と熱意をもって行われた	4.37	52.2	35.3	10.6	1.4	0.5	1067	6	0.77
II. この授業の内容について							当カテゴリー平均点		4.11	
No.	設問文	平均点	回答率(%)					有効回答	無効回答	標準偏差
			5	4	3	2	1			
8	授業は、学習の目標がはっきり示された	4.30	51.1	32.1	13.4	2.1	1.2	1070	3	0.87
9	授業の構成は体系的で把握しやすくとまっていた	4.21	44.5	37.8	13.8	2.3	1.6	1069	4	0.88
10	授業の内容は興味深いものだった	4.13	42.8	35.0	16.1	4.6	1.6	1070	3	0.95
11	授業の内容はよく理解できるものであった	3.98	35.5	36.9	20.2	5.6	1.9	1069	4	0.97
12	授業は自分の将来にとって意味があると思う	4.23	49.6	30.6	14.7	3.7	1.5	1067	6	0.93
13	授業科目の選択や学習時に、「授業内容」(シラバス)は役立った	3.78	29.3	31.2	30.3	7.0	2.3	1062	11	1.02
III. あなたのこの授業への取り組みについて							当カテゴリー平均点		3.76	
No.	設問文	平均点	回答率(%)					有効回答	無効回答	標準偏差
			5	4	3	2	1			
14	この授業にはつねに出席した	4.39	59.3	24.7	12.6	2.6	0.7	1067	6	0.86
15	この授業のために予習または復習を欠かさなかった	3.02	13.3	19.0	37.5	16.7	13.5	1068	5	1.20
16	授業中は私語をせず、携帯電話を切り、真剣に授業を受けた	4.03	35.6	36.8	23.0	4.2	0.5	1066	7	0.89
17	授業中質問したり、考えを述べたりして、積極的に参加した	3.36	22.2	22.9	31.6	14.8	8.4	1068	5	1.21
18	この授業によって、未知の分野だったことへ関心が広がった	4.02	38.1	34.2	21.3	4.7	1.8	1067	6	0.97
IV. 総合的な印象							当カテゴリー平均点		4.29	
No.	設問文	平均点	回答率(%)					有効回答	無効回答	標準偏差
			5	4	3	2	1			
19	*総合的に見て、この授業を受けて良かったと思う	4.29	52.4	29.3	14.4	3.1	0.9	1042	31	0.89

Q1-Q19の当区分平均値	4.07
Q1-Q19の学部全体平均値	4.08
Q1-Q19の学部全体平均値-2σ	3.37



2011年度前期 授業に関するアンケート集計結果(年齢別)

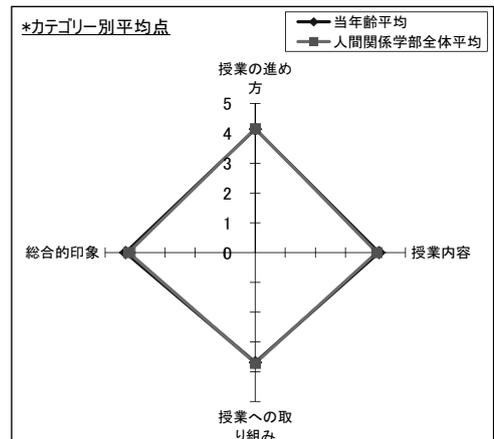
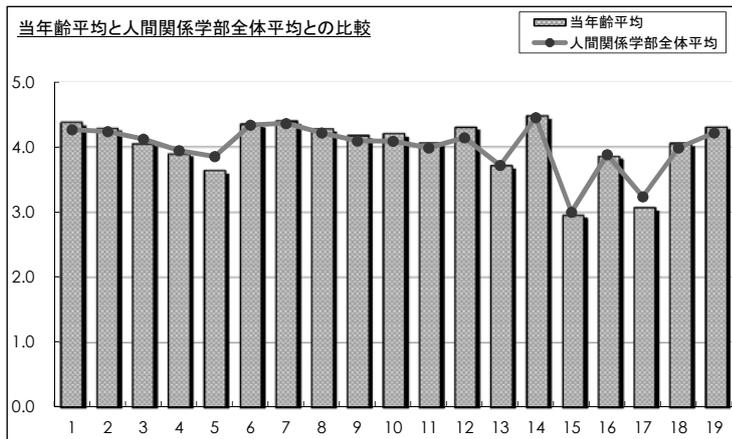
大妻女子大学

年齢	51～55歳
----	--------

履修者数	940
回答者数	672

I. 先生のこの授業の進め方について							当カテゴリー平均点		4.15	
No.	設問文	平均点	回答率(%)					有効回答	無効回答	標準偏差
			5	4	3	2	1			
1	先生の話し方は明瞭で聞き取りやすかった	4.38	56.3	29.1	11.9	1.8	0.9	671	1	0.83
2	教材資料提示(板書、プリント、パワーポイント・ビデオ等)は授業の理解に役立った	4.30	52.1	31.7	11.1	3.9	1.2	668	4	0.90
3	私語等の授業を妨げる行為に対して先生は適切な措置をした ※授業が静かなので注意を受けなかった場合は、5をマーク	4.06	41.5	30.1	22.5	4.2	1.6	670	2	0.98
4	授業は学生の理解度を考慮しながら進められた	3.90	36.0	31.2	22.7	6.9	3.3	670	2	1.07
5	質問や意見を引き出し、学生の積極的な参加を促した	3.64	29.6	24.7	30.2	11.5	4.0	669	3	1.14
6	先生の学生に対する接し方は公平だった	4.35	55.4	28.1	13.8	1.8	0.9	668	4	0.85
7	授業は先生の十分な準備と熱意をもって行われた	4.40	56.0	30.7	11.5	0.9	0.9	668	4	0.80
II. この授業の内容について							当カテゴリー平均点		4.13	
No.	設問文	平均点	回答率(%)					有効回答	無効回答	標準偏差
			5	4	3	2	1			
8	授業は、学習の目標がはっきり示された	4.29	49.6	33.0	14.5	1.9	0.9	669	3	0.85
9	授業の構成は体系的で把握しやすくとまっていた	4.18	44.9	35.5	14.0	3.7	1.9	671	1	0.94
10	授業の内容は興味深いものだった	4.21	47.2	33.0	14.9	3.4	1.5	670	2	0.92
11	授業の内容はよく理解できるものであった	4.07	41.0	34.6	16.5	5.8	2.1	668	4	1.00
12	授業は自分の将来にとって意味があると思う	4.31	50.7	32.8	13.4	2.5	0.4	670	2	0.83
13	授業科目の選択や学習時に、「授業内容」(シラバス)は役立った	3.72	28.3	28.7	32.6	8.1	2.4	669	3	1.04
III. あなたのこの授業への取り組みについて							当カテゴリー平均点		3.69	
No.	設問文	平均点	回答率(%)					有効回答	無効回答	標準偏差
			5	4	3	2	1			
14	この授業にはつねに出席した	4.48	62.3	26.2	9.4	1.6	0.4	669	3	0.77
15	この授業のために予習または復習を欠かさなかった	2.96	13.1	19.2	33.8	18.8	15.2	666	6	1.23
16	授業中は私語をせず、携帯電話を切り、真剣に授業を受けた	3.86	32.0	31.7	28.1	6.7	1.3	668	4	0.99
17	授業中質問したり、考えを述べたりして、積極的に参加した	3.07	15.9	18.6	34.1	20.1	11.4	668	4	1.21
18	この授業によって、未知の分野だったことへ関心が広がった	4.06	41.1	32.1	20.6	4.2	1.9	669	3	0.98
IV. 総合的な印象							当カテゴリー平均点		4.32	
No.	設問文	平均点	回答率(%)					有効回答	無効回答	標準偏差
			5	4	3	2	1			
19	*総合的に見て、この授業を受けて良かったと思う	4.32	53.8	28.5	14.9	1.1	1.7	650	22	0.89

Q1-Q19の当区分平均値	4.03
Q1-Q19の学部全体平均値	4.01
Q1-Q19の学部全体平均値-2σ	3.23



2011年度後期 授業に関するアンケート集計結果(年齢別)

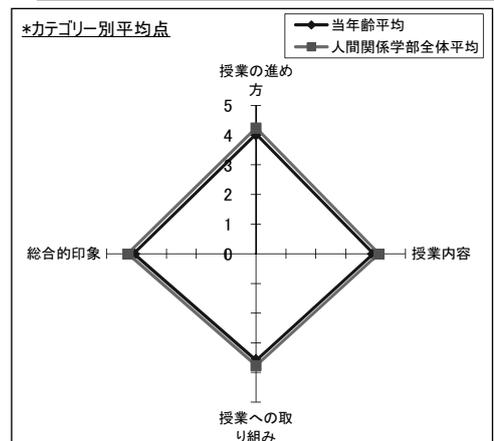
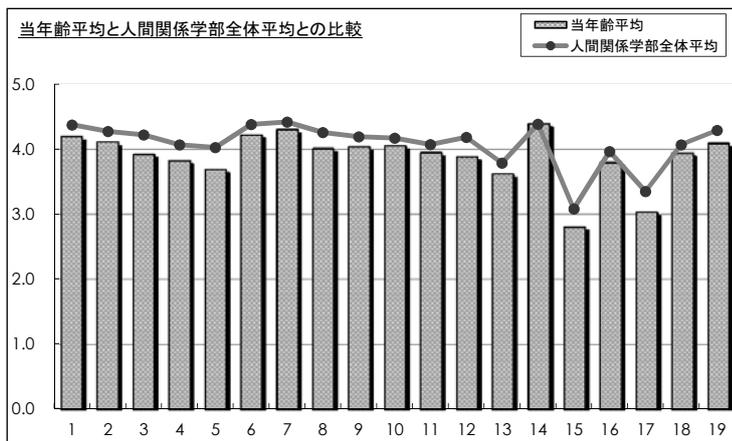
大妻女子大学

年齢	51～55歳
----	--------

履修者数	1,790
回答者数	1,066

I. 先生のこの授業の進め方について							当カテゴリー平均点		4.04	
No.	設問文	平均点	回答率(%)					有効回答	無効回答	標準偏差
			5	4	3	2	1			
1	先生の話し方は明瞭で聞き取りやすかった	4.20	51.3	27.1	13.5	6.3	1.8	1065	1	1.01
2	教材資料提示(板書、プリント、パワーポイント・ビデオ等)は授業の理解に役立った	4.11	42.8	34.4	15.6	5.2	2.0	1063	3	0.98
3	私語等の授業を妨げる行為に対して先生は適切な措置をした ※授業が静かなので注意を受けなかった場合は、5をマーク	3.92	38.0	30.5	20.7	7.4	3.4	1065	1	1.09
4	授業は学生の理解度を考慮しながら進められた	3.83	31.5	32.9	24.9	8.4	2.3	1065	1	1.04
5	質問や意見を引き出し、学生の積極的な参加を促した	3.70	30.8	26.2	29.0	10.3	3.8	1063	3	1.12
6	先生の学生に対する接し方は公平だった	4.23	50.6	28.0	16.5	3.1	1.8	1065	1	0.95
7	授業は先生の十分な準備と熱意をもって行われた	4.30	53.4	28.7	13.8	2.9	1.2	1059	7	0.90
II. この授業の内容について							当カテゴリー平均点		3.93	
No.	設問文	平均点	回答率(%)					有効回答	無効回答	標準偏差
			5	4	3	2	1			
8	授業は、学習の目標がはっきり示された	4.02	38.5	33.9	20.2	5.6	1.9	1063	3	0.99
9	授業の構成は体系的で把握しやすくとまっていた	4.04	39.4	34.7	18.5	5.5	2.0	1064	2	0.99
10	授業の内容は興味深いものだった	4.06	40.0	35.4	17.0	5.4	2.2	1064	2	0.99
11	授業の内容はよく理解できるものであった	3.95	33.9	37.1	21.3	5.7	2.1	1063	3	0.98
12	授業は自分の将来にとって意味があると思う	3.89	35.5	30.2	24.4	7.3	2.6	1063	3	1.06
13	授業科目の選択や学習時に、「授業内容」(シラバス)は役立った	3.62	24.9	27.6	35.7	8.4	3.5	1063	3	1.05
III. あなたのこの授業への取り組みについて							当カテゴリー平均点		3.60	
No.	設問文	平均点	回答率(%)					有効回答	無効回答	標準偏差
			5	4	3	2	1			
14	この授業にはつねに出席した	4.39	58.3	26.1	12.5	2.9	0.2	1064	2	0.83
15	この授業のために予習または復習を欠かさなかった	2.81	10.8	15.7	36.7	17.6	19.2	1065	1	1.22
16	授業中は私語をせず、携帯電話を切り、真剣に授業を受けた	3.80	30.9	30.8	28.0	8.0	2.3	1064	2	1.04
17	授業中質問したり、考えを述べたりして、積極的に参加した	3.04	15.7	17.8	34.8	17.7	14.0	1065	1	1.24
18	この授業によって、未知の分野だったことへ関心が広がった	3.94	36.6	33.2	21.0	5.9	3.3	1059	7	1.05
IV. 総合的な印象							当カテゴリー平均点		4.09	
No.	設問文	平均点	回答率(%)					有効回答	無効回答	標準偏差
			5	4	3	2	1			
19	*総合的に見て、この授業を受けて良かったと思う	4.09	43.5	31.7	17.7	4.8	2.2	1031	35	1.00

Q1-Q19の当区分平均値	3.89
Q1-Q19の学部全体平均値	4.08
Q1-Q19の学部全体平均値-2σ	3.37



2011年度前期 授業に関するアンケート集計結果(年齢別)

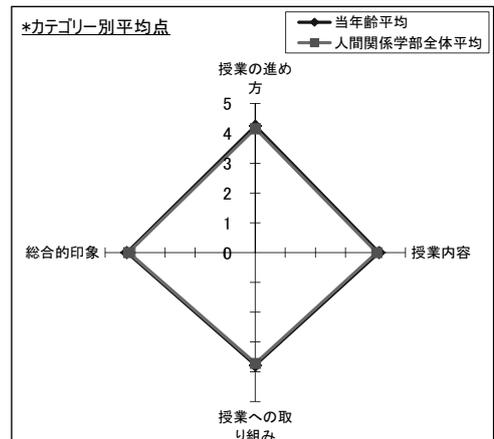
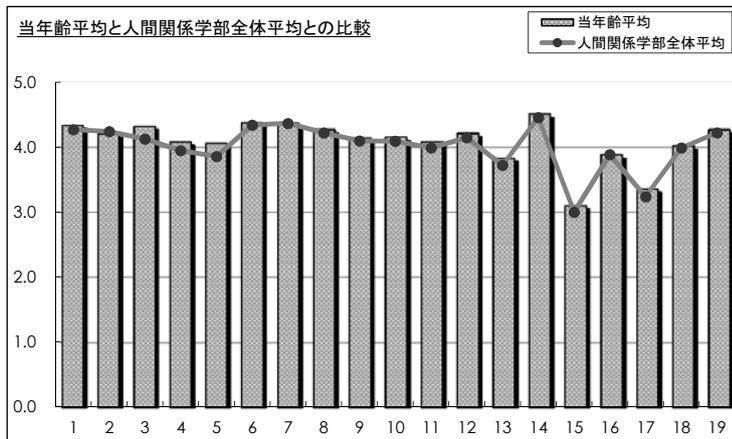
大妻女子大学

年齢	56～60歳
----	--------

履修者数	1,724
回答者数	1,360

I. 先生のこの授業の進め方について							当カテゴリー平均点		4.26	
No.	設問文	平均点	回答率(%)					有効回答	無効回答	標準偏差
			5	4	3	2	1			
1	先生の話し方は明瞭で聞き取りやすかった	4.34	55.7	29.0	10.4	3.6	1.3	1360	0	0.89
2	教材資料提示(板書、プリント、パワーポイント・ビデオ等)は授業の理解に役立った	4.21	49.8	30.0	13.5	4.8	1.9	1358	2	0.98
3	私語等の授業を妨げる行為に対して先生は適切な措置をした ※授業が静かなので注意を受けなかった場合は、5をマーク	4.33	52.2	32.9	11.1	3.5	0.4	1360	0	0.83
4	授業は学生の理解度を考慮しながら進められた	4.09	44.9	29.7	17.2	5.8	2.3	1358	2	1.03
5	質問や意見を引き出し、学生の積極的な参加を促した	4.06	43.6	27.6	22.3	5.1	1.5	1357	3	1.00
6	先生の学生に対する接し方は公平だった	4.38	56.8	28.0	12.5	1.8	0.9	1357	3	0.84
7	授業は先生の十分な準備と熱意をもって行われた	4.37	55.5	30.2	11.0	2.7	0.7	1356	4	0.83
II. この授業の内容について							当カテゴリー平均点		4.12	
No.	設問文	平均点	回答率(%)					有効回答	無効回答	標準偏差
			5	4	3	2	1			
8	授業は、学習の目標がはっきり示された	4.27	51.2	30.8	13.4	3.6	1.0	1358	2	0.90
9	授業の構成は体系的で把握しやすくとまっていた	4.14	47.1	30.0	15.4	5.4	2.2	1358	2	1.01
10	授業の内容は興味深いものだった	4.16	48.8	29.2	13.4	6.2	2.4	1357	3	1.03
11	授業の内容はよく理解できるものであった	4.09	46.2	28.6	16.0	6.6	2.6	1353	7	1.05
12	授業は自分の将来にとって意味があると思う	4.22	50.4	29.0	14.6	4.3	1.8	1354	6	0.97
13	授業科目の選択や学習時に、「授業内容」(シラバス)は役立った	3.84	34.0	28.8	27.9	6.1	3.3	1350	10	1.06
III. あなたのこの授業への取り組みについて							当カテゴリー平均点		3.78	
No.	設問文	平均点	回答率(%)					有効回答	無効回答	標準偏差
			5	4	3	2	1			
14	この授業にはつねに出席した	4.52	65.7	23.0	9.0	1.8	0.4	1354	6	0.77
15	この授業のために予習または復習を欠かさなかった	3.11	14.3	20.7	37.3	16.8	10.9	1355	5	1.17
16	授業中は私語をせず、携帯電話を切り、真剣に授業を受けた	3.89	32.5	34.9	23.4	8.0	1.3	1352	8	0.99
17	授業中質問したり、考えを述べたりして、積極的に参加した	3.36	22.2	21.5	34.0	14.9	7.4	1354	6	1.19
18	この授業によって、未知の分野だったことへ関心が広がった	4.03	40.1	32.0	20.5	5.4	2.0	1347	13	1.00
IV. 総合的な印象							当カテゴリー平均点		4.28	
No.	設問文	平均点	回答率(%)					有効回答	無効回答	標準偏差
			5	4	3	2	1			
19	*総合的に見て、この授業を受けて良かったと思う	4.28	55.1	25.7	12.8	4.5	1.9	1323	37	0.98

Q1-Q19の当区分平均値	4.09
Q1-Q19の学部全体平均値	4.01
Q1-Q19の学部全体平均値-2σ	3.23



2011年度後期 授業に関するアンケート集計結果(年齢別)

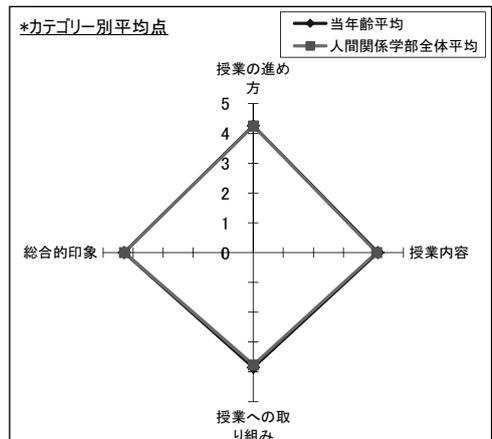
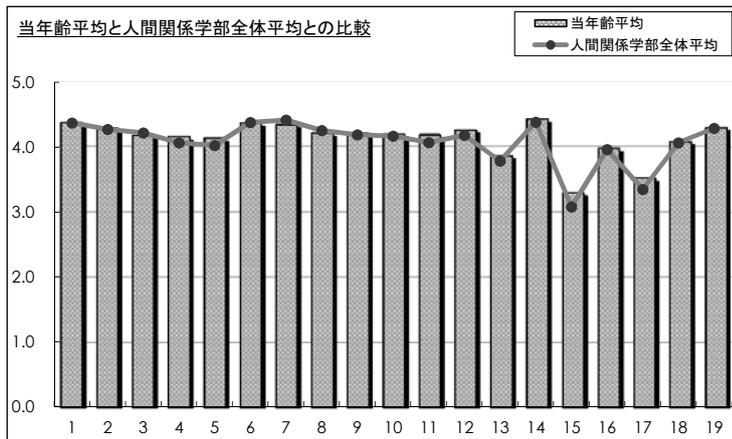
大妻女子大学

年齢	56～60歳
----	--------

履修者数	1,285
回答者数	851

I. 先生のこの授業の進め方について							当カテゴリー平均点		4.26	
No.	設問文	平均点	回答率(%)					有効回答	無効回答	標準偏差
			5	4	3	2	1			
1	先生の話し方は明瞭で聞き取りやすかった	4.37	54.8	31.4	10.8	2.1	0.8	849	2	0.82
2	教材資料提示(板書、プリント、パワーポイント・ビデオ等)は授業の理解に役立った	4.28	49.6	33.5	13.0	3.2	0.8	849	2	0.87
3	私語等の授業を妨げる行為に対して先生は適切な措置をした ※授業が静かなので注意を受けなかった場合は、5をマーク	4.18	44.6	34.8	15.7	3.7	1.3	848	3	0.91
4	授業は学生の理解度を考慮しながら進められた	4.15	44.2	32.2	19.2	3.7	0.7	847	4	0.91
5	質問や意見を引き出し、学生の積極的な参加を促した	4.13	44.0	31.1	20.1	3.7	1.2	846	5	0.94
6	先生の学生に対する接し方は公平だった	4.36	54.5	30.3	12.6	2.0	0.6	844	7	0.82
7	授業は先生の十分な準備と熱意をもって行われた	4.34	52.4	32.9	12.1	1.8	0.8	843	8	0.82
II. この授業の内容について							当カテゴリー平均点		4.15	
No.	設問文	平均点	回答率(%)					有効回答	無効回答	標準偏差
			5	4	3	2	1			
8	授業は、学習の目標がはっきり示された	4.21	48.1	30.3	17.0	3.7	0.9	847	4	0.92
9	授業の構成は体系的で把握しやすくとまっていた	4.20	46.6	32.4	16.2	3.7	1.1	845	6	0.91
10	授業の内容は興味深いものだった	4.19	48.3	29.5	16.8	4.3	1.2	847	4	0.94
11	授業の内容はよく理解できるものであった	4.19	45.9	32.5	16.7	4.0	0.8	845	6	0.91
12	授業は自分の将来にとって意味があると思う	4.26	51.3	28.6	15.8	3.3	0.9	846	5	0.91
13	授業科目の選択や学習時に、「授業内容」(シラバス)は役立った	3.86	34.8	26.9	30.5	5.6	2.3	843	8	1.03
III. あなたのこの授業への取り組みについて							当カテゴリー平均点		3.86	
No.	設問文	平均点	回答率(%)					有効回答	無効回答	標準偏差
			5	4	3	2	1			
14	この授業にはつねに出席した	4.42	58.6	27.7	11.6	1.8	0.4	846	5	0.79
15	この授業のために予習または復習を欠かさなかった	3.30	21.8	20.8	32.9	14.5	9.9	847	4	1.24
16	授業中は私語をせず、携帯電話を切り、真剣に授業を受けた	3.97	36.2	31.7	26.2	5.1	0.8	846	5	0.95
17	授業中質問したり、考えを述べたりして、積極的に参加した	3.52	25.6	23.9	33.5	11.0	6.0	845	6	1.16
18	この授業によって、未知の分野だったことへ関心が広がった	4.08	40.4	33.4	21.0	4.1	1.1	844	7	0.93
IV. 総合的な印象							当カテゴリー平均点		4.30	
No.	設問文	平均点	回答率(%)					有効回答	無効回答	標準偏差
			5	4	3	2	1			
19	*総合的に見て、この授業を受けて良かったと思う	4.30	52.5	29.4	14.3	3.1	0.7	817	34	0.88

Q1-Q19の当区分平均値	4.12
Q1-Q19の学部全体平均値	4.08
Q1-Q19の学部全体平均値-2σ	3.37



2011年度前期 授業に関するアンケート集計結果(年齢別)

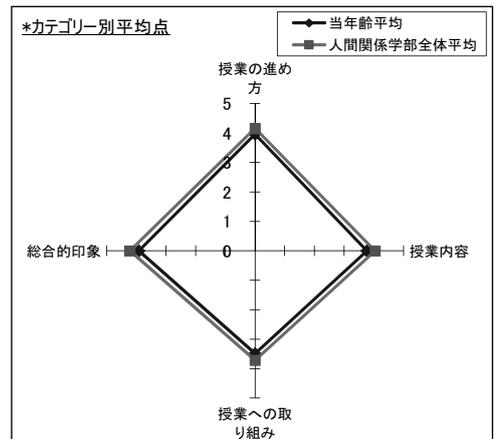
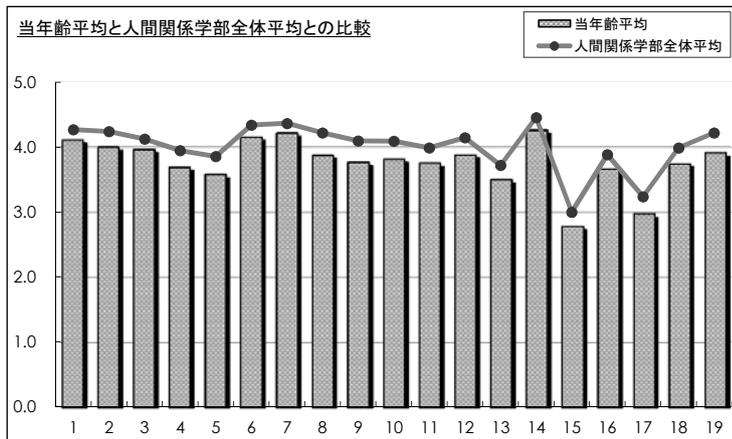
大妻女子大学

年齢	61～65歳
----	--------

履修者数	846
回答者数	604

I. 先生のこの授業の進め方について							当カテゴリー平均点		3.96	
No.	設問文	平均点	回答率(%)					有効回答	無効回答	標準偏差
			5	4	3	2	1			
1	先生の話し方は明瞭で聞き取りやすかった	4.11	41.3	36.3	16.1	5.0	1.3	603	1	0.94
2	教材資料提示(板書、プリント、パワーポイント・ビデオ等)は授業の理解に役立った	4.00	36.4	36.5	20.1	5.1	1.8	602	2	0.97
3	私語等の授業を妨げる行為に対して先生は適切な措置をした ※授業が静かなので注意を受けなかった場合は、5をマーク	3.97	37.7	32.1	21.3	7.0	2.0	602	2	1.02
4	授業は学生の理解度を考慮しながら進められた	3.70	26.4	29.6	33.7	7.8	2.5	602	2	1.02
5	質問や意見を引き出し、学生の積極的な参加を促した	3.59	23.9	30.9	29.9	10.7	4.7	599	5	1.10
6	先生の学生に対する接し方は公平だった	4.16	45.4	30.5	20.3	2.7	1.2	597	7	0.92
7	授業は先生の十分な準備と熱意をもって行われた	4.22	45.7	33.7	17.9	2.0	0.7	597	7	0.86
II. この授業の内容について							当カテゴリー平均点		3.77	
No.	設問文	平均点	回答率(%)					有効回答	無効回答	標準偏差
			5	4	3	2	1			
8	授業は、学習の目標がはっきり示された	3.88	33.6	34.1	22.4	6.6	3.3	602	2	1.05
9	授業の構成は体系的で把握しやすくとまっていた	3.77	28.3	34.9	26.0	7.2	3.7	601	3	1.05
10	授業の内容は興味深いものだった	3.82	32.0	32.5	24.8	6.8	3.8	600	4	1.08
11	授業の内容はよく理解できるものであった	3.76	28.0	32.9	29.3	6.7	3.2	601	3	1.03
12	授業は自分の将来にとって意味があると思う	3.88	35.0	32.1	22.3	7.5	3.2	602	2	1.07
13	授業科目の選択や学習時に、「授業内容」(シラバス)は役立った	3.51	20.2	30.2	34.7	10.0	5.0	600	4	1.07
III. あなたのこの授業への取り組みについて							当カテゴリー平均点		3.49	
No.	設問文	平均点	回答率(%)					有効回答	無効回答	標準偏差
			5	4	3	2	1			
14	この授業にはつねに出席した	4.26	53.1	25.3	17.0	4.3	0.3	601	3	0.91
15	この授業のために予習または復習を欠かさなかった	2.79	10.0	13.9	38.5	20.1	17.6	603	1	1.18
16	授業中は私語をせず、携帯電話を切り、真剣に授業を受けた	3.67	24.8	31.7	31.9	9.1	2.5	602	2	1.02
17	授業中質問したり、考えを述べたりして、積極的に参加した	2.98	12.4	19.9	34.7	18.9	14.1	603	1	1.20
18	この授業によって、未知の分野だったことへ関心が広がった	3.75	30.6	29.2	28.5	8.2	3.5	599	5	1.08
IV. 総合的な印象							当カテゴリー平均点		3.91	
No.	設問文	平均点	回答率(%)					有効回答	無効回答	標準偏差
			5	4	3	2	1			
19	*総合的に見て、この授業を受けて良かったと思う	3.91	35.6	33.5	21.2	6.3	3.4	585	19	1.06

Q1-Q19の当区分平均値	3.77
Q1-Q19の学部全体平均値	4.01
Q1-Q19の学部全体平均値-2σ	3.23



2011年度後期 授業に関するアンケート集計結果(年齢別)

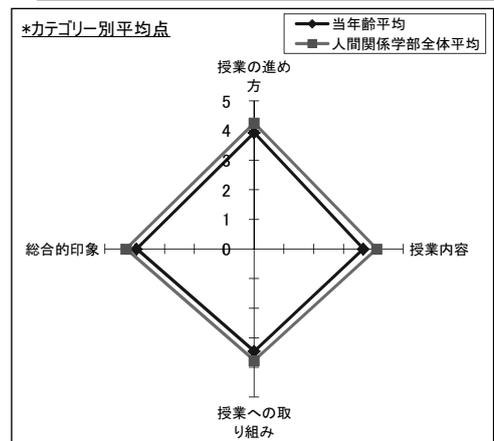
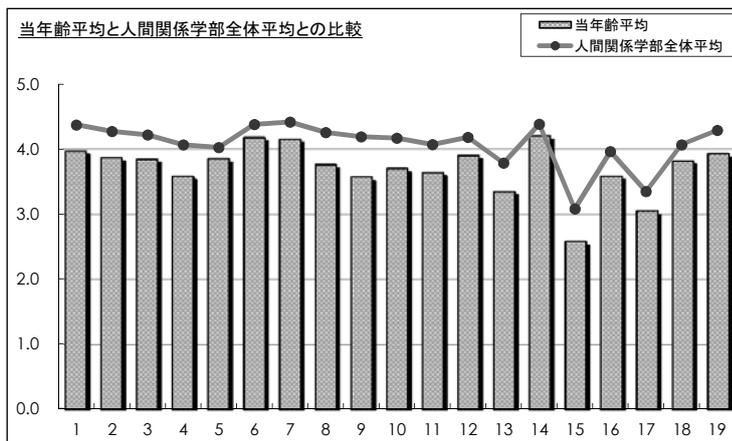
大妻女子大学

年齢	61～65歳
----	--------

履修者数	235
回答者数	186

I. 先生のこの授業の進め方について							当カテゴリ平均点		3.93	
No.	設問文	平均点	回答率(%)					有効回答	無効回答	標準偏差
			5	4	3	2	1			
1	先生の話し方は明瞭で聞き取りやすかった	3.98	36.0	36.6	18.8	6.5	2.2	186	0	1.00
2	教材資料提示(板書、プリント、パワーポイント・ビデオ等)は授業の理解に役立った	3.88	31.7	37.1	21.0	7.5	2.7	186	0	1.03
3	私語等の授業を妨げる行為に対して先生は適切な措置をした ※授業が静かなので注意を受けなかった場合は、5をマーク	3.85	33.7	32.1	24.5	5.4	4.3	184	2	1.08
4	授業は学生の理解度を考慮しながら進められた	3.59	20.4	33.9	33.3	9.1	3.2	186	0	1.02
5	質問や意見を引き出し、学生の積極的な参加を促した	3.86	29.6	39.2	21.5	7.0	2.7	186	0	1.01
6	先生の学生に対する接し方は公平だった	4.18	44.9	35.1	14.6	4.3	1.1	185	1	0.91
7	授業は先生の十分な準備と熱意をもって行われた	4.16	42.4	36.4	17.4	2.2	1.6	184	2	0.90
II. この授業の内容について							当カテゴリ平均点		3.66	
No.	設問文	平均点	回答率(%)					有効回答	無効回答	標準偏差
			5	4	3	2	1			
8	授業は、学習の目標がはっきり示された	3.77	27.4	38.2	21.5	9.7	3.2	186	0	1.06
9	授業の構成は体系的で把握しやすくとまっていた	3.58	21.0	32.8	32.3	10.8	3.2	186	0	1.04
10	授業の内容は興味深いものだった	3.71	25.4	37.8	22.2	11.4	3.2	185	1	1.07
11	授業の内容はよく理解できるものであった	3.65	18.8	40.9	29.0	9.1	2.2	186	0	0.96
12	授業は自分の将来にとって意味があると思う	3.91	30.6	40.3	19.9	7.5	1.6	186	0	0.97
13	授業科目の選択や学習時に、「授業内容」(シラバス)は役立った	3.35	14.0	30.6	38.7	10.2	6.5	186	0	1.05
III. あなたのこの授業への取り組みについて							当カテゴリ平均点		3.46	
No.	設問文	平均点	回答率(%)					有効回答	無効回答	標準偏差
			5	4	3	2	1			
14	この授業にはつねに出席した	4.21	47.8	31.2	15.1	5.9	0.0	186	0	0.91
15	この授業のために予習または復習を欠かさなかった	2.59	3.8	14.0	37.1	28.0	17.2	186	0	1.05
16	授業中は私語をせず、携帯電話を切り、真剣に授業を受けた	3.59	20.5	34.6	31.4	10.8	2.7	185	1	1.02
17	授業中質問したり、考えを述べたりして、積極的に参加した	3.05	9.7	23.7	36.6	22.6	7.5	186	0	1.07
18	この授業によって、未知の分野だったことへ関心が広がった	3.83	27.0	40.0	23.2	8.1	1.6	185	1	0.97
IV. 総合的な印象							当カテゴリ平均点		3.94	
No.	設問文	平均点	回答率(%)					有効回答	無効回答	標準偏差
			5	4	3	2	1			
19	*総合的に見て、この授業を受けて良かったと思う	3.94	34.4	37.8	17.8	7.2	2.8	180	6	1.03

Q1-Q19の当区分平均値	3.72
Q1-Q19の学部全体平均値	4.08
Q1-Q19の学部全体平均値-2σ	3.37



2011年度前期 授業に関するアンケート集計結果(年齢別)

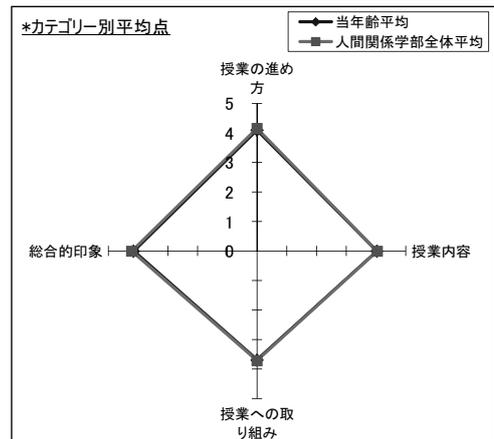
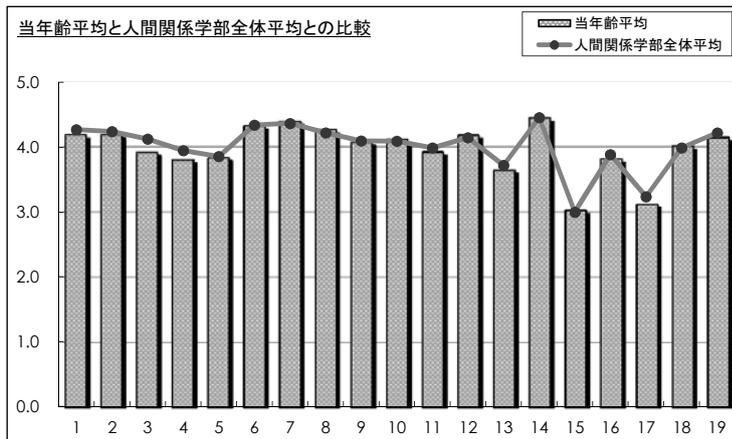
大妻女子大学

年齢	66歳以上
----	-------

履修者数	901
回答者数	741

I. 先生のこの授業の進め方について							当カテゴリー平均点		4.10	
No.	設問文	平均点	回答率(%)					有効回答	無効回答	標準偏差
			5	4	3	2	1			
1	先生の話し方は明瞭で聞き取りやすかった	4.19	46.8	33.9	12.4	5.3	1.6	740	1	0.96
2	教材資料提示(板書、プリント、パワーポイント・ビデオ等)は授業の理解に役立った	4.19	43.2	38.4	13.5	3.9	0.9	740	1	0.88
3	私語等の授業を妨げる行為に対して先生は適切な措置をした ※授業が静かなので注意を受けなかった場合は、5をマーク	3.92	42.0	26.9	17.0	9.2	4.9	740	1	1.18
4	授業は学生の理解度を考慮しながら進められた	3.81	29.1	33.6	27.8	7.8	1.6	741	0	1.00
5	質問や意見を引き出し、学生の積極的な参加を促した	3.84	34.7	29.6	24.2	8.2	3.4	741	0	1.09
6	先生の学生に対する接し方は公平だった	4.33	52.4	32.7	11.7	2.3	1.0	735	6	0.84
7	授業は先生の十分な準備と熱意をもって行われた	4.40	54.1	33.7	10.6	1.0	0.7	734	7	0.77
II. この授業の内容について							当カテゴリー平均点		4.04	
No.	設問文	平均点	回答率(%)					有効回答	無効回答	標準偏差
			5	4	3	2	1			
8	授業は、学習の目標がはっきり示された	4.27	45.5	38.6	13.4	1.9	0.5	740	1	0.80
9	授業の構成は体系的で把握しやすくとまっていた	4.08	39.1	36.0	19.8	4.1	1.1	739	2	0.92
10	授業の内容は興味深いものだった	4.12	41.9	34.8	17.7	4.3	1.2	739	2	0.93
11	授業の内容はよく理解できるものであった	3.92	31.0	38.6	23.6	5.4	1.4	736	5	0.94
12	授業は自分の将来にとって意味があると思う	4.18	46.5	32.1	16.0	4.3	1.1	736	5	0.93
13	授業科目の選択や学習時に、「授業内容」(シラバス)は役立った	3.65	25.7	29.1	33.5	7.9	3.8	735	6	1.06
III. あなたのこの授業への取り組みについて							当カテゴリー平均点		3.69	
No.	設問文	平均点	回答率(%)					有効回答	無効回答	標準偏差
			5	4	3	2	1			
14	この授業にはつねに出席した	4.45	62.4	25.2	8.7	2.6	1.2	739	2	0.85
15	この授業のために予習または復習を欠かさなかった	3.03	11.0	24.5	34.0	18.0	12.6	739	2	1.17
16	授業中は私語をせず、携帯電話を切り、真剣に授業を受けた	3.82	29.1	35.5	26.1	7.2	2.2	736	5	1.00
17	授業中質問したり、考えを述べたりして、積極的に参加した	3.12	15.6	22.1	32.2	19.4	10.7	737	4	1.21
18	この授業によって、未知の分野だったことへ関心が広がった	4.02	37.3	36.5	18.9	5.0	2.2	739	2	0.98
IV. 総合的な印象							当カテゴリー平均点		4.15	
No.	設問文	平均点	回答率(%)					有効回答	無効回答	標準偏差
			5	4	3	2	1			
19	*総合的に見て、この授業を受けて良かったと思う	4.15	43.9	34.6	16.5	2.9	2.1	720	21	0.94

Q1-Q19の当区分平均値	3.97
Q1-Q19の学部全体平均値	4.01
Q1-Q19の学部全体平均値-2σ	3.23



2011年度後期 授業に関するアンケート集計結果(年齢別)

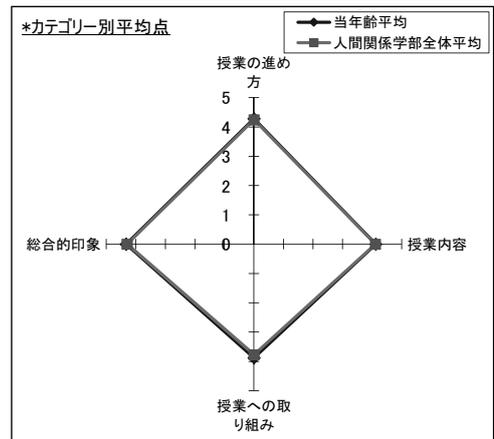
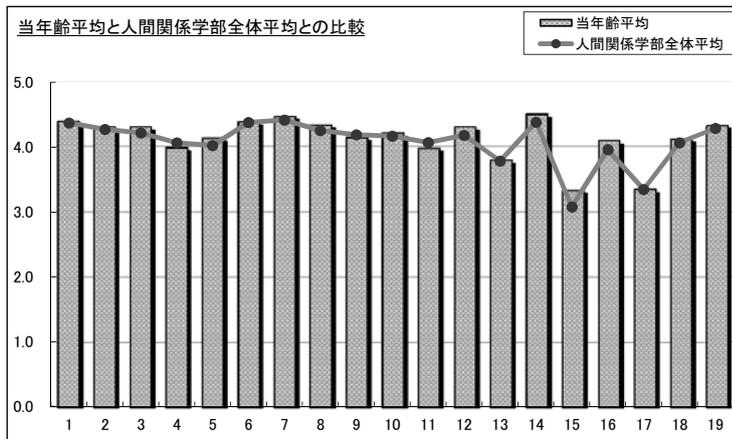
大妻女子大学

年齢	66歳以上
----	-------

履修者数	610
回答者数	437

I. 先生のこの授業の進め方について							当カテゴリー平均点		4.28	
No.	設問文	平均点	回答率(%)					有効回答	無効回答	標準偏差
			5	4	3	2	1			
1	先生の話し方は明瞭で聞き取りやすかった	4.39	52.9	36.4	8.2	2.1	0.5	437	0	0.76
2	教材資料提示(板書、プリント、パワーポイント・ビデオ等)は授業の理解に役立った	4.30	48.3	37.1	11.9	2.1	0.7	437	0	0.81
3	私語等の授業を妨げる行為に対して先生は適切な措置をした ※授業が静かなので注意を受けなかった場合は、5をマーク	4.31	51.9	31.1	13.3	3.0	0.7	437	0	0.86
4	授業は学生の理解度を考慮しながら進められた	3.99	34.6	37.8	21.7	3.7	2.3	437	0	0.96
5	質問や意見を引き出し、学生の積極的な参加を促した	4.14	42.5	33.1	20.2	3.7	0.5	435	2	0.89
6	先生の学生に対する接し方は公平だった	4.39	53.5	34.1	10.5	1.4	0.5	437	0	0.77
7	授業は先生の十分な準備と熱意をもって行われた	4.47	57.0	34.1	8.0	0.5	0.5	437	0	0.70
II. この授業の内容について							当カテゴリー平均点		4.13	
No.	設問文	平均点	回答率(%)					有効回答	無効回答	標準偏差
			5	4	3	2	1			
8	授業は、学習の目標がはっきり示された	4.34	51.0	34.3	12.8	1.4	0.5	437	0	0.79
9	授業の構成は体系的で把握しやすくとまっていた	4.15	40.0	39.4	16.7	3.2	0.7	437	0	0.86
10	授業の内容は興味深いものだった	4.21	46.3	33.5	16.3	2.8	1.1	436	1	0.89
11	授業の内容はよく理解できるものであった	3.98	33.0	40.1	19.7	6.0	1.1	436	1	0.93
12	授業は自分の将来にとって意味があると思う	4.31	50.8	31.1	16.2	1.6	0.2	437	0	0.81
13	授業科目の選択や学習時に、「授業内容」(シラバス)は役立った	3.80	30.0	31.2	30.0	6.0	2.8	436	1	1.02
III. あなたのこの授業への取り組みについて							当カテゴリー平均点		3.88	
No.	設問文	平均点	回答率(%)					有効回答	無効回答	標準偏差
			5	4	3	2	1			
14	この授業にはつねに出席した	4.51	64.8	23.8	9.2	1.8	0.5	437	0	0.77
15	この授業のために予習または復習を欠かさなかった	3.33	16.5	28.6	34.1	13.5	7.3	437	0	1.12
16	授業中は私語をせず、携帯電話を切り、真剣に授業を受けた	4.10	39.4	34.9	22.0	3.4	0.2	436	1	0.87
17	授業中質問したり、考えを述べたりして、積極的に参加した	3.35	18.8	24.9	36.4	12.1	7.8	437	0	1.15
18	この授業によって、未知の分野だったことへ関心が広がった	4.12	39.4	37.1	20.3	2.8	0.5	434	3	0.86
IV. 総合的な印象							当カテゴリー平均点		4.33	
No.	設問文	平均点	回答率(%)					有効回答	無効回答	標準偏差
			5	4	3	2	1			
19	*総合的に見て、この授業を受けて良かったと思う	4.33	51.3	33.7	12.2	2.1	0.7	419	18	0.82

Q1-Q19の当区分平均値	4.13
Q1-Q19の学部全体平均値	4.08
Q1-Q19の学部全体平均値-2σ	3.37



Ⅱ－２－（１） 前期授業アンケート結果への教員の主な回答

すでにみたように本学部においては、平成23年度は前期後期の2回にわたり授業アンケートを実施した。その後期日を設けてアンケート結果についての感想（改善案を含めて）を求めたところ前期においては、30名の教員から回答を得ることができた。ここではまず、前期アンケート結果に対する反応を項目別に紹介してみたい。

（１）授業の改善点

① 授業の方向性に自信を得た

アンケート結果の満足度が高かったことを反映して、「安心した」・「この方向で進めていく」等、授業の方向性に自信を得たという回答が目立った。

- ・全般的に非常に高い評価を得ていることがわかり、基本的にはこの方向で進めていくのがよいと確認された。（心理・専任）
 - ・学生の皆さんの学習に役立ったようであるので、基本的にこの内容や進め方で一層充実を図って行きたい。（福祉・専任）
 - ・身に余る良い評価をいただきました。（福祉・非常勤）
- また、パワーポイントやレジюмеなど資料の活用法に手ごたえを感じた回答もあった。
- ・パワーポイントの使用が思ったより好評でしたので、今後はより活用する方向を考えたいと思います。（社会・専任）
 - ・毎回のレジюмеが、見やすい、キーワードが勉強しやすいという評価（介護・専任）。

② クラスサイズの問題

授業アンケートを行うたびに問題になるのが、クラスサイズの小さい方が学生の評価は高く、大きいクラスはどうしても低い評価が出やすいという問題である。今回のアンケートにおいてもその問題はあらわれている。

- ・少人数のため、応答をしながら授業を進められること、（中略）個別のレベルを考えながら指導できることが授業評価に繋がっていると思います。（福祉専任）
- ・受講者数の多い授業（社会学概論Ⅰ（190人）／ボランティアと現代社会（282人）／現代社会の家族像・人間像・世界像（282人））については、ほとんどの項目の評定平均が、全体の評定平均よりもやや低いのが、反省すべき点である。また、自由回答を読むと、話し声が聞きづらい、特定の話題に偏りがちなことなど、改善すべき点があることも反省すべき点である。（社会・専任）

しかし、この教員も大規模クラス特有の私語への対策には成功している。「座席指定にしてあるので、私語がなく静かに授業を聴くことができる、出欠を毎回確認しているので、出席がきちんとできたという点での評価が高い」。（社会・専任）

創意工夫によって、大規模クラスの困難を克服した教員も少なくない。

- ・実習やセミナー以外は、すべて100人を超える講義であった。100名を超えると学生一人一人の理解度を授業態度から測るのは難しいため、毎時間コメントカードを用意し質問等記入してもらうようにした。コメントカードで出た質問は、次の時に再度解説するようにしたこともあり、（中略）より授業が理解できたようです。（介護専任）

しかし、努力にも限界はある。

- ・大規模の授業にしては、学部全体の平均値との差がすくなくなってきた。しかし受講生が積極的に参加するところでの差は相変わらず大きい（心理専任）

授業のクオリティを確保するためには、やはり大規模クラスを減らす努力が求められる。

③ 学生の理解力・授業の難易度

授業は、やはり学生に理解できるものでなければ意味がない。

- ・授業の内容についてはよく理解できるものであった」の項目で点数が低くなっているため、教授方法について再考したいと思います（心理・非常勤）。

という反省は当然のことともいえるが、「よく理解」できない責任は、必ずしも教員の側のみにあるのではない。最近では入試の段階で様々なルートから学生が入ってくる。中学高校の学習内容が十分理解できていない学生も稀ではない。そこで、次のような意見も出てくる。

- ・板書を中等教育生徒対象の授業のように、そのままノートに写せば済む程度のものに改めるように検討する（社会非常勤）。

おそらく従来のようにノートをとれない学生にとっては、そうした対応は必要なのかもしれない。しかし、それでは大学に来た意味がないではないかという反論も予想される。

- ・学生の要求に合わせて授業をやさしくし、中高生のように要点を一つ一つ指摘するという授業をしたくはありません。（心理専任）

そして本学には、もちろん学力の高い学生も少なくはない。そうした学生は、あまりにも平易な授業では退屈してしまうだろう。

- ・授業の進度に対する学生の認知に差があるようでした。必修の基礎統計学はどうしてもゆっくりペースになってしまうので、物足りなさを感じている学生の対応も考える必要がありそうです。

④ 学生の授業への参加を促す

とくに実験実習系の科目の多い本学部では、学生の積極的な参加が得られなければ授業が成り立たない。

- ・いずれもグループワーク中心なので、学生間で活発に話し合うようにさせている。（心理・専任）

そして、学生たちは講義科目においても、参加型の授業を求めているが、この要求は次のような矛盾をはらんでいる。

- ・（質問5・授業の中で質問や意見を促したか、と質問17・授業への参加度について、毎回平均値を下回っていることから）改善に向けた工夫を試みている。今年は、話が一区切りつくことごとに学生からの質問を促してみたが、その場ではほとんど質問は出ない。（介護・専任）。

授業中に積極的に発言する習慣のない学生たちを集めて、参加型の授業を本当に行うことにはやはり困難が伴う。

(2) 施設教室の設備や受講者数、教育条件等についての改善点の要望

① 施設設備教室の問題

i 冷房

前期は、春から夏へと向かう、暑くなる季節なので冷房の効き方が問題になっていた。

- ・冷房が学生の席には強く、教壇・教卓のあたりは効きが悪いのをぜひ改善してほしい。（心理・専任）。

・大きい教室での冷房の調整が難しい。(福祉・専任)

スポーツの授業の場合、猛暑のなかでの授業を健康を損ない、事故を誘発する恐れさえある。

・体育館での授業においては空調施設がなく、またテニスコートに至っては日陰を作る施設がない。
学生たちにとっては初夏の授業はやや苦痛であった。(スポーツ非常勤)。

冷房の問題は、何人も教員によって指摘されていたが、幸い節電のために教室が異常に暑くなり、授業の妨げとなることはなかったようである。

ii 文字や映像のみにくさ

せっかく資料を準備し、熱心に板書をして、それが見えにくい状況があるようである。

・7127教室の黒板が使いづらく、前部座席では黒板の下部が隠れて見えず、後部座席ではもじそのものが見えづらい(社会・非常勤)

・スクリーンの解像度が悪いので、後部座席の学生には見にくいようである。(心理・専任)。

iii 可動式の机を。その他。

対話型の授業を進めるために、可動式の机の導入を求める声があった。

・机が可動式の教室でグループワークを行いながら授業をしたいのですが(社会・非常勤)。

・人数が現状(57名)程度であれば、可動式の机のほうがやりやすい(社会非常勤)。

可動式の机は、30人規模のセミナー室と50人規模の語学教室におかれているが、それ以上の人数を収容する講義室では机と椅子が固定されている。こうした要望に応えることは容易なことではない。

また、こうした要望もあった。

・オンライン上に配布資料やレポートを提出できるプラットフォームがあれば便利である。(社会・非常勤)。

たしかにそうしたプラットフォームがあれば、教員は資料の印刷や配布の手間を省くことができるし、学生にとっての利便も大きい。そうした環境を整えている大学もすくなくないし、可動式の机に比べれば実現可能性は大きい。

② 受講者数・教育条件

ここでも受講者数の多さに対する不満の声は高かった。

・200人を越える学生数であり、減らすほうが良いし、教室も大きすぎる。(福祉・専任)。

・少人数授業にこしたことはありません(心理・専任)。

・200名を超える授業は教員の努力で整理できる数を超えている。100人以下の授業になることを要望する(心理・専任)。

・基礎統計学は少人数制で実施してほしいという学生の要望がありました。(中略)学生の理解度にも差が大きいので、今後クラスを分けることを考える必要があります(心理・専任)。

ここで寄せられた意見はいずれも、学部共通、もしくは各専攻の必修科目を担当している教員のものである。学生にとって非常に重要な必修科目が大規模クラスで開講されている現状がある。とりわけ基礎統計学のような習熟度にはじめから差のついている科目の場合、多くの学生を同じ教室で指導することには問題が大きい。教員の負担を増加させない形で、これら必修科目のコマ数を増やす道を探れないだろうか。

また、こういう意見もあった。

- ・ほかの授業と比較すると、16名という受講者は少ない方だと思うのですが、個別指導に踏み込もうとすると、この受講者数でも時間が足りないと感じています（社会・非常勤）。

たしかに、本学部は少人数の授業が多い。しかし、きめの細かい指導をするには、実は15人以上のクラスサイズは、大きすぎると言えなくもない。セミナー形式の授業の場合、やはり10-15人のクラスサイズで行うことが理想である。

学生の数が多ければ多いなりの、そして少なければ少ないなりの授業の組み立てというものがある。しかし、それが年によって大きくことなると教員は混乱してしまう。

- ・受講者が100名⇒25名⇒100名と、毎年人数規模が大きく異なり、人数規模に適した授業展開に年度開始行こう急遽変更を強いられています。（社会・非常勤）

これは、社会学専攻がカリキュラムを改定し、専門選択科目の多くがそれまで2年次か、3年次のいずれかに配当されていたのを、2年から4年までいずれの学年でも取れるようにしたために起こった事態である。現在はこうした事態は解消されているが、カリキュラムの変更時には、履修者数の激変が起きないように配慮が、時間割を組む側にも求められる。

（3）学生に望むもの

学生たちの真面目な取り組みを高く評価する声が多かった。

- ・皆さん大変よく頑張っていると思います（社会・非常勤）。
- ・大教室、大人数に授業であるにも関わらず、予習復習を欠かさずに、私語もほとんどない大変静かに集中して授業に参加し、自分の将来の役立つ授業になったのは、皆さん自身がみんなで努力した現れです（福祉・専任）。
- ・出席率も高く、ひたむきに授業に臨んでいたと思います（社会・非常勤）。
- ・十分に理解力のある、きちんと指導された、真面目な学生も多いので、自信を持って取り組むとよいと思う（社会・非常勤）。

しかし、大学生としての勉学の態度が身につけていないという見方もある。

- ・これまでの受け身の勉強のスタイルから大学生らしい勉学の向き合い方にシフトして欲しいと思います。（心理・専任）。
- ・試験やレポートの前には最低でも数時間の勉強をしてほしい（心理・非常勤）。
- ・講師の“つつこみ”を恐れずに、なるべく前列から着席していただきたい。（心理・非常勤）。

与えられた課題しかこなさない。試験の前でさえほとんど勉強をしない。そして、講師の「つつこみ」を恐れて後ろの方から席が埋まっていく。こうした学生たちの消極性にいらだちを覚える教員たち。また、居眠りや私語のひどさなども相変わらずのようであるし、授業に継続的に出てこない学生も目立つ。

- ・せめて他の学生の迷惑にならないように、静穏な環境を作るよう心掛けてほしい（心理・専任）。
- ・授業中に寝ている人がいる。受講の意味を考えてほしい（心理・専任）。
- ・継続して受講しないと成果が出ないので出席を心がけてほしい（英語・非常勤）。

また、遅刻の多さと遅刻をしながらも開き直す学生がいるらしいことは、情けない限りである。

- ・遅刻が多く、遅刻しても大きな足音で黒板の前を横切るなど、授業の妨害となる態度が目立ちます。（社会・非常勤）。
- ・毎年「月曜 I 時限目は遅刻を甘くみろ」と学生の自由記述に書かれます。（社会非常勤）。

学生の取り組みは、総じて真面目ではあるが、大学生らしい主体的な取り組みには欠け、はじめに聴講しようとする者の意欲を挫き、また教師にも非礼にわたる言動をとる者がいることを教師たちは感じ取っているようである。

Ⅱ－２－（２） 後期授業アンケート結果への教員の主な回答

（１）授業の改善点

① シラバスの問題

後期授業アンケートに関する回答から、前期で指摘したものとは異なる論点に言及している回答を紹介してみたい。まず人間関係学部の教員は学生の能動的参加を引き出すような工夫をしているのだろうか。シラバスは、学生を授業に引き付ける非常に重要なツールであるが、あまりうまく活用できていないという声が聞かれた。

- ・今年度初めての授業であったためか、シラバスについての指摘があった。来年度は、もう少しわかりやすく表記したい。（心理・専任）
- ・シラバスの活用があまり良くないようですので改善したい（心理・非常勤）

シラバスについては悩ましいところがある。シラバスが学生との契約であり、それを全く無視した授業の進行が許されるはずはない。しかし、授業は生き物であるから、ただシラバス通りに進行するだけの授業が魅力的なはずもない。また学生がそもそもシラバスをきちんと読んでいない場合が多いことも頭の痛い問題である。

② リアクションペーパー、課題、ノート提出

リアクションペーパーを学生に書かせ、そのなかで出された質問に授業中回答するなどして、双方向的な授業を志向する教員が増えている。

- ・リアクションペーパーによる学生との双方向のコミュニケーションは今後も続けていきたい。（心理・専任）。
- ・リアクションペーパーを活用して行ったつもりであり、書かれてきた質問や意見には翌週回答するようにしていた。（社会・非常勤）
- ・双方向的な講義をすることを心がけたいという思いから学生のニーズを聞きながら講義をすすめるよう心がけました。（心理・非常勤）

学生たちに予習復習させることも容易ではない。

- ・小レポートや小テストを行ったものの、それでも予習復習の平均点が低かったので、さらに学生が主体的に勉強できるような課題を増やしたい。（心理・専任）
- ・レクリエーション論は昨年同様に、毎回授業ノートの提出を義務付けている。この理由は、授業への出席を確認し、また授業中の態度や理解度をノートの内容によって確認するためで、最終的には授業への参加意欲として評価するためである。（福祉・非常勤）
- ・予習・復習の方法についてほとんど指導していなかったが、今後は学生が毎回の提出物に質問欄を設け、授業で分からなかった点について記述してもらい、次回の授業で解説する。（社会・非常勤）
- ・よりよく予習・復習するためのポイントを示していきたいと考える。（社会・非常勤）

予習・復習の習慣が身につけていない。あるいは予習・復習をしようにも、そのやり方が分かっていない。高校までに身につけておくべき学習習慣が備わっていない学生が多いことに驚く。そうした学生には、ことばを尽くすより、まず教師が身をもって範をしめすべきだという意見もあった。

- ・教員自身がロールプレイをして学生に見せることで、学生のモチベーションが上がると感じた（心理・非常勤）

③ 国家試験対策

とくに人間福祉学科の場合、多くの国家試験関連科目が置かれている。しかし、そこで受講している学生のすべてが、国家試験を受けるわけではない。そのため学生の中に温度差があり、授業の進め方を難しくしている部分もあるようである。また、国家試験の出題傾向は変わることも多く、教員はその変化に対応しなければならない。

- ・担当している全科目が国家試験に関わる科目であり、国家試験を受けない学生に対しても、そのことを前提として受講をお願いしています。(福祉・専任)
- ・昨年から国家試験の様式が大きく変わり、社会学についても用語、考え方等が中心となった。(福祉・非常勤)

④ 演習系授業の難しさ

演習系の少人数の授業が多いことも本学部の特徴であり、そうした科目での学生の満足度は概ね高い。しかし、演習系の授業のばあいにも固有の難しさがあるようである。

- ・議論時間を増やしてほしいとの要望を受けました。発表時間を過度に減らさない程度に改善してみたいと存じます。
- ・文献について難しいとの指摘を受けました。(社会・非常勤)

セミナー科目の場合、テキストを読んで、その内容について議論する授業形態をとる教員が多い。しかしテキストの理解に時間をとられると、議論の時間が少なくなるという不満が学生の間から出てくる。そして、テキストの選択も難しい。学生の学力レベルが一様ではないため、どんなテキストを選んでも、「難しすぎる」・「やさしすぎる」いずれの不満も出てくる。

⑤ 本学特有の問題

本学というよりはむしろ、多様な学力レベルの学生を抱える女子大に固有の問題として、次のような事柄があげられている。

- ・授業の難易度調整にはいつも悩むのですが、達成度を段階的に自己評価できるようなプリントを工夫して、たとえ成績下位者であっても、「なにができていないのか」を自覚できるような仕組みを整えたいとおもいます。(社会非常勤)

学力レベルが多様であれば、授業の難易度の設定は必然的に難しくなる。また成績下位者にモチベーションを維持させることにも工夫が必要であろう。

- ・女子大学での講義であるので、私語や携帯電話の注意方法により一層気を払いたい。全体に対して、やや口調を荒げて注意を行うと、教室全体の雰囲気が悪くなるので、可能な限り個別に対応したい。(社会・非常勤)

女子大のばあい、語気を荒らげると共学の場合よりも学生を委縮させる可能性が高い。そして、教員と学生との人間関係を損ねてしまうリスクも高い。そのため教員も、学生に対する叱責や注意の仕方に気を配らざるをえない。

⑥ 英語教育の問題

人間関係学部では、平成23年度より「英語Ⅲ」という科目を作り、人間関係学部の各学科専攻で非常勤の教員を手配して、企業に就職する人を想定した応用英語(英語ⅢA)のクラスと、大学院進学希望者を想定し、学術英語の読解力の向上を目指す(英語ⅢB)クラスとを開

設した。しかし今年度に関する限り、旧カリキュラムで単位を落とした際履修者によって教室が埋まってしまい、当初の目的が十分達せられたとはいえなかった。このため、本学の英語教育に対して、担当者の中から以下のような厳しい批判が寄せられた。

- ・今回は27名の受講希望者中26名が再履修の学生であったため、初年度でありながらレベル設定、授業方法を大幅に修正した。3年後期でこれだけの再履修者がでることは1－2年時の英語のカリキュラム編成等を一部見直す必要があるのではないか。(英語・非常勤)
- ・学生の英語能力をみながら授業を進めたので(中略)、シラバス通りにうまく進められなかった。(英語・非常勤)

(2) 施設教室の設備や受講者数、教育条件等についての改善点の要望

① 教室の柔軟性の欠如

前期の回答のなかにも、可動式の机の導入を求める声が高かったが、今回はより踏み込んだ提案があった。

- ・100人近い授業でも、机を動かして、小集団討議等をできる教室がないのが残念である。(福祉・専任)
- ・教室は原状回復をすることになっているので、その分、授業時間に食い込んでしまう。いくつかの教室を、グループとして使う教室、講義のみに使う教室、グループと講義を併用する教室とタイプ分けして設営しておけるとよいかもしれない。(心理専任)

現在、人間関係学部棟の教室は、講義用の大教室と、ゼミ室・語学教室に大別されており、前者には固定式の椅子と机が、後者には可動式のそれが設置されている。しかし、実際には講義形式の大規模授業においても、グループワークが行われることが多いので、こうした区分は必ずしも実情にあわないことを上の二つの意見は指摘している。教室の柔軟性の欠如は、工事と従って予算の手当てを得なければ克服されない難しい問題だが、長期的に取り組む必要性は高いように思う。

② 暖房の問題

前期のアンケートに対する回答では、意外にも節電による冷房の問題は出てきていなかった。むしろ冬の方が節電の弊害がでていたようである。

- ・暖房が不調だった(介護・専任)
- ・節電だとは思いますが、寒くて学生の大半はコートを着て膝かけをしたりマフラーを巻いたりしていた。教員はコートを着て授業をするわけにはいかないので寒かった。(心理非常勤)

③ 学生のレベルや興味関心・将来の進路等にあわせてクラスを分ける等の工夫をする

本学の学生たちは繰り返しのべているように多様な学力層の者を含んでいるし、将来の目指す進路も多様である。そうした学生たちを一つの教室に押し込んで授業を進めることの問題点がここでは指摘されている。

- ・学生の卒業後の志望に合わせて2つのクラスに分けたりすることには非常にメリットがあるかと思えます。ご検討いただければ幸いです。(心理・非常勤)
- ・「社会福祉学概論Ⅱ」は人間関係学部共通科目であり、人間福祉学科では指定科目(必修)にもなっているため、大教室で全体に向けて講義する際に、福祉学科にとって重要なところと教養として必要な

部分を混同してしまうことがあり、そのスタンスの違いに苦労しました（福祉専任）

- ・（福祉科の教職科目をとる）社会福祉士課程の学生にとって、介護技術などはまったく未知の内容であるため、本人たちも不利だと答えてました。先修条件や教職用の科目に生活支援技術の入門編等を設定していただくと、学生にとっても参加しやすいのではないかと思います。（福祉・非常勤）

④ その他

学部開設当時、その時にいた教員の得意分野のタイトルを講義名として採用し、その教員がいなくなった後も科目名だけが残ってしまった。その科目を担当している教員からの要望である。

- ・「風景論」というタイトルの講義には限界がある。特定の担当者しか担当しえない科目名なので、できれば改善いただきたい。（社会・非常勤）

（４）学生に望むもの

まず目立ったものは、積極的な授業への参加を求める声である。

- ・毎回、授業の感想をリアクション・ペーパーに書くことを求めているが、殆ど内容が無い、数行程度の感想の学生がいる。（心理・専任）
- ・グループでの作業の場合、普段から仲のよい学生だけで固まるのではなく、あまり交流の無い学生とも積極的にやりとりをしてほしい。

双方向的な授業の実現を教員が目指して、毎回、リアクション・ペーパーを配布しても、おざなりな答えしか返ってこない。グループワークを行っても、親しい仲間とばかり固まっています、交流の輪を広げ、各々の意見をぶつけあう積極性は生まれてこない。そうした消極性に教員は歯がゆさを感じている。

また私語は相変わらず改善されていない。

- ・私語を防止するために座席指定で授業を行っているが、一部の受講生ではあるが、指定された座席に座らずに仲間と隣り合って私語をしており、他の受講生に迷惑なので、決められた席に座って静粛に授業を受けてほしい。（社会常勤）
- ・一人くらいならいいだろうという感じで、いつまでもおしゃべりしたり、遅刻したりして、周囲の学生への迷惑となっていることが多い。（心理・専任）
- ・学生の性格はよいが、幼いためか残念ながら授業中の私語が多い。（高校か中学レベルとの印象）（英語・非常勤）

座席指定を行ってもそれを無視して私語にふける学生もいるようである。おそらくそうした学生も私語をよいことだと思っておらず、「一人くらいなら」という思いから私語を始めるのだろうが、そうした思いをみながもってしまうと収拾のつかない事態を招いてしまう。そうした状況にとくに人数規模の大きいクラスほど陥りやすい。そうした学生の行動を彼女たちの「幼さ」と結び付ける教員もいる。たしかに学力も人間の成熟度も、中学高校生のレベルにとどまっている学生も珍しくないのが、残念ながら本学部の実情である。

実習関係の科目の場合、教室での事前授業はいわば「畳の上の水練」。本番を想定した真剣さに欠ける部分に危うさを指摘する声があった。

- ・何事も、授業でできないことが実習で急にできるようになったりはしません。（中略）実習で関わる生徒さんの学習の一部に責任をもつこととなりますので、一生懸命事前の準備や練習を重ねてい

きましょう。(福祉・非常勤)

人と関わり、人を指導する立場に立つ人材を育てる学生だけに、学生の人間的成熟を促すような指導の重要性を痛感する。

Ⅱ－２－（３） まとめ

これまで、前期後期それぞれの授業アンケートに対する教員の回答をみてきた。これらの回答はおおまかに次のようにまとめることができるであろう。

多くの教員は自分の授業が学生たちから高い評価を得ていることに満足を感じていた。しかし、学力レベルの多様な学生たちを相手にすることの困難を訴える声も多く聞かれた。また、リアクション・ペーパーを書かせたり、講義形式の授業でもグループワークの方式を取り入れるなど、学生の授業中の参加を促すよう努めてはいるものの、「笛吹けど（学生は）踊らず」の感は否めない。授業中の発言は乏しく、予習復習は極めて不十分なものとどまっている。

座席指定など様々な工夫はなされてはいるものの、私語は相変わらず教員と真面目な学生を悩ませ続けている。学生の参加の問題であれ、私語の問題であれ、クラスサイズを小さくすることによって相当程度解消することが可能なのではないか。大規模クラスになればなるほど、授業中の発言は困難になり、課題の添削も困難となる。また私語のひどさがクラスサイズと正の相関を示すことは多くの教員が経験的に認めるところであろう。また本学のセミナー形式の少人数授業が、少人数授業本来の目的をとげるためには、必ずしも「少人数」であるとは言えないというのも重要な指摘であろう。

また、ハード面では、双方向的授業の実現という観点から、可動式の机の導入等、教室の柔軟性を求める声も多く寄せられていた。AV機器やパソコンの操作環境については、概ね高い評価が得られたが、教室によっては文字や映像が見にくいという指摘もみられた。また震災と原発事故に伴う節電も、夏季の冷房よりも冬季の暖房に大きく影響していることは意外な結果である。原発停止に伴う電力不足や電気料金の値上げによって、節電は今後とも求められていくと思うが、それが学生の勉学環境に悪い影響を及ぼさない努力が、大学側には求められている。

学力においても人間的な成熟度においても、多様なレベルの学生を指導していく困難に多くの教員が直面している様も今回のアンケートに対する回答から明らかになった。今回の回答のなかには姿をみせていなかったが、精神的な問題を抱えた学生の指導に悩みを抱えている教員も少なくはないことと思われる。本学部のFD活動も、狭義の授業改善を超えて、全般的な学生指導の領域にまで射程を広げる必要性を、この報告書を書きながら痛感している。

なお前期の授業アンケートにおいて、社会学専攻の非常勤講師から、毎回同じ要望をアンケートへの回答に書いているが、一度も返事をもらったことがないという不満が表明された。今後、授業アンケートへの回答に寄せられた質問については、個別に専攻のFD委員が回答し、重要な改善点については教務委員会等に問題を提起していくことが、今後の方向性として、人間関係学部FD委員会において確認されている。ただ回答を求めるだけでなく、それを現実の教育環境の改善のためにフィードバックしていくことが、今後ともFD活動においては求められている。

Ⅲ－１－（１） 社会学専攻における各教員のFD活動への取り組み

1. 双方向的授業の実践

学生が自ら積極的に受講するよう様々な工夫を凝らしている。例えば、学生が質問・意見・感想を述べやすいように、リアクション・ペーパーを配布し、それへ応答しながら、授業を進めている。たとえば人間関係総論Ⅰのような大きなクラスの授業の場合、SAを活用して、リアクション・ペーパーの配布と回収、出席簿への転記をしてもらっている。

2. 理論的学習と数量的・質的調査実習の実践

社会学の諸概念と社会学の諸理論を取り上げて、現代社会をとらえるための視点について考察している。また、地域社会、家族や結婚、情報化という観点から現代社会の変容過程とそこから生じる様々な社会問題についてとりあげ、また、それらの問題を解決するためには、社会貢献活動やボランティア活動が不可欠であることを強調している。

そこで、授業内容について理解を深められるような課題をしばしば出して、学生各自が、図書館等で資料収集し、参与観察などフィールドワークをすることで、教室の中だけでの学習に留まらないように努めている。図書館の利用法については、1年生の基礎演習の時間に指導するよう努めている。

2年時の社会調査実習においては、数量的調査においては、コンピュータと先端的な統計技法を駆使して、アンケート調査から得られたデータを分析・考察している。

その一方で、質的調査においては、生きた社会的現実の中に身を投じ、自分自身の目で見て、自分自身の頭で考え、直接体験して得られた調査資料に基づいて考察を広げるフィールドワーク的手法を駆使して、情報収集力や洞察力を養っている。

フィールドワークやインタビューなどの技法は、卒業論文で生かされることが多い。また学部で取得した社会調査士の資格をもとに大学院に進学し、専門社会調査士資格の取得に必要な単位を取得し、リサーチ関係の会社に就職した09年度卒業生がいる。

3. 新聞記事・視聴覚教材を活用したメディア・リテラシー教育

授業において、テキストだけでなく新聞記事・録画番組・ビデオなどの視聴覚教材を活用して、アップデートな話題や情報を授業の中で取り扱うことにより、学習内容と日常生活とがリアルタイムで関連していることを知らせている。

それによって、学生が学習内容をよりリアルに理解することを助けるとともに、時事問題への関心も高めている。

4. 各教員の実践例

（１）マルチメディア機器を活用した授業方法

- ・担当するすべての講義でAV資料（ビデオ、DVD、絵画資料、写真）、実物を用いて、具体的理解に基礎づけられた知識、理論を身につけるよう心がけている。実践的には「社会学基礎セミナー」ではドキュメンタリー映画をテーマとしている。「ポピュラーカルチャーの世界」ではアニメーションを講義テーマとしているが、できるだけ学生が普段見ることのできないアニメーションに接することを目指してアニメーションDVDの

アーカイブづくりを行っている。

- ・講義（情報社会論、ボランティア論、社会学概論Ⅰ・Ⅱ）において、教室に設置されたパソコン、LAN、ビデオ、DVD、書画カメラ、データプロジェクターを使用して講義内容および資料を学生に提示している。また、学生には、毎回、講義内容および資料をプリントして配布し、予習・復習ができるようにしている。

（２）学生の授業外における学習促進のための取り組み

- ・「社会学セミナーⅠ・Ⅱ」（３年）では、毎年、地域を選びその地域を紹介する冊子作りを行っている。各学生はその地域において自分が興味をもつテーマについてフィールドワークを行い、その成果を自分が作成するページに反映させる。「冊子の編集」とそのための取材技術を学ぶことになる。
- ・ボランティア論においては、ボランティアを体験させることによって、学生の学習をより深める目的で、教員が阪神・淡路大震災以来実践してきた、インターネットを活用した災害被災者支援活動（情報ボランティア活動）に志願者を参加させている。

これまで、阪神・淡路大震災（1995年）、日本海重油事故災害（1997年）、有珠山噴火災害（2000年）、新潟県中越地震（2004年）、新潟県中越沖地震（2007年）において、教員のコーディネーションの下にボランティアを志願する学生を延べ数十名、被災地に派遣した。

（３）社会調査実習

- ・「若者文化を歩く」という標題のもとに、東京圏の若者文化のフィールドワークを指導している。その成果は社会調査実習の報告書として刊行されており、すでに８冊を数える。
- ・講義で話した内容やテキストを暗記すれば単位がとれると考える学生も多いが、それでは受身になるばかりでなく、自ら考える力を養うことは困難である。

そこで、授業内容をさらに各自が図書館等で資料収集したり、参与観察などフィールドワークをしたりすることで、理解を深められるような課題をしばしば出して、教室の中だけでの学習に留まらないように努めている。

また例年、12月の第一週に「社会調査実習報告会」を行い、各調査チームごとの報告を行っているが、これによって各教員の指導の実態も明らかになり、相互に批評しあうことによって今日では途切れている公開授業と同じ効果をあげている。

（４）学祭への出展

例年教員のフィールドであるカリブ海の小国ハイチへの関心を高めるために、「ハイチカフェ」を開いているゼミがある。また、研究成果を展示したり、映画界の上映などのイベントを大学祭で開催するゼミは例年複数ある。また2011年には、各教員がゼミの卒業生に連絡をとり、大学祭の時に「ハイチカフェ」に集まり、社会学専攻の小規模な「ホームカミングデー」を開催した。

（５）社会学合同セミナー

法政大学、日本大学等との社会学合同セミナーに加盟し、毎年12月初旬に八王子大学セミ

ナーハウスでの報告会に参加している。テーマは、「オタクとミーハー」、「韓流文化」等、ポピュラー文化に関わるものが多い（平成18年4月より）。また2012年からは、首都大学東京の社会学専攻との間で合同ゼミを企画しているゼミもある。

（6）授業中の静粛を保つための工夫

講義（情報社会論、ボランティア論、社会学概論Ⅰ・Ⅱ 等）において、授業中の学生の私語を防ぎ静粛を保つために、同クラスの学籍番号に近い学生が隣り合わないよう座席表を作成し、座席表通りに着席させ静粛を保っている。

Ⅲ－１－(２) 社会・臨床心理学専攻におけるFD活動に関する取り組み

社会・臨床心理学専攻は、心理学教育を通して科学的思考力と共感能力を育てるべく、積み上げ型カリキュラムによって最終目標である卒業研究（卒業論文）に向けて一貫した教育を行っている。そのために、専攻開設以来、基幹科目は全てチームティーチングの体制を取っている（対象科目：社会・臨床心理学基礎セミナーⅠ・Ⅱ、社会心理学実験研究法、社会心理学調査研究法Ⅰ、社会・臨床心理学研究法）。また、さらにわかりやすくかつ効果的な授業の実施に向けて、教員個々が独自に取り組みをするとともに、専攻内でその工夫を共有してきている。これらを実現するために、毎年春休みに8時間～15時間程度を使って専任教員全員で1年間の教育の振り返りを行い、次年度の教育方針の確認をしている。そして、授業期間中は、上述の基幹科目担当教員間で、毎週、授業の振り返りと事前打ち合わせを実施している。さらに、毎週金曜日に開催される専攻会議の際に、FD会議のための時間を取り、教育実践上の課題について継続的に検討を行うなど、一貫して綿密な授業改善を進めている。特にここ数年は、年々加速される観のある学生の質の変化・学習能力の変化や二極化に応じて、指導方法、指導内容、最終目標をいかに設定するか、といったテーマに集中して議論が進められている。

以下に、社会・臨床心理学専攻におけるFD活動に関する具体的な取り組みとして、1) 本専攻の近年の取り組みとその主な成果について述べ、次いで2) 平成23年度の専攻単位でのFD活動、3) 個々の教員のFD活動の順に記す。

1) 本専攻の近年の取り組みとその主な成果

①<卒業論文の内容と方法に関する多様化の試み>

平成19年4月に卒業論文の内容の多様化を目指して、従来の実証研究に加えて、二次データ分析、追試研究、文献研究、自己体験分析による卒業論文研究が可能であることを学生に周知させ、さらに平成20年度からはポスター発表形式による卒論発表会を行っている。専攻では、数年かけて、卒業論文研究の多様化と発表形式の変更による成果を検討することとなっているが、今年度の卒論発表会においても、主体性と多様性に富んだ卒業論文が多数見られるようになっており、卒業論文研究の多様化の試みが、近年の学生の質の変化に適合したものであったことが示された。

②<基幹科目の充実>

卒業論文の多様化の推進と、学生の学力の多様化に合わせてカリキュラム全体を改革する必要が生じたため、まず2年次のセミナー科目で、量的・質的研究法トレーニングを行うこととした。具体的には、これまで非常勤教員も担当していたが、今年度からその殆どを専任教員が担当することとした。さらに平成25年度からは、対人行動セミナーと臨床心理学セミナーを統合して「社会・臨床心理学基礎セミナーⅢ」（2年前期：必修）とし、基礎セミナーⅠからⅢまでの流れの一貫性を強化すると共に、全てを専任教員が担当することを検討した。

③<高等学校教育との接続>

平成20年度から高大接続のためのカリキュラム改善策の検討を行い、受験生、入学生、在学生に対する入り口（アドミッションポリシー）から教育方針、さらに出口（ディプロマポロ

シー)までの専攻教育の明確化とビジュアル化を行っている。そして、授業担当者懇談会やオープンキャンパスにおける学科説明会などで、繰り返しこれらを提示し、周知と徹底をはかっている。また、関連高校・指定校との連携促進として高校で行われる模擬授業へ参加したり、指定校ではなくとも依頼のあった高校には積極的に訪問し、出張模擬授業を実施している(11月 神奈川県立伊志田高等学校「見ることの不思議」向井教授担当、12月 東京都立杉並総合高等学校「心理学ってどんな学問? -とくに臨床心理学と社会心理学について-」福島教授担当)。

さらに心理学への関心を掘り起こし、および入学前準備教育の一助とする活動も平成21年度より開始し現在継続中である。その他、大学教育への円滑な移行を目的に、社会・臨床心理学基礎セミナーⅠ(1年前期:必修)を専任2名体制から3名体制へと強化した。

2)平成23年度の専攻単位でのFD活動

平成23年5月27日 専攻内FD会議

授業担当者懇談会におけるカリキュラム説明の内容および進め方について検討が行われた。また、専任教員が担当する基幹科目の検討が行われた。具体的には社会・臨床心理学基礎セミナーⅠを題材に、授業の狙い、教育内容、学生の反応について経過報告を行い、新入生の能力が二極化していることへの対応に加え、後期の社会・臨床心理学基礎セミナーⅡとの連動について検討した。

平成23年5月28日 授業担当者懇談会

7名の非常勤教員と専任教員が授業の進め方や近年の学生像について情報交換を行った。専攻からは、非常勤教員に対して専攻のカリキュラム構造について説明し、非常勤教員が担当している授業がカリキュラム全体の中でどのように位置づけられているかについても説明を行った。

平成23年7月28日 社会・臨床心理学研究法の発表会とその振り返りの会

専攻の3年生全員が4~5人のグループによる研究をポスター形式で発表し、それに対して専任教員や2年生が意見や質問をする発表会を行った。発表会終了後、教員全員で成果と反省点を振り返った。

平成23年11月22日 社会・臨床心理学研究会 テキストマイニング講習会

卒業論文研究の多様化に対応するために、テキストデータの分析ソフトに関する講習会を開催した(講師:古田雅明助教、中村紘子助手)。2年以上の学生ならびに大学院生、専任教員が参加した。

平成24年1月28日 卒論発表会と、その講評ならびに優秀卒論賞の選定

4年生の卒業論文ポスター発表への講評に加えて、全体の講評を全教員が行い、さらに優秀卒論賞受賞対象となる卒論の選定作業を行い、次年度以降の指導に生かせるよう、その優れている点と指導のポイント等を明確化した。

平成24年3月5日、3月19日 専攻内FD会議

近年の就職環境の厳しさや学生の質の変化に伴い、学院においても様々な形で学生支援が行われているものの、実際には学生が将来を見据えたキャリアデザインを自ら構築することに困難が認められる現状にある。そこで、専攻の学生の特性に合わせた形で学生を支援すべく、心理学の立場から生涯発達との関連においてキャリアデザインをできるように、平成25年度から「キャリア心理学セミナー」を新設することを検討した。この新科目開講準備のために、専攻内でプロジェクトチームを立ち上げ、開講までの2年間に共同研究を行うこととした。同時に、平成25年度以降のカリキュラム全体を検討し、効果的で魅力的なカリキュラムに向けて、選択必修科目や選択科目の統廃合ならびに専任教員による基幹科目の分担についても検討した。

3) 各教員のFD活動(学会・研修会等への参加実績ならびに教材出版とFD上の成果)

ここでは、今年度の各教員の主な学会や研修会等への参加・発表や講師歴、ならびに教材出版(公刊された物に限定)と、そのFD上の成果を簡単に記録する。

○香月菜々子

<学会> 7月 国際ロールシャッハ及び投映法学会第20回日本大会「Emotional experiences reflected in the Star-Wave test: A Comparative Study with Exner's Comprehensive system. (星と波描画テストに反映される情緒体験の様相についてーロールシャッハ・テスト(包括システム)との比較を通じてー)」の発表を行った。

10月 日本箱庭療法学会第25回大会 鈴木純一氏(東洋英和女学院大学大学院人間科学研究科)による「児童期における星と波テストの描画特徴ーファンタジーと心的エネルギーの表現への着目ー」の口頭発表において、司会を務めた。

<主な成果> ロールシャッハ・テストを通じて星と波描画テストの新しい解釈仮説の知見が得られたことに加えて、複数の投映法を掛け合わせて使用することで、よりきめの細かいアセスメントが可能となる事実が確認された。大学院「臨床心理学研究法特論Ⅱ(投映法基礎)」の実践的指導と、学部「キャンパスライフとメンタルヘルス」でのワークを用いた授業内容の検討に有益であった。

○加藤美智子

<学会> 5月 日本学生相談学会、9月 日本心理臨床学会に参加した。

<研修会> 4月から毎月一回、津田塾大学主催「学生相談事例研究会」に参加し、コメントータを務めた。また、大妻女子大学千代田校にて毎月一回、面接事例を逐語検討する「臨床事例研究会」を主催し、発表を行った。さらに、心身臨床学研究会ならびにバウムテスト研究会に参加し、バウムテストを用いた臨床事例の研修を積んだ。

<教材出版> 「イメージ療法」 窪内節子(編)「やさしく学ぶ心理療法の実際」第9章 pp146-160. 培風館 (印刷中)

<その他> 「大学院生臨床実習に対するスーパーヴィジョンーその実践から考えている事ー」東京女子大学心理臨床センター紀要第2号 (印刷中)

<主な成果> 面接事例の検討や心理臨床に生きるバウムテスト理解を深め、イメージを使っ

た臨床について原稿にすることで、学部2年生の授業、「臨床心理学概論」構想に多くの知見を得た。また、大学院「臨床心理実習」「臨床心理特別実習」における指導のあり方について有益な知見を得た。

○田中 優

<学会・講演会> 9月 日本社会心理学会（於：名古屋大学）、日本心理学会（於：日本大学）に参加した。日本心理学会では共同研究である「地域防災意識の調査研究（3）新潟中越と神戸との比較」を責任発表者としてポスターセッションで発表した。

12月 平成23年度報恩講厳修（於：若江山光蓮寺（大阪））の講演会の講師として『災害と援助の形』という演題で講演を行った。

12月 財団法人高速道路調査会主催の高速道路の防災に関する講習会（於：東京臨海広域防災講演（東京））の講師として「災害の心理と行動」という演題で講演を行った。

<主な成果> 東日本大震災に関する講演や研究発表だけでなく、対人関係に関する研究について有益なアプローチを知ることができ、「社会心理学概論」や「対人行動セミナー」の講義内容の着想を得るよい機会となった。特に、講演会では、一般の方や現場の専門職の方々の意見を聞く事が出来、理論と実践の関係について、貴重な情報を得た。

○西河正行

<学会> 7月 国際ロールシャッハ及び投映法学会第20回日本大会、9月 第30回日本心理臨床学会秋季大会、11月 日本精神分析学会に参加した。

<研修会> 8月 第16回投映法フォーラム（於：新潟青陵大学大学院）でシンポジウムの司会を務めた。

<主な成果> 心理臨床の新しい動向、特に、ロールシャッハ解釈法について知ることができた。大学院「臨床心理学特論」、「臨床心理査定演習A」、学部「臨床心理学セミナー」講義の参考となった。

○福島哲夫

<学会> 6月 日本サイコセラピー学会第12回大会（於：帝京大学）にて、「心理療法の3次元統合モデルの提唱-より少ない抵抗と、より大きな効果を求めて」（単独発表）、「3次元統合モデルにもとづく心理療法実践例-認知行動療法的介入例と精神分析的介入例-」（田中絢子と共同発表）

<主な成果> 大学院「臨床心理査定演習B」、学部「臨床心理学セミナー」での指導に有益であった。

6月 Society for Psychotherapy Research 42th international conference（於：ベルン（スイス））にて、「Varieties of therapists' affirmation responses: A culture-specific imperative or trans-cultural therapeutic factor?」を口頭発表した。岩壁茂（お茶の水女子大学）、伊藤正哉（国立精神神経センター）との共同発表であるが、福島が筆頭発表者であった。

<主な成果> 大学院「臨床心理学特別研究」、学部「卒業論文」「臨床心理学セミナー」やこの研究成果の教育実践への応用として「社会・臨床心理学基礎セミナー1」の教授方法や指導方針に対して大いに有益であった。

9月 日本心理臨床学会第30回秋季大会（於：九州大学）にて「セラピストの肯定に関するプロセス研究（2）－肯定的発話の分類－」、および「セラピストの肯定に関するプロセス研究（3）－肯定的介入のプロセス抽出と分析－」をともに柏谷 牧（お茶の水女子大学大学院）、隅谷理子（上智大学大学院）、藤岡 勲（東京大学）、糟谷寛子（お茶の水女子大学大学院）と共同発表した。また同学会自主シンポジウム「基礎心理学の臨床的ふだん使い」において話題提供として事例を報告した。さらに基礎研究発表の司会を務めた。

<主な成果> この成果と分析方法が学部「臨床心理学セミナー」および3, 4年ゼミ、さらに卒業論文指導に、また大学院「特別研究」に生かされた。

9月 日本心理学会第75回大会（於：日本大学）にてワークショップ「臨床実践と心理学研究の対話（2）－反すうをめぐって」にて指定討論者を務めた。

<主な成果> 学部の「臨床心理学セミナー」と卒論指導に生かされた。

<著書> 8月 「新世紀うつ病支援・治療論－うつに対する統合的アプローチ－」（金剛出版）を平木典子（東京福祉大学）、岩壁茂（お茶の水女子大学）との共編著で出版した。

<主な成果> 大学院「臨床心理査定演習B」において、主要文献として活用した。

8月 「事例でわかる心理学のうまい活かし方」（金剛出版）、伊藤絵美（洗足ストレスコーピング・サポートオフィス）と杉山崇（神奈川大学）、坂本真士（日本大学）編集の第1章を分担執筆した。

<主な成果> 学部「社会・臨床心理学セミナーI～IV」や大学院「臨床心理特別実習」において、基礎心理学と臨床心理学の協働に関する有益な副読本を提供できた。

11月 「ユング心理学でわかる8つの性格」(単著)を出版した。

<主な成果> 卒業論文指導において、有益な参考文献となった。

<論文> 心理療法の3次元統合モデルの提唱－より少ない抵抗と、より大きな効果を求めて－日本サイコセラピー学会雑誌, 12(1), 1-9, 2011（印刷中）

<主な成果> 大学院「臨床心理特別実習」の指導に有益な資料となった。

<研修会講師>

8月・2月 神奈川県立かながわ女性センターにおいて電話相談研修会の講師を務めた。

10月・2月 神奈川県中央児童相談所子ども人権電話相談研修会の講師を務めた。

9月・1月 東京都南多摩保健所にて事例検討会講師を務めた。

2月 海老名市青少年相談センターにて事例検討会講師を務めた。

<主な成果> 現場の最前線の問題にじかに触れることによって大学院「臨床心理特別実習」に有益な知見を得ることが出来た。

○古田雅明

<学会> 7月 国際ロールシャッハ及び投射法学会第20回日本大会（於：国立オリンピック記念青少年総合センター）にて、「Two types of marked fluctuations of ego states in Rorschach Test and prognosis」を発表した。本研究は、加藤佑昌（武田病院）、森本麻穂（かながわ臨床心理オフィス）との共同発表である。

<主な成果> ロールシャッハ・テストによるアセスメントと治療予後について知見が得られた。大学院「臨床心理特別実習」、学部「カウンセリングの理論」の授業に有益であった。

<研修会講師> 10月 大学院修了生の卒後研修会である多摩精神分析セミナーにおいて講

師を務め、第一次世界大戦中のフロイトのライフヒストリーと主要論文について講義を行った。12月 人間関係学部FD研修会において、1年生必修の社会・臨床心理学セミナーⅠの報告を担当した。

＜主な成果＞ 学部「カウンセリングの理論」「社会・臨床心理学セミナーⅠ」の授業に有益な知見を得ることが出来た。

○堀 洋元

＜学会・研修会等＞ 9月に日本応用心理学会（於：信州大学）、日本社会心理学会（於：名古屋大学）に参加した。また、9月に開催された日本心理学会（於：日本大学）では共同研究である「地域防災意識の調査研究（4）新潟中越と東京都の比較」を責任発表者としてポスターセッションで発表した。

＜主な成果＞ 東日本大震災に関する講演や研究発表だけでなくスポーツ、健康、対人関係に関する問題解決志向の研究について有益なアプローチを知ることができ、「応用社会心理学」や「人間の成長と心理」の講義内容の着想を得るよい機会となった。

＜論文＞ 大妻女子大学人間関係学部紀要 人間関係学研究13（p.89-107）に「心理学実験授業における科学論文の作成に影響を及ぼす要因——授業構成、フィードバック、学生の受講態度と自己評価を手がかりにして——」を発表した。向井敦子教授と中村絃子助手との共同研究である。

＜主な成果＞ 得られた結果から、学生の自己評価と教員評価のズレや学生自身が形成しているレポートのメタ認知が明らかになり、今後授業計画を遂行して行く上で非常に有益な示唆を得た。

○向井敦子

＜学会＞ 7月 日本教育心理学会第53回総会（於：北翔大学）に出席し、「ある自閉症者に対するひらがなの弁別を促進する工作」を発表（ポスターセッション）した。また、9月 日本心理学会第75回大会（於：日本大学）に出席し、「ある発達障害児に対する文章理解と構成を促進する心理学的工作」を発表（ポスターセッション）した。いずれも深谷澄男との共同研究であるが向井が責任発表者である。

＜主な成果＞ 種々の障害者に関わる研究者達とディスカッションを行ない、学部「教育心理学」「心理学概論Ⅱ」、大学院「障害児心理学演習」に関する有益な情報を得た。

＜論文＞ 「心理学実験授業における科学論文の作成に影響を及ぼす要因——授業構成、フィードバック、学生の受講態度と自己評価を手がかりにして——」大妻女子大学人間関係学部紀要 人間関係学研究13（p.89-107）堀洋元助教と中村絃子助手との共同研究である。

＜主な成果＞ 学部の2年生の必修科目である「社会心理学実験研究法」の担当者3人が前期の授業をもとに問題点を検討し、今後の授業の組み立てに関する情報を検討した研究である。受講生が科学的論文を構成できるように授業を進める上で、学生の受講態度やニーズを踏まえていかにして授業を組み立てて行ったらよいかについて、非常に有益な示唆を得た。

○八城 薫

＜学会・研修会等＞ 8月 筑波大学主催の社会心理学研究会に参加した。9月 日本心理学

会第75回大会に参加した。12月 人間関係学部で開催されたFD研修会において、1年生必修の社会・臨床心理学基礎セミナーⅡの報告を担当した。

<著書> 「心理測定尺度集第5巻」(サイエンス社)の自己概念および援助行動の領域を担当した。また「2013介護福祉士国家試験過去問解説集」(中央法規出版)の心理学領域の解説を分担執筆した。

<主な成果> 学会参加や原稿執筆を通して得られた新しい知見は、学部の「社会行動セミナー」、「社会心理学調査研究法Ⅰ」、「社会・臨床心理学セミナーⅡ」、「社会心理学セミナーⅣ」、および大学院の「心理統計学特論」の授業にたいへん有益なものとなった。また授業内容報告研修会は、今後の「社会・臨床心理学基礎セミナーⅡ」を考えていく上で非常に有益な機会であった。

Ⅲ－２ 人間福祉学科

1) 福祉実習教育懇談会開催

2012年2月3日(金)の午後1時から人間関係学部棟において「福祉実習教育懇談会」を開催した。実習機関・施設からの実習指導者33名、在校生138名、教職員21名の参加が得られた。

まず今年度の「学生からの実習報告」として、社会福祉士実習、介護福祉士実習、精神保健福祉士実習から計4名が実習成果と今後の課題を発表し、その後フロアから実習生に学んで欲しい視点や利用者との関わりについてコメントをいただいた。実習生、教員、実習指導者が一堂に会して、分野や実習課程を超えて情報交換ができ、有意義な会となった。

午後2時半からは、それぞれの資格課程に別れ、分科会を開催した。社会福祉士実習分科会では、特に実習生・実習指導者・担当教員の三者で作成することが義務づけられた実習プログラムの作成方法について意見交換を行った。介護福祉士分科会では、評価方法のあり方と制度改正を受けて医療的ケアについて情報交換と討議を行う機会となった。また、精神保健福祉士分科会では法改正に伴う実習教育内容についての共有と、実習指導者や担当教員の要件について確認を行い、実習機関と大学の連携のあり方について検討を行った。さらに、学生を交えた対話の機会を設けている。

こうした取り組みは、人間福祉学科が、学部・学科開設から10年以上を経過した現在、定着してきた感があるが、今後は養成課程で示されてくるミニマムスタンダードを共有しながらも、本学の教育ポリシーを盛り込んだ人材養成の方向性を示し、実習機関との協働体制をさらに大切にしていけることが求められると考えている。

2) 学生の教務指導・進路指導等に関する会議

昨年度に引き続き、学生の学習及び進路等に関する支援対策について検討する機会を多様な形で設けた。具体的には学科会議の際に、学生の授業受講状況や成績について、また就職活動状況等についてクラス指導主任及び科目担当者、ゼミ担当者等から報告がなされ、情報共有と対応について検討を行った。また、福祉実習委員会においても教務指導と進路指導の必要性がある学生を共有する機会が多くあり、個別対応や学科会議での共有等を行う機会を設けた。

また、今年度は特別な配慮が必要な心身の障害や病気を持つ学生に対しての教職員間での情報共有が増えた。

学生側の状況を把握することで、教員間で一貫した対応を提供することが確認され、また、授業に配慮が必要な学生に対する対応の工夫について教員間で相互に学ぶ機会となった。

就職支援については、福祉業界への就職を希望する学生に対しては、本学キャリア支援センターでの就職支援だけでなく、学科独自に就職動向や就職活動の方法についてセミナーを4回開催した。それらを受け、3・4年生のクラス指導主任及びゼミ担当者が個別の相談や指導を行い、会議を通して内定が取れていない学生を全教員が把握し、就職情報の提供を適時行っている。これらにより、介護福祉学専攻の学生の内定率は100%を続け、人間福祉学専攻の学生の内定率も90%台後半から100%を保つことができていると考える。

さらに、社会福祉士及び精神保健福祉士の国家試験については、国家試験対応委員を中心に模擬試験や受験対策講座、国家試験受験手続きの指導等を行い、その結果や状況を全教員が共

有し、ゼミやクラスの学生に対して、個別指導や励ましの声かけ、授業期間及び長期休暇期間の受験勉強への支援を行うことができている。今後は、受験者の合格率の向上への更なる取り組みと、卒業者への受験支援のあり方について検討が必要であると考えている。

3) 科目担当者打ち合わせ会議

①「相談援助実習指導及び事前・事後指導」

相談援助実習指導Ⅱ（2年生：後期）については、15回分のシラバスを共有し、全教員が同じ内容で授業を行っている。

事前・事後指導においても、様々な方法で教員・助教間で情報を共有し、学生指導に役立っている。実習巡回指導においては非常勤の巡回指導講師をお願いしている関係上、学生指導の過程、結果、フォローが大事になってくる。事前指導の時間で巡回教員との面接を行い、学生の事前学習の達成状況、実習中の目標を確認する。巡回後は、学生の様子を記録し、クラウド上のHDで情報共有と引き継ぎを行うとともに、フォローアップに活用している。事後学習の一環である実習発表会でも、巡回に関わった非常勤講師を招いて、実習後の学びの深まりが確認できる機会を持っている。今後も、非常勤講師との対話を重ねながら、より効果的な授業展開について深めていければと考えている。

②「相談援助演習」

非常勤の先生方も含め、それぞれのクラスが同一シラバス、同一教材で進めた。授業前に、非常勤の先生方も含め、事前の会議を行い、共通シラバス、教材については、冊子を作り各先生方に配布した。事前に十分な話し合いの時間をもてなかったため、初回のオリエンテーション後に、シラバスの説明、教材の提示を行い、教員間で共通認識が持てるようにした。

授業が開始されてからは、授業開始前の10分間、講師控室に集まり、教材の確認、および当日の授業の進め方、また、気になる学生についての意見交換を行った。また、必要に応じて、専任教員が非常勤教員のサポートに回り、授業後に個別相談の時間を作った。授業最終日には、評価方法について確認した。

③「社会福祉学基礎セミナーⅡ」の教授法に関する検討及び実施について

本セミナーは、主として人間福祉学科1年生を対象に少人数制で行い、社会福祉及び介護福祉専門職としての知識・常識を身につけるとともに、各自が社会福祉や介護福祉の研究課題を持ち、それに取り組む方法を学ぶことを目的としている。

今年度は前年度に引き続き7名の専任教員が担当し、授業目標及び授業展開方法等について共通理解の下で進めた。授業導入として、他者の気持ちを考えること、言語について考えることをテーマに合同授業を行った。さらに、授業の目標がグループ討議・作業を通して、一つの研究課題を見出し、各グループでまとめ、プレゼンテーションを行うことであったため、セミナーのまとめとして研究発表会を合同授業として実施した。プレゼンテーションの際のツールについても教員間での合意を持ち、各授業の中で指導を行った。また、今年度の新たな試みとして、研究発表会の際に全学生に記入させた「発表を聴いた感想」と「セミナーを通して学んだこと」について取りまとめ、教員間で活用するだけでなく、学生へ感想や学習した内容等をまとめた資料を配付し、学生に他者の意見を知る機会、また考察する機会とした。

④「介護実習」

介護実習は、大学の介護総合演習の授業で、実習先の法的根拠、利用者の特徴、職員構成、サービス内容について事前学習を行い、各段階に応じた具体的な介護サービスについて学んでいる。なかでも3段階の介護実習では、大学での介護過程の授業と関連付けながら、アセスメントから計画、実施、評価まで行い、一人の利用者に寄り添う介護について学習している。さらに、事後学習として、大学において実習での学びを振り返っている。

⑤「介護技術科目」

生活支援技術の授業では、学生が利用者、介護者、観察者の立場から、講義で習った理論に基づいて根拠を考えながら積極的に取り組んでいる。また、授業担当教員間でズレがないように事前に打ち合わせを行い、連携を図って授業の質向上に努めている。

Ⅲ－２－(1) 人間福祉学専攻におけるFD活動に関する取り組み

各教員のFD活動の取り組み

各教員のFD活動の取り組みとして、「Ⅰ 「企画」あるいは「参加」した教育関連の研修会」、「Ⅱ 授業で活用するために作成した教材・テキスト」、「Ⅲ 教育内容に関する質の向上を図るための取り組み」という3項目をまとめた。

① 町田章一教授

Ⅰ 「企画」あるいは「参加」した教育関連の研修会

- 1) 「平成23年度 教育改革FD/ICT 理事長・学長等会議」に参加した。
開催日：平成23年8月3日（水）
場 所：法政大学
- 2) 「第19回日本介護福祉学会」の運営を手伝った。
開催日：平成23年9月3日（土）～4日（日）
場 所：大妻女子大学
テーマ：「介護福祉実践と理論の融合から介護福祉学を問う」
- 3) 「第20回 日本ダンス・セラピー協会 学術研究大会」に事務局長として参加した。
開催日：平成23年9月10日（土）～11日（日）
場 所：奈良女子大学
- 4) 「私学高等教育研究所第49回公開研究会」に参加した。
開催日：平成23年10月11日（月）
場 所：私学会館
- 5) 「第4回 多摩地域大学理事長・学長会期」に参加した。
開催日：平成23年11月12日（土）
場 所：拓殖大学八王子キャンパス
テーマ：大震災後における日本の大学の使命
- 6) 「第43回 日本芸術療法学会」に理事として参加した。
開催日：平成23年12月23日（祝・金）～24日（土）
場 所：東京藝術大学
- 7) 「学術・文化・産業ネットワーク多摩 平成23（2011）年度 第2回定期総会」に参加した。開催日：平成24年3月3日（土）
場 所：多摩大学多摩キャンパス
講 演「2013年度新卒の就職戦線について」

Ⅱ 授業で活用するために作成した教材・テキスト

- 1) 伊藤英喜他監修『写真でわかる生活支援技術』インターメディアカ、2011。
第2章のうちの「利用者とのコミュニケーション」を担当執筆。
- 2) 飯森眞喜雄編『芸術療法』、日本評論社、2011
「12 ダンス・セラピー」を担当執筆。

Ⅲ 教育内容に関する質の向上を図るための取り組み

- 1) 「基礎ゼミⅠ」に関して、他の担当教員と教育内容について検討した。

- 2) 「人間関係論総論Ⅲ」の授業の中で、大妻コタカ先生の教え子であった上田栄子先生をお招きし、対談した。

② 松山博光教授

I 企画あるいは参加した教育関連の研修会

- 1) 平成23年度大妻女子大学人間関係学部FD研修会 参加
日時：平成23年12月9日（金）午後5時～午後6時30分
場所：人間関係学部棟3階7348教室
内容：「基礎セミナー」の教授法について

II 授業で活用するために作成した教材・テキスト

- 1) テキスト：『高齢者に対する支援と介護保険制度（第3版）』中央法規出版、2012年2月1日
科目：「高齢者に対する支援と介護保険制度」
内容：第2章 少子高齢社会と高齢者 第2節「高齢者を取り巻く諸問題1・2・3」（41頁～50頁）分担執筆

III 教育内容に関する質の向上を図るための取り組み

- 1) 2011年度大妻女子大学・人間生活文化研究所・研究プロジェクト（代表：松山博光）が実施した「学習支援ボランティア（TAV）」を教養科目「福祉と現代社会」（後期授業）及び専門科目「地域福祉の理論と方法」（前期授業）、「高齢者に対する支援と介護保険制度」（後期授業）に取り入れ、①出席管理、②受講マナーの指導、③提出レポート整理を中心に教育環境の改善と学生の学力向上に努めた。

③ 小川浩教授

I 企画あるいは参加した教育関連の研修会

- 1) NPO法人ジョブコーチ・ネットワーク主催「職場適応援助者養成研修」の企画・運営。
日程：平成23年9月8日～13日、10月30日～11月4日、平成24年2月9日～14日。
内容：厚生労働大臣指定職場適応援助者養成研修として、障害者就労支援の専門職であるジョブコーチの養成を行った。そこから障害者福祉、障害者就労支援に係る法制度及び実践の最新情報を収集すると共に、授業に応用できる演習の方法などについても検討した。

II 授業で活用するために作成した教材・テキスト

毎回、レジメを作成して配布している。また、テレビなどから障害者福祉、障害者就労支援等に関する映像情報を収集し、最新の映像情報を授業に取り入れるように努力している。

④ 嶋貫真人教授

II 授業で活用するために作成した教材・テキスト

- 1) 授業の概要をまとめたレジメを、毎回授業の最初に配布しました。該当科目は、「社会保障Ⅰ」、「同Ⅱ」、「低所得者に対する支援と生活保護制度」、「更生保護制度」、「福祉行財政と福祉計画A」の5科目です。

このレジメの使用目的は、第一義的には毎回の授業の進行の柱を提示することによ

て、受講生が話の全体像を見通せるようにするという点にあります。しかし同時に、教科書では詳しく触れられていない新しい問題や、教科書の記述だけではわかりにくい（しかも授業中の教師による口頭説明を聞いても、即座に理解することが難しい）やや高度で複雑な問題について、丁寧な解説を試みることも目指しています。したがって、単に項目だけを列記しただけのものではなく、一定の長さの文章で説明する形式をとっています（その意味では、サブ・テキスト的な性格を持つものともいえます）。受講生は、このレジュメの余白部分に、教師が授業中に解説した内容や板書した事項を書き込むという形で活用しているようです。このようなレジュメの活用は、学生が授業内容の復習を行う際に有用であるだけでなく、社会福祉士国家試験対策の教材ともなることを意識して、毎年少しずつ内容に修正を加えてきています。

- 2) 社会福祉学セミナー（3・4）年では、最近議論になっている社会保障の各領域のトピック（たとえば「保育所の民営化」など）について、裁判例や学説の議論の状況を初学者向けにわかりやすくまとめたプリントを作成しました。このプリントは、当該テーマに関する問題の所在を提示するための資料であると同時に、末尾にいくつかの設問を置いてゼミでの活発な議論を促す効果もねらっています。

Ⅲ 教育内容に関する質の向上を図るための取り組み

- 1) 「社会保障Ⅰ」、「同Ⅱ」、「低所得者に対する支援と生活保護制度」、「更生保護制度」の3科目については、TAボランティアを導入し、資料配布の補助や私語への注意などの業務をお願いしました。

⑤ 丹野真紀子教授

Ⅰ 「企画」あるいは「参加」した教育関連の研修会

- 1) 日本女子大学社会福祉学会第18回大会への参加
この大会では、自由研究報告のほか、「東日本大震災復興支援調査報告」がなされ、震災直後からの状況報告や、刻々と変わる地域の状況が報告された。
- 2) 日本介護福祉学会第19回大会「企画」及び「参加」
この大会のテーマは「介護福祉実践と理論の融合から介護福祉学を問う」である。介護福祉学の学問的研究と実践を結び付け、介護福祉学の理論を探求しようとする様々な視点からの講演やシンポジウムを企画した。介護労働や介護機器としての介護ロボットの研究についてもブースを設けるほか、シンポジウムの中でも討議するなど、多様な視点から介護福祉学を考える機会となった。

Ⅱ 授業で活用するために作成した教材・テキスト

- 1) 相談援助演習Ⅲ教材作成
今年は、社会福祉士国家試験受験資格取得科目が新カリキュラムでスタートして3年目である。相談援助演習Ⅲが今年度から20人以下のクラスで行われるようになった。本学では、6クラスで実施されるようになり、6クラスが同一シラバス、同一教材で行うことができるよう、教員向けマニュアルを作成。また、学生にも、統一したプログラムで行われるよう教材を作成し提供した。
- 2) 保健医療サービス教材作成
社会福祉士の教育内容見直しにともない、保健医療サービスに関する項目も変更された。

それに合わせ、様々な医療問題を福祉的視点で考える必要も出てきた。医療福祉に関する問題を理解しやすいよう、新聞記事などを参照し、オリジナルの資料プリント作成。また、病気の理解に関しては、ビデオを使用して患者本人のみならず、本人を取り巻く環境の理解ができるよう努めた。

Ⅲ 教育内容に関する質の向上を図るための取り組み

社会福祉学基礎セミナーⅠにおいて、入学したばかりの学生に対して担当教員7名が連携して福祉入門の役割を果たそうと、統一した目的を持った授業展開を行った。こうした取り組みは、今年で5回目となる。学生の評価もおおむね良好であり、教員間の連携もかなり取れ、統一された学習が行われるようになった。今年度は15回の講義を4つの段階に分け、第一段階が、学問としての福祉を考えると、多岐にわたる福祉の領域を紹介する。第二段階としては、様々な障害を体験するとして、高齢者体験や、全盲体験などを通し、早い段階で、利用者理解を考える下地を作る。第三段階では、ミクロは福祉の探求となり、クラスを超えて、施設見学を実践するなどメニューは豊富である。また、第4段階として、昨年度から課題としてあったまとめのプログラムとして、共通テーマ、ディスカッション及び資料作成・発表と基礎セミナーⅡへとつながるプログラムを実施した。

共通テーマは「東日本大震災」とし、福祉援助者としてどのようにかかわるかを各クラスの視点で考察した。時間配分はなど、今後、さらにプログラムの充実化を図ることが課題となるであろう。学生のニーズをさらに拾い上げながら、入門として望ましい教育プログラムを考えたい。

保健医療サービスについては、今年度、TAVを導入した。導入に当たり、授業中の関わり方や出席管理について話し合った。特に、授業中の関わり方については、TAVの方の能力をどう授業に活用するかはさらに検討する必要があると感じた。

各科目において、授業ごとに授業に対するコメントを求め、次に授業に活用した。

⑥ 上野優子准教授

Ⅰ 「企画」あるいは「参加」した教育関連の研修会

1) 課程認定校研究連絡会議「平成23年度全国研究集会・総会」

日時；平成23年6月4日（土）～5日（日）

場所；兵庫県神戸市「六甲荘」

内容；福祉レクリエーション・ワーカー課程認定校としての研修会

カリキュラムの一部変更や特色ある授業内容を目指しての基調講演、他大学との情報交換など行ってきた。

2) 平成23年度福祉レクリエーション・ワーカー養成課程認定校集会

日時；平成23年10月22日（土）

場所；水道橋西口会館

内容；福祉レクリエーション・ワーカーのカリキュラム養成課程の認定と展開に関する討論展開イメージについて討論

3) 第9回東京都レクリエーション研究大会参加

日時；平成23年12月11日（日）

場所；国立オリンピック記念青少年総合センター

内容；震災後の被災地におけるレクリエーション活動の役割について、講演と意見交換を実施。また、4ブロックに分かれての具体的なレクリエーションの活動の具体的な技法の講習

II 授業で活用するために作成した教材・テキスト

- 1) 体力テストの実施に関する資料作成
オリジナルの測定結果記入用紙と総合評価表の作成
- 2) 科目「シーズンスポーツ」（高尾山トレッキング）
簡易型HRメモリーの装着を全員に行い、安全にトレッキングが出来るようにHRに関する資料作成を行った。
- 3) 「スポーツA～E」および「レクリエーション実技」の授業については、昨夏は猛暑のため熱中症対策として、大塚製薬に協力を依頼し、暑さ対策に関する講演を実施してもらった。また、水分補給に関する資料の作成を行った。
- 4) 科目「福祉レクリエーション援助技術」
援助技術の技法として、クリスマスリースの作成講習会に参加し（11月26日）、オリジナルに資料作成、および実技の授業を実施した。

III 教育内容に関する質の向上を図るための取り組み

- 1) スポーツの実技科目については、特に前期から後期の初めまでは、猛暑に伴い、体力のない学生は授業についてこられない学生も想定できたので、温湿度計を必ず設置し、一定の数値を超過する場合などは、授業内容の一部変更などを行った。
- 2) 科目「スポーツと健康」は、受講者多人数のため、授業の進行具合とそれに対する理解度を見るために、定期的に、オリジナルのアンケート調査を行い、特に内容の理解度については5段階評価で答えてもらった。理解度が低い学生については、希望者のみ学期末に再度説明する時間を設けた。

⑦ 藏野ともみ准教授

I 「企画」あるいは「参加」した教育関連の研修

- 1) 平成23年度社会福祉士実習演習教員講習会「相談援助演習方法論Ⅱ」講師として参加
日時：①平成23年9月1日（木）、②平成23年9月9日（金）、
場所：①大阪人間科学大学庄屋校舎（大阪府摂津市）、②日本福祉大学名古屋キャンパス（愛知県名古屋市）

内容：

本事業は、社会福祉士及び介護福祉士法に則り、厚生労働省より日本社会福祉士養成校協会が委託を受けている社会福祉士養成に関わる相談援助演習担当教員及び相談援助実習担当教員の講習会である。今年度は「相談援助演習方法論Ⅱ」の講師を担当した。各回50名程度の受講者に対して、「演習方法の概要」について講義形式を取りながら、受講者と双方向で議論を行った。また、演習形式の「相談事例を活用した総合的かつ包括的な相談援助実践の実際」では、医療機関の事例を用い、6回（90分×6回）の授業シラバスを提案し具体的な教材を提示しながら、演習の展開方法や、学生指導の工夫点とポイントについて提示した。

- 2) 平成23年度精神保健福祉士実習演習担当教員講習会「精神保健福祉相談援助の基盤」講

師として参加

日時：①平成24年2月8日（水）、②平成24年2月29日（水）

場所：①九州産業大学（福岡県東区）、②大正大学（東京都豊島区）

内容：

本事業は、精神保健福祉士法に則り、厚生労働省により日本精神保健福祉士養成校協会が委託を受けている精神保健福祉士養成に関わる精神保健福祉演習担当教員及び精神保健福祉実習担当教員の講習会である。本事業には平成22年度の制度開始時より参加しており、今年度の基礎分野講習において「精神保健福祉相談援助の基礎」を担当した。本講義は、精神保健福祉士の資格を有しない教員に対して精神保健福祉相談援助の概要を示すものであり、専門職の範囲と倫理、チームアプローチについて示した。

3) 平成23年度東京社会福祉士会「継続研修」講師

日時：平成23年9月から平成24年1月までの計8回（2時間/回）

場所：戸山サンライズ（東京都豊島区）

内容：

本事業は、福祉現場に勤める概ね3年以上の社会福祉士が自らの実践を見直し、スキルアップするための現任者研修の一環である。基本的な援助技術のスキルを習得することを目的としている。東京都内の高齢者、行政、障害者、地域等の福祉現場に勤務する社会福祉士と実践の現状をディスカッションも行った。その承諾を得たソーシャルワーク実践上のジレンマや対応について、精神保健福祉援助実習指導Ⅱ及び社会福祉援助技術論Ⅲ-B等の授業において、学生と討論する機会を得た。

Ⅱ 授業で活用するために作成した教材・テキスト

1) テキスト：「相談援助の理論と方法Ⅰ」久美出版、2011年、編著

授業名：社会福祉援助技術論Ⅲ-B

内容：相談援助の展開過程について、その全体とインテーク、アセスメントの実際について事例を用いて解説した。特に、インテークとアセスメントを展開する際の「内容」「視点」「技術」「活用される道具」の4点について詳説した。

2) 指定テキストの他に、授業の概要をまとめたレジメを数回分あるいは全部をまとめて配布している。科目は、「精神保健福祉論Ⅰ・Ⅱ」「社会福祉援助技術論Ⅲ-B」「精神保健福祉援助実習指導Ⅰ・Ⅱ」「社会福祉学セミナーⅠ・Ⅱ」である。それらに加え、新しい理論や制度の動向、学生からの質問の対応については必要に応じて別途プリントを配布した。事前に授業レジメを配布することで授業目的とその内容の全体像を把握させ、予習・復習の指示を行うことと、授業が進んでも以前の内容に戻る際、資料を見やすくすること等の効果をねらっている。

Ⅲ 教育内容に関する質の向上を図るための取り組み

1) 精神保健福祉援助実習における実習指導者との指導内容に関する個別打ち合わせ

今年度も精神保健福祉援助実習における配属実習に先駆け、全ての実習指導者6名と学生の大学での指導状況について、電話及び対面での個別打ち合わせを行った。また、学生と実習指導者及び担当教員の3者が、実習中だけでなく実習前後に打ち合わせ等を行う機会を設ける取り組みを行い、今年度は3機関において実施することができた。この取り組みから、配属実習中の指導連絡を頻繁に行うことができ、実習指導者と指導教員が一貫した指

導、及び事後学習に結びつけることができ、学生自身が主体的に実習に取り組んでいる。

⑧ 井上修一准教授

I 「企画」あるいは「参加」した教育関連の研修

- 1) 2011年度全国社会福祉教育セミナー／テーマ「大学等に期待する震災後の役割」に参加
日時：平成23年7月15日（金）9：30～14：00

＊14：10からは（社）日本社会福祉教育学校連盟臨時総会に参加した。

場所：早稲田大学 井深大記念ホール（新宿区西早稲田1-6-1）

内容：

現在、様々な形で被災地へボランティア活動が行われているが、大学としてボランティア活動にどのように参加すべきか、また現地が求める学生ボランティアとはどのようなものか、学生ボランティアの問題点等について、新潟中越地震で被災し多くの学生のボランティアを受け入れた元山古志村村長、新潟県長岡市復興管理監であり、現在衆議院議員である長島忠美氏（東洋大学理事長）に、震災後に大学等に期待することを講演いただいた。その後、シンポジウムが開催され、被災地の状況、大学の役割について議論が交わされた。特に、情報の共有と発信、日本社会福祉学会や日本地域福祉学会の役割、被災した大学との連携が主要な論点であった。

II 授業で活用するために作成した教材・テキスト

- 1) テキスト：『社会福祉施設の展望』米山岳広編著、文化書房博文社、2011年
執筆担当：第3章「アドミニストレーション」を執筆した。

授業名：本学科では当該科目なし。

内 容：

担当した章では、社会福祉施設を核として展開される実践的な活動をアドミニストレーションとして捉え、地域住民と効果的な協働関係を作り上げることについて取り上げた。特に社会福祉施設を核として展開される実践的な活動をアドミニストレーションとして捉えた。また、ここでいうアドミニストレーションを、ソーシャル・ウェルフェア・アドミニストレーション（social welfare administration）を略したものとして用い、その中に、社会福祉施設を舞台に展開される極めて実践的な活動としての意味合いを込めた。一般的なアドミニストレーションと区別しながら、それぞれの概念の成り立ちとポイントを整理した。

III 教育内容に関する質の向上を図るための取り組み

- 1) 相談援助演習Ⅰ・Ⅱ（2年生：後期）についての打ち合わせ
相談援助演習Ⅰ・Ⅱにおいては、共通シラバスづくりを行い、教育内容の共通化、授業展開の工夫の共有化を試みた。
- 2) 社会福祉援助技術現場実習・非常勤巡回指導講師との打ち合わせ
社会福祉援助技術現場実習事前・事後指導場面において、2人の非常勤巡回指導講師と連携しながら学生指導を行った。担当学生が所属するクラスへの参加、事前面接、巡回指導、実習発表会への参加など、一貫して関わる機会を持ったことが充実した指導につながった。
- 3) TAV活動導入による教員間の打ち合わせ
大妻女子大学人間生活文化研究所共同研究プロジェクト「高学歴・高齢者のTAボラン

ティアによる学生支援の可能性に関する研究」(代表者氏名：松山博光教授)への参加とTAVの導入。TAV導入にあたって、授業の状況、導入後の効果などを協議した。TAV導入の満足度の測定においては、65%程度が比較的高い評価をしていることが明らかになるとともに、導入による効果として「授業の理解が深まった」(23.5%：複数回答)とする回答も見られた。

⑨小林哲也助教(実習担当)

I 「企画」あるいは「参加」した教育関連の研修

1) 精神保健福祉士養成校協会研修会参加

日程：平成23年6月25～26日

場所：神戸国際大学

Ⅲ－２－（２） 介護福祉学専攻におけるFD活動に関する取り組み

各教員のFD活動の取り組み

各教員のFD活動の取り組みとして、「Ⅰ「企画」あるいは「参加」された教育関連の研修会」「Ⅱ授業で活用するために作成した教材・テキスト」、「Ⅲ教育内容に関する質の向上を図るための取り組み」という3項目をまとめた。

① 是枝祥子教授

Ⅰ 「企画」あるいは「参加」した教育関連の研修会

- 1) 第19回日本介護福祉学会の企画を行った。テーマは「介護福祉実践と理論の融合から介護福祉学を問う」で、介護福祉学の学問研究として実践を通して考察すること、介護を広く捉え、介護労働や介護機器としての介護ロボットの研究等多様な視点から介護を考える機会となるよう企画・運営（当校が開催校で多摩キャンパスが会場）した。運営に学生も加わり、学生たちは福祉の現状の一端が実感できたと思う。

Ⅱ 授業で活用するために作成した教材・テキスト

- 1) テキスト名：「写真でわかる生活支援技術」インターメディアカ 2011年4月

介護は介護技術や知識を土台に応用するもので、その基本となる高齢者の特徴、生活支援の基礎知識、生活支援技術等文字ではわかりにくい部分を写真で見て理解できるようポイントを絞った。学生たちに介護実習で利用者の援助をする際、なぜそのような援助を行うのか、写真を活用することで各論と総論のつながりが説明しやすかったし、学生たちは理解しやすかったと思う。

Ⅲ 教育内容に関する質の向上を図るための取り組み

- 1) 介護実習Ⅱ・Ⅲ、Ⅳに関して実習先との指導内容についての打ち合わせを行った。TEV導入にあたり、授業中のかかわり方や出席管理等について話し合った。新年度開始前に介護福祉学に関する内容等について担当教員で共有を図った。

② 川廷宗之教授

Ⅰ 「企画」あるいは「参加」した教育関連の研修会

- 1) 日本社会福祉教育学会第7回大会

2011年8月23日～24日 青森県立保健大学

大会テーマ・・・職業人養成教育としての社会福祉教育の課題・・・ソーシャルワーク教育再考・・・

Ⅱ 授業で活用するために作成した教材・テキスト

- 1) テキスト名：川廷 宗之他編著「基礎ゼミ」弘文堂 2011年7月15日刊

授 業 名：「社会福祉学基礎セミナーⅡ」 大学での学び入門

Ⅲ 教育内容に関する質の向上を図るための取り組み

- 1) 「高学歴高齢者のTAボランティアによる学生支援の可能性に関する研究」にかかわるとともに、関係科目でのTAVの受け入れ。
- 2) 「学生の低学力原因に関する調査研究—低学力学生の学習支援方法の開発を目指して—」に関わり、調査研究を行うとともに、実験的プログラムを実施。

③ 佐藤富士子教授

I 「企画」あるいは「参加」した教育関連の研修会

1) 第19回日本介護福祉学会」の企画運営

第19回日本介護福祉士学会を、川廷宗之先生が大会長となり、総勢12名の教職員による実行委員の下、大妻女子大学多摩キャンパスで開催した。2日間の協力学生は延べ約100名だった。大会テーマは「介護福祉実践と理論と理論の融合から介護福祉学の未来を問う」、我が国は、団塊の世代が高齢期に入る高齢者人口の増加、介護の必要な人の増加は避けられない。介護の専門職としての理論は必須であるだけでなく、介護ロボットの導入等、従来の人のみの介護からより発展した介護を考える機会となった。

2) 大妻女子大学介護・実践研究会の企画運営

人間福祉学科は社会福祉士、介護福祉士、精神保健福祉士の資格を取得し、卒業後も現場で活躍している人が多くいる。第1期生の卒業以来、「介護福祉実践研究会」、「ソーシャルワーク研究会」という名称で個人の教員が関わってきた。そこで、今年度は大妻女子大学人間生活文化研究所の助成金を受け、卒業生の実践内容を発表する機会とした。卒業生は指導を受けながら自らのキャリアを考えるだけでなく、実践を理論化することにつながることを自覚する機会となった。

II 授業で活用するために作成した教材・テキスト

1) テキスト：「写真でわかる生活支援技術」インターメディア出版、2011年4月発行

内 容：

現在、テキストとして出版されている生活支援技術は、文章やイラストあるいはモノクロ写真等によるものが多い。本書は、高齢者の一日の生活に焦点を当て、基本動作をベースに朝の目覚めから始まり介護の必要レベルに合わせ展開している。また、文章ではわかりにくい安全に行なうためのポイントはアップで写すなど工夫されており、サブテキストとして使いやすい本である。

III 教育内容に関する質の向上を図るための取り組み

科目「社会福祉学基礎セミナーⅡ」7名の教員が、共通した課題と担当教員の独創性を活かして良い時間と組み合わせ、少人数制で指導できるこの授業は面白い。さらに、学生はグループ学習から、発言力の強い人、弱い人、コミュニケーションのとれる人、とれない人、協力して完成させる発表物を作成するまでのプロセスから得るものが大きかったのではないかと推察する。

④ 金澤章教授

II 授業で活用するために作成した教材・テキスト

1) 授業名：「人体の構造と機能および働き」「精神医学」

「内科」「外科」系の医学書、NHKテレビ番組「今日の健康」テキスト、新聞記事などを参照にオリジナルの資料プリントの作成を行った。また、人体の模型、骨の模型、脳の模型を使用しての解剖学(人体の構造)の理解を行った。

病気の理解に関しては、代表的な疾患に関しては、ビデオを使用して疾患の理解に努めた。また、治療に関しては各学会で作成している「治療ガイドライン」を参照した。

2) 授業名：「女性と健康」

「産婦人科」「小児科」系の医学書、NHKテレビ「今日の健康」テキスト、新聞記事などを参照にオリジナルの資料プリントの作成を行った。

「喫煙と健康」「拒食症」「月経と妊娠」については講義用の教材を使用した。「健康に関するテレビ番組」は実際のテレビ番組の一つ見て、効果と落とし穴について議論した。

Ⅲ 教育内容に関する質の向上を図るための取り組み

- 1) 授業「女性と健康」に TAV に参加して頂いた。
- 2) 各科目の期末試験には、オリジナルの授業に対するアンケートを毎回行った。

⑤ 佐々木幸助教

I 「企画」あるいは「参加」した教育関連の研修会

- 1) 「介護福祉実践教育研究会」への参加

開催日：平成23年5月、7月、9月、11月

場 所：大妻女子大学千代田キャンパス

内 容：介護実践者および教育者が一堂に会する研究会。「法改正、カリキュラム変更」「実習生の受け入れ」「医療的ケアの導入」など、現場の声・理念と教育双方に関連するテーマについて、両者の立場から意見交換をしました。

- 2) 「日本介護福祉学会」への参加

開催日：平成23年9月3日（土）・4日（日）

場 所：大妻女子大学多摩キャンパス

内 容：本学を事務局及び会場として、全国から介護福祉教育者および実践者が約410名参加しました。例年より100名以上も多い参加者数でした。開催校として企画運営に携わりました。介護福祉教育に関する分科会では、新カリキュラムの検証、東日本大震災を機とした介護福祉教育のあり方などが議論され、充実した大会となりました。

Ⅱ 授業で活用するために作成した教材・テキスト

- 1) 「写真でわかる生活支援技術」メディックメディア、平成23年、分担執筆

本学教員で技術に関する各章・節を執筆し、「身だしなみの介護」「排泄の介護」部分を担当しました。今年度は「生活支援技術A I」の参考資料として、人間の基本動作のメカニズムを享受する際に活用しました。イラストやモノクロ写真で解説したテキストは多数ありますが、オールカラーで段階を踏んで技術が解説されているため、学生からも好評でした。

Ⅲ 教育内容に関する質の向上を図るための取り組み

- 1) 本学入職前に受講した「介護教員講習会」の受講者が、ほぼ全員教職についているため、新カリキュラムになってから（平成21年度～）の検証及び今後の課題について振り返る研究を準備しています。介護福祉教育は、介護サービス利用者個人だけでなく社会の動向（社会全体の介護ニーズ）にも応えうるものでなければならぬため、多様な側面からの検証が必要です。個人的な授業の質改善のための工夫・努力と並行しながら、学生がより広い視野から学べる授業のあり方を検討していきたいと考えています。

⑥ 金美辰助教

I 「企画」あるいは「参加」した教育関連の研修会

1) 「日本介護福祉学会」参加、企画運営

日時：2011年9月3日～4日

場所：大妻女子大学

内容：第19回日本介護福祉学会大会に参加しました。今回は、「介護福祉実践と理論の融合から介護福祉学の未来を問う」というテーマで、介護福祉の理論と実践の融合を目指し、介護の本質を問う内容で構成されていました。

II 授業で活用するために作成した教材・テキスト

1) テキスト：「写真でわかる生活支援技術」、インターメディカ

医療との連携のもと、利用者の自立を助け、尊厳を守る介護を行うために求められる知識や技術についての内容です。

III 教育内容に関する質の向上を図るための取り組み

毎回の授業でフィードバックペーパーを活用し、個々の学生の理解度や知識、意識レベルを確認しながら授業を行っています。なかでも、相談援助演習ⅠⅡは、事前に授業担当者会議を開き、同一シラバスと同一教材を使つての授業で、できる限り同一内容で授業ができるように努力しました。また、学生への課題調整や学生の反応、授業の進捗状況の確認、課題の評価方法について、教員間で話し合い調整し、教育内容の質の向上に努めました。

社会福祉学基礎セミナーⅡでは、授業が始まる前に、担当教員間で打ち合わせを行い、授業の調整を行いました。

⑦ 青柳佳子助教(実習担当)

I 「企画」あるいは「参加」した教育関連の研修会

1) 「平成23年度 社団法人日本介護福祉士養成施設協会 全国教職員研修会」への参加

日時：平成23年11月24日、25日

場所：別府国際コンベンションセンター

内容：テーマ「生活支援の担い手を育てる介護福祉教育－新カリキュラムをどう活かすか－」

⑧ 藤江慎二助教(実習担当)

I 「企画」あるいは「参加」した教育関連の研修会

1) 社会福祉関連

平成23年5月22日(日)に日本社会福祉士養成校協会の平成23年度第1回通常総会及び第8回日本社会福祉教育学校連盟関東甲信越ブロック総会に参加(場所：東洋大学白山キャンパス6号館)。内容としては、主に平成22年度の活動報告や授業報告、平成23年度の計画等であったが、今後の福祉教育のあり方や社養協における震災後の対応について学ぶ機会になった。

2) 介護福祉関連

i 平成23年7月8日(金)に社会福祉法人浴風会(特別養護老人ホーム南陽園等)が開催する実習懇談会に参加し、施設の実習担当者と実習指導の方法等について意見交換を行い、他大学の教員の方々とも意見交換を行った。実習巡回指導等に関する現状と課題を認識できる機会となった。

ii 平成24年2月22日(水)には、同法人(社会福祉法人浴風会)の職員実践・研究発表会

に参加し、浴風会が運営する各施設の職員から実践報告を聞き、介護福祉現場の現状や課題、取り組み状況を理解できる機会となった。

⑨ 菅野衣美助教(実習担当)

I 「企画」あるいは「参加」した教育関連の研修会

1) 第19回日本介護福祉学会の企画・運営に携わった。

日時：平成23年9月3日・4日

場所：大妻女子大学多摩キャンパス

II 授業で活用するために作成した教材・テキスト

1) 「写真でわかる生活支援技術」メディックメディア、平成23年、分担執筆

内容：利用者の自立を助け、尊厳を守る介護を行うために必要な「知識と技術」をオールカラー写真で目で見えて理解できるように作成した。

⑩ 村田真弓助教(実習担当)

I 「企画」あるいは「参加」した教育関連の研修会

1) 第19回日本介護福祉学会大会参加

日時：平成23年9月3日・4日

場所：大妻女子大学 多摩キャンパス

内容：介護福祉学の実践および教育に関する学会大会

2) 第59回日本社会福祉学会大会参加

日時：平成23年10月8日・9日

場所：淑徳大学

内容：社会福祉学の実践および教育の在り方に関する学会大会

3) 第4回日本保健医療福祉連携教育学会大会参加

日時：平成23年11月5日

場所：神奈川県立保健福祉大学

内容：保健医療福祉サービスの連携の在り方に関する教育関連学会

IV 保護者懇談会

保護者懇談会は、平成23年度も例年通り、前期、後期に各1回行われた。前期は千代田キャンパスで開催される千鳥会総会に続き、専攻別に行われる教員との懇談会を開催した。また、後期には本学部がある多摩キャンパスにおいて多摩祭(大学祭)の1日目に学部全体の懇談会、学科別模擬授業、専攻別懇談会を行った。

以下、懇談会実施の状況と提出していただいたアンケートに基づいた保護者からの声をまとめ、課題について検討する。

I 千鳥会総会終了後の保護者懇談会

千鳥会総会は、平成23年6月4日(土)に千代田キャンパスで行われた。人間関係学部の保護者の参加者数は、以下のとおりである。

	家政学部	文学部	社会情報学部	人間関係学部	比較文化学部	短期大学部
総会	113	73	57	51	26	98
演奏会	152	105	68	59	28	113
懇談会	139	90	53	64	22	78

ここでは専攻別の懇親会にご出席頂いた保護者にご記入頂いたアンケート結果について報告する。

1. 懇親会の時間、内容について

時間については、「適当」「長い」「短い」「その他」の4段階で問うた。内容については、「適当」「不適當」の2段階で問うた。

懇親会の時間について、「適当」77%、「長い」3%、「短い」7%、「未記入」13%であった。概ね時間については適当であるとの評価が得られたが、短いとの答えには十分に保護者の方の希望に添う内容をお伝えし切れていない現状があるのではないかと考えられる。

また、内容については、「適当」72%、「未記入」28%であった。概ね適当であるとの評価ではあるが、不適當までではないが「未記入」という回答に対応するために、今後はより一層の保護者との対話が必要であると考えられる。

2. 懇親会に関する意見(自由記述)

「就職の話し、卒業・単位の話し、とても参考になりました。」

「親身になって頂き感謝です。」

「ゆっくりお話しを伺えて良かったです。」

「ゼミの先生から懇切な指導を頂いている様子が伺え、安心できました。」

「娘の大学での生活や今後のボランティア活動のことなど良く分かりました。」

「成績や就職、実習について具体的に説明を聞くことができて良かった。」

「進級、就職の話しを先生達の手厚いサポートをして頂けるのを大変嬉しく思いました。」

以上のようなご意見を頂けた。1年生から4年生までの保護者が会するため、全体としては大学生生活全般にわたる情報やシステムについてお伝えする機会となっている。学年に応じた、

また学生個人の話しについては終了後に行うため、時間が長くなる状況も生じている。

Ⅱ 多摩キャンパスでの保護者懇談会

今年度の人間関係学部保護者懇談会は、平成23年10月22日（土）に多摩キャンパスで行われた。今年度および過去5年間の父母懇談会の参加者数の推移は次のとおりである。

	平成23年度	平成22年度	平成21年度	平成20年度	平成19年度
社会学専攻	20	42	42	52	37
社会・臨床心理学専攻	50	42	32	42	34
人間福祉学専攻	38	45	51	56	56
介護福祉学専攻	16	17	15	12	21
全 体	124	146	142	162	148

参加者数については、これまで横ばい傾向であったが今年度については過去5年間の中で大きく減少したと言えよう。その理由について今後検討していく必要があると考える。

すなわち、多摩キャンパスの大学祭と同時開催を行っているのは、学生の大学での姿を見て頂くことや学生が主体的に行っている大学行事を体感して頂くことで、大妻女子大学とそこに学ぶ学生の雰囲気を知って頂きたいからである。それらの成果が得られないことも保護者の参加者の減少にもつながっている要因の1つであるかもしれない。

1. 全体懇談会について

全体懇談会については次のような意見・感想が寄せられた。

(1) 内容に関する事

「今の大妻女子大学の概要やこれからの方向性がよく理解できました。」

「大学の状況、大学全体の取り組みが良く分かった。」

「大学全体に関する情報で知らないことが多かった。」

「混乱の時期にこそ、普段の学業が必要だという大学の考えが良く分かり、この大学を選んで娘を通わせていることに確信を持ってました。子ども達を大切にしてくださっていることが良く分かり、良いお話しでした。」

「人間福祉学科が単に福祉の技術を教えるのではなく、もっと広い範囲で福祉の考え方、あり方について教えているお話しを聴いて、子どもを大学に入学させた意義を再確認できました。」

(2) 運営に関する事

「予定の時刻通りに始まり、終了してとても良かった。内容も分かりやすかった。」

(3) 情報提供に関するご要望

「大学の動向をパワーポイントにまとめて紹介して頂くと有り難い。」

(4) その他

「先生方の人柄が分かり、とても良かった。」

昨年度の全体懇談会についてもご要望として、情報提供について視覚的なものや資料の提供

が求められた。今年度からは特に専攻別懇談会において、資料提供などの取り組みを行ってきた。全体会についても今後の検討が必要である。

2. 模擬授業について

模擬授業一覧

専攻	担当教員	授業タイトル
社会学専攻	齋藤 豊	職業選択～あなたに適した職業を探すには～
社会・臨床心理学専攻	福島 哲夫	カウンセリングでもほめて育てる？—心理療法におけるセラピストの肯定介入に関する研究—
人間福祉学専攻	松山 博光	今日のボランティア活動
介護福祉学専攻	金澤 章	認知症3つのタイプとその対策

模擬授業は、学科単位で同じ教室で行われたので、学科ごとに主なる感想・コメントをアンケートのなかから引用する。

- (1) 人間関係学科：以下、学生の所属が社会学専攻の時は「社会」、社会・臨床心理学専攻の時は「心理」と省略する。

「分かりやすいレジメやパワーポイントで久しぶりに大学の授業を受けさせてもらいました。」
(社会)

「普段娘が受けている授業を少しでも体験できて良かった。もう少し早くテーマを聴いていれば、他大学に通う息子の参考になったのではないかと思うと残念だった。」(社会)

「娘の就活準備に応用してみたいと思った。」(心理)

「現在娘は大学3年生ですが、キャリアデザインの模擬授業を聴き、就職、生活していくことが大変な時代になったと感じました。カウンセリングの方法も多様化していることを知り、娘には学んだことを活かせる職について欲しいと思いました。」(心理)

「家で娘が話している単語、用語等が多く聞かれ、難しいことを勉強しているんだなど実感しました。」(心理)

「机上の勉強から遠ざかっていますので、時間的にも適切であったと思います。講義内容も良く理解できたように思います。」(心理)

- (2) 人間福祉学科：以下、学生の所属が人間福祉学専攻の時は「福祉」、人間介護学専攻の時は「介護」と省略する。

「短い時間でしたが、分かりやすくお話し頂き、帰ったら娘と認知症やボランティアのことを話し合いたいと思います。」(福祉)

「興味のあるお話しで、先生方の熱意が伝わり、夢中になる授業でした。」(福祉)

「認知症が身内にいるので、とても興味があり勉強になりました。娘がうらやましいです。」
(福祉)

「私は仕事として、ボランティアの方と接することも多いのですが、講義にあったように市

民のボランティアに対する考え方が少しずつ変わってきていると思います。今回お話し頂いた授業を受けた学生が全国で活動し、ボランティア精神が確実に国民に広がっていくことが期待できるような講義でした。」(介護)

3. 参加した専攻別懇談会に関する意見・感想（専攻別懇談会は4専攻がそれぞれ別個の教室で行われた）

「大学生活一般から、授業、就職活動まで幅広く有意義なお話しが聴けました。」(社会)

「具体的な質問に回答が貰えてとても参考になりました。」(社会)

「最近の厳しい就職状況が分かり参考になりました。大学院進学も考慮に入れて今後の進路を決められればと思います。」(心理)

「直接担任の先生とお話しできて良かったです。」(心理)

「就職活動のサポート内容が充実していることが分かった。」(心理)

「成績、実習、国家試験のこと、いろいろと疑問に思っていたことがありましたが、分かりやすい説明で解決できました。特に実習は、1～4年生までの流れが良く分かりました。」(福祉)

「担任の先生のお顔が見られて良かった。また、担任の先生から大学での様子を聴くことができて安心した。」(福祉)

「子ども主体だからと思っていましたが、4年間の流れ、大学としての取り組みが良く分かり参加して良かったです。」(福祉)

「時間がもう少し逢った方が良かったです。」(介護)

4. その他の意見・感想

「大学祭も含めて楽しい時間が過ごせました。」(社会)

「出席して良かったです。」(社会)

「先生方の熱心で温かいお答えがとても素晴らしかった、良かったと思いました。そのまま現実の生活に役立てることができるよう、これからの対応に反映させていこうと思います。」(心理)

「ゼミの先生と話すことができ良かったです。」(心理)

「かなりきめ細やかなお心遣いで感謝申し上げます。」(心理)

「学部紀要を頂きましたが、重いので送って頂いた方がうれしいです。」(心理)

「学内の職員の方は皆感じの良い方ばかりでした。」(心理)

「娘がどのような環境でどのような状況の中、大学生活を送っているのかが少し把握できたような気がします。このような機会があったら積極的に参加したいと思います。」(福祉)

「先生方もお忙しいと思いますが、定期的にこのような場を設けて頂ければ嬉しいです。」(福祉)

「3年連続楽しく参加させて頂きましたが、毎年バージョンアップされていてとても有り難いです。」(福祉)

III 総評

本年度も保護者よりたくさんのご意見・ご感想を頂いたが、すべてを掲載することができな

いため、主たるご意見や今後本学部で課題とするべきご要望等を中心に取り上げた。

6月及び10月の懇談会のプログラム内容としては、概ね良いとの評価を頂いたが、数年連続してご要望を頂いているデータや資料について、専攻別だけでなく学部全体会でもプレゼンテーションのさらなる工夫が求められていると言える。

また、昨年度のご指摘を受け、専攻別の懇談では、全体に共通する話題だけでなく、学年別、個別の時間を取るよう意識した取り組みがなされた。その分、長時間に渡ることもあり、保護者懇談会だけではない、大学と保護者とのコミュニケーション、学生も加えた三者でのコミュニケーションをより意識する課題を見出すことができた。

少数ではあるが、数年に渡り、保護者会での大学からの配布物（学会報、研究紀要、FD報告書等）について、持ち帰りの重量等の不便さや内容が分からないため必要な人だけが持ち帰る仕組みを求める声が上がっている。大学での授業以外の活動も含めた学問的取り組みや、保護者会のサポートも得ながら行っている教員の研究、教育への取り組みの自己評価等、それぞれに保護者への報告と情報共有が必要なものである。冊子等を配布すると同時に、報告の意味や成果等について説明していく必要性を感じた。

V オフィスアワー

本学部のFD活動の一環として、全専任教員が各研究室で学生に対して様々な学生生活に関する相談を行うオフィスアワーを実施している。学生への周知は新年度ガイダンス時期に行い、さらに学部内掲示板及び教員の研究室前に各教員のオフィスアワーの時間を示している。学生にとって身近な教員だけでなく、普段話す機会の少ない教員との関わりが気軽にできるための取り組みである。

本取り組みは8年目を迎えており、学生への周知方法の徹底について課題が指摘され、また相談内容の多様化への対応について他部署との連携等の必要性も指摘されてきているところである。

本年度は、各教員が運用方法を模索しながらの取り組みとなった。

平成23年度「オフィスアワー実施要綱」は表1の通りである。

表1 平成23年度 オフィスアワー実施要綱

活動目的	オフィスアワーは、学生の大学生活全般にわたる相談を通じて、学生がよりよいキャンパスライフを送れるように支援する組織的な活動である。
相談内容	学生生活全般に関わる事柄であり、特別な制約は設けない。
対象者	本学の学生個人またはグループとする（学部・学科・専攻は問わない）。
担当者	学生は、クラス指導主任やゼミ担当教員に限らず、人間関係学部の全専任教員（助手は除く。）と相談することができる。
相談時間	①月曜日から金曜日までの1時限から5時限、土曜日の1時限から2時限のうち、原則として1コマを相談時間に当てる。 ②指定時間外は、事前予約により相談できる。
相談場所	原則として、各専任教員の研究室とする。
実施方法	①教員は、オフィスアワーとして設定した時間内は研究室に在室している。 ②教員は、学生が安心して相談できるように事前説明を行い、特別な事がない限り、他に漏らさないことを説明する。
周知方法	①教員は、毎年、講義開始時にオフィスアワーの利用を学生に伝える。 ②新年度毎に「人間関係学部オフィスアワー・スケジュール一覧表」を作成し、学生への配付及び、学部掲示板（1階）や各共同研究室掲示板（4階）に掲示する。 ③学部ホームページに実施要項とスケジュール一覧表を掲載する。
FD報告	担当教員は、オフィスアワーに関する意見・感想等を当該年度のFD報告書に掲載するため、報告書（年度末に別途配付）を提出する。

1. オフィスアワーの結果

1) 荒井芳廣

オフィスアワーに研究室を訪ねる学生は、自分のゼミの学生、自分の授業を受講している学

生、顧問をしている学生、住所変更するクラスの学生などであった。

2) 干川剛史

火曜日及び木曜日の昼休みをオフィスアワーに指定したが、オフィスアワーとしてのこの時間帯に訪ねてくる学生はいなかった。しかし、この時間帯以外でも研究室に来室する学生があれば、適宜、対応していた。

3) 加藤美智子

訪れる学生の数は多くありませんが、内向的で、心理的に問題があると感じている学生が数名訪れました。一人の来室回数は1～数回です。上記のような学生ですと、90分を一人で使うことになる場合が多いです。しかし、自由に訪れてよい時間があるということは、このような学生にとってはとても良いようです。こちらの対応が難しいですが・・・。

4) 向井敦子

水曜4限をオフィスアワーとしているが、これまでに来室したのは2パターンである。

①担任の印鑑が必要な書類への対処住所変更や欠席（忌引き等）の書類に対するもの。ほとんど事務的な作業である。

②卒論指導

特に後期になるとゼミの時間以外でも卒論の指導を求めてゼミ生がやってくるので、その対処に追われた。

5) 西河正行

オフィスアワーは、無駄だと思います。むしろ、学生にメールで相談できる体制を作った方が実用的だと思います。学生は、1年生の時にアドレスを伝えているのに、教員のアドレスを知りません。学生が相談したい時に、アドレスが分かるようにする必要があります。そのために、以前、教員のアドレスが分かったようなシステムを作る方がよいのではないかと思います。あるいは、事務に一元的に集めて、各教員に自動的に振り分けるシステムでしょうか。

6) 福島哲夫

かなり有効に活用されたが、ゼミの学生の一部には「この時間もいつでも卒論指導をしてもらえる時間だ」という誤解が生じていて、「指導しないこともないが、他の学生が来たらそちらを優先させる」という指導に、やや配慮を要した。学生の主体性を重んじながらの指導が、例年と同じく難しいと感じた。

7) 古田雅明

今年度は、前期金曜2限、後期火曜昼休みをオフィスアワーとしました。

14名が来室（学部生12名、大学院生2名）しました。学部生の来室者は、全員担任クラスの1年生と3、4年のゼミ生でした。主な相談内容は、履修や卒業論文研究に関する学習面の相談が約半数であり、残りの半数は、進路の迷いや、対人関係、メンタルヘルスなどの諸問題でした。

院生は、修士論文研究や実習関連など、学習面の相談でした。

昨年までは心理相談センターの専任教員だったため、学部生との接点がほとんど無く、オフィスアワーは大学院生のための時間となっていました。今年度からは、主に学部生の相談の為の時間となりました。

8) 堀洋元

専攻の学生、とくにクラス指導をしている学年の必修授業の時間割と重なってしまい、有効に活用されていませんでした。他学科、他専攻の学生はオフィスアワーの時間に授業の質問や配布資料の確認に来る学生がいました。学生にとって有益なオフィスアワーという観点で考えれば、多くの学生が利用しやすい時間帯に設定することも必要であると感じました。

9) 小川浩

オフィスアワーについては、例年通り、学生はオフィスアワーを意識することなく研究室に様々な要件で来ている。教員の方からも、特にオフィスアワーを意識させるように声掛けは行っていない。しかし、研究室を訪れることが敷居の高い学生にとっては、オフィスアワーという枠組みは有用ではあると思う。

10) 町田章一

1時間目に設定している教員が少ないので木曜日の1時間目に設定している。「必要な時に、先生が誰か一人はいるという状況が良いのではないか」と考えるが、今年度の利用者はいなかった私の考えを改めた方が良いのか・・・。

11) 松山博光

今年度もアポなしによる数件の来室があったものの、事前にメールによる連絡もあった。成績・就活に関する相談面接が中心であった。本学部のオフィスアワーは、学生に周知されていると思われる。

12) 嶋貫真人

オフィスアワーを意識してやって来る学生は、ごく少数であると思われた（23年度は、その時間帯に来た学生は1年間を通してゼロであった）。

13) 丹野真紀子

担任が1年B組でした。1年生ということもあり、1年生はオフィスアワーに関係なく、必要があれば相談に来るという状況でした。オフィスアワーについては、3・4年生のゼミ生がよく相談に来ていました。

14) 井上修一

ゼミ選択、進路、退学等、オフィスアワーに相談に来ました。有効に活用されていたと思います。

15) 藏野ともみ

今年度のオフィスアワーは、訪ねてくる学生がオフィスアワーを意識している者も多く、クラス及び担任をしている3年生の学生が多かった。また、4年生も国家試験が近づいた後期にはオフィスアワーの時間をねらって質問に来る学生が数名いた。

内容は、緊迫したものはほとんどなく、授業や友だちの話、進路相談として履歴書の添削や就職面接へのアドバイスを求めるものが多かった。また、福祉の就職活動の方法についての質問も多かったように思われる。

オフィスアワーに限らず、学生が話しやすい場所として位置づけて貰える環境作りに心がけているが、今年度は節電のために、在室していても部屋の電気を半分消していることもあったため、学生から「不在だと思った」と言われたことがあったのは気になった。

オフィスアワーを設けることは学生にとっても訪ねても良い保証になり、教員側としても意識をする時間になり必要だと思われる。今後、学生への周知をどのように行うべきかを検討していく必要がある。

16) 是枝祥子

オフィスアワーとして決められた時間ではなく、研究室にいる時間に来るので、時間の設定はなくてもよいと思う。教員はいつでも学生に対応できことをアナウンスしておけば良いと思う。

他専攻の学生の就活・福祉の相談4件、学科の学生は随時相談に来室した。

17) 金澤章

訪問される学生は多くは有りませんでした。私が多摩地区の相談医であることより、相談の内容のほとんどは心身の健康に関するものでした。学生の保護者が1名いらっしゃいました。

18) 川廷宗之

- ①授業関連を除く、1時間近い時間を要する学生からの相談は、2ケースのみであった。
- ②授業関連の相談は、オフィスアワーに関係なく、授業終了に近い時間帯で来るため、来た時に対応するようになっている。
- ③学生側に教員を活用しようという意識が少なく、面接時間を調整しなければならないような事態にもなっていないので、オフィスアワーをわざわざ決める必要があるのかどうか疑問である。

19) 佐々木宰

オフィスアワーは週1回設定していましたが、学生が研究室を訪ねて来た時は、指定した曜日・時間に関係なく受け入れるようにしていました。顔見知りの学生にとっては良かったのかもしれませんが、オフィスアワーを守って学生が訪ねてきた時にすでに他の学生が来ていて、訪ねてきた学生に疎外感を感じさせてしまったかもしれません。設定したオフィスアワーの時間帯には、普段気軽に来られない学生がいつでも入ってこられるような環境を整えておきたいと思います。

2. 今後の課題

数年に渡り課題として指摘されてきたことであるが、本学部の特徴としてオフィスアワーの時間に限定せず、教員が学生の相談や指導を常に行っていることから、身近な学生や専攻・学科の学生に対してオフィスアワーの必要性が急迫していないことが結果として挙げられた。

しかし、オフィスアワーを設定し取り組んだ背景には、学科や専攻、時には学部を超えて、学生が様々な話題で教員と話せる機会を設けることによって、学生の抱える問題の深刻化を防ぐだけでなく、研究や学習の機会を設けていきたいという考えがあり、その重要性も認識されている。

現状として、オフィスアワーが実質的にはゼミやクラスの学生の指導時間になっている。そのことは、オフィスアワーの一つの役割を果たしていると評価できるが、多様化している学生のニーズに対応する当初の目的を果たすためには、今後、学部内で学生への周知及び教員間の話し合いをすることも必要であると考えられる。

これらのことから、今後の課題として以下の3点をあげたい。

- (1) 教員間でオフィスアワーの目的を再確認し、学生指導時に周知を行う。
- (2) 学生の積極的なオフィスアワー活用を促すための方法の検討。
- (3) 学生相談室や事務部との学生指導に対する連携を意識した学部の取り組み。多くの課題を抱えている学生相談体制のあり方に関する問題共有と教員間の情報交換。特にオフィスアワーを活用できない学生の状況も視野に入れた学生生活支援のあり方について担当委員会との連携を図る。

VI クラス指導

本学の特徴としてクラス指導主任制度があり、学生の入学時よりきめ細かい「学習」や「学生生活」への指導や助言、相談を行う支援体制を取っている。各教員のクラス指導の活動が学生の学習の質、学習環境の質を保つための直接的・間接的活動と位置づけることができる。

また、全国各地から入学してくる学生が環境に慣れ、友人を作り、安心して就学できるようにときめ細やかな指導の必要性を説いた学祖の意志を継ぐ形で、クラス指導主任制度が導入されている。今日の学生の抱える課題への対応としても意味をなすものである。

そのクラス指導主任の指導内容と各教員の工夫について、本学部内では共有される機会としてクラス指導の実績と各自の工夫や困っている状況などについて整理することに取り組んでいる。

平成23年度のクラス担任の状況は、表1の通りである。

表1 平成23年度 人間関係学部クラス指導主任一覧

人間関係学科				人間福祉学科			
社会学専攻		社会・臨床心理学専攻		人間福祉学専攻		介護福祉学専攻	
1 A	久保田 滋	1 A	古田 雅明	1 A	小川 浩	1 A	佐藤 富士子
1 B	齋藤 豊	1 B	向井 敦子	1 B	丹野 眞紀子		
2 A	小谷 敏	2 A	田中 優	2 A	井上 修一	2 A	金 美辰
2 B	鄭 暎恵	2 B	堀 洋元	2 B	上野 優子		
3 A	大出 春江	3 A	福島 哲夫	3 A	松山 博光	3 A	佐々木 宰
3 B	伊藤 美登里	3 B	西河 正行	3 B	藏野 ともみ		
4 A	石田 光規	4 A	八城 薫	4 A	嶋貫 真人	4 A	川廷 宗之
4 B	荒井 芳廣	4 B	加藤 美智子	4 B	是枝 祥子		

1. クラス指導の現状と教員からの意見

(1) 平成23年度のクラス指導の状況

1) 人間関係学科 社会学専攻 教員

クラス担任の存在が形骸化している。懇親会（昼食会）を企画しても、出席率が1割に満たずまた成績表もほとんど学生が取りに来ない。問題を抱えた学生は学生相談室の主に学生相談室の方に行くことが多く、それはそれでよいのだけれど、学務にかかわることもクラス指導抜きで決めてしまうことが多いのは不都合である。というのは、学務にかかわることは、クラス指導の印鑑が必要というばかりでなく、専攻のカリキュラムポリシー、ディプロマポリシーとかかわる問題であることが多く、専攻の教員で議論しなければならないからである。

2) 人間関係学科 社会・臨床心理学専攻 教員

4年の担当でした。このクラスは1年生の時から、なぜか不登校、休学、退学などが多いクラスでした。細やかな対応をすることは、クラス指導の立場からは難しいです。

3) 人間関係学科 社会・臨床心理学専攻 教員

今年の担任は3年生です。そこで、基本的にゼミ単位になっているので、クラスで特別のことはしていません。しかし、休退学では担任が窓口機能を果たしています。

4) 人間関係学科 社会・臨床心理学専攻 教員

担当する学年が3年生になったため、ゼミの教員による指導が中心となり、クラス指導は履修に関する点に特化された。

5) 人間関係学科 社会・臨床心理学専攻 教員

1年生の前期履修登録時は、全員に対してきめ細かい指導を行いました。また、1年の必修科目である基礎セミナーIを担当していましたので、授業の前後やキャンパス内でも1年生から話しかけられることが多く、コミュニケーションを取る機会が多くありました。私の専門領域と関連があるかも知れませんが、前期からパニック障害やうつ状態等、メンタルヘルスの相談が複数名からありました。後期は、1年生対象の授業がなく、交流が少なくなりましたが、期末には出席不足、不登校の学生への個別対応（事務課へのつなぎ、保護者との連絡、受診勧告等）を行いました。振り返ると前期は学生の課題が軽微な段階で早期対応ができましたけれども、後期は課題がやや深刻になった段階での後手の対応に終始した感があります。

6) 人間関係学科 社会・臨床心理学専攻 教員

前期は該当学年の授業を担当していたので、クラスの学生の様子を定期的に見る機会がありましたが、後期は履修指導の学生や個別に相談に来た学生以外、対応する機会を十分に作れませんでした。

7) 人間関係学科 社会・臨床心理学専攻 教員

1年生の前期登録時は、全員に対してきめ細かい指導を行った。後期は、単位がやや不足している学生に個別指導を行った。年間を通して、欠席数がやや多い学生への配慮と指導を行った。

具体的には必修科目の出席・課題提出状況を折に触れて担当教員から情報を得て、必要に応じて個別指導を行った。また、夏休みに留学した学生が体調不良で帰国した際は、帰国時および、後期に折に触れて指導した。

8) 人間福祉学科 人間福祉学専攻 教員

現2年生で、専門ゼミを選ぶ時期であったため、一人ひとりと相談する時間をとることができました。また、今年度2名の退学がいたことに心を痛めております。

9) 人間福祉学科 人間福祉学専攻 教員

1年生を担当した。オリエンテーション旅行が中止となったため、初めて学内での新入生オリエンテーションを経験したが、旅行の場合には自然に作られる学生との関係がやや作り難かった印象がある。それを補完するクラス指導主任としての活動ができないまま、年度末になってしまった。2年生からは授業での接触が多くなるが、併せて個別面談などで学生の状況

の把握に努めたい。クラスに聴覚障害の学生がおり、授業理解の状況把握や、ノートテイカーの調整・手配などを行った。今後、障害学生への対応については、全学的な仕組みの検討も必要かと思う。

10) 人間福祉学科 人間福祉学専攻 教員

3年生のクラス担任を担当しましたが、卒業論文ゼミが開始されることもあり、昨年度より「3年次は、前期恒例の個別面接は実施しない。クラス担任への相談は自ら赴いて欲しい。クラス担任からは、成績、実習、国家試験、就職活動等について必要な時に指導を行っていく」旨を伝えてきました。また「クラスメンバーから相談や話しがしたいときはいつでも連絡して欲しい」ことも伝え、初めて前期個別面接を実施しませんでした。

しかし、3月の東日本大震災の時点から、春休暇中及び3年次開始時まで全クラス学生と直接連絡を取り安否確認を行っただけでなく、対面での対応が必要になりました。経済的な面、メンタルな側面について、話しをする機会がありました。

また、3年生は社会福祉士実習を行う者も多く、夏や春休暇中にメールで状況報告をする学生への励ましを行い、実習担当教員との連絡・報告を行う機会を持ちました。一般企業への就職活動が始まったため、希望する学生の履歴書や提出書類の添削や面接のシミュレーション等を行いました。

また、人間福祉学科3年生の他のクラス指導主任と情報交換や助言等をもらうことを意識的に行い、学年会として前期に東京名所めぐりを行いました。学生同士および教員との交流、友だち関係の再構築等の意図を持って行っています。最終学年である来年度は、前期の個別面接と学年会を行うことで、学生の進路指導及び交流を多く持つように努めていきたいです。

11) 人間福祉学科 人間福祉学専攻 教員

受け持ちクラスが4年生となったため、就職に関する相談が数回あった。その他は、学業成績の上で問題のある学生との個別面談、および各種提出書類へのサインなど。

12) 人間福祉学科 人間福祉学専攻 教員

1年生の担任でしたので、4月のオリエンテーションや、9月の後期開始期時期には、特に気を付けて学生指導を行いました。前期期間中は、基礎ゼミIで1年生とあうことも多く、こまめに声をかけることができました。

後期に関しては、スポーツフェスティバルにB組はほとんど参加し、一致団結して競技に臨みました。それぞれが参加した競技のみならず、応援にも熱が入っており、楽しんでスポーツをすることができたと思います。結果は2位でしたが、最後まで、優勝争いに関われ事は、競技に参加するモチベーションを上げ、また、来年こそ優勝したいとの気持ちを学生自身が持つことができたことはクラスの団結を考える上でも良かったと思います。

13) 人間福祉学科 人間福祉学専攻 教員

今年度も特に学業成績（GPA1.5未満）や学習態度（高い欠席率）の悪い学生を呼び出して面談を行った。その後の見守りを通して支援することにより、成績の向上がみられる学生がいる一方で、余り効果が現れない学生もいる。次年度は、よりきめ細かな対応が求められている

ため、取り組み方を検討してみたい。

14) 人間福祉学科 介護福祉学専攻 教員

クラスでのボーリング大会と懇親会を行った。

15) 人間福祉学科 介護福祉学専攻 教員

①初めてのクラスだったので、年度初めに個別状況把握を行いました。ときどき研究室に顔を出してもらい、学生生活等話し合いました。後期は、就職状況や卒業単位、国家試験の勉強等の話し合い等を昼休みに昼食をとりながら行いました。必要に応じ電話やメールで連絡を取り合いました。

②研究室に用がなくても顔を出してもらい、その都度気になることを話合うことでクラスの状況を把握しました。

③3・4年生はゼミの担当教員と話し合う機会が多く、ゼミで解決することが大半ですが、クラス指導教員も学生の状況を理解することで二重のように思えますが、双方が状況を理解することで漏れがなくリスクが少ないと思います。

16) 人間福祉学科 介護福祉学専攻 教員

大学生後半になり、ゼミでの新たな人間関係、長期間の実習、卒業後の進路・就職活動など、意識しなければならないことが増えました。これまでは年1～2回個別面談の場を持ちましたが、今年度は授業を通して交流し、ゼミ等で仲間づくりや将来に向けた考え方を把握するように努めました。また3クラス合同で恒例のクラス会（ほとバスで東京散策）を実施しましたが、多数の参加があり、クラス内のつながりだけでなく、横（クラス間）のつながりも深まったように思います。進路に関しては、実習体験を通して福祉に進むか民間企業等にするか固まりつつあるようです。4年次の最初に個別面談を組み、就職活動や卒業に向けた準備について指導していく予定です。

17) 人間福祉学科 介護福祉学専攻 教員

入学した4月～6月までに、グループあるいは個人で面接を行った。グループで来た場合は、仲よくしている仲間が見れるという点、一人で来た場合は教室の中での状況が見ることができた。後期に入っても仲間ができず、真面目に授業を受けているがGPAが低く、個別でいる学生への介入方法の困難さを感じる。

(2) クラス指導を行う際に工夫している点

1) 人間関係学科 社会学専攻 教員

①懇親会の企画

②GPAの低い学生に対する指導

学生に対しては掲示による呼び出し、保護者には書簡による説明を行っているが、全く反応がない。

2) 人間関係学科 社会・臨床心理学専攻 教員

今年度だから工夫したということではありません。ただ、1年生の時から一度話しに来たかったという学生が、オフィスアワーに話しに来てくれました。クラスという枠組み、その担任という立場は、今の学生さんにとっては意味があるのかもしれませんが、しかし、普段はあまり触れ合う機会がありませんので、どのようにすればよいのか模索中です。

3) 人間関係学科 社会・臨床心理学専攻 教員

1年に一回のオリエンテーションでできるだけ学生にとって役立つ話をするように努めています。それを契機にして、学生が話に来られるようにしています。

4) 人間関係学科 社会・臨床心理学専攻 教員

学生の主体性を重んじて、過保護にならないよう、かといって「取りこぼし」のないように目配りするのが、最も難しいが重要であると考えている。

5) 人間関係学科 社会・臨床心理学専攻 教員

日頃から、専攻の他の教員と個別学生に関する情報交換を密にして、情報を得るように心がけています。

6) 人間関係学科 社会・臨床心理学専攻 教員

あらかじめメールなどで予約を入れてもらい、個別に対応するようにしています。

7) 人間関係学科 社会・臨床心理学専攻 教員

学生の大学における授業の取り組みについて、日頃から情報を得るようにしている。これによって素早い対応が可能になる。

8) 人間福祉学科 人間福祉学専攻 教員

①名前を覚え、個々の性格に応じて進路等の相談にのれるようにしています。

②休みがちな学生については、電話、メールも含めてつながりをもてるように努めております。

9) 人間福祉学科 人間福祉学専攻 教員

学年の他のクラス指導主任及びゼミ担当教員に、指導方法等について助言を頂き、情報交換を行うように心がけています。また、早い段階から就職活動への意識付け、あるいは国家試験への意識付けを行うように、可能な限り直接声かけを行い、なかなか会えない学生にはメールで言葉をかけるようにしてきました。

10) 人間福祉学科 人間福祉学専攻 教員

3・4年の間は、ゼミ担当教員との連携を密に行うこと。

11) 人間福祉学科 人間福祉学専攻 教員

担当が1年生でしたので、前期から後期の始めにかけて丁寧に声かけをしました。特に、

大妻教養講座の出席の低い学生や、社会福祉学セミナー I の欠席が目立つ学生及び、英語 I A・C の欠席状況などは情報が入りやすく、学生指導に活用することができました。

また、後期開始の成績配布時に、個別面談を行い、学生の状況を把握し、必要に応じて GPA の説明をしました。この学年は、GPA2.0 以上の学生がほとんどでした。また、GPA3.0 前後の学生に関しては、来年度の履修単位増も見据え、成績を保つ、あるいは上げることへの工夫について話しました。それ以外の学生については、成績についてどのように認識しているか確認し、後期授業に臨むにあたっての心構えを話しあいました。

12) 人間福祉学科 介護福祉学専攻 教員

4 年生にもなると、クラス内に色々なグループができるので、それらのグループ間の調整に留意した。

13) 人間福祉学科 介護福祉学専攻 教員

例年の個別面談は実施しませんでした。廊下やラウンジなどで見かけた時にはまめに声をかけるようにしました。友人やゼミ教員に相談しつつも「担任としての意見も聞きたい」と訪ねてくる学生も多くありました。ゼミ教員との関係を保持しつつ、学生が混乱しないよう、必要に応じて担任と連携し、情報を共有しながら指導に当たるよう心がけてきました。

(3) クラス指導に関する意見・感想

1) 人間関係学科 社会学専攻 教員

以前から 3 年以降（ゼミに入ってから）は教員との接触がゼミの教員の方が密接になるので、クラス指導の役割をゼミ教員に移譲してはどうかという意見があり、便宜的に成績表配布などをゼミ単位で行うことが多くなってきているが、クラス指導制度を残したまま、便宜的にこうしたことを続けていると、この制度が形骸化してしまうので、制度を残すならクラス指導担任の役割を強化する方向で残してほしい。

2) 人間関係学科 社会・臨床心理学専攻 教員

大学生期の学生にとってクラスとは何を意味するのでしょうか。とても難しいです。

ただ押印をもらう人、何かの時に尋ねる人、成績をもらう人、など以上の存在になっていかないといけないのでしょうか、よくわかりません。

3) 人間関係学科 社会・臨床心理学専攻 教員

上級生によるメンター制度を作ること、上級生を教員が指導する体制を作ること。クラス指導よりも効果があると思います。

4) 人間関係学科 社会・臨床心理学専攻 教員

今後は、担当授業が無い期間中にいかに学生との接点を増やすかを模索したいと考えています。

5) 人間関係学科 社会・臨床心理学専攻 教員

1年間クラス指導を行ってみて感じたのは、ささいなことでも相談する相手が見つからずに困っている学生がいるのではないかということです。とくにゼミに所属する前の1・2年生にはクラス指導主任として教員と接する機会を増やすことも必要だと感じました。

6) 人間関係学科 社会・臨床心理学専攻 教員

今年度は特に問題になる学生が少なかったので、目を配ることを怠らないようにしていきたい。

7) 人間福祉学科 人間福祉学専攻 教員

自立する学生に対して、意識的に就活や国家試験、実習等について情報を提供するように心掛けています。1～2年次の関わりを意識的に行ってきたので、今年度の関わりは、必要に応じて学生からも対応ができる段階で相談があったように思います。

ただし、既に卒業が難しい学生もおり、進路指導が必要になっています。特にゼミ担当者との連絡を意識的に行っていく必要性を感じております。

8) 人間福祉学科 人間福祉学専攻 教員

大妻教養講座や、英語の欠席者についての連絡が入りましたので、学生指導はしやすかったと思います。これからも是非、このような学生情報を頂ければ、学生指導に活用したいと思います。

9) 人間福祉学科 人間福祉学専攻 教員

いろいろと課題のある学生が増えているのでクラス指導の業務はこれまで以上に大切なものとなると思います。

10) 人間福祉学科 介護福祉学専攻 教員

①少人数クラスだったので、学生の把握が楽であった。

②4年間持ち上がりだったので、個々の学生の変化を見ることができ、担当教員としての学習を深めることができた。

2. 今後の課題

入学時からの細やかな指導を目的に、クラス担任制度が導入されており、各教員が30名から50名規模のクラスを担当し、4年次まで一貫した直接的・間接的な指導と支援を行っている。その内容は、学生生活の全般的な支援に渡り、入学当初の大学生活への導入期の履修相談だけでなく、大学生活を左右する大きな一因でもある友人関係、学習指導、進路変更等に伴う退学等の相談、必要に応じて保護者との連絡・調整、成績不振学生への学習指導、日常的な教務・学生関係の書類の取り扱い、クラス親睦会の年1回の実施、保護者会での個別相談等を行うことである。これらは教員にとって大きな業務の一つであり、オフィスアワーの時間だけでなく、定期的にも、また不定期にも時間を費やす必要がある。複数の教員から時間がどれほどあっても足りないという意見が出されている。

今後多様化する学生の状況を考慮すると、ますます教員による初年次からのキャリア指導、人間関係やメンタルな援助、あるいは個別に応じた学習指導も必要になってくると考えられる。それらへの対応として、学内に学生相談センターやキャリア支援部門が整備されつつあり、学生も複数の窓口があることによって、自分で選ぶことができる体制が整ってきている。

ただし、全ての事項がクラス指導主任の承認や指導が必要なものであり、学生支援体制の充実に伴って、クラス指導主任は多くの窓口と連絡・調整・連携をより密に取っていく必要性に迫られている。

大学教育における学生支援や指導のあり方の検討の必要性を感じる。

今後の課題として、本学部でこれまで挙げられてきた課題を学部内で議論するだけでなく、各種委員会を通して、大学全体の課題として検討する問題提起の時期に来ていると考える。

積み重ねてきた成果を評価し、継承するべき点を整理するとともに、学生の状況に応じたより良い体制について検討をしていくべきと考える。

Ⅶ 平成23年度FD研修会報告

平成23年度のFD研修会報告は、平成23年12月9日（金）の教授会終了後、午後5時より、人間関係学部棟3階7348教室で行われた。研修会には、人間関係学部の教員、助手のほか、伊藤朋恭学長代行、栗原副学長ほか、事務職員の方々の参加を得て、盛会のうちに行われた。

今年度のテーマは、昨年、1年生の必修科目である「人間関係総論」を例に「人間関係学部は初年次教育にどう取り組んでいるか」という課題に取り組んだのに引き続き、同じくどの専攻でも1年生の必修科目として設置されている「基礎セミナー」を取り上げて、各専攻が、初年次教育にどのように取り組んでいるのかを報告し、その上で改善点を検討した。

1. 研修会の進行

研修会は、小谷FD委員長の司会のもとに、次のようなプログラムのもとに進められた。

- (1) 開会のことば・趣旨説明（小谷敏FD委員長）
- (2) 伊藤学長代行あいさつ
- (3) 社会学専攻の報告（荒井芳廣教授、鄭映惠教授）
- (4) 社会・臨床心理学専攻の報告（古田雅明助教、八城薫助教）
- (5) 人間福祉学科の報告（嶋貫真人教授、丹野眞紀子教授）
- (6) 質疑応答及びコメント（栗原裕副学長のコメントも含む）
- (7) 閉会のことば（町田章一学部長）

2. 報告者の選択

各専攻から2名、ただし人間福祉学科では「基礎セミナー」を社会福祉学専攻と介護福祉学専攻同じフォーマットで行っているので学科として2名の教員に報告してもらった。

3. 報告の趣旨

報告は、各専攻の「基礎セミナー」への取り組み状況の比較検討を容易するために、次のような内容が盛り込まれていることが、FD委員会から要請された。

- (1) 各専攻は「基礎セミナー」をどのような科目として位置づけているのか。
- (2) どのような知識やスキルを「基礎セミナー」において体得させようとしているのか。
- (3) 「基礎セミナー」においては、具体的にどのような授業を行っているのか（授業のスタイル、内容）
- (4) 「基礎セミナー」は、実際にどのような効果をあげているのか？
- (5) 現在「基礎セミナー」は、どんな課題に直面しているのか。
- (6) それを克服するためにどのような努力が求められると考えているのか。

4. 報告の概要

「基礎セミナー」科目は、学部創設以来、人間関係学部のすべての専攻において初年度教育の要としてカリキュラムのなかで重要な位置を与えられ続けてきた。どの専攻においても常に

変わらないこの科目の学習目標は、(1) 専門分野への関心を呼び起こし、基本的概念・理論の学びへの動機づけを行うこと、および(2) 「読む」、「書く」、「理解する」、「伝える」を養うこと、すなわち口頭発表およびグループディスカッションの方法、プレゼンテーション資料の準備のためのライブラリー・ワーク、レジユメの用意の仕方など専攻の学びの基本を身につけること、の二つである。しかし学部開設からの14年間に様々な試行錯誤が行われ、現在の形に至っている。詳しい内容は、報告のさい配布された資料を参照されたいが、以下、専攻・学科別にその概要を述べる。

(1) 社会学専攻

社会学専攻では、1年生を4クラスに分け、4名の教員が「社会学基礎セミナーⅠ」(半期)、「社会学基礎セミナーⅡ」(半期)を両者とも担当する。ただし、「社会学基礎セミナーⅠ」、「社会学基礎セミナーⅡ」を同じ教師が担当しないように、担当クラスを交代する。

社会学専攻でも同一のテキストを用いた基礎教育の標準化についての議論が盛んに行われ、いくつかの案が提示されたが、現在、教育内容と方法は、担当者の裁量に任されている。

本研修会の第一報告者の鄭暎恵教授は、テキストを紹介しながら、現在、初年度教育の現場が抱えている次のような問題点を明らかにした(「現在、「基礎セミナー」はどんな課題に直面しているか?」)。

- ① 学生間の学力格差が拡大している(ex.授業中のおしゃべりが止められない学生、コミュニケーションが苦手な学生)。
- ② 積極的に発言する学生の減少。
- ③ マニュアル通りにしかできない学生の増加。
- ④ メンタルヘルス問題を抱えた学生の増加。
- ⑤ 「疲れている」学生の増加。

これらの課題に対する対処として次のような方策を実践している、とのことであった。

- ① 毎回報告者2人(報告時間約40分)、身近な例を多く挙げて講義40分、学生の課題朗読10分、学氏氏名を全員覚えて頻りに学生に質問し、眠くならない刺激を与える。
- ② 学生間の学力格差拡大に対しては、一人一人の特徴を把握して注意深く対応する。
- ③ 欠席した学生の様子を周囲の学生に聞いて放置しない。

これらは、おそらく「基礎セミナー」を担当する教員の誰もが実感するきわめて具体的かつ現実的な問題点である。「基礎セミナー」は、専攻の専攻教員が学生と密に接する最初の科目であり、学生を指導する上で必要かつきめ細かな情報を入手する重要な機会であることが明らかにされたと思われる。

本稿の筆者である荒井の報告では、試行錯誤の末、現在「基礎セミナー」では、様々なジャンルの「ドキュメンタリー映画」を学生が観て報告するという形をとっていることの二つ理由が説明された。第一の理由は、ドキュメンタリー映画は、社会的テーマの選択、インタビュー調査を含むフィールド調査、被調査者との関係づくりとモラル、調査結果のプレゼンテーションの方法などについて社会学専攻の学生が学ぶべき社会調査の方法と共通する方法論的課題をもっていることである。第二の理由は、現代社会に存在するさまざまな問題を、実際に体験することはできないが視覚を通じてできるだけ具体的に知ることによって社会学的認識に対するモチベーションを獲得すること、鄭先生も「基礎セミナー」の目標に挙げている「社会学的

想像力」を養うことである。

（２）社会・臨床心理学専攻の報告（古田雅明助教、八城薫准教授）

社会・臨床心理学専攻の報告は、まず「基礎セミナーⅠ・Ⅱ」の目標として、社会心理学及び臨床心理学における問題解決能力を高めること基礎づくりと規定し、①心理学への関心の掘り起こしと、②論理的思考力のトレーニングを掲げ、「基礎セミナーⅠ」は①に、「基礎セミナーⅡ」は②に重点を置いていると述べている。

次いで「基礎セミナーⅠ・Ⅱ」の特徴として、①「基礎セミナーⅠ」「基礎セミナーⅡ」のいずれも、3人の教員がチームで専攻の学生全員の教授にあたること、②これらの科目が専攻のカリキュラム全体といかなる関係があるか（新入生オリエンテーション、基礎セミナーⅠからⅡへ、基礎セミナーから卒論までの連続性）を意識しながら授業を行っている、という二つ特徴を挙げている。これらの特徴、特に①については、現在では他の専攻に対する社会・臨床心理学専攻の際立った特徴となっている。

第2の特徴の説明として、報告では、社会・臨床心理学のカリキュラム構造全体のなかで「基礎セミナーⅠ・Ⅱ」が占める位置が提示された。

「基礎セミナーⅠ」は、全体グループ小グループでの作業を交互に行いながら大学に対する適応を図り、なかで論理的思考を養う文章教室、自他を表現する自己表現を鍛えるアサーショントレーニング、共感性を涵養するカウンセリングロールプレイなどを内容とし、体験を通じてグループ形成や最低限の国語力をサポートすることを目的としているとのことであった。

いっぽう「基礎セミナーⅡ」では、実験の体験や心理学レポートの作成法の入門的指導を行っているが、配布資料の2011年度の15回分の「授業計画」を見てわかるように、より専門性に近づいた授業内容になっている。

社会・臨床心理学専攻の基礎セミナーで最も心がけている点は、学生には、毎回課題を出し教員は30人分のレポートを添削して返却するなど、少しずつ積み上げていくスモールステップ方式を採り、評価と注意事項を通じて学生と教員のあいだのフィードバックを重視していることも大きな特徴であると述べられた。研修会の参加者の大半は、社会・臨床心理学専攻が最もシステマティックな方法「基礎セミナー」を行っているという印象をもったのではないかと思われる。

（３）人間福祉学科の報告

人間福祉学科では、現在、7名の教員が各16～17名の学生を受け持ち、「社会福祉とは何か」に焦点を当て、人間福祉学科の初年次教育として、学生の福祉に対する興味・関心を高め、勉強に対する意欲を高めることを目的として「基礎セミナー」の授業を行っている。具体的な内容としては、①社会福祉とは何か、基本的な基本的な概念を把握する、②社会的福祉の視点で考えると何か、③社会福祉の援助とは何か（図書悪化を活用したテーマ別学習）、④社会福祉施設を知ろう（実践現場見学レポート）の4つの柱としている。

丹野眞紀子教授は、学部開設以来の14年間を回顧しながら、「...社会福祉士・介護福祉士法改正に伴い、福祉教育全体の見直しの中で行われ、基礎ゼミⅡを2年後期から1年後期に変更した。またこの変更に伴い、基礎ゼミⅠで行われていた、共通シラバスによる指導を基礎ゼミⅡでも試み始め、現在まで続いている」と、資格認定に関する法改正に伴って、「基礎ゼミ

ナー」の形も変化してきたことを明らかにした。

今後の課題としては、「基礎セミナーⅠ」については、テーマ別研究の実施方法やテーマの選定方法が、「基礎セミナーⅡ」については「基礎セミナーⅡ」との関連性についてさらに深く検討する必要があると指摘された。

その「基礎セミナーⅡ」については、嶋貫真人教授によってなされた。先に述べたように、1年次の後期に行われる「基礎セミナーⅡ」も、7名の教員が各16～17名の学生を受け持ち、2年次以降の福祉専門科目の学習に必要な基礎学力、すなわち「読む力」、「聴く力」、「話す力」、「書く力」、「考える力」の養成を目標として授業を行う。

報告は、次いでこれらの基礎学力が2年次以降の福祉専門科目の学習とどのように関連するかを述べて本講座が人間福祉学科のカリキュラム全体の中でどのように位置づけられるかを示し、この科目のを理由することの必要性を説明した。例えば「書く力」の涵養は、卒論の執筆や日常のレポートの作成だけでなく、本学科の学生にとっては相談援助現場実習（福祉現場実習：3年または4年）において、「実習日誌」の考察を書くさい求められる文章力の向上を目指している（詳細は配布資料を参照）。

次いで本講座の具体的内容について、15回の講座の流れに沿って報告された（同上）。

嶋貫教授の報告の中で、研修会参加者から最も関心をもって聴かれたのは、人間福祉学科において上記のような形で「基礎セミナーⅡ」を実践したことによる教育効果と今後の課題についての考察部分である。以下、配布資料と重複するが重要と思われるので特記する。

<人間福祉学科における「基礎セミナーⅠ・Ⅱ」の教育効果>

- ① 初回の合同授業後に提出させた感想文の内容と、講座の終盤にさしかかった時期に提出させるレポートやリアクション・ペーパーの内容を比較してみると、分析力や表現力の点において顕著な進歩が見られる場合が多い。
- ② グループ討議の機会に、「今まで話したことがなかった人」と知り合うことができる。本講座は学科の両専攻の学生の混成クラスなので、普段接点の少ない専攻間の学生同士にとって、この効果は特に大きい。
- ③ 2年次以降に大学で提出するレポートの書き方や、そのための資料の調べ方などに関して、一定程度の水準に到達することができる。

<本講座の今後の課題>

- ① 基礎セミナーⅡの担当者間での共通認識はある程度形成されてきた感はあるが、セミナーⅠの内容との間での有機的な関連づけまではできていない。
⇒この点については、学科会議などの場で議論を深めていく必要がある。
- ② 終盤のグループ研究において、強いリーダーシップをとれる学生と、その力に依存して「お客さん」化してしまう学生との格差が、徐々に広がっていく感がある。いかにして実質的な「全員参加型」の研究を維持していくかは、今後の課題。⇒この点については、セミナーⅠの担当者との情報交換を緊密に行いながら、セミナーⅡでのグループのメンバー構成を、個々のパーソナリティーに着目した編成とするという方法も、検討に値するかもしれない。

5. 報告に対する質疑応答およびコメント

各専攻からの報告が充実した内容であったので、逆に報告に対するコメントのための時間が短くなってしまったのが残念であるが、寄せられたコメントは、いずれも共通して非常に有益な報告であったという評価であった。なかでも介護福祉学専攻の川延宗之教授は自らが編者の一人である『プレステップ基礎ゼミ』（2011年、弘文堂）を紹介しつつ、その視点からもわが人間関係学部よる初年度教育科目としての「基礎セミナー」への取り組みが熱心かつ充実したものであるという評価をいただいた。他の教員にとってはこの分野の専門書である同書の存在を知ったことが研修会の意義の一つであったことは間違いないと思われる。

最後に、栗原副学長より、「人間関係学部がこれほど真剣に初年度教育に取り組んでいることを知り感銘を受けた。人間関係学部は、大妻女子大学のすべての学部のなかでも最も充実した初年度教育を実践しているのでないだろうか」と最大限の賛辞をいただき、これはこれからますます困難な状況のなかでFD活動を進めていくうえで大いなる激励の言葉であると理解させていただいた。

6. 今回のFD研修会に対して後日提出してもらったアンケートに対する回答の概要

【アンケート項目①】：学部FD研修会のテーマ「人間関係学部は初年次教育にどう取り組んでいるか―「基礎セミナー」を考える」について、懇談会での意見交換を踏まえて、ご意見、感想、思いをお聞かせ下さい。

- * 「基礎セミナー」についての他専攻のスタンスと実際の取り組みについての理解が進み、大変勉強になりました。また、学生さんの学力低下はどの専攻でも悩みの種となっていることが分ると同時に昨今の大学教育が学問の専門機関というよりもむしろ“社会人として育て送り出すための教育機関”にならざるを現状を、残念にも感じました。
- * テーマについては、今年はこのテーマでよかったと思っています。また発表者でもあったのですが、自分の場合は、社会的な問題関心をもつことへの個人の動機づけを重視しているのに対し、福祉の丹野先生、嶋貫先生、心理の古田先生・八城先生のお話からは、ディベート、バズセッション、KJ法などグループでの問題発見の方法の学習を重視していることが分かり、自分のやり方の足りない点を教えられました。
- * 今回の発表を通じて、まずは、社会・臨床心理学専攻で行われている基礎セミナーⅠとⅡをあらためて振り返ることができ、私達が何を目的にどのような方法で教育しているかが明確になりました。特に心理の中でも他の先生方が担当している基礎セミナーⅡの状況が良く分かり、セミナーⅠとⅡの連続性をさらに明確にしなくてはならないという課題が見つかりました。そして、他専攻のそれぞれ工夫に満ちたご発表を聞き、大変参考になりました。教員の個性をどのように活かしていくか、あるいは、専攻として教育すべきことを中心に標準化した教育を行うか、今後の学生像にあわせて柔軟に変えていく必要があるように感じました。心理は、かなり標準化に力点を置いています、そのため、どの教員が行っても違いが出ないというメリットにもデメ

リットにもなりうる特徴が学部の中でも色濃いものと分かりました。以上のように、学部全体の中での自分の専攻の位置付けを確認できたことも貴重でした。

- * それぞれの先生方がどのような工夫をして講義をされているのかについてうかがい知ることができ、とても有意義でした。講義の狙い、講義時に工夫、学生の反応など、それぞれ自分の実施している講義と比較しながら聴かせていただきました。

【アンケート項目②】：今年度の学部FD研修会の実施方法(時期・形式等)についてご意見をお聞かせ下さい。

- * 着任して初めての参加でしたが、時期・形式ともに良かったと感じております。
- * 小グループでの話し合いの方が良かったという意見も何人かの先生からお聞きしましたが、この研修会の成果を多くの教員が共有するという意味では、全員が同じ話を聞くということにもメリットがあると思いますので併用するのが良いと思います。またあくまで研修会であり、懇親会でも、ましてや儀式ではないので、研修(すなわちそこからなにかを学ぶ)ということができる形が望ましいと思います。この時期は専攻の行事もいろいろとあり(特に社会学専攻は次の週に卒業論文提出日でした)、スケジュール的にタイトでしたので、もう少し時期をずらした方が良かったと思いました。
- * 非常に適切だと思います。しばらく同一の実施方法を続けることで、12月の教授会の後はFD研修会と懇親会というスケジュールが学部浸透すると良いと思います。
- * 今年度と同様に金曜日の会議後が一番良いと思います。

【アンケート項目③】：(3)今後学部FD研修会で取り上げたいテーマ、学部FD活動の課題についてご意見をお聞かせ下さい。

- * いまのところ、特に思い浮かぶものはございません。今後ともどうぞよろしくお願いいたします。
- * FD委員会は、同じ問題を扱うにしても、学生の視点や学生のふるまいではなく、教員がどのような観念のもとにどのようにふるまうか(制度も含め)を論ずるべきであると思います。FD活動を本格的に行うなら、専任教員を置くか、何年かごとに順番で専任教員のなかからFD活動にのみ専念することのできる教員を出すなどすべきかだと思います。
- * 初動教育の最も初動段階にあたる新生オリエンテーションを取り上げて欲しいです。しばらくは初年度教育に集中してみるのはいかがでしょうか？初年度教育が終わったところで、コアカリキュラムとその教育効果といったテーマを数年続けるなど、1つ

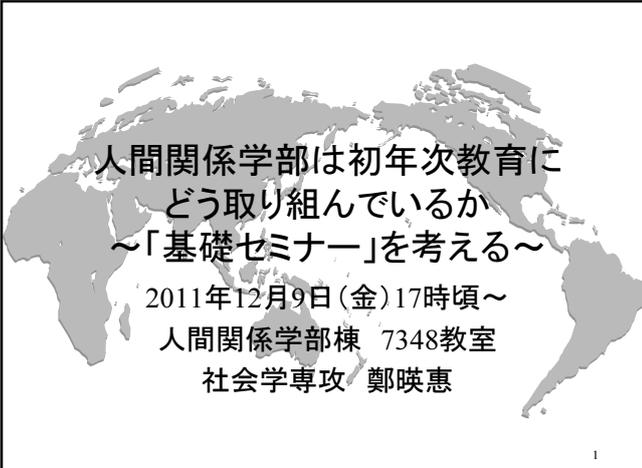
のテーマを数年単位で続けると実り多くなると感じました。

- * 学生サポート（特にメンタル不調や発達障害を抱えている学生）について他の女子大学での先進的な取り組みがあれば知りたいです。

7. 最後に

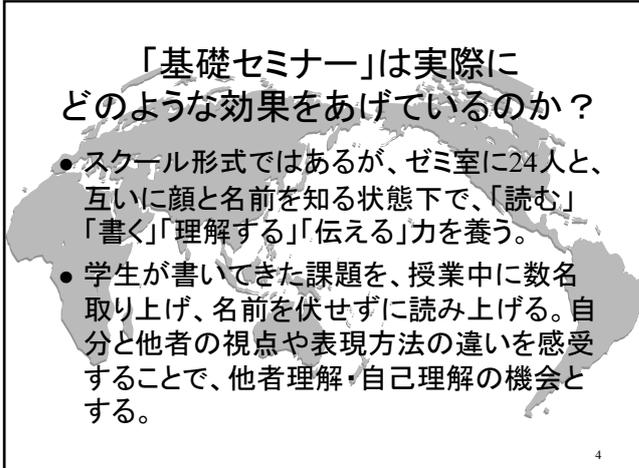
以上、2学科4専攻において「基礎セミナーⅠ・Ⅱ」という初年度教育科目が以下に実践されているかについての報告を要約してきたが、この要約と配布資料をあらためて並べて眺めると、実際には討論する時間はなかったにもかかわらず、FD委員会が設定した課題を巡って各専攻の報告者が討論あるいは対話をしているような内容の報告になっており、今回の研修会が実り多い会であったことをものがたっているように思われた。ここで討論された様々な視点が、本学部の初年度教育のさらなる改良と深化に行かされることを願ってやまない。

（文責 社会学専攻 荒井芳廣）



人間関係学部は初年次教育に
どう取り組んでいるか
～「基礎セミナー」を考える～
2011年12月9日(金)17時頃～
人間関係学部棟 7348教室
社会学専攻 鄭暎恵

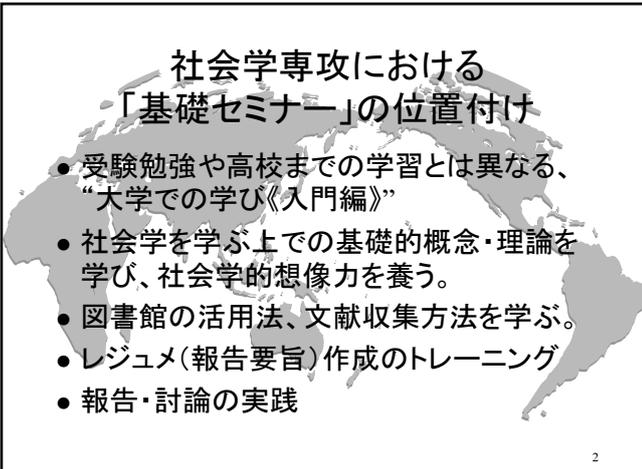
1



「基礎セミナー」は実際に
どのような効果をあげているのか？

- スクール形式ではあるが、ゼミ室に24人と、互いに顔と名前を知る状態下で、「読む」「書く」「理解する」「伝える」力を養う。
- 学生が書いてきた課題を、授業中に数名取り上げ、名前を伏せずに読み上げる。自分と他者の視点や表現方法の違いを感じ取ることで、他者理解・自己理解の機会とする。

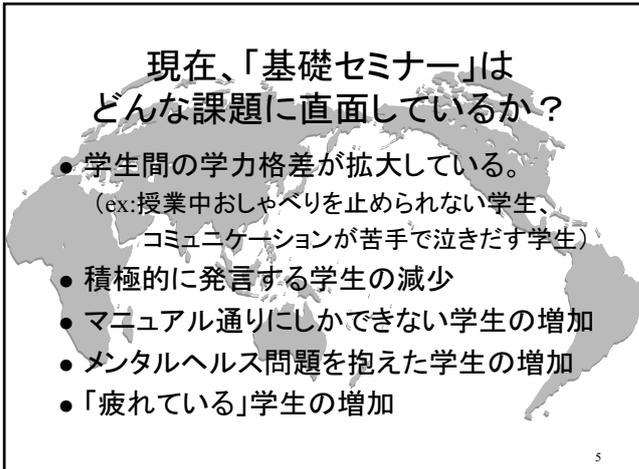
4



社会学専攻における
「基礎セミナー」の位置づけ

- 受験勉強や高校までの学習とは異なる、“大学での学び《入門編》”
- 社会学を学ぶ上での基礎的概念・理論を学び、社会的想像力を養う。
- 図書館の活用法、文献収集方法を学ぶ。
- レジюме(報告要旨)作成のトレーニング
- 報告・討論の実践

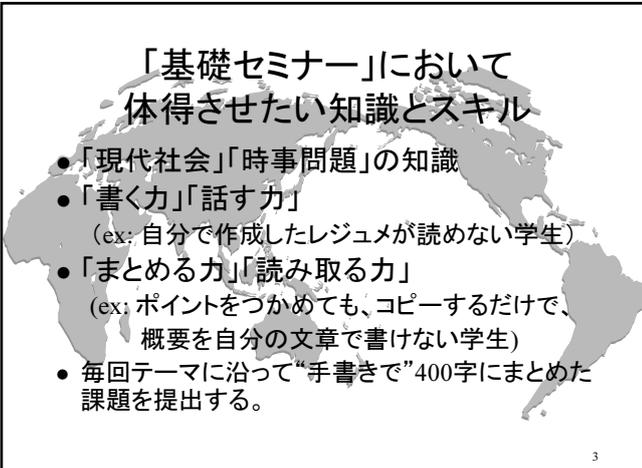
2



現在、「基礎セミナー」は
どんな課題に直面しているのか？

- 学生間の学力格差が拡大している。
(ex:授業中おしゃべりを止められない学生、コミュニケーションが苦手な学生)
- 積極的に発言する学生の減少
- マニュアル通りにしかできない学生の増加
- メンタルヘルス問題を抱えた学生の増加
- 「疲れている」学生の増加

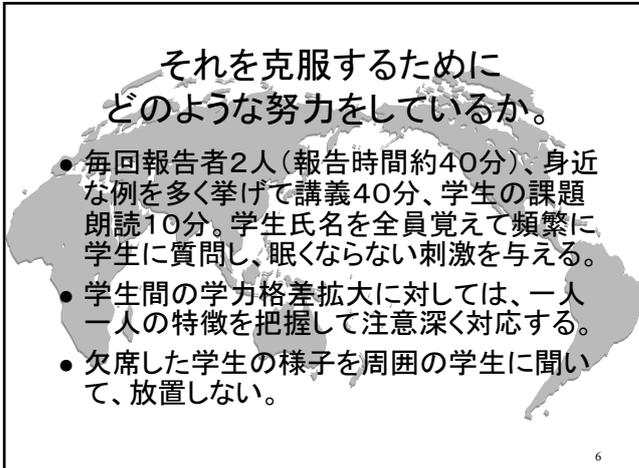
5



「基礎セミナー」において
体得させたい知識とスキル

- 「現代社会」「時事問題」の知識
- 「書く力」「話す力」
(ex:自分で作成したレジюмеが読めない学生)
- 「まとめる力」「読み取る力」
(ex:ポイントをつかめても、コピーするだけで、概要を自分の文章で書けない学生)
- 毎回テーマに沿って“手書きで”400字にまとめた課題を提出する。

3



それを克服するために
どのような努力をしているか。

- 毎回報告者2人(報告時間約40分)、身近な例を多く挙げて講義40分、学生の課題朗読10分。学生氏名を全員覚えて頻繁に学生に質問し、眠くならない刺激を与える。
- 学生間の学力格差拡大に対しては、一人一人の特徴を把握して注意深く対応する。
- 欠席した学生の様子を周囲の学生に聞いて、放置しない。

6

「基礎セミナー」は、私にとって 最もエネルギーを要する科目

- 2～4年生とは全く異なる1年生
- 「社会学とは何か」「社会学の面白さ」を伝えないが、就職率低下に(？)、「頑張る」以前に「大学に来る意味がわからなくなる」学生たち
- 「自分が何がしたいのかわからない」「疲れている」学生の好奇心を喚起することを、どう考えたらいいのか。
- 試行錯誤は今後も続く、、、だろう。

7

ご清聴ありがとうございました。

- 回覧資料：
「社会学基礎セミナーⅠ」シラバス
学生の作成したレジュメ
学生が提出した課題
- テキスト回覧：
長谷川公一・浜日出夫・藤村正之・町村敬志
『社会学』有斐閣、2007年

8

配布資料：2「社会学基礎セミナーⅠおよびⅡ」（荒井芳廣担当）

「社会学基礎セミナーⅠおよびⅡ」（荒井芳廣担当）

授業内容

受講者各自に様々なテーマのドキュメンタリー映画を見ることを課題として与え、1時限に2名ずつ、その映画の監督、構成とテーマについての要約、最も興味をもったテーマについての意見と感想を内容とするレジュメを作成・配布させ、口頭で20分間発表してもらおう。その他の受講生は、残り25分間でフリートーキングを行い、授業の最後にその日の発表に対する評価と感想を記したリアクションペーパーを提出してもらおう。

達成目標

- (1) 口頭発表の仕方、レジュメの作成、そのための図書館やインターネットの利用の仕方、フリートーキングでの意見の述べ方など、上級学年の授業で必要となるスキルを学んでもらう。
- (2) 現代社会で起きている社会現象と社会問題を、事実を伝える映像を通して具体的に認識してもらおう。

「社会学基礎セミナーⅠ」（前期）

	タイトル	テーマ
1	極北の怪異	ドキュメンタリー映画の古典、民族誌映画
2	アラン	ドキュメンタリー映画の古典、民族誌映画
3	民族の祭典	ドキュメンタリー映画の古典、プロパガンダ
4	美の祭典	ドキュメンタリー映画の古典、プロパガンダ
5	生きててよかった	ドキュメンタリー映画の古典、原爆
6	日本の悲劇	ドキュメンタリー映画の古典、戦争
7	ブルミエール～私たちの出産～	出産の文化的比較
8	極私的エロス 恋歌 1974	検閲なしの出産シーン
9	地下の民	ボリビアの映画集団、アンデスの先住民
10	鳥の歌	ボリビアの映画集団、知識人と先住民
11	未来を写した子供たち	インド、貧困、子供
12	はるかなる記録者への道～姫田忠義	映像民俗学
13	ブエナビスタ・ソシアルクラブ	キューバ、音楽ドキュメンタリー
14	フィデロ・カストロ／キューバ革命	キューバ、革命、ゲリラ
15	町の政治～勉強するお母さん	岩波映画、コミュニティ活動
16	教室の子どもたち～学習指導への道	岩波映画、子供、教育
17	まひるのほし	障害者、アート
18	ミリキタニの猫	日系アメリカ人の歴史、アート、ホームレス
19	ライフ・オブ・ウォーホル	芸術家のドキュメンタリー、現代美術
20	メイプルソープとコレクター	芸術家のドキュメンタリー、写真家
21	在りし日のカブール博物館	アフガニスタン、文化財保護
22	柳川掘割物語	地域文化、文化財保護、高畑勲
23	水没の前に	中国、ダム建設と強制移住
24	阿賀に生きる	公害、ドキュメンタリーの新傾向

「社会学基礎セミナーⅡ」（後期）

1	いのちの食べ方	現代の食糧生産の現状
2	パームオイル：近くて遠い油の話	グローバリゼーション、南北格差
3	バナナ植民地フィリピン	グローバリゼーション、南北格差、食糧、鶴見良行
4	エビの履歴書	グローバリゼーション、南北格差、食糧、
5	セントラルステーション	社会派劇映画、ストリートチルドレン、臓器売買
6	路上の子供たち：ブラジル・ストリートチルドレンの戦い	ストリートチルドレン、ギャング、ブラジル
7	スラムダンク \$ ミリオネア	社会派劇映画、スラム、子供、貧困
8	闇のなかの子供たち	社会派劇映画、人身売買、児童売春
9	ゆきゆきて神軍	戦争、人肉事件、社会調査の限界はどこまでか？
10	さよなら CP	障害者の日常生活、共生社会
11	アトミック・カフェ	原子爆弾、アメリカからの視点、プロパガンダ
12	妻の貌	原爆症、パーソナル・ドキュメンタリー
13	ガウディ	スペイン 建築家のドキュメンタリー
14	オスカー・ニーマイヤー	ブラジル 建築家のドキュメンタリー、モダニズム
15	ウッドストック：愛と平和と音楽の3日間	音楽ドキュメンタリー、カウンターカルチャー
16	パティ・スミス：ドリーム・オブ・ライフ	音楽家のドキュメンタリー、パンク・ロック
17	ボーリング・フォー・コロンバイン	現代ドキュメンタリーの古典、銃社会
18	華氏 911 度	現代ドキュメンタリーの古典、ブッシュ、9・11
19	チェゲバラ	ラテンアメリカの政治、ゲリラ
20	モーターサイクル・ダイアリーズ	社会派劇映画、革命家（ゲバラ）の青春時代
21	マラドーナ	スポーツマンのドキュメンタリー、サッカー
22	ペレ in 炎のストライカー	スポーツマンのドキュメンタリー、サッカー
23	会田誠	芸術家のドキュメンタリー、現代日本美術
24	阿賀に生きる	公害、ドキュメンタリーの新傾向

参考書：

佐藤真『ドキュメンタリー映画の地平・下』凱風社、2001年

評価の方法及び基準

報告者は口頭による報告とレジュメ、報告者以外は報告に関するコメントおよび感想のレポートの提出。全回出席が条件。

授業を振り返って

- ① 1人あたりの時間が短くて、十分な議論ができない。 ②それでも社会現象に対して広い視野をもつという目的は、半期で24本の映画について知ることによってある程度達成できていると思われる。 ③ 映画の選定にあたってDVD化しているものだけに限定されるので、最良のプログラムとは言えない。 ④もう一度見たい、自分の報告した映画でないものも見たいという学生の要望に応えるドキュメンタリー映画のアーカイブを図書館につくってほしい。

**社会・臨床心理学専攻
基礎セミナー I・II**

古田雅明・八城薫

1

基礎セミナー I・II

- 社会心理学+臨床心理学
⇒問題解決力を高める基礎づくり

- 1 心理学への関心の掘り起こし
セミナー I II
- 2 論理的思考力のトレーニング
セミナー I II

4

社会・臨床心理学専攻の特徴

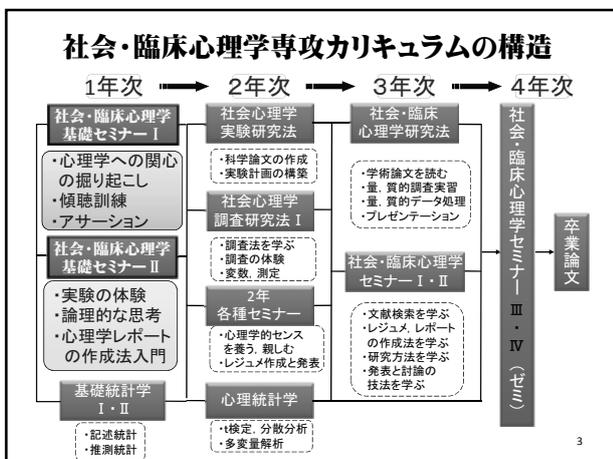
- チームティーチング
⇒教員3名体制
- 連続性の意識
⇒ 新入生オリエンテーションから
⇒ 基礎セミナー I から II へ
⇒ 基礎セミナーから卒業論まで

2

基礎セミナー I の

- 大学
⇒グループワーク(全員)
- 論理的思考
⇒文章教室(福島先生)
- 自他を する自 表
⇒アサーショントレーニング(加藤先生)
- 性
⇒カウンセリングロールプレイ(古田)

5



	Aグループ	Bグループ	Cグループ	
1回		出会いのワーク		オリエンテーションとの連続性
2回		文章教室		
3回		絵本のワーク		
4回				
5回	文章教室	アサーショントレーニング	カウンセリングロールプレイ	
6回				
7回	ブラインドウォーク			
8回				
9回	アサーショントレーニング	カウンセリングロールプレイ	文章教室	
10回				
11回	無言で感じるワーク			
12回				
13回	カウンセリングロールプレイ	文章教室	アサーショントレーニング	
14回				
15回	まとめ			

6

絵本のワーク(加藤先生)

- 好きな絵本を1人1冊持参
- 5人グループでお互いに読み聞かせ
- 他のグループに紹介したい1冊を選ぶ
- ポップカードをグループで作成

7

今週提出されたレポートについて

- 4月20日提出のレポートを中心に
「である体で」と指定しなかったわりには、よく書けている人が多かった。

ただし、以下の問題点は散見された。

- A4の用紙でなかった人が10名程度。
- 段落の始めを1文字下げていない人が殆ど。
- 記述が極端に少ない人がいた。

10

文章教室(福島先生)

- 論理的に書く・話す・批判できることが大切
- まず論理的に書けるようにしよう!
- 論理的文章⇒まず形式を整えること
- そして、「他者の視点」に立つこと

毎週レポート課題+毎回フィードバック

8

アサーショントレーニング & カウンセリングロールプレイ

- アサーション⇒自分/主張
- カウンセリング⇒他者/傾聴
- 臨床心理学に触れる

11

形式とは?

1. フォーマットを守ること。
2. 「である」体で書くこと。

「である」体...

○○だ。○○である。○○と思う。

基本からスモールステップで積み上げる

9

セミナー I のまとめ

- チームティーチング
- 全体グループと小グループを交互
- 体験学習が中心
- 体験させたら、必ず書かせる

⇒グループ形成のサポート

⇒最低限の国語力をサポート

12

配布資料4：「社会・臨床心理学専攻基礎セミナーⅠ・Ⅱ」八城薫

2011(H23)年度
人間関係学部FD研修会用



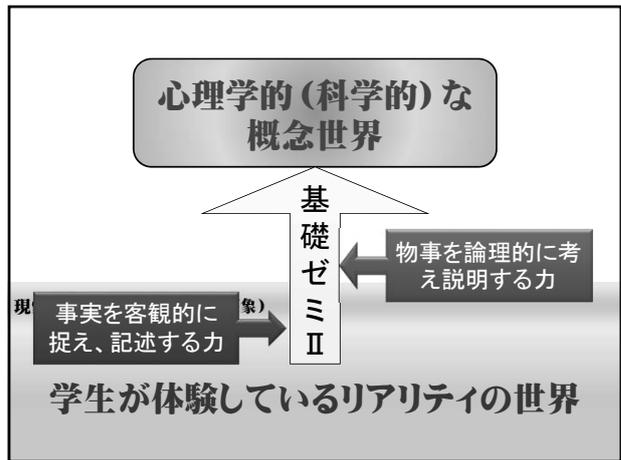
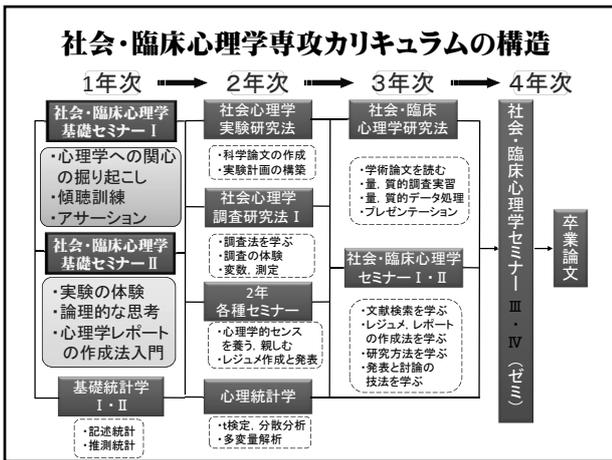
社会・臨床心理学心理学 基礎セミナーⅡ (後期2単位)



授業の体制 (社会心理系教員3名が担当)

授業日	時間	担当教員	テーマ	主 要 講 義 内 容	講 義 内 容
1	9/20	2時間目	ガイダンス 科学的思考とは	基礎セミナーIとIIの繋がり	「第一印象を捉えるために見つけていること」再考再読で機知(個人課題)
2	9/27	2時間目	質的データと量的データ KJ法実習①	KJ法解説/実習-ラウンド目	アンケートの活用 作成させておく(次回授業までに準備がチャット)(個人課題)
3	10/11	2時間目	KJ法実習②	発表会/回解の再検討	本題への応用(経験値)。各若手発表(個人課題)
4	10/18	2時間目	実験	KJ法(中心特性)/実験(人物情報の提示実習)	作成過程、2回目の完成、KJ法で分かったこと(経験10分)以上(個人課題)
5	10/25	2時間目	フローチャート	手続表をフローチャートで示す(独立変数、従属変数、操作変数、結果変数、因果関係)	独立変数・従属変数のテスト(フローチャート)提示(個人課題)
6	11/1	2時間目	仮説	実証的研究、仮説	既成研究の批判について、独立変数・従属変数を明らかにし、フローチャートにまとめる(個人課題)
7	11/8	2時間目	心理学のレポート	心理学レポートを見ながら、心理学の実験レポートを構築する	
8	11/15	2時間目	レポートとは/問題の作成	レポートの書き方(意見と事実)	問題の作成(個人課題) 提出準備
9	11/22	2時間目	KJレポートFB/方法の作成	実験方法の書き方	実験の作成(個人課題) 提出準備
10	11/29	2時間目	結果の作成	結果の書き方	結果の作成(個人課題) 提出準備
11	12/6	2時間目	事前打ち合わせ/レポート添削/試験問題を考える		学会発表のための準備
12	12/13	2時間目	方法での課題/報告書の書き方	報告書の書き方	報告書の作成(個人課題)
13	12/20	2時間目	文章/採点評価アンケート	引用文の書き方	本題作成(個人課題)
14	1/7	2時間目	結果/考評FB/予備		
15	1/7	2時間目	試験	試験	KJ法、独立変数・従属変数、レポートの書き方(最終発表、制作)

受講生：1年生+α(110名)
各班6名程度



授業日	内容	単元/回	テーマ	授業内容	課題
1	9/20	2時間目	ガイダンス	基礎ゼミIとIIの繋がり	「第一印象を捉えるために見つけていること」再考再読で機知(個人課題)
2	9/27	2時間目	KJ法	質的データと量的データ KJ法実習①	アンケートの活用 作成させておく(次回授業までに準備がチャット)(個人課題)
3	10/11	2時間目	KJ法実習②	発表会/回解の再検討	本題への応用(経験値)。各若手発表(個人課題)
4	10/18	2時間目	実験	KJ法(中心特性)/実験(人物情報の提示実習)	作成過程、2回目の完成、KJ法で分かったこと(経験10分)以上(個人課題)
5	10/25	2時間目	フローチャート	手続表をフローチャートで示す(独立変数、従属変数、操作変数、結果変数、因果関係)	独立変数・従属変数のテスト(フローチャート)提示(個人課題)
6	11/1	2時間目	仮説	実証的研究、仮説	既成研究の批判について、独立変数・従属変数を明らかにし、フローチャートにまとめる(個人課題)
7	11/8	2時間目	心理学のレポート	心理学レポートを見ながら、心理学の実験レポートを構築する	
8	11/15	2時間目	レポートとは/問題の作成	レポートの書き方(意見と事実)	問題の作成(個人課題) 提出準備
9	11/22	2時間目	KJレポートFB/方法の作成	実験方法の書き方	実験の作成(個人課題) 提出準備
10	11/29	2時間目	結果の作成	結果の書き方	結果の作成(個人課題) 提出準備
11	12/6	2時間目	事前打ち合わせ/レポート添削/試験問題を考える		学会発表のための準備
12	12/13	2時間目	方法での課題/報告書の書き方	報告書の書き方	報告書の作成(個人課題)
13	12/20	2時間目	文章/採点評価アンケート	引用文の書き方	本題作成(個人課題)
14	1/7	2時間目	結果/考評FB/予備		
15	1/7	2時間目	試験	試験	KJ法、独立変数・従属変数、レポートの書き方(最終発表、制作)

2時間目以降は10分休憩

今年度までのテーマ

KJ法

第一印象によくするにはどのような方法がよいのか?

実験体験およびレポート作成

デモ Asch(1956)の印象形成理論

人物情報の提示順序 → 印象

中心特性情報の提示 → 印象

昨年度までのテーマ

KJ法

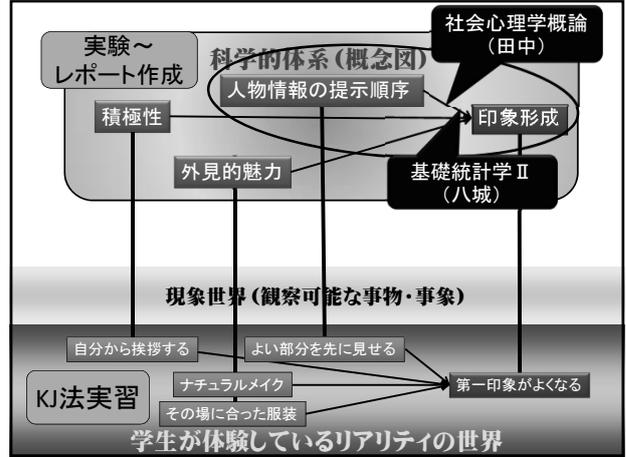
人に嘘っぽさを感じるのはどのような時か?

実験体験およびレポート作成

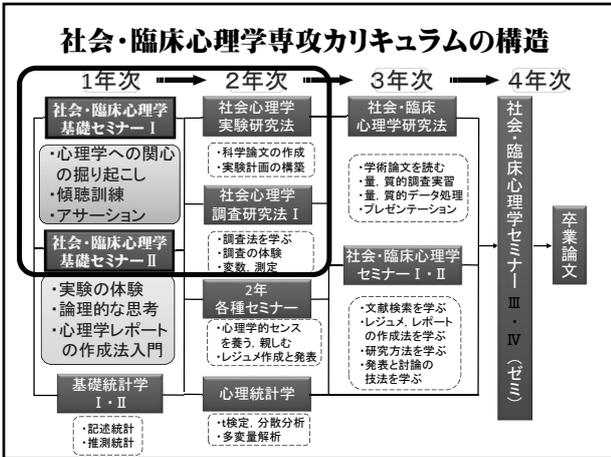
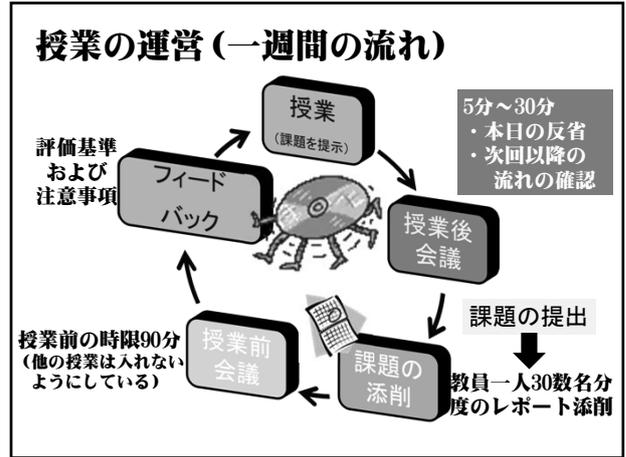
McCornack(1992)の会話公準

言語情報の曖昧さ → 欺瞞的の認知

グループディスカッション		授業内容	評価
事実を客観的かつ正確に捉え、整理し、記述する技術 情報を分かりやすく人に伝える技術(プレゼンテーション)			
4	10/18	実習	2時間目 実験体験
70分		実験をフロッピーディスクに保存(論文発表、授業発表、研究会の報告、自己発表)	論文発表(個人発表)
15分		1/17	実験
2時間目		実験	

授業日	内容	事前学習	テーマ	授業内容	評価
9/20	導入	2時間目	ガイダンス 社会科学とは	基礎ゼミ1と2の繋がりを	「真・授業を体験する」を目的とする(個人発表)
9/27	KJ法	2時間目	質的データと量的データ KJ法実習①	KJ法解説/実習-ラウンド目	→9/27に授業内容を消化させておく(次回授業までに準備が済むこと)(個人発表)
10/11	KJ法実習②	2時間目	KJ法実習②	発表会/回廊の再検討	→10/11に授業内容を消化させておく(次回授業までに準備が済むこと)(個人発表)
10/18	実験	2時間目	KJ法実習③ KJ法実習④	実験①(中心特性)/実験②(人物情報の提示順序)	作成過程、2回目の発表、KJ法で良かったこと(個人発表)
心理学の実験体験		心理学の実験体験		実験③(フロッピーディスクに保存)	論文発表(個人発表)
心理学レポート作成の訓練		心理学レポート作成の訓練		実験④(フロッピーディスクに保存)	論文発表(個人発表)
11/22	実験レポート作成	2時間目	KJレポートFB/方法の森作成	実験方法の書き方	論文発表(個人発表)
11/29	実験レポート作成	2時間目	結果の書かせ方	結果の書き方	論文発表(個人発表)
12/6	実験レポート作成	2時間目	前提(レポート添削/試験問題等考え)	前提の書き方	論文発表(個人発表)
12/13	実験レポート作成	2時間目	方法までの議論/考察の書かせ方	考察の書き方	論文発表(個人発表)
12/20	実験レポート作成	2時間目	文章/相関評価アンケート	引用文章の書き方	論文発表(個人発表)
1/0	実験レポート作成	2時間目	結果/考察FB/予備	結果の書き方	論文発表(個人発表)
1/17	実験レポート作成	2時間目	試験	試験	論文発表(個人発表)



本専攻の基礎ゼミⅠ・Ⅱの特徴

- ・グループティーチング
- ・グループワーク/グループディスカッション
- ・積み上げ式(スモールステップで毎回課題)
- ・ほめ育てで自信をつけさせる

New!



授業日	内容	事前打合	テーマ	授業内容	課題
1	9/20	2時限目	ガイダンス 科学的思考とは	基礎ゼミⅠとⅡの繋がりが	「第一印象を良くするために気をつけていること」所定用紙で提出(個人課題)
2	9/27	2時限目	質的データと量的データ KJ法実習①	KJ法解説／実習－ラウンド目	－ラウンドKJ図解を完成させておく(次回授業までに教員がチェック)(班課題)
3	10/11	2時限目	KJ法実習②	発表会／図解の再検討	A3版KJ図解提出(班課題)、発表報告書提出(個人課題)
4	10/18	2時限目	KJ法トップ3発表、フィードバック 実験体験	実験1(中心特性)／実験2(人物情報の提示順序)	作成過程、2回目の工夫、KJ法で分かったこと(結論)をまとめ提出(個人課題)
5	10/25	2時限目	手続きをフローチャートで示す (独立変数、従属変数、因果関係)	実験をフローチャートで示す(独立変数、従属変数、剰余変数の統制、因果関係)	独立変数と従属変数のテスト フローチャート提出(個人課題)
6	11/1	2時限目	実証的研究、仮説	実証的研究について 仮説について	『初頭効果』の実験について、独立変数と従属変数を明らかにし、フローチャートにまとめ提出(個人課題)
7	11/8	2時限目	心理学のレポート	模擬レポートを見ながら、心理学の実験レポートを概観する	
8	11/15	2時限目	レポートとは／問題の章作成	レポートの書き方(意見と事実)	問題の章作成(個人課題)提出準備
9	11/22	2時限目	KJレポートFB／方法の章作成	実験方法の書き方	表紙から問題、方法までを提出(個人課題)
10	11/29	2時限目	結果の章作成	結果の書き方	結果の章作成(個人課題)提出準備
11	12/6	事前打ち合わせ無	休講(レポート添削・試験問題を考え ておく)	学友会総会のため休講	
12	12/13	2時限目	方法までの課題FB／考察の章	考察の書き方	結果と考察を提出(個人課題)
13	12/20	2時限目	文献／授業評価アンケート	引用文献の書き方	文献作成(最終レポート準備)
14	1/10	2時限目	結果・考察FB／予備		
15	1/17	2時限目	試験	試験	KJ法、独立変数・従属変数、レポートの書き方(事実と意見、お作法)
2回遅刻で1回欠席				最終レポート：1/20事務提出	

1 本講座の位置づけ

- (1) 履修年次は 1 年次の後期。
- (2) 2 年次以降の福祉専門科目の学習に必要な基礎学力の養成。とりわけ以下の項目について、その向上を重視している。
 - ・『読む力』: 社会福祉学セミナー (3・4 年) の授業や卒論執筆などの際に必要な、長文の資料を読解する力を養う。
 - ・『聴く力、話す力』: 相談援助演習などの授業でのグループ討議において必要となる、他人の意見に耳を傾けそれに対応した自分の意見を述べる力を養う
 - ・『書く力』: 卒論の執筆や日常のレポートの作成だけでなく、本学科の学生にとっては相談援助現場実習 (福祉現場実習: 3 年または 4 年) において、「実習日誌」の考察を書く力が求められる。そのための文章力の向上を目指す。
 - ・『考える力』: 大学で学習するあらゆる科目において (そして今後の社会生活のあらゆる場面において)、「この事柄の背景にある問題は何か」、「その解決のためには何が必要なのか」といった、自分の頭で考える力が重要である。そのような思考力の向上を目指す。

2 本講座の具体的な内容

- (1) 7 名の教員が各 16~17 名の学生を受け持ち、授業を行う。
- (2) 講座の全体の流れは、以下のとおり。
 - ・初回: 合同授業 (ガイダンス、講座の趣旨説明、20 分程度の視覚教材を見せて、感想文を書かせる)
 - ・第 2~14 回: 各教員のクラスに分かれた授業
 - ・最終回: 合同授業 (各クラスから代表グループ 1 つを選定し、そのグループの研究成果を全員の前で発表してもらう)
- (3) 第 2~14 回の内容

具体的な実施方法は教員ごとに多少違いがあるものの、全員が共通して行っているのは、上記 1 で述べた本講座のねらいを、必ず授業内容として盛り込むという点である。具体的な実践例としては、以下のようなものがある。

 - ・教師が提示した教材 (福祉に関する問題を扱った図書、新聞記事の切り抜き etc.) を全員で読んで、意見を交換し合う。⇒**読む力、話す力**
 - ・授業の最後に、その日の授業内容に関する「考察」をリアクション・ペーパーの形で提出させる。教師が添削して、後日返却する。⇒**考える力、書く力**
 - ・教師が 10 分程度の模擬授業を行い、学生にその場でノートテイクさせる。良い例を全員の前で紹介する。⇒**聴く力、書く力**

- ・新聞の社説など、一定の長さの文章を配布して、その場で内容の要約を書かせる。⇒**読む力、書く力**
- ・1つのクラスをさらに3～4名程度の小グループに分けて、KJ法などを用いたグループ討議をさせ、その成果を皆の前で発表させる。⇒**聴く力、考える力、話す力**
- ・3～4名程度の小グループごとに自由にテーマを決めて、自由研究をさせる（3～4回程度の授業時間を使って、図書館などを使って資料を探し、最終回にレジュメを配布しながらクラス内発表をさせる）。⇒**考える力、調べる力、書く力、話す力**

3 本講座の効果

- (1) 初回の合同授業後に提出させた感想文の内容と、講座の終盤にさしかかった時期に提出させるレポートやリアクション・ペーパーの内容を比較してみると、分析力や表現力の点において顕著な進歩が見られる場合が多い。
- (2) グループ討議の機会に、「今まで話したことがなかった人」と知り合うことができる。本講座は学科の両専攻の学生の混成クラスなので、普段接点の少ない専攻間の学生同士にとって、この効果は特に大きい。
- (3) 2年次以降に大学で提出するレポートの書き方や、そのための資料の調べ方などに関して、一定程度の水準に到達することができる。

4 本講座の今後の課題

- (1) 基礎セミナーⅡの担当者間での共通認識はある程度形成されてきた感はあるが、セミナーⅠの内容との間での有機的な関連づけまではできていない。
⇒この点については、学科会議などの場で議論を深めていく必要がある。
- (2) 終盤のグループ研究において、強いリーダーシップをとれる学生と、その力に依存して「お客さん」化してしまう学生との格差が、徐々に広がっていく感がある。いかにして実質的な「全員参加型」の研究を維持していくかは、今後の課題。
⇒この点については、セミナーⅠの担当者との情報交換を緊密に行いながら、セミナーⅡでのグループのメンバー構成を、個々のパーソナリティに着目した編成とするという方法も、検討に値するかもしれない。

1 基礎セミナー I・II の主な流れ

	1999～2002（1期）		2003・2004（2期）		2005～2008（3期）		2009～現在（4期）	
	配当年次	担当者	配当年次	担当者	配当年次	担当者	配当年次	担当者
基礎ゼミ I	1 年前期	I・II が 同じ教員	1 年前期	数名担当 者加わる	1 年前期	学科全教 員担当	1 年前期	学科全教 員担当
基礎ゼミ II	2 年後期		2 年後期		2 年後期		1 年後期	

① 1 期は、開学から 4 年間であるが、基礎ゼミ I・II を同一担当者が受け持っている

基礎ゼミ I の授業の目的は、これから社会福祉を学ぶにあたり「社会福祉とは何か」に焦点をあて、その目的、理念、視点、権利、成立の史的背景などを理解することを共通項目としておき、具体的授業進行については、それぞれの教員に任されていた。

基礎ゼミ II は、3 年社会福祉学セミナー I を学ぶための基礎学力を身に着けることを目的に社会福祉研究に関する文献考察を行い、長文のレポートを作成するトレーニングを目的とすることを共通項目として具体的授業進行については、それぞれの教員に任されていた。

② 2 期は、授業担当者が少し増えてきた時期である。この時期の授業内容は、1 期をそのまま活用。

③ 3 期から学科の全教員が基礎ゼミ I もしくは基礎ゼミ II のどちらかを担当するようになった。II の授業内容に変更はないが、基礎ゼミ I に関しては、授業内容の統一化を目指す授業プログラムを始めるようになった。

④ 4 期は、基礎ゼミ II の配当年次を変更した。これは、社会福祉士・介護福祉士法改正に伴い、福祉教育の全体的見直しの中で行われ、基礎ゼミ II を 2 年後期から 1 年後期に変更した。またこの変更に伴い、基礎ゼミ I で行われていた、共通シラバスによる指導を基礎ゼミ II でも試み始め、現在まで続いている。

2 基礎セミナー I の具体的な内容

(1) 7 名の教員が各 16～17 名の学生を受け持ち、授業を行う。

(2) 授業の目的

「社会福祉とは何か」に焦点を当て、人間福祉学科の初年次教育として、学生の福祉に対する興味・関心を高め、勉強に対する意欲を高めることを目的としている。

(3) 授業内容

授業内容は、以下の 4 項目を初年次教育の柱として、学生の学習意欲を高めるよう工夫した。

① 社会福祉とは何か、基本的な概念を把握する

初年次教育として、社会福祉の多様性及び、理念、視点を理解することを目標に担当教員の得意分野のトピックを扱い学生の**社会福祉への興味関心を深める**。

② 社会福祉の視点で考えると何か

利用者理解を深めることを目的に、社会的弱者である利用者の生活困難性を自ら体験する中で、**当事者理解深める**。また、その体験を記述することを通して「考える力」「話す力」「書く力」を養うことを目標とする。

③ 社会福祉の援助とは何か（テーマ別学習）

図書館を活用する方法を学び、文献検索しながら、テーマに合わせて「考える力」「話す力」「書く力」を養うことを目標とする。

④ 社会福祉施設を知ろう（施設見学）

さまざまな福祉施設を見学することを通し、**社会福祉実践現場への理解を深める**とともに、それをレポートにまとめることで、「聴く力」「考える力」「書く力」を養うことを目標とする。

3 本講座の経過

基礎セミナーⅠの授業内容は、7年間実践し検討しながら現在の形となった。その授業内容を振り返る。(3期から4期における授業内容の変化)

①2005・2006年度

「福祉の基本的な概念を把握する」・・・①福祉におけるコミュニケーション、②社会福祉の仕事とは何か、③福祉と医療制度、④福祉と施設

「社会福祉施設を知る」・・・学生の自主的な施設見学中心。

②2007・2008年度

「福祉の基本的な概念を把握する」の内容を一部変更・・・①福祉におけるコミュニケーション、②福祉の仕事、介護の仕事、③医療と福祉、スポーツと福祉、④福祉と施設

「福祉の視点で考えるとは何か」・・・①視覚障害者体験、②車椅子体験、③高齢者体験

「社会福祉の援助とは何か」・・・①図書館ツアー、(他は各教員に任される)

「社会福祉施設を知る」・・・教員引率の施設見学及び学生の自主的な施設見学

③2009～2010年

「社会福祉施設を知る」を変更・・・教員引率の施設見学及びハンセン病資料館を紹介

④2011年度

「社会福祉の援助とは何か(テーマ別学習)」を変更・・・3・11を受け、《震災と福祉》というテーマを決め、各ゼミでディスカッション及び報告書作成、発表を行う。

「社会福祉施設を知る」を変更・・・教員引率の施設見学か、大学が紹介する施設を学生が選び、見学レポートを作成する。

4 本講座の評価

(1)福祉の基本的な概念を把握する・・・学生のリアクションペーパーから、入学間もない時期に、さまざまな分野の福祉の話を聴くことで、今後の学習意欲や興味を引だすことができたと評価できる。

(2)福祉の視点で考えるとは何か・・・初めて体験する学生も多く、今までと違う視点でものを見る重要性や、対象者の置かれている状況について多くの気づきが体験後の話し合いや記述に書かれている。また、以前に体験したことのある学生でも再体験することで、前回とは違った気付きの記述があり、社会福祉を学ぶ学生にとって、初年次教育として必要な体験学習であると評価できる。

(3)テーマ別学習・・・今年度、初めて共通テーマでの学習となった。視聴覚教材もあり、学生にとっては身近な問題として考えられたようである。また、事前に図書館ツアーを行っていたため、図書館を活用して調べており、基礎ゼミⅡの学習にもつなげられると考えている。

(4)施設見学・・・今年度から、すべて教員側で提供する施設での実施となった。それぞれの施設は、福祉実習で配属されない施設でもあり、学生のレポートを読むと、特に女子少年院とハンセン病資料館に訪問した学生は差別や人権について考えるきっかけとなっており、教育効果は高いと考える。

5 本講座の今後の課題

2005年から7年間にわたり、基礎セミナーⅠの担当者間で検討してきた結果、初年次教育としての基礎セミナーⅠの在り方はほぼまとまってきたと感じている。しかし、テーマ別研究の実施方法や、テーマの選定方法については、今後更に検討する必要があるであろう。

また、基礎ゼミⅠの授業内容は、実践の中で体験させることを主眼とするものが多いため、「書く力」「考える力」「聴く力」「話す力」に関しては、基礎ゼミⅡにつなげるための土台作りと考えている。これからは、基礎ゼミⅡとの関連性をどのよう深めていくかを考えていきたい。

Ⅷ 人間関係学部FD活動の課題

これまでの各章において、平成23年度のFD活動を検証してきた。それを踏まえて以下には平成24年度FD活動の課題をいくつかあげてみたい。

1. 授業アンケートの改善

平成23年度、前期と後期に授業アンケートを行った。全学共通のフォーマットで行う形式も定着している。授業の改善に有効活用されていることは、本報告書に示されたとおりであるが、膨大な数のアンケートを短期間にこなすことは、学生の負担となっているだけでなく、アンケートの実施期間が前期後期とも学期末に重なるために、教員の授業計画を圧迫しているという不満を耳にすることも多い。また講義科目と授業科目が同一のフォーマットで行われていることは、現行アンケートの明らかな欠陥といえる。授業アンケートは本学部FD活動のなかに定着し、授業改善に多大の効果を及ぼしていることは高く評価しうるとしても、いくつかの改善点が残されていることも否定できないのである。

本年度末には、家政学部FD委員会から、新大学評価システムで、「教育成果」が加わったことを受けて、「教育成果」の達成度合を客観的に測定しうる質問項目を盛り込むために、アンケート内容を改変する提案がなされた。この提案は大いに理のあるものであり、今後全学的な規模で議論されるべき課題であると、われわれも考えている。平成24年度中に全学的に授業アンケートの変更が検討される際には、本学部FD委員会も積極的に討議に加わり、本学部教員の意見を徴しながら、改善のための提案を行っていきたいと考えている。

2. 採点基準・成績評価の統一化

わが国の大学も厳しい国際間競争にさらされる時代を迎えている。大学卒業者の実力も、国内だけではなく、国際的な基準で測られる時代を迎えようとしている。学士を名乗るに足る、十分な学力をもつ学生のみ卒業を認めるのでなければ、日本の大学は熾烈な国際間競争から取り残されてしまう。形式的に単位をそろえれば卒業できるという安易な姿勢を取り続けることは、もはや許されない。日本の有力大学のなかにもたとえ卒業単位を充足しても、一定のGPAに到達していなければ、卒業を認めない方向性を打ち出しているところもある。

わが人間関係学部においても、卒業認定に対して厳しい姿勢で臨むことが迫られている。しかし問題も残る。従来のように、単位の認定が教員の自由裁量に大幅に委ねられているまま卒業認定が厳格化されれば大きな問題が生じることが予測される。評価の甘い教員の科目を多く履修した学生は卒業でき、そうでない学生は留年の憂き目を見るという不公平が生じかねないからである。採点基準・成績評価の統一化が、卒業判定の厳格化の前提条件である。

しかしながら採点基準・成績評価の統一化といってもことは単純ではない。専門教育科目の評価基準を各専攻学科ごとに統一化することは比較的容易であろう。しかし、全学共通科目の場合には、学部横断的に授業が行われている。学部の垣根を超えた全学的な評価基準の統一化が求められる。

採点基準・成績評価の統一化とそれに伴う卒業判定の厳格化は、一人FD委員会の担いうる課題ではない。成績評価と卒業判定はいうまでもなく教務委員会の管轄事項である以上、この問題に関しては、同委員会との密接な連携のもとに検討を進めていく必要がある。また、「出

口」において卒業判定を厳格化するのであれば、「入口」、すなわち入学審査の厳格化も求められよう。大学教育に耐えることのできない者の入学を認めてはいけないのである。採点基準・成績評価の統一化のためには、本学入試制度の再構築が要請される。

3. FD研修会のテーマ設定

FD活動のなかで、教員が相互に授業を聴講し、批評しあう公開授業は、重要な位置を占めている。本学部においても学部創設当時から、公開授業を行ってきた。しかし、多忙を極める教員が同僚の授業を聴く時間を作ることは容易ではない。公開授業の代わりに、授業研鑽の場として設けられたのがFD研修会である。

平成22年度、23年度の間関係学部FD研修会においては、「初年次教育」をテーマに取り上げた。22年度は「人間関係総論」を、23年度は「基礎セミナー」を題材に、各専攻学科の担当者にその取り組みを語ってもらったのである。初年次教育は、本学の教養改革の重要なテーマであり、人間関係学部の取り組みは全学的な注目を浴び、高く評価されている。しかしながら、2年間のFD研修会は、実践紹介の報告に力点がおかれ、討議に十分は時間が割けないというらみがあった。そのため、21年度までのように、グループに分かれて討議をする形式の復活を求める声も多く聞かれた。実践報告とグループ討議を組み合わせる等々、研修会の実施形態については、様々な可能性が考えられる。研修会の実施形態は、平成24年度委員会において熟考すべき課題といえる。

また研修会のテーマについては、初年次教育は一定の成果を収めたと考え、新たなテーマに取り組む方向で23年度委員会はほぼ合意に達している。先に述べた成績評価基準の問題は、その有力な候補である。また、学生間の学力格差の拡大や、精神的に問題を抱えた学生の増大等、様々な意味での学生の変化に、とくにベテラン教員の間には戸惑いを訴える声が高い。変化した学生たちとどう向き合うのか。これも24年度研修会テーマの有力候補の一つである。

4. 多摩3学部間の連携・学生教育満足度測定の実施に向けて

かつては、多摩3学部のFD委員会は、定期的に会合をもち、情報交換を行っていた。しかし、近年はそれが途絶えている。多摩3学部の合同委員会の再開を検討することも、24年度委員会の課題となる。人間関係学部のFD活動のなかで欠落しているのが、学生たちの教育満足度の測定である。

本学部の場合、2学科4専攻の共通点としてあげられることは、教員の学生に対する面倒見が非常によいことである。学生生活の相談や勉学の指導を仰ぐために、教員の研究室には非常に頻りに学生たちが顔をみせている。しかし、そうであるにも関わらずオフィスアワーに教員の研究室を訪れる学生は少ない。またクラス指導主任に対する学生たちの認識も乏しい。学生と教員の関係が密であるにも関わらず、学生と教員の交流のために設けられたこれらの制度が必ずしも機能しているとはいえない現状が、本報告書においても明らかにされている。その原因を探る努力がなされるべきであろう。

多摩の他の2学部は、入学時と卒業時に、あるいは卒業時のみに教育満足度に関わる調査を行っている。現在、授業アンケートをはじめ、多種多様な学生対象の調査が行われており、ここに新しいアンケートを実施することに対しては、FD委員会内部においても躊躇する声は上がった。そして、そもそも大学における教育効果なるものは、長い人生の過程で明らかに

なっていくものではないのかという、原理的な疑問ももたれるところではある。

しかし、さきにみたように、新しい大学評価システムは、「教育効果」を重視している。また、多摩の他の2学部が学部教育満足度の測定を行っている以上、本学部だけがそれを避けることは許されない。多摩の他の2学部と協議を行い、その経験に学びながら、近年中の実施に向けての準備を重ねていきたい。

以上

人間関係学部FD委員会

委員長 小谷 敏 (人間関係学科 社会学専攻・教授)

委員 町田 章一 (人間関係学部長・人間福祉学科 人間福祉学専攻・教授)

荒井 芳廣 (人間関係学科長・人間関係学科 社会学専攻・教授)

小川 浩 (人間福祉学科長・人間福祉学科 人間福祉学専攻・教授)

古田 雅明 (人間関係学科 社会・臨床心理学専攻・助教)

藏野ともみ (人間福祉学科 人間福祉学専攻・教授)

是枝 祥子 (人間福祉学科 介護福祉学専攻・教授 2012年3月末日付退職)

平成23年度 人間関係学部FD活動報告書

平成24年6月発行

非売品

発行 大妻女子大学人間関係学部

ningengakubucho@otsuma.ac.jp

〒206-8540 東京都多摩市唐木田2-7-1

著作・編集 大妻女子大学人間関係学部FD委員会

印刷・製本 株式会社相模プリント

〒252-0144 神奈川県相模原市緑区東橋本1-14-17

TEL 042-772-1275

FAX 042-774-1913